

事業報告書

平成27年度

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成27年度事業報告	5
1) 平成27年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	14
6. 平成27年度決算	17
7. 関連当事者等との取引等の状況	24
8. 学校法人慈恵大学の体制	26
1) 学校法人慈恵大学	26
2) 東京慈恵会医科大学	26
3) 看護専門学校	26
9. 学校法人慈恵大学組織図	27
10. 理事会	28
11. 評議員会	33
12. 監査室	33
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	36
1) 平成28年3月31日退任教授	36
2) 新任教授	36
3) 新任客員教授	37
4) 特任教授	37
5) 叙位・叙勲	37
6) 訃報	37
2. 教職員数	38
1) 教員数（医学科・看護学科）	38
2) 初期臨床研修医数	38
3) 職員数（看護師を含む）	38
4) 看護師数	38
3. 教 育	39
1) 医学部医学科学生数など	39
2) 医学部看護学科学学生数など	39
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	40
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	40
5) 大学および大学院など	40
(1) 医 学 科	40
(2) 看護学科	43
(3) 大 学 院	45

6) 慈恵看護専門学校	47
看護専門学校学生数	47
(1) 慈恵看護専門学校	47
(2) 慈恵第三看護専門学校	48
(3) 慈恵柏看護専門学校	48
7) 卒後臨床研修	49
8) 生涯学習センター	51
4. 研究	52
1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	52
2) 総合医科学研究センター	53
5. 診療	55
1) 病院概況	55
(1) 本院	55
(2) 葛飾医療センター	61
(3) 第三病院	65
(4) 柏病院	69
(5) 総合健診・予防医学センター	73
(6) 病床数および外来患者数	75
2) 派遣・関連病院関係	75
(1) 大学協力病院	75
(2) 教室等関連病院	76
(3) 特殊派遣機関	78
(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）	78
6. 学術情報センター	79
7. 教育センター	83
8. 臨床研究支援センター	87
9. その他	90
1) 成医会	90
2) 各種行事	91
3) 印刷物等の発行	91

[付]

1. 平成27年度 事業計画に対する実施結果一覧	93
2. 中期目標・中期計画・平成28年度事業計画	130

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口にて提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

3. 学校法人慈恵大学の沿革

年月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年5月	成医会講習所を開設した
明治23年1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年2月	東京病院（開設：明治24年2月）を附属病院とした
大正14年3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：葛飾医療センター）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年3月	大学予科を閉校した
昭和26年3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成4年4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成4年4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年4月	慈恵医大晴海トリートメントクリニックを開設した
平成19年4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した
平成23年4月	医学科の入学定員を110名とした
平成24年1月	附属青戸病院を葛飾医療センターと改称した
平成25年4月	看護学科の入学定員を60名とした

4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年4月	医学部医学科	
	平成4年4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年4月	3年課程	平成22年3月閉校
慈恵第三看護専門学校	昭和46年4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年4月	3年課程	

5. 平成27年度 事業報告

理事長 栗原 敏

1) 平成27年度の事業概要

1. 教育に関する重点施策

1) 質の高い医療人の育成

(1) 卒前教育の改善と充実を図る。

国際交流センターを4月に設置し、海外7大学との大学間協定を締結すると共に、主に学外選択実習を行う学生を対象として外国人模擬患者による模擬問診を実施した。

(2) 国際基準に基づく医学教育分野別外部評価の指摘事項の改善を進める。

前年度に受審した医学教育分野別認証外部評価において「部分的適合」と評価された項目の改善について検討し、次年度より教育センター教育IR部門の強化を目的に担当職員を配置することとした。

(3) 新臨床カリキュラムの導入による診療参加型臨床実習のための系統的教育の構築を進める。

平成28年9月に開始する診療参加型臨床実習の実習病院となる関連病院との協力体制を構築し、あわせて指導力向上のためのクリニカルクラークシップ指導医養成FDを開催した。

(4) 臨床研修を充実し、質の高い研修医とレジデントを育成する。

研修医に対して、シミュレーション教育と医療安全の集合研修を実施した。また、レジデントに対しては、前年度より後期研修の修了要件となった医療安全、感染対策に関するFaculty Development (FD) および医学生、研修医に対する屋根瓦方式教育スキルアップのためのFDを実施した。

(5) リサーチマインドを持った総合診療医養成プログラムの推進を図る。

医学科の高齢者医療体験実習、臨床研修のへき地医療研修、レジデントの総合診療専門医養成、大学院の地域医療プライマリケア医学の各プログラムを実施した。

(6) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護教育の向上を図る。

①技術到達目標の達成に向け、効果的学習内容と方法を検討する。

- ・看護学科では、4年生を対象に卒業前に看護技術ステップアップノートの振り返りを行った。また、看護部の協力のもと、学生それぞれに不足する技術を補うための技術補完実習を実施し、卒前に技術達成目標に到達するための効果的な学習を行った。
- ・慈恵、第三、柏の3看護専門学校では、統合実習終了後の3年生に対し看護技術到達度調査を実施した。ナーシングスキル日本版(e-ラーニング)は、看護技術演習と連動させたオリジナルコンテンツを作成し活用の幅が広がった。

②医療現場との連携、協力を強化する。

- ・看護学科では、今年度より柏病院が成人看護学実習の受入れを開始し、附属4病院全てで学生実習を実施することで連携強化が推進された。
- ・3看護専門学校では、看護部をはじめ院内各部門の協力を得て、臨地実習における学習機会を増やすことができた。また、指導力向上を目的に臨地実習指導者と看護学校教員間で指導者研修を定期的実施し、指導事例の検討を通じて相互理解を深めることができた。各領域実習後、学生に対する実習評価(アンケート)と意見交換を実施し、今後の指導方法の一助につなげる取組みも行った。

③卒業時の技術到達目標を定期的に評価、修正する。

- ・看護学科では、e-ポートフォリオに実装されたステップアップノートを活用し、教員と学生がともに技術到達目標を評価することでさらに習熟が必要な項目を明確にすることができた。
- ・3看護専門学校では、技術習得のために臨地実習に加え学内のシミュレーターを活用した教育を推進した。しかし、臨地実習では習得困難な技術も散見されるため共通の到達基準を検討した。

- (7) 看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

専門看護師課程の履修者は、成人看護学分野の履修者2名が急性・重症患者看護専門看護師、がん看護学分野の履修者1名ががん看護専門看護師に認定された。また、専門看護師育成を目的に、成人看護学分野は急性期病棟、ICU、シミュレーション教育施設を活用し、がん看護学分野は附属病院看護部の協力を得て演習、実習を行うと共に、4大学院（昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学）連携がんチーム医療ワークショップにも参加した。

2. 研究に関する重点施策

1) 医学・看護学研究の推進

- (1) 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

総合医科学研究センターの研究部門における先進的研究を推進するため、センターの充実を図った。

- (2) 新大学2号館（仮称）の臨床ラボ設置に向けて研究体制の構築を図る。

西新橋再整備準備室および臨床ラボ設置検討WGで建築設計と研究体制を検討した。

- (3) 学内学外の研究連携を促進する。

- ・基礎、臨床間の学内連携強化を目指し、萌芽的共同研究推進費の学内公募を行い、5件を採択し、総額1,000万円を支給した。
- ・大学院医学研究科と独立行政法人国立がん研究センターとの間で教育研究に関わる連携協力に関する協定書を締結した。

- (4) 研究者としての高い倫理観の涵養のための取組みを進める。

臨床研究支援センター主催の臨床研究に係わる教育研修を年度内に20回開催し、延べ1,294名が参加した。

- (5) 研究者に対して臨床研究の計画・実施のサポートを行う。

- ・倫理委員会への申請は、今年度から全て電子申請とした。臨床研究支援センターにおける臨床研究の相談件数は27課題であった。

- (6) 医療現場と連携して看護学研究を振興する。

- ・看護部と看護学科の共同研究件数（前年度より継続中の件数を含む）は17件となった。
- ・看護学科では、第三病院看護部、第三看護専門学校と共同で研究活動に取り組み、他附属病院、3看護専門学校に活動を広めるため看護研究講習会を開催した。また、多くの教員が外部の競争的研究資金を獲得して看護研究を行った。
- ・看護学専攻修士課程では、看護部の看護研究を支援するために、看護研究学習会で講義と相談会を開催した。また、地域連携保健学特論において、病院看護師の業務量測定、患者満足度・職務満足度調査の公開授業を行った。

- (7) 総合医科学研究センターの充実を図る。

今年度は、総合医科学研究センター発足20周年を迎え、活動を周知するため記念シンポジウムを開催した。

センター改組3年目を迎え、内部、外部評価実施に向けて各部門の目標設定と評価法を検討するワーキンググループ（WG）、および学内組織、細胞バンクの開設を目指したWGを発足した。また、古幡プロジェクトを継承するため超音波応用開発研究部を新設した。

その他、遺伝子治療研究部において、戦略的目標管理を推進することを目的に、バランス・スコアカード（BSC）を作成、遺伝子治療用ベクター作成に注力するなどセンターの更なる活性化と充実を図った。

- (8) 研究推進のための競争的研究資金の獲得を推進する。

- ・競争的資金の獲得推進と研究連携の強化を目指し萌芽的共同研究推進費の学内公募を行った結果、17件の応募があり、そのうち5件を採択し総額1,000万円を支給した。
- ・前年度に支給した5課題のうち、今年度は1課題が競争的資金に採択された。

- ・ 科研費・基盤研究S、科研費新学術領域計画研究、AMED 研究費などの大型の外部競争的研究資金の獲得につなげることを目的とする東京慈恵会医科大学戦略的重点配分研究費を創設し、1件を採択した。
- ・ 引き続き研究奨励費、医学研究科研究推進費によって学内研究の推進を図り、競争的研究資金の獲得を目指した。
- ・ 今年度末の文部科学省科学研究費助成事業（科研費）の採択件数および総額は、合計160件、総額307,305千円（間接経費含む）であり、厚生労働省科学研究費補助金および独立行政法人日本医療研究開発機構の研究開発費などの採択研究課題は、合計54件、総額228,441千円（間接経費含む）であった。両助成とも前年度より件数、金額共に増加した。

(9) 医学・看護に関する情報を公開するなど地域社会に貢献する。

- ・ ホームページに一般市民、地域医療者を対象とした大学主催の公開講座の情報を公開した。
- ・ 文部科学省による「研究機関における公的研究費管理・監査のガイドライン」、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、本学の研究倫理教育内容ならびに研究者行動規範、研究費管理体制などを掲載した「研究費使用ガイド」をホームページに公開した。

3. 医療に関する重点施策

1) 医療安全の推進

(1) 医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

- ・ 医療安全推進体制の再構築を図ることを目的に、前年度より実施している診療部長、所属長、師長、セーフティマネージャーを対象とした「管理者のための医療安全・感染対策研修会」を今年度は各病院の院長、医療安全関係者にも拡大し共通の医療安全・感染対策に関する教育の推進に取り組んだ。
- ・ ハイリスク合同カンファレンスは、現場の要望に応じ継続して開催した。複数の診療科や多職種を交えてのカンファレンスは、チームを意識し、より安全で質の高い医療を目指す活動として定着している。また、各部署にTeamSTEPPS推進メンバーを配置し、その活動を支援した。部署ごとのチーム目標を設定して多職種が協力して取り組んだ成果は、医療安全推進週間での附属4病院合同シンポジウムにおいて発表した。附属4病院のTeamSTEPPSの取組みも報告されチーム医療推進に貢献した。
- ・ 附属4病院インфекションコントロールチーム（ICT）を中心に活動し、多職種で感染対策に取り組む組織風土の醸成につながった。

2) 各附属病院の活性化と機能分化

(1) 附属4病院間の機能の有機的活用を図る。

- ・ 本院が中心となってトレーディングプレイスなどにより、看護業務に支障が生じないように附属4病院間で人員調整を行った。
- ・ 葛飾医療センターは、放射線治療を再開し、がんに対する集学的治療を当センター内で完結できる診療体制に整備した。また、内科救急あり方検討会にて総合内科体制の再構築について検討している。
- ・ 第三病院は、自院の特色であるリハビリテーション病棟、森田療法病棟、結核病棟など非急性期病床を有機的に活用した他、股関節手術など各科の専門性を発揮しつつ本院との連携を強化した。
- ・ 柏病院は、患者の疾患や病状に応じて附属4病院間への紹介、転院を行い連携を強化した。

(2) 救急体制の充実

①断らない救急受入れ体制を構築する。

- ・ 本院は、救急患者の受入れを強化するため、救急部責任医師の権限および救急部入院患者取扱いに関する手順、判断基準、フローを明記した救急部運営内規を改定した。
- ・ 葛飾医療センターは、PCUと専門外来の連携強化策として、緊急コンサルテーション枠

を改めて整備した。救急受入体制の強化策としては、近隣の134医療機関を対象に連携登録医専用緊急ホットラインを開設すると共にCCUネットワークの受入れ対応を迅速に行うため、受電対応を循環器内科医師が直接行う体制とした。

- ・第三病院は、救急応需率に大きな変化はなかったが、搬送数が大幅に減少したため救急隊からの声を反映し救急部の収容基準を緩和した。また、救急隊とのホットラインの運用を改善した。
- ・柏病院は、救急患者の受入体制を強化するために、「病院の基本方針は原則として救急受入要請を断らない」ことを周知徹底した。CCUホットラインは直接受入れる体制が定着し、ICUとCCUの双方で患者を受入れる効率的な病床運用も行った。1C手術室の改修や3階手術室の有効活用により緊急手術を要する救急患者が増加した。

②本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。

救急部からの将来構想・基本計画（案）を基に、西新橋再整備WGおよび新外来棟基本計画に関わる病院幹部検討会で基本設計の概略を取りまとめ、救命救急センターの設置について検討した。

③柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。

診療部と救急部の連携強化を図ると共に、三次救急は救急部医師、一次、二次はトリアージナースが対応する運用が定着し、円滑な救急受入れにつながった。

3) がん診療の推進

①がん診療に関する専門職者の育成に努め、本院と柏病院は「地域がん診療連携拠点病院」、葛飾医療センター、第三病院は「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。

- ・本院は、国立がん研究センターとの医療、教育、研究活動の充実と質の向上を図ることを目的に包括協定を締結すると共に、外来化学療法患者の需要に対応するために外来化学療法室を8床増床するなど、がん診療体制の強化、拡充を図った。
- ・葛飾医療センターは、東京都がん診療連携協力病院の指定更新に向け、一層の機能強化を図った。また、緩和ケア外来開設の準備を進め開設した。院内がん登録件数も堅調に推移し、地域住民向けのがんに関する公開講座を継続開催するなど、総合的ながん診療体制の整備、拡充を推進した。
- ・第三病院は、中央診療部門に緩和ケア室、外来化学療法室、がん相談支援センター、がん登録室を包括した、がん診療センターを設置し一層の強化を図った結果、平成28年4月より「東京都がん診療連携拠点病院」に指定された。
- ・柏病院は、緩和ケアの知識と技術を習得するため、厚生労働省の指針に沿った「緩和ケア研修会」を2回開催すると共に1回あたりの参加定員を40名から50名へ増員して医師の参加率向上を図った。

②葛飾医療センターは放射線治療の再開と化学療法の拡充を推進する。

放射線治療の再開および化学療法の拡充を目的とした別館が完成し、外来化学療法室を6床増床し、がん診療の拡充を推進した。また、放射線治療は予定通りに準備が進められ、平成28年1月に再開された。

3) 患者サービスの推進

(1) 患者のニーズに適応した医療を推進する。

- ・本院は、特色(強み)を活かした医療を展開するために、脳卒中センター(SCU)を開設し脳卒中患者の受入れを強化した。また、東京都CCUネットワーク協議会による大動脈スーパーネットワークの加入申請を行い、平成28年度6月に支援医療機関として認可される。
- ・葛飾医療センターは、外来エリアにおける患者満足度調査および投書などの意見をもとに、患者サービスを推進した。特に、朝の診療受付開始前の患者の待機方法について、椅子のレイアウトや着席による待機などの改善を図り、混雑緩和とトラブル解消に取り組んだ。また、診断書などの文書の郵送対応を実施し、患者の利便性向上を図った。
- ・第三病院は、患者待ち時間調査、患者満足度調査の結果をもとに種々の改善策を実行した

結果、待ち時間の短縮、満足度の向上が確認できた。また、ハード面では病棟サイン計画の実施ならびに患者用駐輪場を整備した。

- ・ 柏病院は、手術室不足に対応するためC棟1階手術室を改修し、「外来手術センター」として局所麻酔症例を中心とした運用を開始した結果、3階手術室の全身麻酔手術の稼働率が向上した。また、患者が待ち時間を有意義に過ごせるよう、患者休憩スペース（ラウンジ）や図書機能を配置した。

4) 地域貢献（医療連携の推進）

(1) 前方および後方連携を強化する。

- ・ 本院は、前方連携を強化するための「web予約システム」の導入医療機関を約70施設まで拡大し、月平均100件を超える予約患者を受入れた。また、後方連携の強化を目的に医師が紹介医療機関を検索することができる医療機関検索機能システムを構築した。
- ・ 葛飾医療センターは、地域医療機関との連携強化および情報共有を目的とした「登録医制度」を継続し、新規登録施設（登録医）が増加した。また、前方連携を強化するための「web予約システム」の運用を開始した。その他、医療連携フォーラムの開催、病院運営会議構成員ならびに診療部長同行による医療機関訪問の実施、南葛飾ネットワークによる病々連携、脳卒中地域連携パスなどの取組みを推進した。
- ・ 第三病院は、紹介・逆紹介WGの活動を継続し連携を推進したほか、医療連携システムに「web予約システム」を導入し、運用を開始した。
- ・ 柏病院は、「web予約システム」を導入し近隣医療機関の紹介に係わる業務負担を軽減することで利便性を向上させた。近隣医療機関が希望通りの診療予約が行えるよう、各診療科と個別に調整を行い、医療連携予約枠の拡大を行った。近隣医療機関のニーズを的確に把握するため、地域医療連携に係わるアンケートを実施し迅速な対応や断り事例の情報収集に取り組んだ。

(2) 地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。

- ・ 本院は、二次医療圏の医師会との懇談会を通じて、地域医療ニーズを把握し医療連携に関する取組みなどを紹介した。また、地域住民などを対象とした医療フォーラムを開催し、医療連携の重要性を医療従事者および地域住民に伝え理解を深めた。
- ・ 葛飾医療センターは、地域の健康管理、健康増進に貢献することを目的とした公開セミナーを開催すると共に、センターニュースを発刊し当院の情報発信を促進した。また、地域からの要望が高い訪問看護ステーションへの支援策として、訪問看護への同行や研修者の受入れ、合同事例検討会などを開催した。
- ・ 第三病院は、東京都地域連携型認知症疾患医療センターの指定を受け、院内に認知症疾患医療センターを設置し相談・診療予約業務を開始したほか、神経内科、精神神経科、脳神経外科が連携し鑑別診断を実施する体制を構築した。
- ・ 柏病院は、前方連携を強化するため58施設の個別訪問を行い、連携登録医制度に6施設が新規登録し合計で248施設となった。広報誌を通じた連携病院紹介、医療連携フォーラムの開催などを継続的に実施した。後方連携の強化としては、MSW、退院調整看護師の介入により入院患者の転院などに努めた。また、地域医療連携懇談会を開催し東葛北部医療圏の訪問診療医・訪問看護ステーションスタッフとの連携強化を図った。さらに、患者へ迅速にかかりつけ医情報を提供できるよう、「病院検索システム」構築に向け、病院情報の収集に取り組んだ。

(3) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援する。

- ・ 本院は、地域大規模災害対策訓練を、芝消防署、みなと保健所、東京都水道局、近隣町内会と協力して実施した。また、災害拠点病院の役割が担えるよう継続的に備蓄品の拡充を行うなど、危機管理体制の充実を継続して行った。区中央部の行政、災害拠点病院・災害拠点連携病院、医師会などが参加する東京都災害医療図上訓練に参加した。また、港区医師会主催の第6回救急災害委員会に出席し、港区医師会、行政、医療機関と連携した災害

対策を推進した。

- ・葛飾医療センターは、第1回関東ブロック災害派遣医療チーム技能維持研修および、東京都多摩地域を被災地に想定した医療活動訓練に参加した。なお、D-MAT(災害派遣医療チーム)の増員については、業務調整員の対象者を選出し構成員としたが、増員申請に必要な講習会への参加枠が東京都より提示されていないため、受講でき次第増員する。
- ・第三病院では、調布・狛江両市、両市医師会、消防署、住民が参加し緊急医療救護所訓練を実施した。
- ・柏病院は、患者向けの備蓄を確保した。政府防災訓練、おたかの森病院で実施された柏市・柏市医師会共催の大規模地震を想定した災害時拠点病院訓練に参加した。また、災害拠点病院の役割を担うため継続的に備蓄品の拡充を行った。

5) 効率的な医療の推進

(1) ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。

晴海トリトニッククリニックの病院情報システムを更新し電子カルテシステムを導入した。また、循環器部門システムなど4病院共通の部門システムを導入した。

(2) 附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。

院内連絡用PHSの更新に伴い、病院情報システムとの連動を視野に入れたiPhoneを導入した。また、本院ではiPhoneとナースコールシステムの連動を図り、業務省力化に努めた。

(3) 電子カルテ化によるデータウェアハウスの構築と活用を図る。

第三病院において、DWH(データウェアハウス)システムで収集した情報を基に各種統計資料を作成し、成医会や診療部会議など研究や経営支援の資料として活用を開始した。

6) 職種間の協力体制の構築

(1) チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

- ・本院は、感染対策チーム、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム(NST)、CAPS(子ども虐待対応チーム)などによるチーム医療を推進すると共に認定看護師、専門看護師の資格取得を推進した。
- ・葛飾医療センターは、感染対策チーム、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム(NST)、虐待防止チーム(APT)、呼吸療法サポートチーム(RST)などによるチーム医療を推進し、専門教育も継続的に実施した。
- ・第三病院は、感染制御チーム、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム(NST)、虐待防止チーム(APT)などによるチーム医療を推進し、専門教育も継続的に実施した。また、病棟に事務員を配置しチーム医療に参画した。
- ・柏病院は、全管理者に対しTeamSTEPSの研修を実施し、医療の質と安全を高めるためにチームで取り組む活動を継続した。感染制御(ICT)チーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポート(NST)チーム、家族支援(虐待)チームなどによる活動を推進するとともに、外部研修会、学内勉強会、成医会などに参加し成果発表を行いチーム力を高めた。チーム医療推進のため認定看護師・専門看護師を養成し、在籍者数は15名となった。他職種連携による積極的な介入により、患者の早期退院やQOLの向上に寄与することができた。

7) 予防医学の推進

(1) 大学として予防医学に貢献する。

未来医療の実現に向けて「健康寿命の延伸」に係わる診療体制の構築に向けて取り組むことになった。

8) 法令遵守の徹底

(1) 特に適正な保険診療推進のため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。

- ・本院は、前年度の特定共同指導における指摘事項を改善するために、適正な保険診療を行うための体制を構築した。具体的には、「教育・研修改革」「組織改革」「意識改革」の3

つの柱を掲げ、その具現化に向けて対策を講じた。

- ・葛飾医療センターは、研修医を対象とした保険診療に関する基礎研修を実施し、全教職員を対象とした保険診療講習会を開催した。また、適正かつ効率的なレセプト審査体制を強化するため、各診療科を対象にレセプト審査に関するヒアリングを実施し、改善点の洗い出しならびに対策を実施した。
- ・第三病院は、保険診療講習会を年2回開催し保険診療の理解と啓発を図った。
- ・柏病院は、初期臨床研修医に対して、適正な保険診療に関する研修を実施した。また、保険診療講習会を開催し、保険診療の基本的ルール、DPCコーディングガイド、保険請求上の誤り防止などについて研修医を含む医師に周知、徹底を図った。

9) 適正な収支構造の確立

(1) 每期設定される医業利益目標を達成する。

- ・本院の期末における医療収支は258.2億円、予算に対して-9.5億円となった（達成率96.4%）。医療収入が4.3億円不足した一方で、医療経費が5.2億円超過したため。とりわけ、分子標的薬の新規採用・適用追加、代謝性医薬品、血液凝固因子製剤等の使用増加により薬品費が5.6億円超過した。
- ・葛飾医療センターの期末における医療収支は83.5億円、予算に対して+0.3億円となった（達成率100.3%）。医療経費は医療用器具消耗品費・特殊材料費等の増加により0.7億円予算超過したものの、入院・外来ともに患者数・診療費単価が増加したことで医療収入が予算を1億円上回り、医療収支予算を達成することができた。
- ・第三病院の期末における医療収支は99.2億円、予算に対して-0.5億円となった（達成率99.5%）。医療収入が0.2億円超過した一方で、医療経費が0.7億円超過したためである。薬品費が-1.1億円であったものの、手術件数が増加したことにより医療用器具消耗品費、特殊材料費が1.8億円超過した。
- ・柏病院の期末における医療収支は131.6億円、予算に対して+1.7億円となった（達成率101.3%）。入外患者数ならびに手術件数が増加し医療収入は予算に対して0.9億円超過、医療経費については、医療薬品費、特殊材料費が予算内執行となり、対予算-0.8億円となったことが要因である。

(2) 医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。

- ・本院は、コストマネジメント・プロジェクトを中心に医療材料の購入価格を調査し、各医局で医師に対してコストの低減についての意識醸成を図った。また、医薬品のジェネリック採用については、DPC係数反映期間（前年10月～今年9月）において数量シェア58.3%となり60%を満たすことができなかったが、下半期においては平均で74.1%を超えるシェアとなっている。
- ・葛飾医療センターは、手術キットの使用状況調査およびキット内容の精査、見直しを推進すると共に、安価な同等品への切替え、不動在庫の削減など経費抑制に努めた。医薬品については、後発薬品への切替えを積極的に進めると共に、抗生剤の適正使用に取組み経費削減を図った。
- ・第三病院は、医療材料購入額の月次チェック、手術原価の把握とベンチマーク、手術キット内容の見直しを行ったほか、後発医薬品の採用については新たに58品目を切替え、数量シェアは70%超に増加した。
- ・柏病院は、後発医薬品への切替えを39品目実施し、経費節減を図った。附属4病院共同購入、医療材料の経費削減や放射線機器等保守清掃費の価格交渉を開始するなど経費削減の方策を講じた。

(3) コストマネジメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、4附属病院医材・物流の効率的運用を推進する。

コストマネジメント・プロジェクトにて、内部環境の把握、大型診療機器管理方法などの効率的運用を検討した。医療材料・物流管理システムについては附属4病院SPD統

一化の検討を開始した。医師のコスト意識の周知を図るために、各診療科医局会にて財務、医療経費などの説明を行いコスト削減意識の醸成に努めた。

4. 法人運営に関する重点施策

1) 内部統制の強化

- ・大学は本来、自主的、自律的組織であり、内部統制を適切に機能させることによって質の向上を図り、社会に対して情報発信することが求められている。基本原則として、行動憲章・行動規範をはじめとする学内規程の周知とコンプライアンスの遵守徹底を図ると共に補助金監査では監査項目を増加し、業務監査では規程類の整備および更新状況の確認を継続して行った。
- ・平成25年度から平成30年度の6年間にて運用している中期目標・中期計画の中間評価を行った。今後3年間の事業戦略の充実と内部統制の強化を視野に入れ、中期目標・中期計画を再設定した。
- ・監事1名を常勤監事として内部統制の強化を図った。

2) 法令遵守の徹底

(1) コンプライアンス強化のために具体的施策を推進する。

- ・公的研究費の適正な運用および研究活動の不正防止のため、研究倫理推進センターと研究適正化特別委員会を設置した。研究倫理推進センターでは研究者行動規範を定め、「公的研究費の適正な申請・使用に係るファカルティ・デベロップメント (FD)」を始め、各種の研修会を開催し研究倫理の徹底と適正な研究実施について指導を行っている。研究適正化特別委員会は委員の半数が外部委員で構成され、研究費の適正な使用と研究活動の不正行為抑止への取組みを点検し、研究適正化に関する助言や提言を行っている。
- ・職場における法令や規則の違反行為および倫理違反行為の早期発見によるコンプライアンスの促進並びにこれらによる被害者の保護を目的に、教職員が安心して通報、相談をすることができるように公益通報制度と各種相談窓口を教職員に周知した。大学、病院を規制する法令の遵守はもとより、教職員の法令遵守精神を涵養するための様々な取組みを実施した。あわせて、「新入職員の手引き」、「教員・医師ハンドブック」をはじめ「慈恵ニュース」、「The JIKEI」などの広報誌を介して周知徹底と法令遵守精神の涵養に努めた。
- ・個人情報管理は、個人情報保護委員会を中心に大学、病院としての社会的責務を果たすために、関連諸規程の見直しを行うなど管理体制の充実と、教職員に対する講習会を開催し、継続的に指導、教育を実施した。

3) 安定した財政基盤の構築

(1) 法人における収支構造の点検を行う。

今年度決算の基本金組入前当年度収支差額（利益）は、予算を1割以上上回る良好な結果となった。要因は、収入は若干の予算未達になったものの、経費が予算を大きく下回ったためである。経費が予算を下回った要因は、各機関の経費削減努力に加えて、石油価格低下に伴う光熱水費の低下など、環境面で恵まれた点も大きい。

なお、例年同様他学（私立医科大学）の平成26年度決算状況を分析・比較し、本学の強み・弱みをまとめ、8月開催の夏季常任理事会で検討した。

(2) 機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。

今年度着工した西新橋キャンパス再整備計画、ならびに第三病院・国領校建設計画を実現するための長期資金計画を策定し、8月開催の夏季常任理事会で検討した。

(3) 医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。

今年度前半は各附属病院にて医療収入が伸び悩み、患者数、手術数増加対策を実施した。医療経費の削減のため、コストマネージメント・プロジェクトでは、原価率の良い柏病院と本院との収益構造を比較・分析した。今後、各附属病院の改善につなげたいと考えてい

る。なお、附属4病院の収入予算立案方法の課題が指摘され次年度以降引き続き検討することとした。

(4) ICT関連経費の適正化を図る。

柏病院情報システムの保守費について、葛飾医療センターおよび第三病院での稼働状況(故障率など)を踏まえ、不要部分を除外して契約を締結した。また、各部門システムについては、各附属4病院のシステム導入・更新計画立案時に同一メーカーとなるよう調整し導入経費などの圧縮に努めた。

(5) コストマネジメント・プロジェクトを中心に経費削減と効率化を図る。

外部組織による共同購入への参画について検討し、汎用医療材料および事務用品から開始することとした。また、医療材料ベンチマークシステムを次年度から導入することで材料費の経費削減を図ることとする。

4) 西新橋キャンパス再整備計画の策定と実行

(1) 新大学2号館(仮称)、新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)、新外来棟の建築計画を着実に進める。

新大学2号館(仮称)ならびに新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)の実施設計・施工会社が(株)竹中工務店に決定し、実施設計が終了した。各種届出、申請手続きなどの準備を進め、基礎部分解体工事などを行い、平成28年2月に新築工事を着工した。

また、各ワーキング・グループを中心に検討を重ね、平成28年4月の新外来棟および既存棟改修工事に対する受注ゼネコン各社への現場説明に向けて準備を行った。

5) マスタープランの策定

(1) 慈恵大学百年記念事業委員会答申の検証を行う。

慈恵大学百年記念事業委員会答申に基づく検証委員会を平成27年1月に設置した。13回にわたり委員会を開催し、検討結果を取り纏め3月25日に答申した。答申内容について、引き続き確認、精査していく。

(2) 大学マスタープランを策定する。

教育機能、研究機能、診療機能、法人・財務機能に関わる中期計画及び単年度事業計画の重点施策の評価と再立案を行った。理事長主催のマスタープラン懇談会において、新外来棟建築計画を視野に入れた「次世代医療」の推進などを検討した。

6) 教職員の満足度向上と人材育成制度の強化

(1) 職場環境の改善、充実を図る。

教職員アンケートには人事考課に関する意見が寄せられており、各部署における適切な面接の実施と報告の徹底を図ると共に、所属長会議にて考課者訓練を実施した。

7) 業務改善の推進

(1) 労働生産性の向上に向けた対策を行う。

前年度に引き続き労働生産性向上WG活動を各機関にて展開し、年度末には第2回目となる労働生産性WG成果報告会を開催した。本活動を通じて各部署での業務改善への機運を高め、各職員の問題発見と解決の手法の修得に結びついた。

(2) 中期目標・中期計画実現のためにBSC(バランス・スコアカード)の推進とPDCAサイクルを活用し、単年度事業計画を達成する。

教員部門におけるBSCは、すでに作成している診療科を中心に再作成を行った。なお、経営の“見える化”普及タスクフォース活動報告(平成24年度~26年度)の冊子を刊行した。職員部門では、全部署にてBSCによる業務目標管理を開始し、目標管理のPDCAサイクルを確立した。

8) その他

(1) 情報公開の推進、広報活動の充実のため本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会に広報し、病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信を推進する。

・ホームページ掲載中の財務報告、事業報告、教育情報、医学科教育研究活動、診療部門紹

介ページなどの定期的な更新を行った。また、西新橋キャンパス再整備計画に関するページを新設し、ホームページ、イントラネットを通じて広報した。

- ・「The JIKEI」の特集として「医療連携に関する座談会」を開催し、慈恵大学の目指す医療連携について教職員、同窓、医療連携機関に対して情報発信を行った。
- ・講座・研究部門のメディア掲載数は864件まで上っており、慈恵トピックスを作成することにより本学の教育、研究内容および附属病院の診療内容を学内外にアピールすることができた。

(2) 大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）を保守・点検する。

大規模災害対策については、附属病院防火災害対策委員会を中心に点検・見直し作業を進めた。

(3) 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エネルギーの有効利用とエコ活動を推進する。

老朽化した空調設備の更新や消費電力の少ない照明器具の採用を推進し、エネルギー使用量を削減した。東京都の省エネルギー診断結果を西新橋キャンパス再整備計画に活用することで更なる省エネ対策を推進したい。なお、東京都環境確保条例に対するCO2削減は、第二計画期間（平成27年度から平成31年度）の削減義務率13%に対し今年度は19.4%の削減率であった。

(4) 慈恵看護教育130年記念事業の実施

平成27年11月15日（日）、寛仁親王妃信子殿下のご台臨を仰ぎ、ホテルオークラ東京にて、慈恵看護教育130年記念式典・講演・祝賀会を開催した。出席者は総勢700名であり、式典では栗原理事長の式辞、上間副校長の経過報告、厚生労働省医政局岩澤和子看護課長の祝辞などで慈恵看護教育130年の意義が伝えられた。妃殿下の御講演は「看護の心」と題しご自身のご経験から看護への熱い思いが語られた。祝賀会は松藤学長の挨拶、東京都看護協会の嶋森好子会長、一般社団法人全国看護学校協議会の荒川真知子会長のご祝辞など和やかな雰囲気が進められ慈恵の歴史と看護教育への貢献を再確認した。

2) 平成27年度の主な建設工事

1. 法人事務局

- | | |
|---|------------|
| ① 高木2号館外壁打診調査 | 平成27年10月完了 |
| ② 大学管理棟機械式駐車場整備工事 | 10月完了 |
| ③ NTTドコモ内線ソリューションシステム（オフィスリンク）導入工事
【ICT推進プロジェクト】 | 平成27年10月完了 |
| ④ F棟外壁打診調査 | 平成27年11月完了 |
| ⑤ 大学各所監視カメラ増設工事 | 平成27年11月完了 |
| ⑥ 高木2号館地下1階カフェテリア内装修繕補修工事 | 平成27年11月完了 |
| ⑦ NTTドコモ屋内アンテナ設置に伴うネットワーク用電源工事
【ICT推進プロジェクト】 | 平成27年11月完了 |
| ⑧ 外来棟5階女子トイレ洋式改修工事 | 平成27年12月完了 |
| ⑨ F棟エレベーターリニューアル整備工事 | 平成27年12月完了 |
| ⑩ 所有地土壌汚染対策法第12条第1項における汚染対策工事
【西新橋キャンパス再整備計画】 | 平成28年1月完了 |
| ⑪ F棟耐震補強計画に向けた図面復元作業 | 平成28年1月完了 |
| ⑫ 大学1号館横立体駐車場入出庫管理システム更新工事 | 平成28年1月完了 |
| ⑬ 看護師寮ガス給湯器更新工事【第2期/全3期】 | 平成28年2月完了 |
| ⑭ 高木2号館非常用自家発電設備整備工事 | 平成28年2月完了 |

2. 西新橋校

- ① 大学本館解剖学講座旧電子顕微鏡室改修工事（一般実験室へ用途変更）

- 平成27年 5月完了
- ② 消防設備点検（機器点検）整備工事【大学部門】 7月完了
 - ③ F棟地下1階機械室屋内消火栓ポンプ更新およびスプリンクラーポンプ整備工事
平成27年 9月完了
 - ④ 高木会館南側外壁漏水補修他工事
平成27年 9月完了
 - ⑤ F棟屋上防水工事
平成27年 9月完了
 - ⑥ 柏病院臨床医学研究所コールドルーム設備更新工事
平成27年 9月完了
 - ⑦ 高木会館屋上高架水槽更新工事
平成27年11月完了
 - ⑧ 大学本館後棟電気室計器用変圧器等更新工事
平成27年11月完了
 - ⑨ 大学1号館外壁タイル打診調査
平成27年11月完了
 - ⑩ 高木会館4階学術情報センター標本館教育用標本室排気設備新設工事
平成27年11月完了
 - ⑪ 大学1号館実験動物施設空調用HEPAフィルター交換工事
平成27年11月完了
 - ⑫ 大学1号館コージェネレーション設備分解整備工事
平成27年12月完了
 - ⑬ 消防設備点検（総合点検）整備工事【大学部門】
平成27年12月完了
 - ⑭ 柏病院臨床医学研究所空調機用フィルター取替工事
平成28年 1月完了
 - ⑮ 大学1号館14階プレハブ冷凍庫冷凍ユニット更新工事
平成28年 3月完了
 - ⑯ 大学1号館GMP対応細胞産生施設定期バリデーション補修工事
平成28年 3月完了
 - ⑰ 柏病院臨床医学研究所空調用チラーユニット整備工事
平成28年 3月完了
 - ⑱ 柏病院臨床医学研究所蒸気用1号ボイラー更新工事
平成28年 3月完了
 - ⑲ 大学2号館横教職員用立体駐車場No.1号機整備工事
平成28年 3月完了
 - ⑳ 大学1号館小型貫流蒸気ボイラー点検整備工事
平成28年 3月完了
 - ㉑ 受水槽・高架水槽大学各所修繕工事
平成28年 3月完了
 - ㉒ 大学1号館GMP対応細胞産生施設内CO₂インキュベーター用温度・CO₂濃度用変換器更新工事
平成28年 3月完了
 - ㉓ F棟1階蒸気暖房機配管設備各不良箇所修繕工事
平成28年 3月完了

3. 本院

- ① 中央棟熱源機械室内低層系冷水ポンプ整備工事
平成27年 5月完了
- ② 建築設備定期検査に伴う病院各所非常照明設備整備工事
平成27年 5月完了
- ③ 中央棟手術室No.4血管撮影装置更新に伴う補修工事
平成27年 5月完了
- ④ 外来棟救急部初期治療室空調機修理工事
平成27年 6月完了
- ⑤ E棟雑排水貯留槽水中攪拌曝気ポンプ更新工事
平成27年 7月完了
- ⑥ 医療ガス供給設備整備点検に伴う空気供給装置・吸引供給装置他整備工事
平成27年 7月完了
- ⑦ 外来棟カルテ閲覧管理システム整備工事
平成27年 8月完了
- ⑧ 中央棟西側低層階外壁調査作業及び応急対策工事
平成27年 8月完了
- ⑨ 自動ドア装置保守点検における不具合箇所整備工事
平成27年 8月完了
- ⑩ 中央棟栄養部内プレハブ冷蔵庫更新工事
平成27年 9月完了
- ⑪ 中央棟エレベーター7号機長周期地震対策工事
平成27年 9月完了
- ⑫ E棟中央監視室電力監視装置システム更新工事
平成27年 9月完了
- ⑬ 病棟採風窓・非常扉用管理システム整備工事
平成27年10月完了
- ⑭ 中央棟病棟廊下手摺更新工事
平成27年10月完了
- ⑮ ボイラ及び第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事【病院部門】
平成27年10月完了
- ⑯ 中央棟病棟廊下手摺更新工事
平成27年10月完了
- ⑰ 外来棟電気室高圧ケーブル更新工事
平成27年11月完了
- ⑱ 自動ドア装置保守点検に伴う不具合箇所整備工事【病院部門】
平成27年11月完了

- | | |
|---|------------|
| ⑲ 外来棟 3階外来化学療法室増床工事 | 平成27年12月完了 |
| ⑳ 中央棟屋上冷却塔整備工事 | 平成27年12月完了 |
| ㉑ E棟各所空調機自動制御機器保守点検における不具合箇所整備工事 | 平成27年12月完了 |
| ㉒ 院内搬送システム（自走台車）整備工事 | 平成28年1月完了 |
| ㉓ 外来棟 4階屋上ヒートポンプチラーユニット整備工事 | 平成28年2月完了 |
| ㉔ 中央棟・E棟各所HEPAフィルター交換工事 | 平成28年2月完了 |
| ㉕ 中央棟ゴンドラ設備備品交換工事 | 平成28年2月完了 |
| ㉖ 消防設備点検（総合点検）整備工事【病院部門】 | 平成28年2月完了 |
| ㉗ 中央棟病棟系統排気ファン更新工事 | 平成28年2月完了 |
| ㉘ 交通計画調査業務【西新橋キャンパス再整備計画】 | 平成28年3月完了 |
| ㉙ 外来棟無線LAN（Wi-Fi）設備導入工事【ICT推進プロジェクト】 | 平成28年3月完了 |
| ㉚ 外来棟各所屋上防水工事 | 平成28年3月完了 |
| ㉛ E棟屋上階便所系統排気送風機羽根車等修繕工事 | 平成28年3月完了 |
| ㉜ 中央棟無停電電源装置蓄電池交換工事 | 平成28年3月完了 |
| ㉝ 中央棟栄養部食品保管庫扉改修工事 | 平成28年3月完了 |
| ㉞ 特高監視用無停電電源装置更新工事 | 平成28年3月完了 |
| ㉟ 中央棟 1階災害対策用無線LAN-VoIPシステム導入工事【ICT推進プロジェクト】 | 平成28年3月完了 |
| ㊱ 新大学2号館（仮称）、新病院 [小児・周産期医療センター]（仮称）本体工事及び
実施設計・監理業務【西新橋キャンパス再整備計画】 | 次年度継続 |
| ㊲ 中央棟自動火災報知設備更新工事（27/28年工事） | 次年度継続 |
| ㊳ 病棟用ナースコール設備更新工事 | 次年度継続 |

6. 平成27年度決算

1、はじめに

平成27年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新に加えて、葛飾医療センターの別館建設と西新橋地区再開発の着手に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額（利益）は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

施設・設備関係支出は98億円でした。主な内容は、建設仮勘定62億円（内、西新橋再整備支出56億円）、医療器械16億円、建物11億円、教具4億円でした。
前年度繰越金は496億円でしたが次年度繰越金は536億円となり、繰越金は40億円増加しました。

3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加により前年度比17億円増加の999億円となりました。

支出の部は、医療経費・減価償却費・人件費は増加したものの、消耗品費・光熱水費が抑えられ、前年度比では11億円増加の945億円となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）は54億円となり、予算を達成しました。

4、貸借対照表

純資産の部の増加54億円と長期借入金の増加30億円の合計84億円の内、49億円は現金・預金・有価証券に存置されました。残り35億円とその他の収支6億円が、固定資産（建物・建設仮勘定・医療器械・一般備品）の増加41億円に充当されました。

自己資金の合計は1,389億円で、自己資金比率は72%となりました。

5、決算開示方法について

- (1) 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。
- (2) 貸借対照表の未収入金は、徴収不能引当金149,073,107円を控除して表記しております。

以上

平成27年度資金収支計算書

自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

(単位：円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	40,123,269,754	学生生徒納付金収入	3,104,070,000
教育研究経費支出	44,419,803,283	手数料収入	171,921,400
教育研究費支出	11,772,048,756	寄付金収入	870,339,750
医療経費支出	32,647,754,527	補助金収入	3,832,911,372
管理経費支出	3,519,161,062	国庫補助金	3,551,513,770
		地方公共団体補助金	279,897,602
		その他の補助金	1,500,000
		事業収入	90,391,193,056
		医療収入	89,883,962,267
		受託事業収入	507,230,789
借入金等支払利息支出	173,619,895	受取利息・配当金収入	224,661,688
		資産売却収入	216,200,000
借入金等返済支出	2,866,800,000	雑収入	1,178,928,754
施設関係支出	7,343,820,698	借入金収入	5,900,000,000
設備関係支出	2,491,731,370	前受金収入	663,540,714
資産運用支出	10,269,214,000		
その他支出	16,289,524,956	その他の収入	25,673,348,355
資金支出調整勘定	△ 15,770,308,266	資金収入調整勘定	△ 16,545,545,947
期末未払金	△ 15,770,308,266	期末未収入金	△ 15,928,060,327
		前期末前受金	△ 617,485,620
次年度繰越支払資金	53,562,883,091	前年度繰越支払資金	49,607,950,701
支出の部合計	165,289,519,843	収入の部合計	165,289,519,843

平成28年6月文部科学省へ提出

平成27年度事業活動収支計算書

自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

(単位 円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出		教育活動収入	
人件費	40,306,052,794	学生生徒納付金	3,104,070,000
教育研究経費	49,641,681,341	手数料	171,921,400
教育研究経費	15,452,855,810	寄付金	694,976,315
医療経費	34,188,825,531	経常費等補助金	3,798,376,372
管理経費	3,952,863,833	事業収入	90,391,193,056
		医療収入	89,883,962,267
徴収不能額	46,553,247	受託事業収入	507,230,789
徴収不能引当金繰入額	149,073,107	雑収入	1,200,322,185
		(徴収不能引当金戻入額)	55,894,131
教育活動支出計	94,096,224,322	教育活動収入計	99,360,859,328
教育活動収支差額	5,264,635,006		
教育活動外支出		教育活動外収入	
借入金等利息	173,619,895	その他の受取利息・配当金	224,661,688
教育活動外支出計	173,619,895	教育活動外収入計	224,661,688
教育活動外収支差額	51,041,793		
経常収支差額	5,315,676,799		
特別支出		特別収入	
資産処分差額	32,797,483	資産売却差額	4,973,645
その他の特別支出	186,978,493	その他の特別収入	268,042,418
過年度修正額	186,978,493	施設設備寄付金	175,363,435
		施設設備現物寄付	23,643,283
		施設設備補助金	34,535,000
		過年度修正額	34,500,700
特別支出計	219,775,976	特別収入計	273,016,063
特別収支差額	53,240,087		
基本金組入前当年度収支差額	5,368,916,886	基本金組入額合計	△ 4,845,019,099
		当年度収支差額	523,897,787
		前年度繰越収支差額	△ 19,271,675,945
		翌年度繰越収支差額	△ 18,747,778,158

(参考)

事業活動支出計	94,489,620,193	事業活動収入計	99,858,537,079
---------	----------------	---------	----------------

平成28年6月文部科学省へ提出

平成27年度貸借対照表

平成28年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	118,269,350,306	108,732,842,623	9,536,507,683
有形固定資産	101,383,867,024	97,532,951,911	3,850,915,113
土地	6,731,341,407	6,942,567,762	△211,226,355
建物	71,127,901,626	72,262,873,721	△1,134,972,095
構築物	317,813,879	319,443,595	△1,629,716
教育研究用機器備品	11,572,589,516	11,452,497,040	120,092,476
管理用機器備品	2,767,452,927	3,155,241,453	△387,788,526
図書	2,904,628,594	2,865,813,849	38,814,745
車両	13,271,727	19,208,443	△5,936,716
建設仮勘定	5,925,705,440	492,144,140	5,433,561,300
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	15,285,483,282	9,599,890,712	5,685,592,570
差入保証金	421,382,460	421,382,460	0
有価証券	13,321,227,220	7,551,298,220	5,769,929,000
長期貸付金	440,382,689	446,416,197	△6,033,508
ソフトウェア	1,102,490,913	1,180,793,835	△78,302,922
流動資産	73,464,651,853	74,274,873,799	△810,221,946
現金預金	53,562,883,091	49,607,950,701	3,954,932,390
未収入金	15,691,804,461	15,648,267,920	43,536,541
貯蔵品	91,324,134	90,916,916	407,218
有価証券	3,999,485,000	8,800,200,000	△4,800,715,000
仮払金	119,155,167	127,538,262	△8,383,095
資産の部合計	191,734,002,159	183,007,716,422	8,726,285,737

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	35,188,071,147	32,512,823,744	2,675,247,403
長期借入金	13,448,600,000	10,415,400,000	3,033,200,000
退職給与引当金	18,367,892,761	18,185,109,721	182,783,040
長期未払金	3,371,578,386	3,912,314,023	△540,735,637
流動負債	17,605,181,544	16,923,060,096	682,121,448
短期借入金	966,800,000	966,800,000	0
未払金	15,759,421,866	15,106,669,427	652,752,439
前受金	659,940,714	613,885,620	46,055,094
預り金	217,822,464	234,445,549	△16,623,085
保証金	1,196,500	1,259,500	△63,000
負債の部 合計	52,793,252,691	49,435,883,840	3,357,368,851

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	157,688,527,626	152,843,508,527	4,845,019,099
第1号基本金	150,103,559,476	145,258,540,377	4,845,019,099
第4号基本金	7,584,968,150	7,584,968,150	0
繰越収支差額	△18,747,778,158	△19,271,675,945	523,897,787
翌年度繰越収支差額	18,747,778,158	19,271,675,945	△523,897,787
純資産の部合計	138,940,749,468	133,571,832,582	5,368,916,886
負債及び純資産の部合計	191,734,002,159	183,007,716,422	8,726,285,737

平成28年6月文部科学省へ提出

* 徴収不能引当金¥149,073,107円は未収入金から控除されています。

主要な財務指標の推移 (平成27年度より学校法人会計基準が改正されたため財務指標を変更しております)

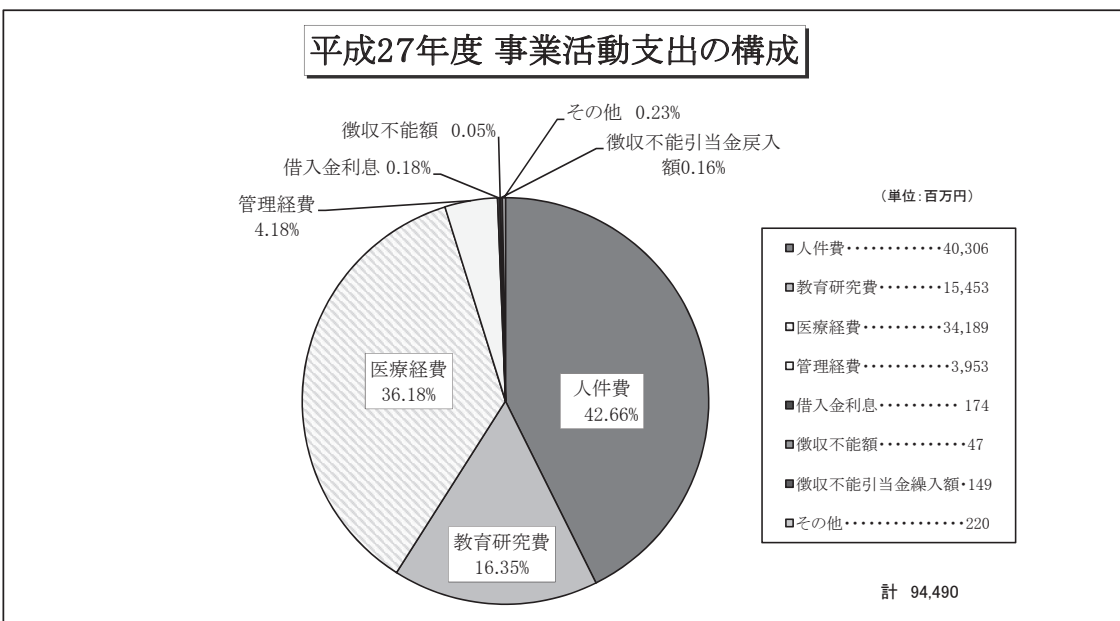
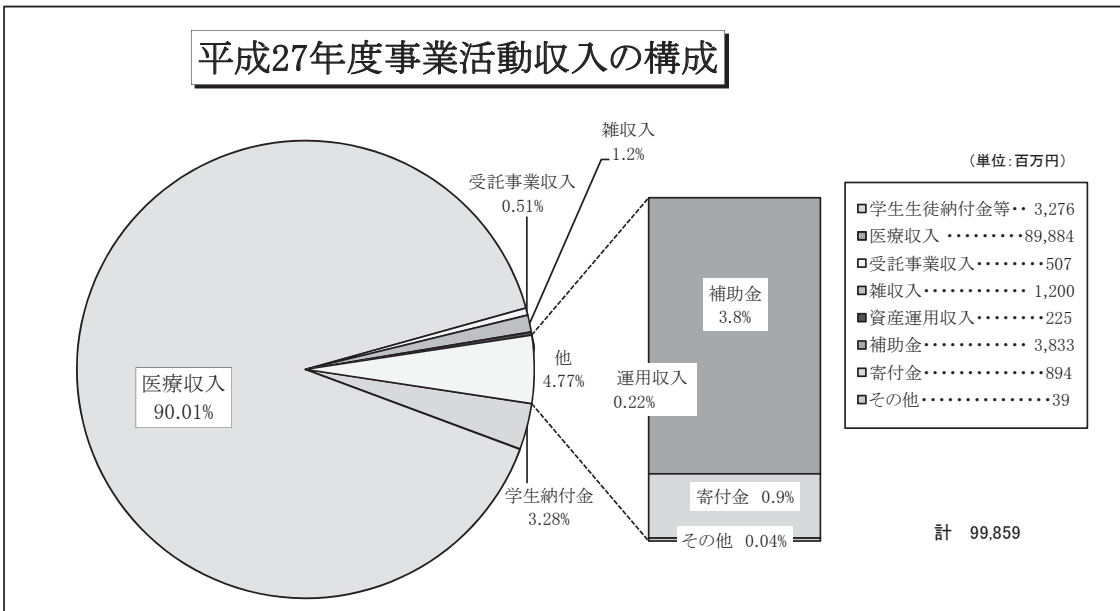
区 分	平成27年度
事業活動収支関係財務比率(単位:%)	
①事業活動支出比率 (事業活動支出/事業活動収入)	94.6%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/事業活動収入)	0.9%
④補助金比率 (補助金/事業活動収入)	3.8%
⑤医療収入比率 (医療収入/経常収入)	90.3%
⑥人件費比率 (人件費/経常収入)	40.5%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	49.8%
⑧事業活動収支差額比率 (100%-事業活動支出比率)	5.4%

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
消費収支関係財務比率(単位:%)			
①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)	95.7%	91.5%	95.2%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入)	2.9%	3.1%	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)	1.5%	1.2%	1.0%
④補助金比率 (補助金/帰属収入)	4.2%	4.2%	3.9%
⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)	89.3%	89.5%	89.4%
⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)	40.7%	39.6%	40.8%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)	47.6%	47.6%	49.1%
⑧帰属収支差額比率 (100%-消費支出比率)	4.3%	8.5%	4.8%

貸借対照表関係財務比率(単位:%)		
⑨流動比率 (流動資産/流動負債)		417.3%
⑩固定比率 (固定資産/自己資金)		85.1%
⑪固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))		67.9%
⑫負債比率 (総負債/自己資金)		38.0%
⑬自己資金比率 (自己資金/総資産)		72.5%

貸借対照表関係財務比率(単位:%)			
⑨流動比率 (流動資産/流動負債)	374.5%	393.1%	438.9%
⑩固定比率 (固定資産/自己資金)	89.1%	85.4%	81.4%
⑪固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	69.3%	68.2%	65.5%
⑫負債比率 (総負債/自己資金)	42.9%	38.8%	37.0%
⑬自己資金比率 (自己資金/総資産)	70.0%	72.0%	73.0%

* 自己資金=基本金+翌年度繰越収支差額、経常収入=教育活動収入+教育活動外収入



財 産 目 録

平成 28 年 3 月 31 日

I. 資産総額	191,734,002,159 円
内 基本財産	122,268,835,306 円
内 運用財産	69,465,166,853 円
内 収益事業用財産	0 円
II. 負債総額	52,793,252,691 円
III. 正味財産	138,940,749,468 円

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		122,268,835,306
1. 土地	152,429.21㎡	6,731,341,407
(1)校地	55,393.10㎡	3,534,677,050
(2)その他	97,036.11㎡	3,196,664,357
2. 建物	300,779.21㎡	71,127,901,626
(1)法人本部	484.78㎡	1,248,231,589
(2)一般校舎	80,215.43㎡	13,780,811,679
(3)図書館	3,882.20㎡	94,226,314
(4)講堂	1,168.99㎡	138,103,421
(5)その他	215,027.81㎡	55,866,528,623
3. 図書	352,466冊	2,904,628,594
4. 教具、校具、備品	8,443件	14,340,042,443
5. 有価証券		17,320,712,220
6. その他		9,844,209,016
二、運用財産		69,465,166,853
1. 現金、預金		53,562,883,091
2. 未収入金		15,691,804,461
3. その他		210,479,301
資産総額		191,734,002,159
三、固定負債		35,188,071,147
1. 長期借入金		13,448,600,000
2. 退職給与引当金		18,367,892,761
3. 長期未払金		3,371,578,386
四、流動負債		17,605,181,544
1. 短期借入金		966,800,000
2. 未払金		15,759,421,866
3. 前受金		659,940,714
4. 保証金		1,196,500
5. その他		217,822,464
負債総額		52,793,252,691
正味財産(資産総額-負債総額)		138,940,749,468

上記の通り相違ありません。

平成28年 5月19日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎




監査報告書

平成 28 年 5 月 19 日

学校法人 慈恵大学
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦久 

監事 岡島 進一郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄附行為第 15 条の定めに基づき、平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。その結果について以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。また、会計監査人から計算書類に関する説明及び報告を受け、検討を加えました。加えて、当学校法人の出資会社である株式会社慈恵実業の計算書類に対する監査の説明及び報告（子会社である慈恵ファシリティサービス株式会社並びに慈恵メディカルサービス株式会社の株式に対する評価、両社との取引及び両社に対する債権債務に関する報告を含む）を同社の監査人から受け、検討を加えました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。出資会社については、取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて当該出資会社から事業の報告を受け説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 28 年 3 月 31 日現在の財産状況及び同日を持って終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人（含む、出資会社）の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

7. 関連当事者との取引状況

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
関係法人	公益社団法人東京慈恵会(注1)	東京都港区	3,000万円	看護師養成事業、医学研究事業	—	4名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払(注2)	120,000,000	-	-

(注1)当学校法人の役員及び教員が公益社団法人東京慈恵会の役員の45%を占めている。

(注2)公益社団法人東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し決定している。

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は以下のとおりである。

名 称	株式会社 慈恵実業				
事 業 内 容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理、保険代理業、リース業 労働者派遣・請負業務など				
出 資 金	30,000,000円 60,000株				
学校法人の出資状況	30,000,000円 60,000株 総出資金額に占める割合 100%				
出 資 の 状 況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株				
当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額 (単位:円)				
	寄附金	78,320,000			
	駐車場等賃借料	78,989,376			
	手数料他	24,071,665			
	出向者人件費受入分	129,808,977			
	土地売却収入	216,200,000			
	合計	527,390,018			
	当該会社への支払額 (単位:円)				
	消耗雑品購入	14,974,902,198			
	医療機器等リース料	87,055,357			
	合計	15,061,957,555			
	(単位:円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
		当該会社への出資金等	30,000,000	0	0
	当該会社への未払金(注1)	3,457,743,339	3,457,743,339	3,424,610,642	3,424,610,642
	当該会社からの未収入金	1,521,731	51,203	1,521,731	51,203
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。				

(注1)当該会社への期末における未払金のうち、372,246,230円はリース取引および割賦取引の長期未払金である。

関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人(注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	1名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払(注4)	1,282,725,754	未払金	68,179,828
								出向者人件費等受入収入	177,473,163	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人(注5)	慈恵メディカルサービス株式会社	東京都港区	2,500万円	医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売	—	—	医科器械・医療消耗品等を購入	医科器械・医療消耗品等の支払(注6)	181,345,503	未払金	14,431,810
								賃借料・寄付金等受入収入	11,828,173	未収入金	0

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) 慈恵メディカルサービス(株)への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

8. 学校法人慈恵大学の体制（平27.4.1）

1) 学校法人慈恵大学

① 役員概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	6人
理事	長	栗原 敏			
学	長	松藤 千弥			
専務理事	事	高木 敬三			
常務理事	事	谷口 郁夫			
	事	丸毛 啓史、伊藤 洋、東條 克能			
		橋本 和弘、中川 秀己、井田 博幸、浅野 晃司、高橋 則子			
		加藤 一人、高橋紀久雄、香川 草平、前田 新造			
監	事	濱 邦久、岡島進一郎			
顧	問	阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、梅澤 祐二、佐々木正峰、真野 章			

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議長	村岡 伸一
評議員	栗原 敏、松藤 千弥、丸毛 啓史、伊藤 洋、中村 敬 東條 克能、橋本 和弘、谷 諭、井田 博幸、安保 雅博 浅野 晃司、山田 恭輔、猿田 雅之、岡部 正隆、竹森 重 柳澤 裕之、岡野 孝、北 素子、上間ゆき子、高橋 則子 加藤 一人、植松美知男、横山 秀彦、小澤かおり、宮崎 栄一 佐藤 哲也、柳澤美津代、川久保 孝、高橋紀久雄、香川 草平 須田 健夫、相澤 義則、鎌田 芳夫、穎川 一信、小田 治男 村岡 伸一、赤羽 清彬、大政 良二、高木 公寛、徳川 恒孝 梅溪 通明、高木 敬三

2) 東京慈恵会医科大学

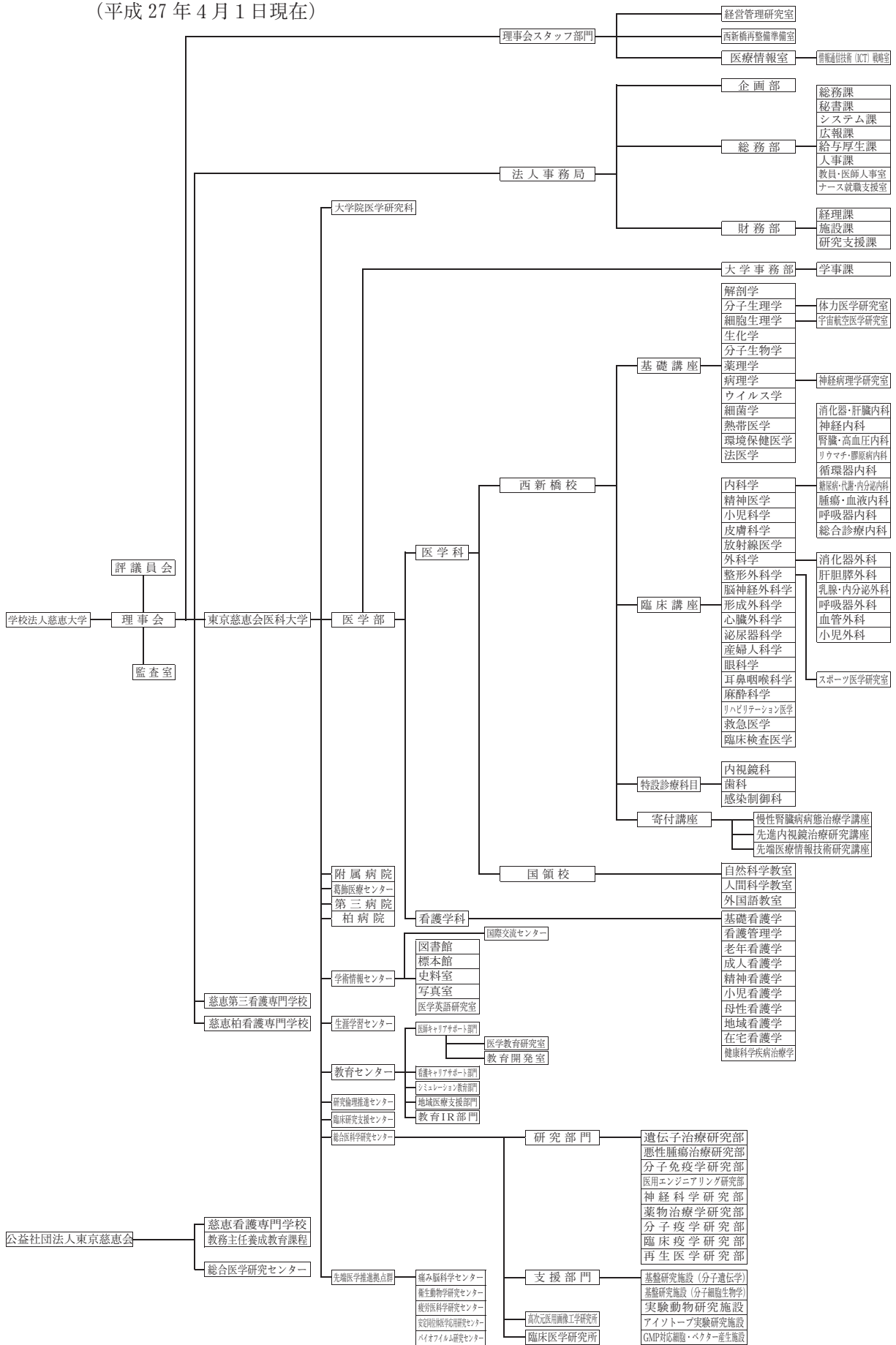
学	長	松藤 千弥			
医学科	長	橋本 和弘			
看護学科	長	北 素子			
大学院医学研究科	長	松藤 千弥			
附属病院	長	丸毛 啓史	副院長	小川 武希、中川 秀己、相羽 恵介、井田 博幸、浅野 晃司、高橋 則子	
葛飾医療センター病院	長	伊藤 洋	副院長	吉田 和彦、児島 章	
第三病院	長	中村 敬	副院長	岡 尚省、古田 希、岡本 友好	
柏病院	長	東條 克能	副院長	岸本 幸一、吉田 博、秋葉 直志	
学術情報センター	長	福田 国彦			
生涯学習センター	長	常岡 寛			
教育センター	長	福島 統			
臨床研究支援センター	長	景山 茂			
総合医科学研究センター	長	大橋 十也			

3) 看護専門学校

慈恵第三看護専門学校	長	中村 敬
慈恵柏看護専門学校	長	吉田 博
[慈恵看護専門学校]	長	羽野 寛

9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成 27 年 4 月 1 日現在)



10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成27年4月23日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(2) 幹部職員一覧</p> <p>(3) 職員数報告</p> <p>(4) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(5) 平成26年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(6) 資産運用状況報告</p> <p>(7) 創立130年記念募金状況報告(3月末日現在)</p> <p>(8) 創立130年記念事業募金募集期間延長の件について</p> <p>(9) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(10) 科研費の返還について</p> <p>(11) 常勤監事について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の開催予定について</p> <p style="padding-left: 20px;">日時：5月26日（火）午後3時～</p> <p style="padding-left: 20px;">議題：平成26年度決算、平成26年度事業報告、他</p>
<p>平成27年5月21日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成26年度決算</p> <p>3) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成26年度事業報告</p> <p>(2) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(3) 新大学2号館建築資金借入の件</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の開催予定について</p> <p style="padding-left: 20px;">日時：5月26日（火）午後3時～</p> <p style="padding-left: 20px;">議題：平成26年度決算報告、その他</p>

議 事 内 容

平成27年6月25日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 新大学2号館建築資金借入の件について
- 3) 創立130年記念事業募金募集期間延長の件

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 5月評議員会報告
 - (2) 労働組合との交渉結果について
 - (3) 宮崎県宮崎市穆佐小学校児童招待の件
 - (4) 宮崎県宮崎市特別大使受入れの件
 - (5) 西新橋キャンパス再整備計画について

2) 学事関係報告

- (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 平成26年度事業報告書
- 2) 大学関連配布物
- 3) マスコミ報道の対応について

平成27年7月23日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 懲戒について
- 3) 実施設計・施工会社の決定について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
 - (1) 学事報告
 - (2) 第132回成医会総会プログラムについて

3) 病院関係報告

- (1) 4病院院長・事務・看護部長会議報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 大学関連配布物

平成27年9月24日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 職員管理職人事（平成27年10月1日）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
 - (2) 病院内モバイル環境整備について
 - (3) 学校法人における会計処理等に関する実態調査について
 - (4) 大学役員選挙について
 - (5) 教室費等の管理について
- 2) 学事関係報告
 - (1) 学事報告
 - (2) イギリス視察（キングスコレッジロンドン、リーズ大学）

3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 夏季常任理事会報告
- 2) 第132回成医会の開催について
- 3) 神奈川県立汐見台病院について
- 4) 新設医大の件について
- 5) 消費税問題について
- 6) 田中直樹元顧問の逝去について
- 7) 豪雨災害の被災状況について

議 事 内 容

<p>平成27年10月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 看護学専攻修士課程入学金に関する内規(案)の制定について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 資産運用状況報告</p> <p>(2) 創立130周年記念事業募金報告</p> <p>(3) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 医療安全について</p> <p>①医療安全推進週間</p> <p>②平成26年度医療安全管理部活動報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 平成28年採用初期臨床研修医マッチング結果について</p> <p>2) 平成28年評議員会および理事会の開催日程について</p> <p>3) 同窓会設立90周年記念式典・祝賀会について</p> <p>4) マスコミ報道の件について</p> <p>5) NTTドコモとの共同記者会見について</p>
<p>平成27年11月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 寄附行為第6条第1号理事(学長)選任</p> <p>2) 寄附行為第6条第2号理事(附属病院長)選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 冬期賞与資金借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 研修医・レジデント採用状況について</p> <p>(2) 新病院建築に伴う病床数の整備について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 文部科学省主催学校法人監事研修会の報告</p> <p>2) 慈恵看護教育130年記念式典、講演会、懇親会について</p>
<p>平成27年12月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 各附属病院長(分院長)候補者の審議・選任</p> <p>(2) 寄附行為施行規則第29条他に規定する人事の選任</p> <p>(3) 看護専門学校長候補者の選任</p> <p>(4) 監事候補者の推薦および顧問、参与、評議員、理事の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成28年1月1日付)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(2) 柏看護専門学校の校舎の用途及び面積の変更</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成28年3月17日(木)午後3時 平成28年度事業計画(案)、平成28年度予算(案)他</p> <p>(2) 平成27年5月26日(木)午後3時 平成27年度事業報告、平成27年度決算他</p> <p>2) 平成28年度理事会開催日程</p> <p>3) 慈恵医大・附属病院職員雑誌について</p>

議 事 内 容

平成28年1月28日

1. 議決事項

- 1) 看護専門学校校長選任等規則の改定について
- 2) 特定個人情報の適正な取扱いに関する基本指針（案）及び特定個人情報等取扱規程（案）の制定について
- 3) 役員人事
 - (1) 新理事会関連事項
 - ①寄附行為第6条第6号理事の選任
 - ②理事長について
 - ③専務理事候補者の選任
 - ④その他
 - (2) 看護専門学校校長候補者の選任
 - (3) 各附属病院 副院長候補者の選任
- 4) 看護学専攻博士課程の設置について
- 5) 教員人事
- 6) 職員管理職人事（平成28年4月1日付）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 西新橋キャンパス再整備計画
 - (2) 株式会社慈恵実業第40期決算報告
 - (3) 国立がん研究センターとの協力関係について
- 2) 学事関係報告
 - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 成医会例会案内

平成28年2月25日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 職員管理職人事（平成28年4月1日付）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 平成28年度予算（案）について＜説明＞
 - (2) 関連当事者との取引の調査依頼
 - (3) 学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成28年度事業計画（案）
 - (4) 本院と柏病院の利益構造に関する分析報告
 - (5) 西新橋キャンパス再整備計画について
 - (6) 西新橋キャンパス再整備建築資金借入の件
- 2) 学事関係報告
 - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告
 - (1) 医療監視（本院）の件について

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
 - (1) 平成28年3月17日（木）午後3時
平成28年度事業計画（案）、平成28年度予算（案） 他
 - (2) 平成28年5月26日（木）午後3時
平成27年度事業報告、平成27年度決算 他

議 事 内 容

平成28年3月24日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 職員管理職人事(平成28年4月1日付)
- 3) 平成28年度基礎系講座定員について
- 4) 平成28年度附属4病院診療部・中央診療部定員について
- 5) 平成28年度事業計画(案)について
- 6) 平成28年度予算(案)について
- 7) 西新橋キャンパス再整備建築資金借入れの件について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
 - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について

2) 学事関係報告

- (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院(本院)の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 配布資料
 - (1) 教育・研究年報(2014)
 - (2) Research Activities(2014)
- 2) 評議員会の日程について
 - (1) 平成28年5月26日(火)午後3時
平成27年度決算, 平成27年度事業報告 他

11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成27年5月26日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成26年度事業報告</p> <p>2) 平成26年度決算</p> <p>3) 平成26年度監査報告</p> <p>4) 新大学2号館建設資金借入の件</p> <p>5) 創立130年記念事業募金募集期間延長の件</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 事務局長の任用について</p> <p>2) 学事報告</p> <p>3) 平成26年度中に制定・改定となった規程類の件</p> <p>4) 西新橋キャンパス再整備を中心とした事業計画について</p> <p>5) 慈恵看護教育130年記念事業について</p> <p>3. その他</p> <p>1) 科学研究費補助金の返還について</p> <p>2) その他</p>
<p>平成28年3月17日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成28年度役員人事</p> <p>2) 中期目標・中期計画・平成28年度事業計画案の件</p> <p>3) 平成28年度予算案の件</p> <p>4) 西新橋キャンパス再整備建築資金借入の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 国立がん研究センターとの包括協定について</p> <p>3) 病院報告</p> <p>4) 大学創立130年記念事業募金の中間報告</p>	<p>5) 西新橋キャンパス再整備について</p> <p>6) 薬事法（現医薬品医療機器法）違反（虚偽広告）に係る公判の件</p> <p>7) その他</p> <p>(1) 新旧役員（理事・評議員・監事・顧問）懇親会の開催について</p> <p>(2) 次回評議員会の開催について</p> <p>3. その他</p>

12. 監査室

①公的研究費の内部監査、②公的補助金の内部監査、③公的研究費のモニタリング、④教室会計の管理状況の検証、⑤監査法人の指摘事項への対応、⑥本学の規程の整備・運用状況の検証、を実施した。また、監事ならびに監査法人に平成27年度の内部監査結果を報告するとともに意見交換を行った。

1. 内部監査

平成27年度内部監査計画に基づき、以下の内部監査を計画通り実施した。

1) 公的研究費

(1) 平成26年度分文部科学省関係

- ① 科学研究費助成事業、
- ② 研究拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）、
- ③ ひらめき☆ときめきサイエンス、
- ④ 橋渡し研究加速ネットワークプログラム、
- ⑤ 研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）、
- ⑥ 学術研究振興資金、
- ⑦ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(2) 平成26年度分厚生労働省関係

- ① 厚生労働科学研究費補助金、
 - ② 厚生労働科学研究委託費、
 - ③ 治験推進研究事業、
 - ④ 循環器病研究開発費、
 - ⑤ 精神・神経疾患研究開発費
- 2) 公的補助金
- (1) 平成27年度分私立大学等経常費補助金（一般補助）
 - (2) 平成26年度分私立大学等経常費補助金（特別補助）
- 3) 公的研究費に関するモニタリング（期中監査）
- (1) 平成27年度分公的研究費の執行・管理
 - ① 研究の進捗状況についてのインタビュー（新規）
 - ② 物品の検収業務の立ち会い
 - ③ 非常勤雇用者の勤務状況（インタビューならびに出勤簿の押印・記載の立ち会い）
 - ④ 換金性の高い物品の現物確認（新規）
 - ⑤ 出張の事実確認（国内宿泊施設への照会、出張期間の出勤簿記載状況の確認、出張の目的と概要インタビュー）
 - ⑥ 旅費の重複受給の有無確認（平成26年度分ならびに平成27年度分）
 - ⑦ 研究倫理に関する省令・倫理指針等の遵守状況
 - (2) 平成28年度科研費応募要件の遵守状況（FD受講、業績内容等の確認）
- 4) 業務監査
- (1) 事務部門における標準作業手順書の検証、
 - (2) 慈恵実業平成26年度監査報告書の確認
 - (3) 監査法人トーマツの平成26年度監査覚書の指摘事項への対応
 - (4) 教室会計の管理状況の検証、
 - (5) 学校法人慈恵大学規程集の整備、運用状況の検証

2. その他

- 1) 研究適正化特別委員会の事務担当
- 2) 公益通報・相談窓口の対応
- 3) 学長アドバイザーのサポート業務

Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成27年4月～平成28年3月）

1) 平成28年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
小川 武 希	救急医学講座	名誉教授
相澤 良 夫	内科学(消化器・肝臓内科)	客員教授
西野 博 一	内科学(消化器・肝臓内科)	客員教授

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
宮脇 剛 司	形成外科学	平27.4.1	平成元年 本学卒	形成外科学 准教授より
炭山 和 毅	内視鏡科	平27.4.1	平成10年 本学卒	内視鏡科 講師より
坂東 興	心臓外科学	平27.4.1	昭和58年 岡山大医卒	心臓外科学 特任教授より
坪川 恒 久	麻酔科学	平27.4.1	昭和63年 金沢大医卒	麻酔科学 准教授より
梶井 文 子	看護学科 老年看護学	平27.4.1	平成14年 東京医科歯科大学 博士課程卒	聖路加国際大学 准教授より
横山 昌 幸	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究部	平27.6.1	昭和59年 東大工学部卒	総合医科学研究センター 特任准教授より
岩本 武 夫	総合医科学研究センター 基盤研究施設 (分子細胞生物学)	平27.6.1	昭和57年 東京薬科大卒	総合医科学研究センター 准教授より
和田 靖 之	小児科学	平27.8.1	昭和60年 杏林大医卒	小児科学 准教授より
古田 希	泌尿器科学	平27.8.1	昭和59年 本学卒	泌尿器科学 准教授より
郡司 久 人	眼科学	平27.8.1	昭和59年 本学卒	眼科学 准教授より
加地 正 伸	大学直属	平27.10.1	昭和54年 本学卒	大学直属 特任教授より
岡本 友好	外科学	平27.10.1	昭和60年 本学卒	外科学 准教授より
朝倉 正	総合医科学研究センター アイソトープ実験研究施設	平28.1.1	昭和55年 東京都立大理卒	総合医科学研究センター 准教授より
立花 利 公	総合医科学研究センター 基盤研究施設 (分子細胞生物学)	平28.2.1	昭和55年 東京理科大薬	総合医科学研究センター 准教授より
中村 真理子	教育センター	平28.2.1	昭和61年 本学卒	教育センター 准教授より

3) 新任客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
兼平 千裕	放射線医学	平27.4.1	JR東京総合病院在任中
関谷 透	放射線医学	平27.4.1	新渡戸文化短期大学学長在任中
佐々木 寛	産婦人科学	平27.4.1	日本婦人科がん検診学会理事長在任中 日本産婦人科内視鏡学会理事在任中
福永 眞治	病理学	平27.4.1	日本婦人科腫瘍学会理事在任中
Marc Fisher	脳神経外科学	平27.10.1	ハーバード大学神経内科名誉教授在任中
上村 伯人	大学直属	平27.11.1	上村医院 院長在任中
小嶋 聡一	臨床検査医学	平27.12.1	理化学研究所 微量シグナル制御技術 開発特別ユニットリーダー在任中
阪本 要一	大学直属	平28.2.1	株式会社タニタ体重科学研究所 所長在任中

4) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
岡崎 真雄	学術情報センター	平27.4.1	特任期間：平成27年4月1日～ 平成30年3月31日
加地 正伸	内科学 (腎臓・高血圧内科)	平27.4.1	特任期間：平成27年4月1日～ 平成30年3月31日
伊藤 文之	看護学科 健康科学	平27.4.1	特任期間：平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
持尾 聡一郎	看護学科 健康科学	平27.4.1	特任期間：平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
内田 満	看護学科 健康科学	平27.4.1	特任期間：平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
三森 教雄	外科学	平27.6.1	特任期間：平成27年6月1日～ 平成30年3月31日
西川 正子	大学直属	平27.7.1	特任期間：平成27年7月1日～ 平成30年3月31日

5) 叙位・叙勲

阿部 正和 名誉教授 平成28年2月26日 従四位

6) 訃報

田中 直樹 元顧問 平成27年9月10日 逝去
 佐藤 泰雄 客員教授 平成27年12月23日 逝去
 須藤 正道 教授 平成28年1月31日 逝去
 五十嵐 眞 客員教授 平成28年1月26日 逝去
 阿部 正和 顧問 平成28年2月26日 逝去

2. 教職員数

1) 教員数 平成27年5月1日現在

① 医学科

専任教員 1,224名

(内訳) 本学を本務とする者 1,196名
日本クラブ診療所派遣中 3名
留学中 16名
休職中 9名

その他教員 1,559名

(内訳) 本学を本務とする者 282名
関連病院派遣中 682名
留学中 65名
休職中 143名
上記以外(名誉・客員教授・講師
(非常勤)) 387名

② 看護学科

専任教員 40名

その他教員(講師(非常勤)) 43名

2) 初期臨床研修医数(平成27年4月1日現在)

1年 本 院 43名
 " 歯科 2名
葛飾医療センター 6名
 第三病院 19名
 柏 病 院 24名
 合 計 94名

2年 本 院 49名
 " 歯科 3名
葛飾医療センター 4名
 第三病院 22名
 柏 病 院 18名
 合 計 96名
総合計 190名

3) 職員数(看護師を含む)(平成27年5月1日現在)

大学 * 233名
本院 ** 1,620名
葛飾医療センター *** 522名
第三病院 *** 775名
柏病院 *** 908名
計 4,058名

常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)

◆ 法人事務局、医学科国領校、看護
学科、慈恵看護専門学校を含む。

** 晴海トリートメントクリニックを含む。

*** それぞれ看護専門学校を含む。

4) 看護師数(平成27年5月1日現在)

	正 看	准 看	その他*	計
法 人	2名	0名	0名	2名
大 学	1名	0名	0名	1名
本 院	1,079名	0名	47名	1,126名
葛飾医療センター	365名	1名	6名	372名
第三病院	519名	1名	6名	526名
柏 病 院	633名	0名	14名	647名
計	2,599名	2名	73名	2,674名

*事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学学生数など（平成27年5月1日現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	110	112	79	33	小澤 隆一 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師 【委員】 和田 高士 教授（総合健診・予防医学センター） 秋山 政晴 講師（小児科学） 中澤 靖 講師（感染制御部） 松澤真由子 看護師（第三・感染制御室） 加藤順一郎 助教（1年担当・内科） 館野 歩 講師（1年担当・精神） 川井 真 准教授（2年担当・内科） 横田 邦信 教授（3年担当・内科） 原 弘道 助教（4年担当・内科） 伊藤 周二 助教（5年担当・内科） 松尾 七重 助教（6年担当・内科） 中山 和彦 教授（2～6年担当・精神）
2	110	117	74	43	糸山 俊彦 教授	
3	110	114	82	32	近藤 一博 教授	
4	110	119	92	27	吉村 道博 教授	
5	110	100	63	37	尾上 尚志 教授	
6	105	107	70	37	福田 国彦 教授	
計	655	669	460	209		

（国領校：112名 西新橋校：557名）

(2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	宇都宮一典	教授
・副教学委員長	柳澤 裕之	教授
”	岡野 孝	教授
・学生部長	竹森 重	教授
・副学生部長	中川 秀己	教授
”	小澤 隆一	教授
・大学事務部長	井出 晴夫	

2) 医学部看護学科学学生数など（平成27年5月1日現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 学 生 委 員 等
			男	女	
1	60	60	2	58	委 員 伊藤 文之 教授（保健指導担当）
2	60	60	2	58	” 望月 留加 准教授（1年担当）
3	60	60	1	59	” 草地 潤子 准教授（2年担当）
4	40	41	2	39	” 佐藤 正美 教授（3年担当）
計	220	221	7	214	” 細坂 泰子 准教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	茅島 江子	教授
・学生部長	北 素子	教授
・副学生部長	高橋 衣	准教授
・学事課長	河村 稔明	

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成27年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会				
			男	女					
1	66	28	16	12	委 員 長：	松藤 千弥	学長		
2	66	33	27	6	副委員長：	中川 秀己	教授		
3	66	41	30	11	委 員：	岡部 正隆	教授	近藤 一博	教授
4	66	28	17	11		南沢 享	教授	大橋 十也	教授
計	264	130	90	40		岡野(J)洋尚	教授	宇都宮一典	教授
						井田 博幸	教授	矢永 勝彦	教授

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成27年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会 （ 修 士 課 程 ）				
			男	女					
1	10	10	0	10	委 員 長：	櫻井 尚子	専攻長		
2	10	11	2	9	委 員：	高島 尚美	教授	佐藤 正美	教授
計	20	21	2	19		田中 幸子	教授	茅島 江子	教授

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成27年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成27年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：宇都宮一典（教学委員長）、柳澤裕之（副教学委員長、カリキュラム委員長）、岡野孝（副教学委員長）、竹森重（学生部長、学生担当委員長）、中川秀己（副学生部長、学生担当副委員長）、小澤隆一（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、木村直史（試験委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、靱山俊彦（2学年担当）、近藤一博（教育施設委員長、3学年担当）、吉村道博（4学年担当）、尾上尚志（5学年担当）、福田国彦（6学年担当）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長）、池上雅博、石橋由朗

2. 平成27年度医学科の進級、卒業者

1年：進級 109人 留年 2人 退学 1人
 2年： " 108人 " 8人 休学 1人
 3年： " 112人 " 1人 " 1人
 4年： " 118人 退学 1人
 5年： " 98人 留年 2人
 6年：卒業 107人 " 0人

以上の結果、平成28年度の学生数は1年-114人、2年-118人、3年-112人、4年-112人、5年-120人、6年-98人、合計672人

3. カリキュラムの改訂と経過

平成27年度より、臨床実習拡充を目的に4年次のカリキュラムが大幅に改訂され、従来5年次から開始していた臨床実習を6か月前倒しで平成27年9月より開始した。9月からは全科臨床実習とキャンパスでの集合教育との組み合わせで、診療の現場で求められる知識・技能・態度を「文脈の中での学修」として修得できるようにした。

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成27年6月23日（火）、平成27年12月3日（木）に開催された。学生会からの重要な報告は、前年度活動報告および会計報告、平成27年度東医体実行委員会報告、平成27年度学

生会活動報告、学生による教員・教育評価活動報告、学生委員によるアンケート結果報告等であった。また、講義配布資料の改善要望および飲酒問題担当による1年生新入生歓迎会飲酒に係るアンケート結果の報告があった。

5. 第74回~第79回Faculty Development

平成27年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第74回Faculty Development

日 時：平成27年4月11日（土）、12日（日）

場 所：ホテルエバーグリーン富士

テーマ：スタートアップ宿泊研修

修了証受領者（34名、実行委員8名）

第75回Faculty Development

日 時：平成27年4月25日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：双方向性授業のためのスキルアップ

修了証受領者（43名、実行委員6名）

第76回Faculty Development

日 時：平成27年5月16日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（33名、実行委員10名）

第77回Faculty Development

日 時：平成27年6月13日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：共用試験OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（45名、実行委員11名）

第78回Faculty Development

日 時：平成27年10月17日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカルクラークシップ指導医養成

修了証受領者（38名、実行委員13名）

第79回Faculty Development

日 時：平成27年11月21日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年時教育に関するワークショップ

修了証受領者（37名、実行委員10名）

6. 医学教育セミナー、臨床試験セミナー

以下のとおり開催された。

第58回医学教育セミナー、臨床試験セミナー

日 時：平成27年11月9日（月）

場 所：高木2号館南講堂

講 演：GRADE systemでわが国の診療ガイドラインの質を上げる

講 師：南郷 栄秀 先生（東京北医療センター・総合診療科 医長）

参 加：28名

第59回医学教育セミナー

日 時：平成28年3月31日（月）

場 所：大学1号館6階講堂

講 演：医学教育質保証制度への期待

講師：吉岡 俊正 先生（東京女子医科大学 理事長）

参加：41名

7. 第41回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

第41回カリキュラム特別検討会

日時：平成28年1月22日（金）

場所：大学1号館3階講堂

テーマ：臨床実習拡充プログラムにおけるクリニカルクラクシップと卒業時OSCE

司会：柳澤 裕之 教授（カリキュラム委員長）

参加：36名

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション・スタートアップ宿泊研修

平成27年4月10日（金）～12日（日）の期間で新1年生を対象としてオリエンテーションを実施した。10日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、カリキュラム、健康管理、学生生活の諸注意、学生生活アドバイザーとのグループ討論が行なわれた。11～12日は新入生全員を対象としてスタートアップ宿泊研修をエバーグリーン富士（富士吉田市）にて実施した。参加者は、学生172名（医学科112名・看護学科60名）、教職員45名の合計217名であった。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

平成27年度に首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づく特別科目等履修生の受入れはなかった。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成27年10月10日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成27年7月18日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成27年7月24日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。OSCE・CBTの受験者数は119名であった。CBTの再試験対象者は4名であった。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。今年度は、臨床実習の拡充を中心にカリキュラム全般に関する事、各種試験対策について、学生のマナーに関する事、学生支援（メンタルヘルスケア）について意見交換を行った。今後も継続して本交流会を開催する予定である。平成27年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第34回 平成27年5月15日（金）東京医科大学

第35回 平成27年11月27日（金）東邦大学

7) オープンキャンパス

医学科大学説明会は、8月の金・土曜日の連日と9月の土曜日の午後1時30分から開催した。終了後、大学1号館教育施設の見学と個別相談会の他、パネル展示や学生クラブ紹介ビデオの放映、模擬講義を実施した。

1回目：平成27年8月14日（金）中央講堂 参加者：約800名

2回目：平成27年8月15日（土）中央講堂 参加者：約800名

3回目：平成27年9月26日（土） 中央講堂 参加者：約400名

8) 教育施設

西新橋校では、情報端末を利用した学習環境の改善を図るため、高木2号館南講堂の講堂システムを整備し、パソコンやタブレットとプロジェクターの無線接続が可能となった。

II. 入学試験

1. 入学試験は、平成28年2月4日（木）に五反田TOCビルで一次試験を、2月13日（土）・14日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月18日（木）午後3時に合格発表を行った。

志願者数は2,276名、入学者数は112名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

① 男子 69名、女子43名

② 現役 42名、1浪56名、2浪9名、その他5名

③ 地域別入学者数

北海道	2名	東京および関東地方	92名
甲信越・北陸地方	2名	東海・近畿地方	8名
山陽地方	1名	四国地方	3名
九州地方	3名	その他（在外教育施設等）	1名

III. 国家試験

1. 医師国家試験

第110回医師国家試験が2月6、7、8日の3日間にわたって施行され、結果が3月18日に発表され本学は、110名中108名合格（98.2%）、新卒は107名中107名合格（100.0%）、既卒は3名中1名合格（33.3%）であった。

国・公・私立大学の全国総合順位では、第4位（前年は第9位）、私立大学だけでは第3位（前年は第4位）であった。他の私立大学の状況は、自治医科大学（99.1%1位）、東京医科大学（98.5%2位）、順天堂大学医学部（98.2%3位）、日本大学医学部（97.5%5位）、兵庫医科大学（95.2%6位）、東邦大学医学部（94.8%7位）であった。

全国受験者総数は、9,434名、うち合格者8,630名で、合格率は91.5%（前年は91.2%）であった。

IV. 退任記念式典

平成28年1月30日（土）午後3時から大学1号館講堂において開催した。

小川 武希 教授（救急医学講座）演題：「慈しみの時」

救急医学の分野で活躍された小川教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで宇都宮一典教学委員長から同じく定年退任される2名の相澤良夫教授（内科学講座（消化器・肝臓））、西野博一教授（内科学講座（消化器・肝臓））の略歴が紹介され、松藤千弥学長より長年の大学への貢献に謝辞が述べられ記念品を贈呈した。また、同窓会、父兄会、医学科学生会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される3教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル マグノリアホール」にて開催した。会場には、教職員、同窓、学生など200名を超える参加があり、盛大なうちに会は終了した。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成27年4月～平成28年3月

教学委員長 茅島 江子

教学委員 田中 幸子、濱中 喜代

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成27年度は、1年生（24期生）60名、2年生（23期生）60名、3年生（22期生）60名、4年生（21期生）41名で新学期をむかえた。
- ② 平成27年度オリエンテーションは、4月3日から17日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、キャリア支援に関するシンポジウム、健康診断やカルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。また、医学科新生と合同で、スタートアップ宿泊研修（4月11日、12日、山梨県富士吉田市）や救急蘇生実習を行った。
- ③ 平成27年4月11日、学生が自身の知識獲得状況を確認し、今後の学習課題を明確にすることを目的に、2年、3年、4年生を対象にコンピュータ試験を実施した。
- ④ 平成27年6月13日、全学年の保護者を対象に、学生に関する情報交換会を実施した。
- ⑤ 平成27年7月22日、学生・教学委員・カリキュラム委員合同会議を開催した。
- ⑥ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成27年6月27日、平成27年8月21日～27日、9月14日～18日
 - ・後期 平成27年12月15日、平成28年1月28日～2月4日
- ⑦ 平成27年7月26日、22期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、三浦萌氏（本学15期生）による講演会テーマ「私の看護実践と対戦にしていること」が実施され、8月29日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。
- ⑧ 平成27年10月10日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑨ 平成27年10月31日、看護学科4年生と医学科5年生による、医療倫理に関する共修演習を実施した。
- ⑩ 平成27年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑪ 平成27年11月12日、4年生の看護研究発表会が行われた。
- ⑫ 平成28年2月18日、佐々木公一氏（ALS患者）による「やさしさの連鎖ー難病ALSと生きる」の講演会を開催した。
- ⑬ 平成28年3月4日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、21期生40名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。
- ⑭ 平成28年3月2日、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会を開催した。

II. 入学試験

1. 平成28年度入学試験は、平成28年2月10日に一次試験を、2月13日に二次試験を実施した。志願者数は、570名、入学者は60名、その内訳は次のとおりである。
 - ① 女子 60名、男子 0名
 - ② 現役 52名、1浪 7名、2浪 1名
 - ③ 地域別入学者数

北海道・東北地方	1名	東京および関東地方	49名
信越地方	3名	東海地方	3名
近畿地方	3名	中国・四国地方	1名
九州・沖縄地方	0名		
2. 平成27年度オープンキャンパスは、平成27年7月18日と19日の2日間実施し、参加者数は1,119名（前年比+238名）であった。また、11月7日にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は194名（前年比-44名）であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された16箇所の大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校3校（田園調布学園高等部、東洋女子高等学校、都立府中高校）へ訪問し、模擬講義を行なった。

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第105回看護師国家試験は、平成28年2月14日に、第102回保健師国家試験は、平成28年2月16日に実施され、その結果が3月25日に発表された。看護師国家試験は21期生40名、20期生1名が受験、41名全員が合格（100.0%）し、保健師は21期生20名が受験し、全員が合格した（100.0%）。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.4%、保健師国家試験合格率は89.8%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を更に豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

Ⅴ. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成28年3月卒業生40名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	30名
進学	1名
保健師として就職	0名
他病院就職	9名
その他	0名

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成27年度は以下のとおり実施した。

1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成27年度は以下のとおりとなった。

① 大学院研究助成金

・平成27年度採択件数：15件

② 医学研究科研究推進費

・平成27年度採択件数：新規2件、継続2件

また、臨床医学講座に所属する教員と基礎医学講座もしくは総合医科学研究センターに所属する教員が臨床医学における新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを共同で探索し、次年度に科研費等の外部競争的研究資金を獲得することを目的とした東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を平成25年度より創設した。

③ 萌芽的共同研究推進費

・平成27年度採択件数：新規5件

2) がん治療医療人養成コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組入れて募集を行った。志願者：0名

3) カリキュラム内容の検証

・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。単位取得者3名さらに、

CITI Japanによるe-learningシステムを「医の倫理」の科目に導入した。

- ・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成28年度の大学院（博士課程）入試は2回実施し、1回目は平成27年10月3日に、2回目は平成28年1月22日に実施した。その結果、48名（うち社会人10名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国立がん研究センター、国立成育医療センター、日本医科大学、東京女子医科大学、東海大学、早稲田大学、愛知医科大学など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

平成27年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

1) 大学院教員・院生へFaculty Developmentの実施

看護学のみならず医療、心理、教育など多方面で活用されつつある混合研究法を理解する目的で、看護研究に用いた実践例を挙げて講義がなされ、混合研究法についての理解が深まった。

講師：聖路加国際大学大学院・看護学研究科 老年看護学 亀井智子教授

講演テーマ：看護研究における混合研究法の活用例

—複雑な事象を理解するための研究方法として—

日時：平成27年9月26日（土）14：00—17：00

2) 研究助成制度について

大学院生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度による使用分と研究指導費による助成により、研究活動の範囲や内容を高めることを図った。平成27年度大学院研究助成制度による研究助成採択者は8名。

3) 入学試験について

入学試験は、募集を平成27年8月1日（土）～8月31日（月）に行い、出願資格認定試験を平成27年9月8日（火）、入学試験を平成27年9月13日（日）に実施した。

その結果、10名の応募があり、10名が合格した。

4) 修了生について

平成25年4月入学大学院生1名、平成26年度入学生7名の合計8名の修了式を平成28年3月22日（火）に挙行了した。

5) 教育課程の評価と改善

大学院生による授業評価は、講義終了後に科目責任者と大学院生が講義内容について話し合いを持つ方式に改めて5年目を迎え、評価を踏まえ次年度担当教員を変更する等の着実な改善が速やかにできた。

また、大学院生の学修時間確保の観点から、平成27年度より、母子健康看護学分野・看護管理学分野・地域連携保健学分野は、特論Ⅰ～Ⅲ、演習Ⅰ～Ⅲ構成を、特論ⅠからⅤ、演習Ⅰと科目構成を変更することとし、運用を図った。その結果、大学院生の自修時間の確保が容易となり学修意欲、科目の修得に効果が見られた。

6) 専門看護師認定試験

専門看護師教育課程を受講した2名が専門看護師認定試験を受験し合格した。分野は急性・重症患者看護分野で1名、がん看護分野1名の合計2名である。

7) 科目履修生

科目履修制度を利用した履修生が2名、初めて誕生した。

履修生2名は本課程修了者で、履修科目は「急性・重症患者看護学実習」であり、専門看護師教育課程修了を目的に履修し、単位を取得した。

6) 慈恵看護専門学校 の 状況

看護専門学校 学生数 (平成27年 5月1日現在)

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	103	103	111	317
慈恵第三看護専門学校	150	50	52	64	45	161
慈恵柏看護専門学校	240	80	83	82	80	245
計	690	230	250	234	248	732

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任とカリキュラム委員6人で構成され週1回開催されている。
- ③ その他の会議は、教職員会議は定例月1回開催、教員会議が隔週で、開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成27年度1年生(66期生)103名、2年生(65期生)103名、3年生(64期生)111名、合計317名で新学期をむかえた。
- ② 平成27年度オリエンテーションは4月6日から4月28日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防犯対策講習、防災訓練を実施した。
- ③ 授業・実習評価アンケート
学生による授業・実習評価アンケートを基礎分野、専門基礎分野科目と、専門分野科目の講義及び臨地実習科目で実施し、結果について該当講師へ報告した。
- ④ 終講試験
同時出題方式(本試験・再試験・追試験)の試験出題依頼を行い実施した。
アップル社のアップルウォッチ発売に伴い今年度終講試験、入試より試験中の腕時計着用を禁止した。禁止に伴い各教室にアナログ式時計を設置した。(8台)
- ⑤ 平成27年10月29～30日、3年生の学外セミナーを実施した。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 平成28年3月6日、3年生の看護観発表会を開催した。
- ⑦ 平成28年3月12日に東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席の下に、64期生の卒業式が挙行され、103名が卒業した。

II. 入学試験

1. 平成28年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成27年10月21日(水)〔二次〕平成27年11月7日(土)

一般選考〔一次〕平成28年1月20日(水)〔二次〕平成28年1月23日(土)

志願者数は226名(推薦47名・大学卒48名・一般131名)で、昨年度より68名減少した。

2. オープンキャンパスは、平成27年7月18日(土)・8月29日(土)の2回実施し、参加者数は521名(内訳は7月203名、8月318名)であった。

III. 国家試験

第105回看護師国家試験は、平成28年2月14日(日)に実施され、その結果が3月25日(金)に発表された。64期生104(既卒者1名含)名が受験し、103名が合格、1名(既卒者)が不合格であった。

(2) 慈恵第三看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

学校運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学生相談係、各学年主責任者、事務長で構成され、年間に6回定例で開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、卒業判定会議、単位認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム運営会議、臨床実習指導者会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月4日(土) 3校合同入学式を西新橋で挙行了。また当日併せて入学生の保護者会を開催した。平成27年度1年生(26期生)52名、2年生(25期生)64名、3年生(24期生)45名、計161名で新学期を迎えた。
- ② 6月3日(水)～5日(金)、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ③ 保護者会について、1年生対象を入学式当日の4月4日(土)、2年生対象を7月12日(日)、3年生対象を6月27日(土)に開催した。
- ④ 7月4日(土)、7月19日(日)、10月31日(土)(学校祭同時開催)の3回、オープンキャンパスを開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め647名であった。なお、今年度より休日開催を設定した。
- ⑤ 7月10日(金)講師会を、第三病院看護部を対象に実施した。
- ⑥ 11月14日(土)、理事長同席のもと1年生51名の戴帽式を挙行了。
- ⑦ 平成28年3月12日(土)2校合同の卒業式を西新橋で挙行了。24期生42名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

平成28年度入学試験は、推薦入試を平成27年10月26日(月)・11月7日(土)、一般入試を平成28年1月17日(日)・1月19日(火)に実施した。

志願者数は推薦44名(内男子1名)、一般137名(内男子16名)、入学者は51名(内男子3名)であった。

III. 国家試験

第105回看護師国家試験は平成28年2月14日(日)に実施され、24期生42名が受験し全員が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.4%であった。

(3) 慈恵柏看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- 1) 4月4日(土)、3校合同入学式を挙行了(29期生:入学者83名)。
- 2) 平成27年度は1年生(29期生)83名、2年生(28期生)82名、3年生(27期生)80名の計245名で新学期を迎えた。
- 3) 4月2日(木)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 4) 4月6日(月)、平成27年度始めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。
- 5) 5月23日(土)に慈恵の看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。
- 6) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の4月と2年次の7月に「人

間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。

- 7) 保護者の連携の充実を図るために国家試験に向けた学習支援の方針・理解と協力依頼を目的として、4月18日(土)に3年生の保護者を対象とした保護者会を開催し、模擬試験の成績下位の保護者を中心とした保護者会を2回開催した。
- 8) 11月28日(土)、1年生(29期生)の戴帽式を挙行了した(戴帽生81名)
- 9) 平成28年3月12日(土)、2校合同の卒業式を挙行了した。27期生78名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

II. 入学試験

平成28年度入学試験は、推薦入試を平成27年10月16日(金)、10月24日(土)、一般入試を平成28年1月15日(金)、1月18日(月)に実施した。志願者数は、推薦65名(内男子1名)、一般141名(内男子12名)、入学者は84名(内男子2名)であった。

III. 看護師国家試験

第105回看護師国家試験は平成28年2月14日(日)に実施され、27期生78名が受験し、全員78名が合格した(合格率100%)

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.4%であった。

7) 卒後臨床研修

1. 初期臨床研修

- 1) 平成27年度初期臨床研修医として、医科92名(本学卒62名、他学卒30名)、歯科2名の計94名が採用され、平成27年4月1日より研修を開始した。

附属4病院の採用数の内訳は以下の通りである。

本院	45名	内訳：本学卒19名、他学卒36名(歯科2名を含む) 定員：一般45名、小児2名、産科2名、歯科3名(計52名)
葛飾医療センター	6名	内訳：本学卒6名、他学卒0名 定員：一般6名(計6名)
第三病院	19名	内訳：本学卒13名、他学卒6名 定員：一般19名、小児2名、産科2名(計23名)
柏病院	24名	内訳：本学卒24名、他学卒0名 定員：一般24名、小児2名、産科2名(計28名)

- 2) 平成28年度初期臨床研修医(医科)の採用試験を平成27年7月25日(土)、8月15日(土)に本院にて実施した。平成28年度の募集定員は以下の通りである。

本院：49名(一般45名、小児2名、産科2名)、葛飾医療センター：8名、第三病院：22名(一般18名、小児2名、産科2名)、柏病院：32名(一般26名、小児2名、産科2名、総合2名)。

附属4病院の定員である111名の採用を見込み397名のマッチング登録を行なった結果、マッチ数は107名であった。本院の一般プログラムに2名の空定員が生じたため、追加募集を行った。7名の応募者にて書類選考にて5名を選出し、平成27年11月21日に採用試験を実施した結果、2名を追加採用とした。

- 3) 平成28年度初期臨床研修医(歯科)の採用試験を8月29日(土)に本院にて実施した。定員3名のところ、12名のマッチング登録を行ない、マッチ数は定員と同数の3名であった。
- 4) 採用予定者の大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果により、平成28年度初期臨床研修医採用数は、医科102名(本学卒61名、他学卒41名)、歯科3名となった。

附属4病院別の採用数は以下の通りである。

本院	46名	内訳：本学卒10名、他学卒36名(歯科3名を含む) 定員：一般45名、小児2名、産科2名、歯科3名(計52名)
葛飾医療センター	8名	内訳：本学卒6名、他学卒2名

定員：一般 8 名（計 8 名）

第三病院 20名 内訳：本学卒17名、他学卒 3 名

定員：一般18名、小児 2 名、産科 2 名（計22名）

柏 病院 31名 内訳：本学卒28名、他学卒 3 名

定員：一般26名、小児 2 名、産科 2 名、総合 2 名（計32名）

- 5) 第12回研修指導医講習会を平成27年 8 月 7 日（金）、8 日（土）の 2 日間にわたって開催し、44名が受講を修了した。なお、本講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催し、修了者には厚生労働大臣名および附属病院長名による修了証を授与した。
- 6) 他大学医学科生向けに病院説明会を 2 回開催し合計73名の参加者を集めた。
第 1 回説明会 平成27年 6 月13日（土）
第 2 回説明会 平成27年 6 月27日（土）
- 7) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する医学生のための臨床研修病院説明会に出展した。
名称：レジナビフェア2015in東京 開催日：平成27年 7 月19日。
※会場来場者数 2,759名（前年比+413） 本学ブース来場者204名（前年比+27）
- 8) 今年度のCPCを 6 月から11月にかけて計 6 回開催した。

開催回数	開催日	担当科	臨床診断名
第 732 回	5 月25日（月）	皮膚科	悪性黒色腫
第 733 回	6 月15日（月）	循環器内科	拡張型心筋症
第 734 回	7 月 6 日（月）	糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病、敗血症、多臓器不全
第 735 回	9 月 7 日（月）	呼吸器内科	肺小細胞癌
第 736 回	10月 5 日（月）	泌尿器科	前立腺癌治療後再発
第 737 回	11月 9 日（月）	外科	食道癌、再生不良性貧血、肺炎

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成27年度は、レジデント143名〔本学初期臨床研修修了者76名、他施設初期臨床研修修了者67名（うち本学卒28名）〕を採用し、各科にて専門修得コースの研修を開始した。
- 2) 平成27年 4 月30日付にてレジデント 1 名、11月30日付にて 2 名、12月31日付 1 名、平成28年 1 月31日付 1 名、2 月29日付 1 名、3 月31日付にてレジデント132名、リサーチレジデント 5 名の合計143名が専門修得コースを修了した。
- 3) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『初期研修医のための研修病院説明会・レジナビフェア for RESIDENT 2015 in東京』（平成27年 6 月14日開催）に参加し、本学附属病院ブースの来訪者は51名であった。
- 4) 平成28年度レジデントの採用試験を平成27年 9 月19日（土）に実施し、その後 5 回の追加試験を行った結果、143名（前年度同数）を採用した。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者82名、他施設初期臨床研修修了者61名（うち本学卒18名）

8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成28年3月現在200名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成27年度は134名である。
- 3) テレフォンサービス利用件数：平成27年度は57件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。

- ① 第223回・平成27年4月11日
実地医家のための慢性腎臓病マネジメント 横尾 隆（腎臓・高血圧内科）
- ② 第224回・平成27年5月9日
難聴について－手術で治る難聴、治らない難聴－
小島博己（耳鼻咽喉科）
- ③ 第225回・平成27年6月13日
高血圧治療－高血圧ガイドラインを中心に－ 本郷賢一（循環器内科）
- ④ 第226回・平成27年7月11日
最近の“依存”をめぐる話題と対応
～アルコール、脱法（危険）ドラッグからギャンブル、インターネット依存まで～
宮田久嗣（精神神経科）
- ⑤ 第227回・平成27年9月12日
正しくスポーツと向き合う為に－子供からロコモまで－
舟崎裕記（スポーツ・ウェルネスクリニック）
- ⑥ 第228回・平成27年11月14日
加齢黄斑変性治療の最前線 林 孝彰（眼科）
- ⑦ 第229回・平成28年2月13日
災害医療とプライマリケア～いかに備え、いかに行動するか～
土肥謙二（救急部）
- ⑧ 第230回・平成28年3月12日
HIV感染症の現状 堀野哲也（感染制御部）

5) 第36回夏季セミナー

「実地医家のための認知症入門－早期発見、診断から包括的治療まで－」が平成27年8月1日（土）午後4時より相澤良夫（消化器・肝臓内科）の司会で行われ、参加者は133名であった。

1. 認知症の症状と早期発見 忽滑谷和孝（精神神経科）
2. 認知症のMRIによる画像診断 松島 理士（画像診断部）
3. 認知症の治療－病態別の対応－ 品川俊一郎（精神神経科）
4. いま求められている認知症ケア 朝倉真奈美（看護部）

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

(1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会議に提案、報告している。また、研究倫理推進センターの指示に従い、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、適正な研究活動の管理と運用の徹底についての実務を担っている。

- ① 平成27年度の委員会は、委員長：岡部正隆、委員：南沢享、靱山俊彦、岡本愛光、松浦知和、高田耕司、北素子教授及び谷口郁夫理事で構成された。
- ② 平成27年度文部科学省科学研究費助成事業（科研費）の採択件数及び総額は、合計160件、総額307,305千円（間接経費含む）であった。また、厚生労働省科学研究費補助金・委託費および独立行政法人日本医療研究開発機構の研究開発費等について採択後大学が経理事務を行った研究課題は、合計54件、総額にして228,441千円（間接経費含む）だった。その他各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が直接応募して報告を受けた助成金等は、20件（応募件数89件）、金額は49,266千円であった。（これも平成27年度末時点でのデータ）
- ③ 平成27年度科学研究費助成事業（科研費）に採択された研究者に対し学内説明会を開催した。
 - ・科学研究費助成事業使用説明会（6月18日、6月24日西新橋、6月20日柏病院、6月22日第三病院・国領校・看護学科）
- ④ 公的研究費の適正な申請・使用に係るFDおよび科研費応募説明会（合同開催）を開催した。テレビ会議システム開催：9月14日：（大学1号館、第三・国領校・看護学科、葛飾、柏病院）ビデオ開催（9月14日開催分の録画内容を使用）：①9月19日（大学1号館）、②9月24日（大学1号館）、③10月7日（大学1号館）
- ⑤ 平成28年度研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
 - ・慈恵大学特別研究設備費
 - ・慈恵大学一般研究設備費
 - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
 - ・日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
 - ・私立大学等経常費補助金（特別補助）
- ⑥ 公募研究の学内選考を行った。
- ⑦ 平成26年度「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」及び履行状況調査報告書を平成27年5月8日に文部科学省に提出した結果、本学の取組実態が評価されて平成27年度からはフォローアップ対象校から外れることとなった。

平成27年度「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」を平成27年10月6日に文部科学省に提出した。

「研究活動における不正行為への対応に関するガイドライン」に基づく履行状況調査報告書を平成27年9月11日に文部科学省に提出した。
- ⑧ 研究費使用ガイド（第5版）を作成し、本学ホームページにも公開した。
- ⑨ 研究倫理教育の一環として、公的研究費の申請・使用に係るFD（受講者総数864名）及び納品検収業務研修会（受講者数114名）を開催した。

(2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等）を審議している。

- ① 平成27年度の委員会は、委員長：岡部正隆教授、委員：丸毛啓史教授、桑野和義教授、井田博幸教授、水之江義充教授、嘉糠洋陸教授、加藤總夫教授、谷口郁夫常務理事で構成された。
 - ② 平成27年度は文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」が廃止となり、平成28年度から新規事業として私立大学ブランディング事業が開始されることとなった。新規事業は特定の研究課題に対する補助ではないため、当委員会の審査対象外となった。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
- ① 平成27年度の委員会は、委員長：水之江義充教授、委員：加藤教授、桑野教授、丸毛教授、井田教授、嘉糠教授、岡部教授と谷口常務理事で構成された。
 - ② 平成27年度は2件の発明の届出があり、大学が承継することになった特許権等の権利は0件である。なお、出願している発明のうち、平成27年度国内特許登録となったものが、1件あった。

2) 総合医科学研究センター

昭和40年（1965）以来、着々と整備され、研究成果を挙げてきた共同利用研究施設は、平成7年（1995）に現在の総合医科学研究センター（以下センター）に改組された。

その後、センターはいくつかの研究所の併設、新しい部ならびに施設の設定など、時代の要求に合わせて変遷を遂げた。平成26年（2014）にセンターは本学の研究を推進するために大きく改組され、これで組織的にも、また場所的にも混在していた様々な機能が研究支援部門と研究部、研究所の3つに明確に分かれ、大学一号館にほぼ集約された。現在5つの研究支援施設、9つの研究部、2つの研究所よりなる。（詳細は以下のとおり）

本年度は総合医科学研究センター創立20周年を迎えることとなり、平成27年11月4日（水）大学1号館講堂にて【総合医科学研究センター20周年記念シンポジウム】を開催した。

■支援部門

- 1) 基盤研究施設（分子細胞生物学）では基礎、臨床講座の教員などが登録して共用機器を使用したり、研究スペースを使用したりしている。また試料の形態観察、あるいは生化学的分析を中心とした受託サービスを行い、学内施設の研究を支援している。また利用者のニーズを把握するためユーザーを対象にアンケート調査を行った。本年度は目的を共有するためBSCにも参画した。
- 2) 基盤研究施設（分子遺伝学）は通常のDNAシーケンサーに加え、次世代シーケンサーを2機有し、今後発展が予測される学内ゲノム研究をバックアップしている。
- 3) 実験動物研究施設では、小動物、大動物の飼育に対応するとともに、本邦でも数台しかない小動物用9テスラーMRI装置、小動物用CT、エコー、発光・蛍光イメージングシステムなどを有し最新の画像的評価を可能にしている。また利用者のニーズを把握するためユーザーを対象にアンケート調査を行うと伴に使用料金を引き下げユーザーフレンドリーな施設を目指した。
- 4) アイソトープ実験研究施設は引き続き学内の研究をバックアップし、かつアイソトープを用いる研究が安全に行われるよう万全の体制で管理されており、安心して効率のよい正確な実験を行うことができるように配慮されている。
- 5) GMP対応細胞・ベクター産生施設はGMP準拠の細胞治療、遺伝子治療用の細胞、ベクターの産生が出来る施設であり、基礎研究より得られたシーズを臨床応用するための、トランスレーショナルリサーチを支えている。現在、細胞治療の臨床プロトコールが3つ行われており、今後益々需要が増える事が予測される。

■研究部門

- 1) 遺伝子治療研究部では遺伝性疾患、悪性腫瘍の遺伝子治療法の臨床応用を目指している。以前、本学で行われた私学としては初めての肺癌を対象とした遺伝子治療の臨床研究にも参画

しました。

- 2) 悪性腫瘍治療研究部は樹状細胞などを用いた癌の免疫療法の基礎ならびに臨床研究を行っており、膵臓癌、脳腫瘍の一部で著名な効果を上げている。
- 3) 分子免疫学研究部は基礎研究を続けて来たアレルギー緩和剤の開発が臨床研究の段階になり、花粉症患者を対象にした臨床試験を行っている。
- 4) 医用エンジニアリング研究部は医療に用いられる次世代の工学技術を研究しており、現在はナノサイズのデバイスを用いたターゲティング画像診断・薬物治療の研究を行っている。
- 5) 神経科学研究部では、脳幹を中心とする神経伝達の分子メカニズムの解明とともに疼痛のメカニズムを解明するなど、本学の神経科学研究の中心的存在となっている。平成25年(2013)には文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(課題名:痛みの苦痛緩和を目指した集学的脳医科学研究拠点の形成)を獲得し痛みを基礎、臨床両面より研究する学内の横断的研究基盤の中心的存在となっている。
- 6) 薬物治療学研究部は、ヒトを対象とした臨床薬理学的研究を行っており、GCPの運用と治験の倫理的、科学的な質の向上にも取り組んでいます
- 7) 臨床疫学研究部では、臨床現場で働く医師の研究能力開発を目指しており、平成25年(2013)に採択された文科省の未来医療研究人材養成拠点形成事業(リサーチマインドを持った総合診療医の養成)で重要な役割を担っている。
- 8) 分子疫学研究部は臨床疫学と分子生物学手法を融合した研究を行っている。平成22年(2010)には、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(課題名:DNAマイクロレイシシステムを基盤としたエピゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出)に採択され薬物治療研究部とともに推し進めている。
- 9) 再生医学研究部は平成23年(2011)に新設された部ですが神経系の外傷や変性疾患に対する新規治療法の開発を目標にした研究を行っており、遺伝子改変による霊長類モデル動物の作成や体性幹細胞・iPS細胞などを利用した疾患の病態研究、臓器再建技術の開発に力を入れている。

■ 研究所

- 1) 高次元医用画像工学研究所は国領キャンパス内にあり、種々の先端医療システムを開発し、人体動作の四次元解析や医用画像に関する研究開発を行っている。X線、CT、MRI、超音波などの二次元、三次元、あるいは四次元画像解析を行い、医学教育、外科手術、遠隔医療などに貢献しており、第三病院外科、整形外科、耳鼻科と共同で、新たな手術法の開発も行っている。
- 2) 医学研究所は柏キャンパス内にあり、患者さん中心の医療が附属病院で実践できるように、臨床医学の研究を支援し、かつ、推進することを目的として柏病院に設置された。ここでは、隣接する柏病院の医師に研究の場を提供するとともに糖尿病のバイオマーカーに関する研究が行われている。東京大学、東京理科大学、癌センターなどの近隣施設との共同研究の発展も目指している。

5. 診 療

1) 病院概況

(1) 本 院 (院 長：丸毛啓史

副 院 長：小川武希、中川秀己、相羽恵介、井田博幸、浅野晃司、高橋則子
事務部長：植松美知男)

(1) 患者数

① 外来1日平均患者数：2,784名(対前年度比-27名)

② 入院1日平均患者数：876名(対前年度比-7名)

(2) 病床利用状況

平成27年度の病床利用率は稼働床1,050床に対して83.4%(昨年比-0.6%)、平均在院日数は、12.5日(昨年比-0.3日)であった。

(3) 患者紹介率・患者逆紹介率

平成27年度の紹介率は年間平均で医療法71.7%(昨年比+4.2%)、保険法71.9%(昨年比+4.4%)であった。

平成27年度の逆紹介率は年間平均で医療法52.7%(昨年比+0.2%)、保険法53.5%(昨年比-0.1%)であった。

(4) 臨床研修

① 平成27年度初期臨床研修採用者は、医科43名(内訳：本学卒19名、他学卒24名)、歯科2名の計45名であった。

(5) 行政監査・指導・検査

① 医療法第25条第1項による立入検査(東京都) (平成28年2月9日)

② 医療法第25条第1項による特定機能病院の立入検査(関東信越厚生局) (平成28年2月9日)

③ 精神病院等実地指導(東京都) (平成28年2月9日)

④ 医療法第25条第3項に基づく集中立入検査(厚生労働省及び関東信越厚生局) (平成27年7月21日)

(6) 先進医療

新規申請・承認(申請2件、承認2件)

① アルテプラゼ静脈内による血栓溶解療法(神経内科)承認【先進医療B】

② CYP2D6遺伝子多型検査(小児科)承認【先進医療A】
変更1件、取下げ1件

(7) 臨床研究、保険適用外診療(平成27年度審査状況)

承認件数：新規申請159件、変更申請(期間延長など)150件

(8) 病院改修について

・中央棟16階に脳卒中センター(SCU)を6床設置 (平成27年5月11日)

・外来棟3階化学療法室8床増設 (平成27年12月15日)

・新病院(仮称)建築工事許可 (平成28年1月29日)

(9) 地域がん診療連携拠点病院について(腫瘍センター事務局)

腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。昨年度より緩和ケア診療部が設置され、緩和ケア外来診療可能日の追加、緩和ケアチーム2チーム制への移行にともない、「生活のしやすさに関する質問票」を用いた苦痛のスクリーニング実施増加等、内外部の対象患者への対応について更なる改善が施された。その他、院内がん登録3,673件、がん相談1,250件、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会3回開催、市民公開講座2回開催、腫瘍センターサロン交流会(がん患者とその家族の語らいの場(含むミニ講座))17回開催の実績を残した。5大がん+前立腺がんのクリティカルパスの運用実績は57件であった。

- (10) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊について
平成26年度版を平成27年11月に発刊した。配布部数約1,000部。(配布先：学内各部署、名誉教授、客員教授、学術連絡員、同窓会支部長、本学協力病院・関連病院、連携病院、全国医学部附属病院等)
- (11) 院内感染対策
- ① 病棟ICT活動の推進により一般病棟の感染対策を推進
昨年度より引き続き病棟ICT活動を推進し、各病棟年2回のミーティングを開催するなど、ICTと現場が協働して感染対策に取り組む体制整備に努めた。その結果、下記データの通り概ね改善し目標達成できた。
・手指衛生指数14.72 (昨年度より18.04%増)
・MRSA院内(不明含む)獲得率0.22 (昨年度0.30より減)
・MRSA菌血症16件 (昨年度14件より増)
 - ② 教職員への教育の強化
感染対策ベーシックレクチャーVer.5を10回開催し、1,678名の出席があった。また、医局会などの出張勉強会も計29回開催し、全研修会で合計8,494名の出席があった。
 - ③ 感染症診療の適正化へ全病院的な取り組み
ICT薬剤師が中心となり、血液培養陽性例・広域抗菌薬投与例・長期抗菌薬投与例のラウンドを実施し、適正使用の推進を行った。また、周術期抗菌薬の適正使用を目指し、診療科と調整を行い、ほとんどの診療科で術後48時間以内の抗菌薬投与とすることが出来た。
 - ④ 医療関連感染対策
消外・肝外・心外・整形においてSSIサーベイランス実施、ICUにおいてCLABSI・VAPサーベイランス実施、透析室において短期透析カテーテルCLABSIサーベイランスを実施した。
 - ⑤ 職業感染対策
針刺し・切創事例70例(昨年度75例)、皮膚・粘膜汚染事例19例(昨年度22例)と減少した。昨年度までゴミ分別の不徹底により、清掃業者の針刺し事例が発生していたが、感染性廃棄物容器を段ボールに変更し、詰め替えを撤廃したことにより、それ以降の清掃業者の事例は発生していない。
 - ⑥ 結核
結核事例に伴い、患者18名に対し接触者健診を実施した。入院時の見逃しを防ぐために、入院時感染症チェックリストを記入しやすい書式へ変更し運用を継続した。
 - ⑦ ファシリティマネジメントの推進
環境ラウンドを各現場年2回実施した。清掃業者も一緒にラウンドし、現場の問題点の共有に努め、改善に繋げた。
 - ⑧ 病院感染対策の向上
4病院ICT会議を隔月実施し、各病院の問題点や事例の共有を図った。また、昨年度同様サイトビジットを実施した。
 - ⑨ 私立医科大学感染対策協議会事務局・推進会議事務局としての職責を果たす
総会、運営委員会、各専門職部会等の運営について中心となり活動を行った。
 - ⑩ 感染防止対策加算病院との連携、支援を行う
連携施設参加のカンファレンスを年4回開催するとともに、地域連携加算対象施設である東急病院、済生会中央病院、柏病院との相互ラウンドを実施した。
- (12) 保険関係承認・届出関係
- ① がん患者リハビリテーション料 (平成27年4月1日) ※新規届出
 - ② 羊膜移植術 (平成27年6月1日) ※新規届出
 - ③ 経皮的動脈弁置換術 (平成27年7月1日) ※新規届出
 - ④ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 (平成27年7月1日) ※新規届出

- ⑤ 障害児（者）リハビリテーション料 (平成27年8月1日) ※新規届出
 - ⑥ 貯血式自己血輸血管理体制加算 (平成28年1月1日) ※新規届出
 - ⑦ 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの） (平成28年1月1日) ※新規届出
 - ⑧ 急性期看護補助体制加算（50対1） (平成28年3月1日) ※基準満たさず、再届出
※1月分実績が基準を満たせなかったため、3月1日付で取り下げを行ったが、2月分実績は基準をクリアしており、取り下げと同時に再申請を行ったことにより、特に減算措置等受けることなく対応が図れた。
- (13) 患者支援・医療連携センター
- ① 同窓開業医マップのバージョンアップを図った。 (平成27年6月)
 - ② 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。
・総会、作業部会（3回）、市民公開講座、医療従事者対象研修会を開催した。
市民向け広報紙を発行した。 (平成27年6月～平成28年2月)
 - ③ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」No.10を発行した。
(平成27年7月)
 - ④ 診療のご案内2015を発行した。 (平成26年7月)
 - ⑤ Web予約システム導入・運用を開始した。 (平成27年8月)
 - ⑥ がん看護をテーマにし、専門・認定看護師の協力のもと「地域連携オープン講座」を3回開催した。 (平成26年9月、11月、平成27年2月)
 - ⑦ 今年度より「働く人の健康支援研究会」は病院主催、事務局が患者支援・医療連携センター担当することとなった。
「第3回働く人の健康支援研究会」を開催した。 (参加者：114名平成27年10月)
 - ⑧ 在宅療養をテーマにし、専門・認定看護師の協力のもと「地域連携オープン講座」を3回開催した。 (平成27年10月、12月、2月)
 - ⑨ 褥創・ストーマ看護、認知症看護、家族看護について「スキルアップ研修」を3回開催した。 (平成27年11月、平成28年1月、3月)
 - ⑩ 子ども虐待対応チーム（CAPS）主催研修会を開催した。 (平成27年12月)
 - ⑪ 「第1回慈恵医大医療連携フォーラム」を病院主催、事務局を患者支援・医療連携センターが担当し開催した。 (参加者：110名平成27年12月)
 - ⑫ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」No.11を発行した。
(平成28年1月)
 - ⑬ 「第4回働く人の健康支援研究会」を開催した。 (参加者：126名平成28年3月)
 - ⑭ 経管栄養法の研修会を開催した。 (平成28年3月)
- (14) 治験センター
- ① 治験の実施：継続52件（前年比－7件）、新規承認19件（＋5件）、終了25件（－3件）。
年度内の稼働総数96件であった。
 - ② 臨床試験への実施支援：12件（前年比＋7件）
臨床試験におけるCRC（Clinical Research Coordinator：臨床研究コーディネーター）の支援内容は、治験と同じく被験者対応、スケジュール管理や、データ収集と文書管理等であった。
 - ③ 臨床研究支援センターおよび倫理委員会事務局との連携
倫理委員会事務局業務等の支援を目的に、CRCおよび治験事務局のスタッフを大学兼務とし、臨床研究支援センターと連携して治験及び臨床試験の実施支援に係るセンター機能の強化に着手した。
 - ④ 臨床試験に対するモニタリング実施体制の構築
新たな『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』に対応するため、モニタリングの標準業務手順書およびモニタリング計画書・モニター指名書等の雛形を作成し、新規試験への活用を進めた。

- ・モニタリングの実施：3試験
 - ・モニタリング計画の相談、確認業務等：28試験
- (15) 診療体制の整備
- ① 文書カウンターにおける代行登録の実施
医師事務作業の軽減の一環として、平成23年5月18日外来棟1階外来会計内に設置して、診断書の代行登録を実施している。平成27年度は、生命保険診断書の81.4%を代行登録した。
 - ② 病院救急車輛の運用
小児科を中心に患者搬送を12件（要請15件）行った。
- (16) 患者サービス
患者サービス
- ① 外来待ち時間調査を実施した。 (平成27年11月19日)
 - ② 外来患者満足度調査を実施した。 (平成28年2月15日～19日)
 - ③ 入院患者満足度調査を実施した。 (平成28年2月1日～24日)
 - ④ 入院患者向けフロアコンサート（高木会館1階ロビー）
 - ・平成27年7月7日（火）渡邊加奈さん、幟建友里さん、成田美紀さん
 - ・平成27年9月3日（木）公益財団法人メトロ文化財団
 - ・平成27年12月12日（土）教職員等による有志
 - ・平成27年12月15日（火）原田真二さん
 - ⑤ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第43号（平成27年4月）第44号（平成27年7月）第45号（平成27年10月）第46号（平成28年1月）を発刊した。
 - ⑥ 平成27年度「みんなの健康教室」を以下の日程で開催した。
※NHK放送博物館と共催
患者支援医療連携センター
 1. 日時：平成27年5月14日（木）第1回（参加者合計：87名）
 2. 日時：平成27年7月9日（木）第2回（参加者合計：66名）
 3. 日時：平成27年9月10日（木）第3回（参加者合計：54名）
 4. 日時：平成27年11月12日（木）第4回（参加者合計：72名）
 5. 日時：平成28年1月14日（木）第5回（参加者合計：76名）
 6. 日時：平成28年3月10日（木）第6回（参加者合計：82名）
 - ⑦ 不在者投票の実施
 - ・平成27年4月12日の神奈川県知事選挙、川崎市議会議員選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成27年4月10日（金）に実施し、1件の対応があった。
 - ・平成27年4月26日の統一地方選挙を、平成27年4月23日（木）に実施し、28件の対応があった。
- (17) 医療安全講演会、シンポジウムの開催について
- 【管理者（診療部長・所属長・セーフティマネージャー等）対象】
- ① 管理者のための医療安全・感染対策研修会」3回開催
- 【初期臨床研修医対象】
- ① 平成27年4月2日 初期臨床研修医オリエンテーション
 - ② 医療安全研修医カンファレンス（小グループに分かれての警鐘事例の考察と発表）2回開催
- 【レジデント対象】
- ① 平成27年4月1日 レジデント入職時オリエンテーション
 - ② 1年目レジデント対象研修会（屋根瓦方式）2回開催 ※臨床研修センターと共催
- 【新規採用教職員・転入職員対象】
- ① 平成27年4月1日 新入職員オリエンテーション（全機関新入職員）

② セーフティマネジメント基礎研修会 9回開催（開催日は下記参照）

③ 中途採用者オリエンテーション12回開催

【全教職員対象】

- ① セーフティマネジメント基礎研修会 ※個人情報保護研修会を併せて開催
平成27年4月20日（月）・5月12日（火）・6月2日（金）・7月22日（水）・8月17日（月）・
10月29日（木）・11月27日（金）・平成28年1月19日（火）・2月16日（火）
- ② 病院合同セーフティマネジメントシンポジウム 3回開催
平成27年6月29日（月）・11月5日（木）・平成28年2月29日（月）
- ③ 平成27年4月2日（木）循環器内科・心臓外科主催講習会「手術のquality controlに
向けてのパラダイムシフト」
- ④ 平成27年11月27日（金）栄養部主催「NST（栄養サポート）特別講演会」
- ⑤ 平成27年12月7日（水）慈恵医大褥瘡セミナー
- ⑥ 転倒・転落予防のための講習会 平成28年1月25日（月）・2月22日（月）・3月15日（火）
- ⑦ 医療安全DVD研修会 2回開催

【委託・派遣職員対象】

- ① 委託・派遣職員向け医療安全研修会 4回開催
※その他医療安全講習会に関することは、医療安全管理部活動報告を参照

(18) がんに関わる医師に対する緩和ケア研修会（年度3回）

- ① 第9回緩和ケア研修会 平成27年9月26日（土）～27日（日）於：大学管理棟4階研修室
修了者：医師31名（本学22名、他学9名）
- ② 第10回緩和ケア研修会 平成27年12月5日（土）～6日（日）於：大学管理棟4階研修室
修了者：医師17名（本学14名、他学3名）
- ③ 第11回緩和ケア研修会 平成28年2月6日（土）～7日（日）於：大学管理棟4階研修室
修了者：医師38名（本学22名、他学16名）

(19) 慈恵ICLSコース,慈恵BLSコース

- ① 慈恵ICLSコースを4回開催した。
日 時：平成27年5月17日（土）午後1時30分～午後6時 葛飾 参加24名
日 時：平成27年7月25日（土）午後1時30分～午後6時 本院 参加24名
日 時：平成27年9月19日（土）午後1時30分～午後6時 第三 参加24名
日 時：平成27年11月28日（土）午後1時30分～午後6時 柏 参加24名
- ② ICLS指導者ワークショップ（インストラクター更新要件）を2回開催した。
日 時：平成27年9月18日（金）午後6時～午後10時 第三 参加9名
平成27年9月19日（土）午前8時～午後0時
日 時：平成27年11月27日（金）午後6時～午後10時 柏 参加14名
平成27年11月28日（土）午前8時～午後0時
- ③ 慈恵BLSコースを年間5回開催した。
日 時：平成27年7月18日（土）午後3時～午後5時 参加15名
日 時：平成27年8月1日（土）午後3時～午後5時 参加14名
日 時：平成27年10月10日（土）午後3時～午後5時 参加13名
日 時：平成27年12月12日（土）午後3時～午後5時 参加13名
日 時：平成28年3月12日（土）午後3時～午後5時 参加11名
- ④ PBLSコース（小児心肺蘇生コース）を2回開催した。
日 時：平成27年8月29日（土）午後1時～午後3時 参加9名
日 時：平成27年10月24日（土）午後1時～午後3時 参加14名
- ⑤ JAMPコース（緊急気道管理コース）を3回開催した。
日 時：平成27年8月15日（土）午後1時～午後7時 参加18名
日 時：平成27年10月17日（土）午後1時～午後7時 参加11名

- 日 時：平成27年12月19日（土）午後1時～午後7時 参加16名
- ⑥ F5Mコース（急変時の5分間対応のトレーニング）を4回開催した。
 日 時：平成27年8月24日（月）午前9時～午後0時 参加10名
 午後1時30分～午後4時30分 参加7名
 日 時：平成27年9月2日（水）午前9時～午後0時 参加11名
 午後1時30分～午後4時30分 参加11名
- ⑦ RRS運用に伴い、新規夜勤師長対象者に講習会を2回開催した。
 日 時：平成27年7月9日（木）午前9時00分～午後0時 参加10名
 午後1時30分～午後4時30分 参加8名
- ⑧ 心肺蘇生に関する家族参加型市民公開講座を5回開催した。
 日 時：平成27年4月11日（土）午後1時～午後3時 参加9名
 日 時：平成27年6月20日（土）午後1時～午後3時 参加18名
 日 時：平成27年8月1日（土）午後1時～午後3時 参加18名
 日 時：平成27年12月12日（土）午後1時～午後3時 参加12名
 日 時：平成28年2月20日（土）午後1時～午後3時 参加9名
- ⑩ 鏡視下手術トレーニングコース
 鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験（STEP1計4回/受験者38名、STEP2計4回/受験者36名、STEP3計2回/受験者35名）を実施した。
- ⑪ 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。
 平成27年5月21日（木）献血者70名（申込者数98名）
 平成27年11月24日（火）献血者90名（申込者数126名）
- ⑫ 慈恵医大晴海トリトンクリニック
 慈恵医大晴海トリトンクリニック（所長：加地正伸）
- ① 外来1日平均患者数82.0人（対前年比-0.3人）
 ② 健診1日平均健診者数27.0人（対前年比+1.0人）
 ③ 電子カルテシステムへの更新作業が完了した。（平成27年11月24日より稼動）
- ⑬ 鏡視下手術トレーニングコース
 鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験（STEP1計4回/受験者38名、STEP2計4回/受験者36名、STEP3計2回/受験者35名）を実施した。
- ⑭ 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。
 平成27年5月21日（木）献血者70名（申込者数98名）
 平成27年11月24日（火）献血者90名（申込者数126名）
- ⑮ 慈恵医大晴海トリトンクリニック
 慈恵医大晴海トリトンクリニック（所長：加地正伸）
- ① 外来1日平均患者数82.0人（対前年比-0.3人）
 ② 健診1日平均健診者数27.0人（対前年比+1.0人）
 ③ 電子カルテシステムへの更新作業が完了した。（平成27年11月24日より稼動）
- ⑯ 保険診療に関する講習会
【保険診療講習会】
 第1回平成27年7月14日（火）基礎編「保険診療について」 大学1号館講堂
 第2回平成27年12月16日（水）特定共同指導を終えて 大学1号館講堂
 第3回平成28年1月15日（金）DPCのピットフォール 大学1号館講堂
【内科系アドバンスコース】
 平成27年9月7日（月）臨床編「医科点数表の解釈」 中央講堂
【外科系アドバンスコース】

平成27年10月5日（月）臨床編「医科点数表の解釈」 中央講堂

【診療録の書き方講習会】

平成27年11月9日（月）診療録の書き方 中央講堂

【査定状況及び診療録監査実施報告】

平成27年12月15日（火）査定の傾向と対策、診療録監査の実施報告 大学1号館講堂

- (2) 葛飾医療センター（院長：伊藤 洋、
副院長：吉田和彦、児島 章、
事務部長：伊藤敬夫）

(1) 患者数・病床利用状況

- ・1日平均患者数は外来1,153名（前年度比+12名）、入院311名（前年度比+9名）であった。
- ・病床利用率は稼働床359床に対して86.6%（前年度84.2%）、平均在院日数は11.7日（前年度11.2日）であった。

(2) 患者紹介率

- ・患者紹介率は医療法68.7%（前年度67.0%）、保険法63.4%（前年度59.9%）であった。

(3) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局他）

1) 施設基準届出

【新規】

- ① 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (平成27年4月1日)
- ② 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (平成27年4月1日)
- ③ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 (平成27年4月1日)

【変更】

- ① 患者サポート体制充実加算 (平成27年4月1日)
- ② 神経学的検査 (平成27年4月1日)
- ③ がん患者リハビリテーション料 (平成27年5月1日)
- ④ 地域連携診療計画管理料 (平成27年5月1日)
- ⑤ がん患者指導管理料1、2 (平成27年6月1日)
- ⑥ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ） (平成27年6月1日)
- ⑦ 麻酔管理料（I）、（II） (平成27年6月1日)
- ⑧ 病理診断管理加算2 (平成27年6月1日)
- ⑨ 感染防止対策加算1 (平成27年7月1日)
- ⑩ 麻酔管理料（I）、（II） (平成27年7月1日)
- ⑪ 医師事務作業補助体制加算2（40対1） (平成27年7月1日)
- ⑫ 外来化学療法加算1 (平成27年7月1日)
- ⑬ 院内トリアージ実施料 (平成27年8月1日)
- ⑭ 麻酔管理料（I）、（II） (平成27年9月1日)
- ⑮ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ） (平成27年9月1日)
- ⑯ 地域連携診療計画策定料 (平成27年11月1日)
- ⑰ 地域連携診療計画策定料 (平成27年12月1日)
- ⑱ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ） (平成27年12月1日)
- ⑲ 外来放射線照射診療料 (平成28年1月1日)
- ⑳ がん患者リハビリテーション料 (平成28年1月1日)
- ㉑ 急性期看護補助体制加算（50対1） (平成28年2月1日)
- ㉒ 地域連携診療計画策定料 (平成28年2月1日)
- ㉓ 感染防止対策加算1 (平成28年2月1日)
- ㉔ CT撮影及びMRI撮影 (平成28年2月1日)
- ㉕ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ） (平成28年3月1日)

【辞退】

- ① ロービジョン検査判断料 (平成28年3月1日)
- ② 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 (平成28年3月1日)
- ③ 内服・点滴誘発試験 (平成28年3月1日)

2) 報告関係

- ① 平成27年7月22日、関東信越厚生局へ「施設基準の届出状況等の報告」を提出した。
- ② 平成27年10月31日、関東信越厚生局へ医薬品取引価格の「妥結率に係る報告書」を提出した。
- ③ 平成27年10月31日、厚生労働省へ「病床機能報告 構造設備・人員配置等に関する項目」を提出した。
- ④ 平成27年12月11日、厚生労働省へ「病床機能報告 具体的な医療の内容に関する項目」を提出した。

3) その他

- ① 平成27年10月14日、東京都福祉保健局へ地域医療指数（体制評価指数）の確認に係る「地域がん登録・救急医療等の参加状況について」の届出を行った。
- ② 平成27年11月28日、関東信越厚生局へ地域医療指数（体制評価指数）の確認に係る「施設基準の届出状況等に係る報告書」の届出を行った。
- ③ 平成28年2月1日、関東信越厚生局へ「酸素の購入価格に関する届出書」の届出を行った。

(4) 患者サービス

- ① 外来者の駐輪場について、利便性の向上のため、スライド式から平置駐輪に変更した。
- ② 1階初診受付・会計の患者導線と表示、案内掲示、レイアウト等を改善し、混雑緩和を図った。
- ③ 自動再来機の開始時間前の患者待機方法についてルール化し、患者相互のトラブルなど混乱の解消を図った。
- ④ 総合案内、初診受付、会計のカウンターに、杖・傘掛けを設置した。
- ⑤ 外来待ち合いモニターの見方について、写真入りリーフレットを配布し、わかりやすい説明に改善した。

(5) 地域医療連携

- ① 平成27年11月14日、「第6回医療連携フォーラム2015」を当医療センター講堂にて開催した。
- ② 一般社団法人脳卒中地域医療連携パス協会に継続加入し、脳卒中患者のパスを運用した。
- ③ 平成27年7月21日、医療機関アンケートを実施した。
- ④ 平成27年11月25日より、連携登録医を対象とした緊急ホットラインを開始した。
- ⑤ 平成28年3月1日より、医療連携Web予約を開始した。

(6) 工事関係

- ① 別館増築工事完了 平成27年6月30日
 - ・別館増築工事竣工式 平成27年7月10日
 - ・本館5階学生・委託他用ロッカー室整備工事 平成27年7月25日
 - ・本館2階外来Fブロック主待合い他改修工事 平成27年10月26日
- ② 本館3階血液浄化部透析用ベッド増床工事完了 平成27年7月20日
(10床増床：合計30床)

(7) 指導・監査

- ① 平成27年12月15日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査が実施された。
- ② 平成28年2月22日、関東信越厚生局による施設基準等に係る適時調査が実施された。

(8) 防火・防災

- ① 平成27年6月19日、同月30日、新入職員・転入者を対象に、自衛消防マニュアル説明会を開催した。

- ② 平成27年7月30日、8階病棟において第1回自衛消防訓練を実施した。
- ③ 平成27年9月16日、本田消防署管内での自衛消防訓練審査会が開催され、葛飾医療センター自衛消防隊が参加し1位入賞した。
- ④ 平成28年2月4日、9階病棟において第2回自衛消防訓練を実施した。

(9) 病床運用

特になし

(10) 医療安全・感染対策

<研修関係>

- ① 平成27年4月2日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを実施した。
- ② 平成27年4月3日、1年目看護師を対象に安全管理の基本研修を実施した。
- ③ 平成27年4月13日、5月14日、新入・転入教職員を対象にセーフティマネジメント基本研修会を開催した。
- ④ 平成27年4月20日、5月18日、感染対策基礎研修会「葛飾医療センターの感染対策」を開催した。
- ⑤ 平成27年5月23日、研修医を対象に超音波ガイド下CV挿入と管理、マキシマルバリアプリコーションの研修会を実施した
- ⑥ 平成27年5月26日、同月27日、看護補助員を対象に医療安全・感染対策研修会を開催した。
- ⑦ 平成27年6月1日、9月28日、感染対策基礎研修会「標準予防策 血液体液汚染事故防止」を開催した。
- ⑧ 平成27年6月15日、感染対策基礎研修会「標準予防策 細菌学の基礎 正しい検体採取」を開催した。
- ⑨ 平成27年6月27日、PICCカテーテル研修会を開催した。
- ⑩ 平成27年6月29日、第1回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「医療安全への取り組み～安全技術を身につける～」を開催した。
- ⑪ 平成27年7月1日、医療安全・感染対策基礎研修会「手術室における針事故防止対策」を開催した。
- ⑫ 平成27年7月7日、感染対策セミナー「根絶しよう針刺し事故」を開催した。
- ⑬ 平成27年7月11日、10月31日、平成28年1月30日、葛飾医療センターチームステップス研修会を開催した。
- ⑭ 平成27年7月23日、同月24日、委託業者を対象に標準予防策、手指衛生、防護具着脱の技術の研修会を実施した。
- ⑮ 平成27年7月25日、CVポート挿入と管理研修会を開催した。
- ⑯ 平成27年8月3日、第1回薬剤安全セミナーを実施した。
- ⑰ 平成27年8月5日、11月18日、平成28年1月25日、転倒・転落勉強会を開催した。
- ⑱ 平成27年9月1日、NSTチームの協力のもと食の安全シンポジウムを開催した。
- ⑲ 平成27年9月4日、感染対策基礎研修会「標準予防策 抗菌薬の安全使用」を開催した。
- ⑳ 平成27年11月5日、第2回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「各機関におけるTeam STEPPSの取り組み」を開催した。また、12月8日、同月9日、11日にDVD研修会を開催した。
- ㉑ 平成27年12月1日、同月3日、4日、虐待・DVケースに関する講習会をAPTチームの協力のもと開催した。
- ㉒ 平成27年12月2日、同月21日、放射線治療勉強会を画像診断部、看護部の協力のもと開催した。
- ㉓ 平成28年1月27日、葛飾医療センター個人情報保護研修会を開催した。また、3月1日、同月2日にDVD研修会を開催した。
- ㉔ 平成28年2月2日、第2回感染対策セミナー「カルバペネム 耐性腸内細菌科細菌の話題」

を開催した

- ②⑤ 平成28年2月29日、第3回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「青戸病院事故後の提言に対する各病院の取組み」を開催した。また、3月18日、同月22日にDVD研修会を開催した。
- ②⑥ 平成28年3月11日、同月17日、委託業者を対象に防護具着脱、嘔吐物処理方法の技術の研修会を実施した
- ②⑦ その他、臨床工学部等の協力のもと、医療機器安全講習会を15回開催した。内容は、人工呼吸器の適正使用（基礎編・応用編）、生体情報モニターの使用法、除細動器、チェストドレーンバック、超音波ネブライザー等である。

<院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係>

- ① 平成27年10月1日、4病院合同医療安全ラウンドで柏病院のラウンドを実施した。
- ② 平成27年11月1日~14日、医療安全推進週間中に病院幹部による各病棟、外来、中央診療部門、入退院医療連携センター等の医療安全ラウンドを実施した。
- ③ 平成27年11月30日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで順天堂大学医学部附属練馬病院を訪問した。
- ④ 平成28年1月28日、4病院合同医療安全ラウンドで各附属病院からのラウンドを受け入れた。
- ⑤ 平成28年2月1日、4病院合同医療安全ラウンドで第三病院のラウンドを実施した。
- ⑥ 平成28年2月8日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで順天堂大学医学部附属練馬病院が来院し、病棟、外来、中央診療部門等をラウンドした。
- ⑦ 平成28年3月10日、4病院合同医療安全ラウンドで附属病院のラウンドを実施した。
- ⑧ 上記以外に平成27年5月、6月、7月、9月、10月、平成28年3月、セーフティマネジャーとともに院内安全ラウンドを実施した。

<その他>

- ① 術前合同カンファレンスを33症例開催した。
- ② 新治療実施検討部会を8症例実施し、病院運営会議に答申した。

(11) 成医会葛飾支部例会開催

- ① 平成27年6月20日、第113回成医会葛飾支部例会（メディカルカンファレンス、特別講演）
- ② 平成27年12月12日、第114回成医会葛飾支部例会（ポスター及び口頭発表、特別講演）

(12) 葛飾医療センター公開セミナー開催

- ① 第40回 平成27年6月13日
～知ってますか?～「新たな国民病、知らないと怖い慢性腎臓病について」
(参加人数150名)
- ② 第41回 平成27年9月12日
大腸がん～ならないために、なったときのために～
(参加人数137名)
- ③ 第42回 平成28年2月13日
足のトラブル～足の痛み、放ってありませんか?～
(参加人数182名)

(13) 症例検討会(CPC)開催

- ① 第51回 平成28年2月18日 担当科:腎臓・高血圧内科
「糖尿病、慢性腎臓病(CKD)で他院にて透析治療中、感冒後、原因不明の全身状態の悪化により当院にて死亡した一例」
- ② 第52回 平成28年3月2日 担当科:外科
「進行胃癌術後、臍液漏、残胃壊死、大腸壊死等消化管穿孔が続き、敗血症、多臓器不全で死亡した一例」

(14) 病院運営

- ① 平成27年7月21日、葛飾医療センター納涼会を「テクノプラザかつしか」にて開催した。
- ② 平成27年7月21日、別館3階教育部門（学生実習室・ラウンジ等）の使用を開始した。
- ③ 平成27年8月1日、外来化学療法室が本館から別館2階へ移転し治療を開始した。
- ④ 平成27年10月22日、平成28年度初期臨床研修医のマッチング結果が発表され、定員8名に対し8名のマッチングが決定した。（マッチング率100.0%）
- ⑤ 平成27年11月4日～7日、葛飾医療センター職員文化祭を開催した。
- ⑥ 平成27年12月17日、葛飾医療センター忘年会を「テクノプラザかつしか」にて開催した。
- ⑦ 平成28年1月5日、別館1階にて放射線治療を再開した。
- ⑧ 平成28年1月より、放射線治療の再開に伴い画像診断部を放射線部に名称変更した。
- ⑨ 平成28年1月26日、「保険診療について」をテーマに第1回の保険診療講習会を開催した。
- ⑩ 平成28年2月24日、緩和ケア委員会の主催により「これからの医療に必要な臨床倫理について」をテーマに、第1回の緩和ケア研修会を開催した。
- ⑪ 平成28年3月22日、「保険請求上の留意点」をテーマに第2回の保険診療講習会を開催し、併せて平成28年度診療報酬改定説明会を開催した。
- ⑫ 平成27年度のBLS＋AED講習会は、計8回開催した。

(3) 第三病院（院長：中村 敬、

副院長：岡 尚省、古田 希、岡本友好、
事務部長：横山秀彦）

(1) 患者数・病床利用状況

平成27年度1日平均患者数 入院470名（前年比±0名）、外来1,332名（前年比－22名）であった。紹介率は医療法56.5%（昨年度53.6%）・保険法56.7%（昨年度53.9%）、逆紹介率は保険法37.4%であった。

平均在院日数14.1日（前年度14.5日）、病床利用率 許可床80.8%（前年度80.9）、稼働床81.7%（前年度81.8%）

(2) 医療連携

平成27年5月14日 第28回第三病院医療連携フォーラム
「第三病院の脳卒中疾患に対する取り組み」
「診療部紹介と診療トピックス ①脳神経外科 ②病院病理部」

平成27年10月31日 第29回第三病院医療連携フォーラム
「地域と連携した防災活動」

(3) 公開健康セミナー

平成27年6月27日 第72回公開健康セミナー「加齢に伴う眼の変化」
平成27年9月12日 第73回公開健康セミナー「血尿がでたら」
平成27年12月5日 第74回公開健康セミナー「脈の乱れ、動悸を感じたら」
平成28年3月5日 第75回公開健康セミナー「認知症について知り、地域で支えよう」

(4) ちょうふ市内・近隣大学公開講座

平成27年7月2日 「今から間に合う「がん」予防法」
平成27年7月23日 「認知症と転倒の予防～寝たきりにならず元気で長生きするために」

(5) こまえ市民大学医療講座

平成27年7月18日 「高齢者の身体機能と転倒」
平成27年9月12日 「栄養と食の安全」

(6) 狛江市老人クラブ連合会健康セミナー

平成27年5月26日 「認知症患者さんの歩き方について」

(7) 狛江市猪方町会講演会

平成28年3月20日 「脳を健康に保つコツ」

(8) 第三病院院内コンサート（入院患者向け）

- 平成27年7月4日 七夕ロビーコンサート
「慈恵医大音楽部管弦楽団及び看護学科音楽選択学生」
- 平成27年11月21日 クリスマスコンサート
「慈恵医大音楽部管弦楽団及び看護学科学生有志」
- (9) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局東京事務所）
- 平成27年4月30日 基本診療料の施設基準「緩和ケア診療加算」変更届出
- 平成27年4月30日 基本診療料の施設基準「栄養サポートチーム加算」変更届出
- 平成27年4月30日 基本診療料の施設基準「小児入院医療管理料2」変更届出
- 平成27年4月30日 特掲診療料の施設基準「麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ」標榜医師変更届出
- 平成27年4月30日 特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出
- 平成27年6月1日 基本診療料の施設基準「急性期看護補助体制加算（25：1）」変更届出
- 平成27年6月1日 外科標ぼう科追加（肝臓外科、乳腺外科、呼吸器外科）
- 平成27年6月1日 研修医 保険医登録（19名）
- 平成27年7月1日 特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出
- 平成27年7月1日 特掲診療料の施設基準「がん患者リハビリテーション料」変更届出
- 平成27年7月22日 施設基準の届出状況等の報告（定例報告）
- 平成27年7月31日 基本診療料の施設基準「感染防止対策加算1」変更届出
- 平成27年9月1日 基本診療料の施設基準「緩和ケア診療加算」変更届出
- 平成27年9月1日 基本診療料の施設基準「救急搬送患者地域連携紹介加算」変更届出
- 平成27年9月1日 特掲診療料の施設基準「がん患者指導管理料」変更届出
※指導管理料3のみ新規
- 平成27年9月1日 特掲診療料の施設基準「外来緩和ケア管理料」変更届出
- 平成27年9月1日 特掲診療料の施設基準「がん患者リハビリテーション料」変更届出
- 平成27年10月1日 基本診療料の施設基準「救急搬送患者地域連携受入加算」変更届出
- 平成27年10月1日 基本診療料の施設基準「総合評価加算」届出
- 平成27年10月1日 特掲診療料の施設基準「持続血糖測定器加算」新規届出
- 平成27年10月1日 特掲診療料の施設基準「麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ」標榜医師変更届出
- 平成27年10月1日 特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出
- 平成27年11月1日 特掲診療料の施設基準「認知症専門診断管理料」新規届出
- 平成27年11月1日 基本診療料の施設基準「急性期看護補助体制加算（50：1）」変更届出
- 平成27年11月1日 特掲診療料の施設基準「CAD/CAM冠」新規届出
- 平成27年12月1日 特掲診療料の施設基準「がん患者リハビリテーション料」変更届出
- 平成28年1月1日 特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出
- 平成28年2月1日 特掲診療料の施設基準「がん患者リハビリテーション料」変更届出
- (10) 工事関係
- 1) 第三病院
- 高額施設計画（3号館新築工事関連）—
- 平成27年9月20日完了 第三病院 新医局棟新築工事関連追加変更工事
代替建物設置等追加変更工事（既存不適格建物対応工事）
- 平成27年10月30日完了 第三病院 新医局棟建設工事関連追加変更工事
患者及び教職員駐輪場設置工事他（既存不適格建物対応工事）
- 平成27年9月20日完了 第三病院3号館（新医局棟）防球ネット設置工事
- 高額施設計画 建物設備営繕費—
- 平成27年11月2日完了 森田棟ヒートポンプチラー分解整備工事
- 平成28年3月28日完了 手術部加湿器修理工事
- 平成28年2月23日完了 第三病院病棟医療ガスアウトレット等整備工事

—その他—

- 平成27年 6月26日 日本赤十字社による献血実施
平成27年10月 1日 国勢調査配付回収
平成27年 9月 1日 東京都より地域連携型認知症疾患医療センター指定
平成27年11月10日 三聖病院より第三病院へ1,300万の寄付があった。
平成28年 1月19日 日本赤十字社による献血実施
- (14) 成医会
平成27年 7月 3日 第117回成医会第三支部例会
◎特別講演 形成外科 二ノ宮邦稔 准教授『医療保険制度の理解を深めるために』
平成27年12月 4日 第118回成医会第三支部例会
◎特別講演 消化器・肝臓内科 西野博一 教授『膵臓に魅せられて』
- (15) 医療安全
平成27年 6月29日 第1回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
平成27年 7月13日 平成27年度第三病院医療安全シンポジウム
平成27年10月 8日 第1回研修医裁判傍聴
平成27年11月 5日 第2回研修医裁判傍聴
平成27年11月 1日 医療安全推進週間（11/1~11/14）
平成27年11月 5日 第2回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
平成27年 1月25日 私立大学医療安全相互ラウンド（順天堂東京江東高齢者医療センターより）
平成28年 2月29日 第3回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
平成27年 3月26日 TeamSTEPS 講習会
- (16) 感染対策
平成27年 6月17日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第1回」
平成27年 6月23日 感染対策講習会「針刺し・切創・粘膜暴露予防策」
平成27年 6月30日 感染対策講習会「抗菌薬の基礎的知識」
平成27年 7月16日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第2回」
平成27年 7月21日 感染対策講習会「平成27年度研修医対象講習会 感染対策の基礎」
平成27年 7月22日 感染対策講習会「血液培養 正しい採取時期・方法 結果の解釈と治療」
平成27年 7月27日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第3回」
平成27年 7月28日 感染対策講習会「抗菌薬の適正使用」
平成27年 8月 5日 感染対策講習会「微生物検査に関する 適正な検体採取方法・結果の解釈」
平成27年 8月17日 感染対策講習会「CDI（CD関連感染症）予防と対策」
平成27年 8月28日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第4回」
平成27年 9月 8日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第5回」
平成27年 9月16日 感染対策講習会「CRBSI（血管内留置カテーテル関連血流感染）予防策」
平成27年 9月30日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第6回」
平成27年10月13日 感染対策講習会「結核対策」
平成27年10月19日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第7回」
平成27年10月30日 感染対策講習会「CAUTI（尿路カテーテル由来尿路感染）予防策」
平成27年11月 6日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第8回」
平成27年11月24日 感染対策講習会「感染性胃腸炎対策—ウイルス性胃腸炎を中心に—」
平成27年11月26日 感染対策講習会「感染性胃腸炎対策—ウイルス性胃腸炎を中心に—」
平成27年12月 7日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第9回」
平成27年12月15日 感染対策講習会「インフルエンザ検体採取方法 結核を見落とさないために—診断のPitfall—」

- 平成27年12月16日 感染対策講習会「インフルエンザ予防と対策」
- 平成27年12月21日 感染対策講習会「インフルエンザ予防と対策」
- 平成28年1月27日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第10回」
- 平成28年2月3日 感染対策講習会「消化器肝臓内科対象講習会 抗菌薬適正使用講習会」
- 平成28年2月23日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第11回」
- 平成28年3月15日 感染対策講習会「抗菌薬適正使用講習会」
- 平成28年3月16日 感染対策講習会「7B・総合診療部対象講習会 抗菌薬適正使用講習会」
- 平成28年3月22日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第12回」
- 平成28年3月23日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第13回」
- 平成28年3月25日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第14回」
- (17) 救急・防災関係
- 平成27年4月1日 平成27年度の救急隊指導医として救急部大槻穰治他11名の医師が委任を受ける
- 平成27年6月12日 集団交通事故対応訓練 小田急バス営業所内にて
- 平成27年6月17日 消火・避難訓練 6A病棟（第1回目）
- 平成27年9月1日 平成27年度大規模地震時医療活動訓練（DMAT）立川
- 平成27年9月18日 自衛消防訓練審査会出場 狛江市民グラウンドにて（3人操法・優秀賞）
- 平成27年10月2日 狛江消防署依頼の救命救急士2名再教育実習受入れ（12月11日まで）
- 平成27年11月1日 狛江市・調布市災害時医療救護所設置訓練
- 平成27年12月16日 消火・避難訓練 9B病棟（第2回目）
- 平成28年1月16日 北多摩南部医療圏災害凶上訓練
- 平成28年1月30日 平成27年度関東ブロック訓練（DMAT）立川
- 平成28年2月22日 狛江消防署消防査察（立入検査）
- (18) その他研修
- 平成27年4月25日 防犯対策講習会
- 平成27年5月15日 第1回メンタルヘルス研修会（新人向け）
- 平成27年5月22日 第2回メンタルヘルス研修会（新人向け）
- 平成27年11月2日 4病院合同個人情報保護研修会
- 平成27年11月26日 ハラスメント防止対策セミナー（管理監督者向け）
- 平成28年2月19日 マナーモラル/接遇研修「高島屋コンシェルジュに学ぶ～最高のおもてなし～」
- 平成28年2月20日 特殊詐欺被害防止対策講習会
- 平成28年3月23日 個人情報保護研修会（3/23, 3/30）

(4) 柏病院（院長：東條克能、
副院長：岸本幸一、吉田 博、秋葉直志、
事務部長：宮崎栄一）

(1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等

- ① 一日平均外来患者数：1,543名（前年度比+66名）
- ② 一日平均入院患者数：562名（前年度比+19名）
- ③ 病床利用率：稼働床650床に対して86.4%（昨年度は稼働床613床に対して86.9%）
- ④ 平均在院日数：14.8日（昨年度14.2日）
- ⑤ 患者紹介率：医療法68.9%、保険法68.5%
- ⑥ 逆紹介率：43.1%

(2) 保険関係承認・届出関係

- 1) 施設基準に係る届出（新規及び加算内容の変更等）については下記の通りである。
- ① 平成27年4月1日付

<基本診療料>

- ・変更 医師事務作業補助体制加算 2 (100対1⇒75対1へ変更)
- ・変更 重症者療養環境加算 (4B病棟430号室1床追加)

② 平成27年8月1日付

<特掲診療料>

- ・新規 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

③ 平成27年10月1日付

<特掲診療料>

- ・新規 植込型除細動器移行期加算
- ・変更 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) (従事者の減員により I⇒IIへ変更)

④ 平成27年11月1日付

- ・辞退 救命救急入院料 3 (545病棟をハイケアユニット入院医療管理料へ変更)
- ・新規 ハイケアユニット入院医療管理料 1 (545病棟をHCUへ変更)

⑤ 平成28年1月1日付

- ・変更 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) (従事者の増員により II⇒Iへ変更)

⑥ 平成28年2月1日付

- ・新規 がん患者指導管理料 2

2) 先進医療届出

平成27年度の届出は無し

3) 地域連携パス連携協力医療機関届出

- ① 平成27年5月1日付 1施設
- ② 平成27年6月1日付 1施設
- ③ 平成27年9月1日付 1施設

(3) 診療体制

- ① 平成27年4月1日よりメットコール(急変時初期対応チーム)の運用を開始した。
- ② 平成27年6月1日より外来手術センターの運用を開始した。
- ③ 平成27年5月25日より院外処方箋の疑義照会後の処方修正を薬剤師が代行できるよう運用を開始した。
- ④ 平成27年9月、眼科の局所麻酔等を外来手術センターで行うことになったため、オープンとなっていた木曜日の手術枠を外科が使用することとした。
- ⑤ 平成27年12月より院内スタッフ間の通信、連絡手段をPHSからスマートフォンへ切り替えを行った。
- ⑥ Web予約システムについて、平成27年12月に本稼働を開始した。
- ⑦ 従来、入院患者の歯科診療について柏市歯科医師会へ依頼してきたが、平成27年12月より患者支援・医療連携センターにおいて手続きを行うこととした。
- ⑧ 新たな専門研修プログラムの申請にあたり、19の基本領域となっている必須診療科のうち、平成28年2月に「臨床検査科」、平成28年3月に「救急科」を標榜科目として届出を行った。
- ⑨ 前年度までは正常分娩の受け入れを抑制していたが、産科ベッドを増床したことから、初診や正常分娩、第二子以降の分娩においても、積極的に受け入れることとした。
- ⑩ 平成28年2月、病棟において患者および教職員からのインフルエンザ発症があり、患者のコホートや予防内服等を実施した他、院内感染拡大防止のため、教職員は全員マスク着用、手洗いの実施、勤務時の検温チェック、人が集まることの自粛を徹底した。患者は入院時の問診の徹底、面会制限、緊急入院の制限等の緊急対策を講じた。平成28年3月22日付で緊急対策の一部を解除した。

(4) 患者サービス関連

- ① 給水器付き自動販売機設置について
改修工事に伴い、1階の給水器付き自動販売機を撤去したが、患者からの要望が多く、

- 平成27年9月18日にラウンジ前に設置した。
- ② ラウンジ（患者休憩スペース）への図書の設定について
ラウンジ内の本棚に、平成27年9月よりがん関連の図書と職員から寄付していただいた図書を設置した。がん関連の図書は貸出しを可能とし、その他の図書はラウンジ内で閲覧していただくこととした。
 - ③ フロアコンサートについて
平成27年9月30日に、改築したエントランスホールで読売交響楽団による弦楽四重奏「読響ハートフルコンサート」を開催した。
 - ④ 患者満足度調査について
（外来分）平成28年2月16日、17日に外来患者を対象に実施した。
（入院分）平成28年2月12日~29日に入院患者を対象に実施した。
結果報告は平成28年度となるが、調査結果を基に患者サービス向上に努めたい。
- (5) 成医会柏支部例会
- ① 平成27年7月4日 第52成医会柏支部例会を開催した。
 - ② 平成27年12月5日 第53回成医会柏支部例会を開催した。
- (6) 症例検討会（CPC）
- ① 平成27年6月17日 第37回症例検討会（CPC）
「ステロイド投与中に急激な呼吸不全を呈した抗GBM抗体型急速進行性糸球体腎炎の一例」
 - ② 平成27年11月13日 第38回症例検討会（CPC）
「PSA高値を伴った原発不明がんの一例」
- (7) 指導・監査
- ① 平成27年11月17日柏市保健所による医療法に基づく立入り検査（医療監視）が行われた。
- (8) 先進医療
- ・実施件数：5件
- (9) 個人情報保護関連
- ① 平成27年11月2日テレビ会議システムを利用した4機関同研修会を開催した。
講演テーマ：「マイナンバー制度とは」 講師：システムブレン 吉川 直子氏
 - ② 平成27年11月17日柏市保健所による医療監視が行われ、個人情報の保護、管理方法について確認された。
 - ③ 平成28年1月19日本院にて個人情報合同委員会が開催された。
 - ④ 平成28年1月より特定個人情報等取扱規程が制定された。
- (10) 地域がん診療連携拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院の指定要件に沿った設備、機能の整備を図った。年2回の市民公開講座では地域の住民を対象に、尿路系のがんと排尿障害、すい臓がんの治療方法について医療知識を高める場を提供し、千葉県のがんに関する医療政策に貢献した。また、がん講演会ではがん患者やその家族に対し、院内のコメディカルスタッフにより社会保障制度や日常ケア等について知識を高める場を提供した。平成27年度の患者数および講演会等の開催回数は次のとおりである。
- ・外来患者延べ患者数：72,047名
 - ・入院患者実患者数：3,524名
 - ・地域がん登録件数：2,002名
 - ・緩和ケアチーム介入件数139件
 - ・公開講座：2回
 - ・がん・緩和ケア交流会（患者交流会）：12回
 - ・がん講演会：6回
- (11) 東葛北部地域難病相談・支援センター事業
- 千葉県難病相談・支援センター事業実施要綱に基づき県からの委託事業として平成17年度

より柏病院にて受託開始し、必須とされる7事業を運営している。平成20年度より、難病患者・家族・関係機関を対象とした講演会を開催しており、平成27年度は第1回「膠原病の最新情報～難病法の施行にあたって」、第2回「パーキンソン病関連疾患におけるリハビリテーション～セルフエクササイズと動作介助のポイント～」をテーマとして開催した。

(12) 救命救急センター

救急部と全診療科が連携し、救急患者の積極的な受け入れ体制を強化した。特に、救急室においては救急受入コールにトリアージナースが1次・2次救急を担当し、3次救急は救急医師が対応を行うことで、救急搬送患者数及び救急患者数が増加した。

① 救急患者数推移 業務課

平成27年4月～平成28年3月	1次救急	4,546名	(前年度比+331名)
	2次救急	2,578名	(前年度比+384名)
	3次救急	823名	(前年度比-58名)

② 救急受入隊搬送件数

平成27年4月～平成28年3月	4,565名	(前年度比+307名)
-----------------	--------	-------------

(13) エイズ治療拠点病院

千葉県に指定申請を行った結果、厚生労働省より平成28年1月19日付で選定された。

(14) 1 医療安全管理

インシデント・アクシデント報告件数は、2,594件で、Team STEPPSへの参加者数は208名であった。その他柏病院で開催した医療安全のための教育研修については以下の通りである。

1. 新人教育 : 2回
2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム : 3回
3. TeamSTEPPSエッセンシャルコース : 5回
4. 医療機器安全セミナー : 8回
5. MR安全講習会(放射線部) : 7回
6. 転倒・転落予防セミナー : 2回
7. 医療安全推進週間

平成27年11月1日～14日

講演「各病院におけるTeam STEPPSへの取り組み」

(14) 2 感染対策

抗菌薬の使用密度は4病院の中で最も高く、一部低減したが、継続して適正使用推進に取り組んでいく。

1. 新人・委託業者教育 : 2回
2. 感染対策セミナー
 - ① 毎月開催(計22回)感染対策セミナーベーシック 延べ1,172名参加
 - ② 各診療科における研修会(計22回)延べ189名参加
3. 感染対策地域連携カンファレンス : 4回
4. 私立医科大学病院感染対策協議会総会

(14) 3 医療安全・感染対策共催

1. 医療安全・感染管理基礎研修会 : 2回
2. 医療安全・感染対策合同セミナー : 1回
3. 附属4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンド(柏病院受け入れ:平成27年10月1日)
4. 私立医科大学附属病院間医療安全相互ラウンド
組み合わせ病院:北里大学メディカルセンター
 - ① 平成27年12月14日(訪問)
 - ② 平成28年2月17日(受入)
5. 委託業者・派遣職員教育 : 2回

(15) 防火・防災

① DMATの活動

9月1日に開催された政府主催 合同防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（東京・神奈川・千葉・埼玉）に1チーム4名を海上自衛隊下総航空基地に派遣、併せて支援DMAT（宮崎県チーム1チーム）を病院で受入れし机上訓練を実施した。また、1月30日に開催された関東ブロック訓練（東京都）に1名を指定プレイヤーとして派遣した。

② DMATの整備（研修受講）

1月に開催された千葉限定災害派遣医療チーム（CLDMAT）研修に1チーム5名（医師1名、看護師2名、業務調整員2名）、3月に開催された同研修に看護師1名が受講し、組織拡大を図った。

③ 防災訓練の実施

- ・平成27年6月9日 5階フロアにて消防避難訓練を実施
- ・平成27年12月19日 7階フロアにて ”

④ その他

- ・平成27年9月8日の柏市自衛消防隊競技会は雨天のため中止。

(16) 工事関係

- ① 本館C棟眼科手術室改修工事 平成27年5月完了
- ② 柏病院整備工事に伴うエレベーター既存廻り及工事 平成27年8月完了
- ③ 電気設備本線引込高圧ケーブル引替工事 平成28年1月完了
- ④ 薬剤部無菌室排気設備改修工事 平成28年3月完了
- ⑤ 診療棟空調設備更新工事 平成28年3月完了
- ⑥ 本館C棟吸収式冷温水発生機更新工事 平成28年3月完了
- ⑦ 平成27年5月22日付で外来手術室の使用が許可され、平成27年6月1日使用を開始した。
- ⑧ 平成27年11月19日付で545病棟のHCUへの名称変更が許可された。
- ⑨ 平成28年3月16日付で放射線治療室の処置室、診察室の用途変更が許可された。改修を行い、平成28年3月31日に使用許可申請を行った。

(17) 初期臨床研修医関連

- ① 平成27年度研修医は医師国家試験の結果、24名（一般プログラム24名、小児科医育成プログラム、産科医育成プログラムなし）を採用した。よって、柏病院の研修医は平成26年度研修医18名と合わせて42名となった。

(18) 行事・その他

- ① 平成27年7月柏市地球温暖化対策条例に基づく削減計画書により、温室効果ガス排出量基準8,947t-CO₂に対し9,193t-CO₂で、2.76%の増加を報告した。
- ② 平成27年7月29日 納涼盆踊り大会を開催した。
- ③ 平成27年12月25日 病院忘年会を開催した。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 加地 正伸
新橋健診センター 診療部長（代行）加藤 智弘
晴海健診センター 所長（兼務） 加地 正伸

1) 27年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 17,639名

（内訳）

- *人間ドック 7,543名
- *入社健診 1,094名
- *定期健診 6,698名

*特殊検診	1,893名
*予防接種	161名
*その他	250名

2) 毎月第 I 水曜日に卒煙教室を開催した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数 (使用床)

(平成27年4月1日現在)

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	290	52	68	71	481
2 人 室	6	10	46	56	118
3 人 室 以 上	754	297	461	523	2,035
合 計	1,050	359	575	650	2,634
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	42 : 58	56 : 44	35 : 65	

(2) 病床数 (届出床)

(平成27年4月1日現在)

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	297	52	77	71	497
2 人 室	6	12	52	56	126
3 人 室 以 上	772	301	452	537	2,062
合 計	1,075	365	581	664	2,685
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	42 : 58	56 : 44	35 : 65	

(3) 平成27年度診療実績

(平成27年度)

	本 院	葛 飾	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,784	1,153	1,332	1,543	109	6,921
一日平均入院患者数	876	311	470	562		2,219
利用率 (稼働床)	83.4	86.6	81.7	86.4		84.5
予算達成率	99.2	100.9	99.9	101.3	102.1	100.0
紹介率 医療法	71.7	68.7	56.5	68.9	10.6	
” 保険法	71.9	63.4	56.7	68.5	3.4	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院 (5病院)

(平成27年4月1日現在)

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	成宮 学 (昭50)	小村 伸朗 (昭60)	44 (26)	325
2	富士市立中央病院	小野寺昭一 (昭47)	柏木 秀幸 (昭53) 鈴木 康之 (昭53・他学) 笠井 健司 (昭56) 諸岡 暁 (昭56)	89 (65)	520
3	厚木市立病院	山本 裕康 (昭60)	鈴木 正泰 (昭55・他学) 増淵 正隆 (昭59・他学) 鷺塚 朋子 (看護)	65 (61)	304
4	町田市民病院	近藤 直弥 (昭53)	羽生 信義 (昭53) 佐藤 裕 (昭53・他学) 金崎 章 (昭56) 櫻本千恵子 (昭59・他学)	86 (33)	447
5	東 急 病 院	徳留 悟朗 (昭56)		29 (20)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院) 平成27年4月1日現在

内科学講座	※腫瘍・血液内科	国立成育医療研究センター 神奈川県立こども医療センター 狭山病院
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 さいたま北部医療センター 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構東京医療センター 東京通信病院 新宿健診プラザ	川口市立医療センター がん研有明病院 衣笠病院 佐々木病院 都立駒込病院	皮膚科 ○厚木市立病院 東京警察病院 N T T 東日本関東病院 東京通信病院 聖路加国際病院
※消化器・肝臓内科	※呼吸器内科	放射線科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 日本赤十字社医療センター 那須赤十字病院 J R 東京総合病院 星総合病院 荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院
○東急病院 国立病院機構相模原病院 虎の門病院 パナソニック東京健康管理センター 川口市立医療センター 松島病院大腸肛門病センター	精神医学 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 栃木県精神保健福祉センター パナソニック東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療研究センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずのき病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院 小金井病院 大多喜病院 土浦厚生病院 八千代病院 大澤台病院	外科 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 がん研有明病院 埼玉慈恵病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 総合医療センター成田病院 金町中央病院 麻生総合病院 佐々木病院 第三北品川病院 安田病院 益子病院 川村病院 熊谷外科 葛西昌医会病院 国際医療福祉大学附属病院 川崎南部病院 総合東京病院 新百合ヶ丘総合病院 いの町立国民健康保険仁淀病院 東京都立小児総合医療センター 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 三島中央病院
※神経内科 総合川崎臨港病院 国立精神・神経医療研究センター病院 亀田総合病院 国立国際医療研究センター 日本赤十字社医療センター 東京都健康長寿医療センター	※腎臓・高血圧内科 ○東急病院 益子病院 川口市立医療センター 養生会かしま病院 足利赤十字病院 さいたま赤十字病院 日本鋼管病院 立川総合病院 千葉東病院	
※リウマチ・膠原病内科 国立病院機構相模原病院	※循環器内科 ○東急病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 魚沼病院 湘南病院 大洗海岸病院 町立津南病院 古川橋病院 横須賀市立うわまち病院 太田総合病院	
※糖尿病・代謝・内分泌内科 川口市立医療センター 衣笠病院 町立津南病院 野村病院	小児科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○国立病院機構西埼玉中央病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 都立北療育医療センター 東京都立小児総合医療センター	

整形外科	立正佼成会附属佼成病院 こころとからだの元気プラザ 谷津保健病院 東京都がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	麻酔科
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 第三北品川病院 とちぎリハビリテーションセンター 豊島病院	泌尿器科	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 さいたま北部医療センター J R 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療研究センター 太田総合病院
脳神経外科	眼科	リハビリテーション科
○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 東大宮総合病院 秋葉病院 麻生総合病院 宇都宮第一病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院 禎心会病院 国立病院機構東京医療センター 東横浜病院	○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院機構東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院 麻生総合病院 宇都宮記念病院	○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 東京都立大塚病院 東京都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院 初台リハビリテーション病院 健貢会東京病院 牧リハビリテーション病院 京都大原記念病院 清水病院 化学療法研究所附属病院 北品川病院 梶原病院 国際医療福祉大学熱海病院 河北リハビリテーション病院 西広島リハビリテーション病院
形成外科	耳鼻咽喉科	病理学
○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 JCHO 東京新宿メディカルセンター 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院 がん研究会 有明病院	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 がん研有明病院 湘南病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 JCHO 東京新宿メディカルセンター 東京歯科大学市川総合病院 豊島病院 同愛記念病院 国立がん研究センター東病院 東部地域病院 国保旭中央病院 東京臨海病院 佐久総合病院	○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院
心臓外科		歯科
○富士市立中央病院 ○町田市民病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 豊島病院 佐久総合病院 新東京病院 東京都立小児総合医療センター 国立病院機構埼玉病院		○町田市民病院 社会保険大宮総合病院
産婦人科		内視鏡科
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療研究センター		益子病院 松島クリニック 社会保険中央総合病院 川村病院 医療法人社団青空会大町病院
		感染制御科
		神奈川県立汐見台病院
		法医学
		東京都監察医務院
		分子生理学
		東京歯科大市川総合病院

(3) 特殊派遣機関（7 機関）

（平成27年4月1日現在）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インター ナショナル	内 科	衆議院診療所	内 科
	精神医学		皮膚科
	整形外科		眼 科
	放射線医学		耳鼻咽喉科
	眼 科	出版健康保険組合診療所	内 科
	耳鼻咽喉科		眼 科
全 日 空	内 科	東京国税局診療所	内 科
	整形外科		精神医学
	眼 科		外 科
	耳鼻咽喉科	国土交通省航空局	内 科
	内視鏡科		
航空医学研究センター	内 科		
	精神医学		
	眼 科		
	耳鼻咽喉科		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

（平成27年4月1日現在）

病 院 名	科 名
英国 ロンドン 日本人 クラブ	内 科
	小 児 科

6. 学術情報センター

学術情報センター長 福田 国彦 (放射線医学講座) (平成25年4月から)
同 図書館国領分館長 横井 勝弥 (数学研究室) (平成25年4月から)

1) 平成27年度統計 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 図書館

① 蔵書冊数	264,122冊	
② 現在受入雑誌数	737種	(和624種、洋113種)
③ 電子ジャーナル提供数	6,321種	
④ 館外貸出冊数	10,652冊	
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出 2,411件	借受 1,947件
⑥ 複写サービス	62,068枚	(代行複写、相互貸借 (他館への提供)、附属病院へのFAX送信、セルフコピーの合計)
⑦ 情報検索サービス	86,524件	(代行とセルフサービスの合計)

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	89,395冊	
② 現在受入雑誌数	357種	(和301種、洋56種)
③ 館外貸出冊数	10,536冊	(視聴覚資料含む)

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,615点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,893セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	70セット
	語学プログラム	206セット
	その他	79セット

(4) 史料室

見学者数 174名 (学内37名、学外137名)

(5) 写真室

① 撮影・スライド作成	62件	(2,123枚)
② レントゲンフィルム複製	14件	(94枚)
③ ビデオ編集	84件	(568時間)
④ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	615件	(11,853枚)
⑤ 35mmスライドのデジタル化	5件	(356枚)

2) 主な事項

(1) 国際交流センターの設置

平成27年4月1日付で学術情報センターに国際交流センターが設置された。平成27年度の学術情報センターの構成は、図書館、標本館、写真室、史料室、医学英語研究室、国際交流センターとなった。

(2) 医学部学生および大学院生の演習の担当

医学科1年生の「情報検索演習」、2年生の「医学総論」、医学科3年生「医学統計学Ⅱ演習」、看護学科1年生の「総合演習」、看護学科3年生の「研究方法論：文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学

- 専攻修士課程1年生への演習を担当した。
- (3) 教職員等を対象とした情報検索演習
教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」(9月7日)と「看護監督者研修」(12月7日)、東京慈恵会による学外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」(6月17日)で情報検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を3回実施し、延べ40名の参加があった。
- (4) ネットワークを介した情報提供
電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(AutoAlertサービス)を引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス(平成16年12月開始)も継続した。
- (5) 学術リポジトリの構築
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムである学術リポジトリの運用を担当している。『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』の最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。また、学事課との協力により学位論文要旨の学術リポジトリによるインターネット公開を実施している。
平成27年度の学術リポジトリへの登録件数は300件で、利用状況は閲覧671,379件、ダウンロード764,418件であった。
- (6) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2014(第34号)』および『Research Activities 2014』の編集
両年報の編集作業を担当した(両年報とも3月1日発行)。
- (7) 教員評価システム管理委員会に関する取り組み
教員評価システムの業績データ入力機能に関する問合せ窓口を担当し、学内教職員を対象とした入力方法の説明会を2回実施した(7月14日・7月22日)。
- (8) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。
・「英語論文を書く際に英語力は必要ない!」(5月14日)(参加82名)
坪田昭人教授(総合医科学研究センター基盤研究施設(分子細胞生物学))
・「Anatomy of a Medical Research Article: Analysis of the structure and style elements of a typical article in a medical journal」(5月26日)(参加66名)
小原平教授(英語研究室)、Dennis Riches講師(成城大学教授)
・「英語論文の基本-論理展開と表現」(5月28日)(参加63名)
小原平教授(英語研究室)、穴沢良子講師(東京大学特任研究員)
・「自分を育てる医学・看護学英語論文作成技法」(6月2日)(参加60名)
藤田哲二准教授(外科学講座)
(開催時間は、いずれも18時~19時30分)
- (9) 総合展示の開催
以下1テーマの展示の提供をいただき、1月25日(月)~2月5日(金)に大学1号館ロビー、高木会館ロビーにて開催した。
・「肝疾患研究;最近の成果から一自己免疫性肝炎(AIH)の多様性およびC型肝炎ウイルス(HCV)感染におけるリポ蛋白代謝異常について」
相澤良夫教授(内科学講座(消化器・肝臓内科)・葛飾医療センター)
- (10) 教材・研究資料の作成支援
学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、

- ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。
- (11) レントゲンフィルムの複製
教育・研究用、病院保管用の資料作成、他病院・関連機関への情報提供のためのレントゲンフィルム複製の業務を担当した。
- (12) 広報活動支援業務
学内行事および広報用の写真撮影、画像データの保管・提供を担当した。
- (13) リモートアクセスサービスの開始
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外(自宅や派遣先)からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」(平成21年度開始)の利用者登録とサポート作業を行った。平成27年度の新規登録者は289名で、平成27年度末までに利用登録者は2,172名となった。
- (14) 「東京慈恵会医科大学130年史(平成23年度発行)」関連の業務
掲載内容に関する問い合わせへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。
- (15) 西新橋再整備計画「図書・講堂スモールワーキンググループ(SWG)」への参加
平成26年度に引き続き図書・講堂SWGに参加し、図書館移転計画案の作成に取り組んだ(再整備統括会議にて大学管理棟とC棟地下1階が図書館移転先の候補地となった)。
- (16) 海外からの選択実習生の受入れ
海外医科大学からの選択実習生の受入れは、平成27年4月～平成28年3月の期間で65名(男子学生34名、女子学生31名)であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生、教職員との交流会(International Café)を開催した。
- (17) 医学科学生の英語OSCEの実施
医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語OSCEを実施した。
・オープンキャンパス英語OSCE
8月15日(1年生6名参加)※講義・練習:7月22日・8月4日
・海外臨床実習へ向けての英語OSCE—第1回セッション
12月5日(4年生2名、5年生10名参加)※講義・練習:11月14日
12月12日(4年生4名、5年生12名参加)
・海外臨床実習へ向けての英語OSCE—第2回セッション
1月16日(4年生4名、5年生10名参加)※講義・練習:1月9日
1月23日(4年生7名、5年生5名参加)
- (18) 4大学「ネイティブ英語模擬患者参加型英語医療面接」演習の開催
平成28年3月17日に本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4大学学生教育交流校の合同によるネイティブ英語模擬患者参加型英語医療面接を実施した。
会 場:大学1号館
参加人数:本学3名、昭和大学2名、東邦大学1名、東京医科大学5名
- (19) 看護師の英語学習プログラムの実施
看護師を対象にした英語学習プログラムを実施した。
・英語教育プログラム
外来、病棟、病院で使う英語に関する演習を行った。
開催日時:平成27年8月18日、8月25日、8月28日。(参加24名)
・英語でしゃべらなース
東京医科大学との共同企画で、外来と病棟で使う英語に関する演習を行った。
開催日時:平成28年2月2日、2月16日、2月19日。(本学からの参加10名)
- (20) 海外実習・留学支援セミナーの開催
平成27年8月27日(木)に平成27年度第1回海外実習・留学支援セミナーを開催した。4大学学生教育交流校(昭和大学・東邦大学・東京医科大学)や日米医学医療交流財団、日経メディカルなどを含む学外、学内から49名の参加があった。

- (21) 選択実習（国外）報告会、医学科海外選択実習報告会の開催
平成27年9月12日に平成26年度選択実習（国外）報告会を開催した。また、10月9日に第132回成医会総会において平成27年度医学科海外選択実習報告会を行った。
- (22) USMLEセミナーの開催
平成27年12月7日にUSMLEに興味を持つ学生、若手医師などを対象にUSMLEセミナーを開催した。（講師：Dr. Nicholas Rennick（The University of Sydney, Australia））（本学からの参加10名）
- (23) 規程類の改定
Jikeikai Medical Journal投稿規程、東京慈恵会医科大学雑誌投稿規程、宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成規程、東京慈恵会医科大学学外研究員に関する内規の改定を行った。

7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。教育センター長、部門組織は次の通り。

教育センター長 福島 統 教授

- (1) 医師キャリアサポート部門
 - ① 医学教育研究室
 - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育IR部門
- (6) アドミッション部門

1) 公開講座

(1) 大学主催公開講座

教育センターが公開講座推進委員会（委員長：福島統教授）を主管し、大学主催（大学および4附属病院が企画・実施）の公開講座を取り纏めた。平成27年度は全機関で32回開催した。本公開講座は一般市民および地域医療者を対象とし、大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業としている。公開講座の継続的な推進を図るため、各機関による主体的な運営形態としている。

平成27年度の開催内容は下記のとおり。

- ・附属病院：計12回（新みんなの健康教室（5回）、市民公開講座（7回）
- ・慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー 4回
- ・慈恵医大第三病院公開健康セミナー 3回
- ・柏病院市民公開講座 3回
- ・新橋健診センター公開講座 3回
- ・大学：計7回（地域医療者向け公開講座4回（教育センター主管）、ひらめき☆ときめきサイエンス2回（教育センター主管）、市民公開シンポジウム1回

2) 教育に関する公的補助金にかかる事業

A. 平成24年度文部科学省「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」事業

内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）宇都宮一典教授が事業推進責任者となり、取組「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」を推進した。主な活動は次の通り。

- (1) 新カリキュラムの実施
- (2) ログブック実施
- (3) 平成29年度診療参加型臨床実習実施の検討
- (4) 卒業時OSCEの検討
- (5) 外部評価

東京女子医科大学理事長・学長吉岡俊正先生を招聘し、平成28年3月31日（木）に本補助事業の平成27年度活動の外部評価を実施した。

(6) 第59回医学教育セミナー

東京女子医科大学理事長・学長吉岡俊正先生を講師として、平成28年3月31日（木）に「医学教育質保証制度への期待」をテーマに医学教育セミナーを実施した。学生・教職員43名が参加した。

B. 平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成」事業

内科学講座（総合診療内科）大野岩男教授が事業推進責任者となり、取組「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発—地域における臨床研究の推進を目指して—」を申請し、採択を受けた。

事業期間は平成25年度～29年度。本補助事業平成27年度の主な活動は次の通り。

(1) 教育プログラムの開発

次の8つの教育プログラムの開発を行った。

- ① 高齢者医療体験実習（医学科3年次）
- ② へき地医療プログラム（初期臨床研修 2年目研修医）
- ③ 総合診療コース（レジデント）
- ④ 大学院医学研究科博士課程授業細目「地域医療プライマリケア医学」
- ⑤ 授業細目「地域医療プライマリケア医学」・レジデントのコンバインドコース
- ⑥ EBMと臨床研究セミナー（大学院インテンシブコース）
- ⑦ 総合診療・家庭医療ブラッシュアッププログラム（医師インテンシブコース）
- ⑧ 復職支援スタートアッププログラム（医師インテンシブコース）

(2) 外部評価

- ・汐留みらいクリニック院長 橋本雄幸先生による外部評価を、平成28年2月4日（木）に受審した。

C. 平成24年度文部科学省「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

東京医科歯科大学を代表校とし千葉大学、東京大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学の6大学が連携して、取組「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は福島統教授が担当した。事業期間は平成24年度～28年度。本補助事業の平成27年度活動は次の通り。

(1) 海外視察

平成28年1月10日～1月16日、英国キングス大学に中村真理子准教授が視察した。最新の医学教育認証に関する情報収集を行った。

D. 平成27年度ICT設備整備事業

木村直史教授が事業推進責任者となり、「ExamBaseシステム構築」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成27年度の単年度。本事業では医学科総合試験の試験計画、試験問題管理、試験成績管理のシステム整備を行った。

E. 経常費補助金「情報の公表」

教育補助金検討委員会（委員長：福島統教授）が主導し、教育情報の公表について、関係部署からデータ提供の協力を得て、平成27年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。これに伴い経常費補助金「情報の公表」の申請を行った。事業期間は平成27年度の単年度。

3) 看護学教育プログラム

看護学教育部門（看護キャリアサポートセンター）の奈良京子部門長を担当として、以下の教育プログラムを実施した。

(1) エデュケーションナース研修

- ・開催趣旨：新人看護師やプリセプターに対して意図的に適切な指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得し、教育担当者としての役割を担う看護師の育成をねらいとした。
- ・開催期間：平成27年8月4日（火）～11月20日（金）の内20日間、受講者数：60名

(2) 看護監督者研修

- ・開催趣旨：中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を修得し、大学病院・看護部の理念の基、担当部署の看護管理過程が展開できる人材を育成することをねらいとした。
- ・開催期間：平成27年11月26日（木）～平成28年2月27日（土）の内11日間、受講者数：17名

- (3) 看護管理者研修
- ・開催趣旨：臨床および教育の看護管理者が一堂に集まり、各々の立場から本学の看護の現状と課題について情報交換を行い、【目指す慈恵の看護】を共有し、連携強化を目指した。
 - ・開催期間：平成28年1月30日（土）～1月31日（日）1泊2日、受講者数：18名
- 4) シミュレーション教育支援
- シミュレーション教育施設委員会（委員長：福島統教授）が中心となり、シミュレータ機器の選定、購入などの機器整備を行い各機関のシミュレーション教育施設の充実を図るとともに、シミュレーション教育施設の管理運営を行った。
- 各機関の利用状況は、西新橋校562件、国領校120件、葛飾医療センター103件、柏病院132件、合計917件の利用であった。
- 5) ICT活用教育支援
- (1) eラーニング
- 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間30コース359回であった。内訳は次の通り。
- ・医学科学生 11コース、65回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
 - ・看護学科学生 9コース、19回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
 - ・大学院博士課程 1コース、9回（疫学臨床研究、生物統計学など）
 - ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など）9コース、266回（鏡視下手術トレーニングなど）
- (2) コンピュータ試験の支援
- 医学教育研究室木村直史教授を責任者として、医学科5年生「総括試験」、医学科2年生「総合試験」、など医学科で10回、看護学科科目横断試験で1回、計11回のコンピュータ試験実施の支援を行った。
- (3) クリッカーを活用した授業等の支援
- クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生、大学院の授業や医師、看護師の勉強会等で計28回利用され、利用者数は計3121名であった。
- 6) 地域医療者教育プログラム
- 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島雅人教授（臨床疫学研究部・教育センター）を責任者として実施した。
- 平成25年度生・受講生24名、平成26年度生・受講13名、平成27年度生・受講9名を受講生として、講義（eラーニング）を6コース、ワークショップを5回実施した。
- 7) 市民ボランティア「あけぼの会」の活動
- 平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業（演習、実習）で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。平成28年3月31日現在の会員数は25名で、平成27年度の活動は次の通りである。
- (1) 例会（SP勉強会含む）
- | | | |
|-------|----------------|-------------------|
| 第1回例会 | 平成27年4月18日（土） | 9：30～12：00（SP、例会） |
| 第2回例会 | 平成27年5月9日（土） | 9：30～12：00（SP、例会） |
| 第3回例会 | 平成27年6月20日（土） | 9：30～12：00（SP、例会） |
| 第4回例会 | 平成27年9月26日（土） | 9：00～12：00（SP、例会） |
| 第5回例会 | 平成27年12月12日（土） | 10：00～12：00（SP） |
| 第6回例会 | 平成28年2月20日（土） | 9：30～12：00（SP、例会） |
| 第7回例会 | 平成28年3月19日（土） | 10：00～12：00（SP） |
- (2) 授業への参加

医学総論Ⅳ演習（西新橋校）医学科 4年 4月3日（金）14：30～16：10
医学総論Ⅳ演習（西新橋校）医学科 4年 6月5日（金）13：40～17：00
医学総論Ⅲ演習（西新橋校）医学科 3年 7月9日（木）13：00～16：10
医学総論Ⅴ演習（西新橋校）医学科 5年 9月5日（土）13：40～16：10 ※見学
医療総論Ⅰ演習（国領校キャンパス）

医学科・看護学科1年 5月26日（火）13：00～14：30

医療総論Ⅰ演習（国領校キャンパス）

医学科・看護学科1年 6月9日（火）13：00～14：30

8) テレビ会議システムの利用支援

4機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間15回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は学長就任式、4病院合同セーフティーマネジメント、成医会などであった。

9) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動推進委員会（委員長：南沢享教授）が主体となり、大学の社会貢献の一環として、教育研究成果の中高校への還元を目的に次の活動を行った。

(1) ひらめきときめきサイエンス

・「働き者の心臓を見て、触って、聴いて、知りつくそう」南沢享教授（細胞生理学講座）

平成27年7月31日（木）大学1号館7階実習室、中学生16名

・「iPS細胞が切り開く未来の医療～生きた細胞を観て、刺激して、考えてみよう!～」

岡野ジェイムス洋尚教授（再生医学研究部）

平成27年8月7日（金）大学1号館7階実習室、高校生12名

(2) オープンキャンパスにおけるアウトリーチ活動（3回）

教育・研究および学生のポスター展示、学生クラブ紹介ビデオの上映を行い、次の講義を行った。

A. 平成27年8月14日（金）15：30～17：10

模擬授業

(ア)「腸管免疫応答」

石渡賢治 准教授（熱帯医学講座）

(イ)「脳卒中のリハビリテーション ～We're making a scientific revolution for the patients!」

安保雅博 教授（リハビリテーション医学講座）

B. 平成27年8月15日（土）15：30～17：10

模擬授業

(ア)「てんかんに対する食事療法のメカニズムを電気生理学的手法で解明する」

川村将仁 講師（薬理学講座）

(イ)「脳卒中 みんなで学べば 怖くない」

井口保之 教授（神経内科）

C. 平成27年9月26日（土）15：30-17：10

模擬授業

(ア)「小児外科の基礎・臨床研究」

吉澤稷治 講師（外科学講座）

(イ)「感染症の拡がり方～病原体が運ばれるリスクを知る～」

嘉糠洋陸 教授（熱帯医学講座）

10) 教育質的転換プロジェクト

今年度より、医学科・看護学科及び大学院における教育の質的転換に向けたプロジェクトを学内公募し、プロジェクトを支援することとした。学長裁量経費から支給する。選定されたプロジェクトは次の通り。

プロジェクト：看護基礎教育における課題解決能力・地域医療連携能力強化型新カリキュラム開発プロジェクト

所 属：看護学科

企画責任者名：嶋澤 順子教授

メンバー：北 素子教授、茅島江子教授、田中幸子教授、香月毅史教授

8. 臨床研究支援センター

臨床研究支援センターは、本学における臨床研究を支援することにより臨床研究の進捗と質の維持を図ることを目的に、平成26年4月に開設された。本センターは、以下の各機能を有し、臨床研究の計画、実施から研究結果の報告までを支援する。

臨床研究支援センターの機能

- ① 臨床研究の教育
- ② 臨床研究の実施支援
- ③ モニタリング
- ④ 統計解析の相談・実施
- ⑤ プロトコール作成支援
- ⑥ 事務局

平成27年度報告

臨床研究支援センター運営会議を定期的で開催し、当センターの運営および上記①から⑥の各機能の役割・あり方や臨床研究に係る手順書等を検討し、充実させた。

また、治験センターと合同ミーティングを定期的で開催し、一体的な運営を行っている。

平成27年度 合同ミーティング開催回数：14回

1. 主な活動

- 平成27年4月 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の施行に伴い、学内の規程および手順書等を改訂した。
- 平成27年6月 再生医療等委員会事務局を外部委託し、認定再生医療等委員会設置のためのワーキンググループを設置した。
- 平成27年7月 生物統計家による生物統計学の教育研修プログラム（基礎編）を開催した。
- 平成27年10月 臨床研究支援センターと兼務となった治験センターCRCによるモニタリング担当者に対する実施支援を開始した。
- 平成27年11月 生物統計家による生物統計学の教育研修プログラム（応用編）を開催した。
 // 治験センター事務局が臨床研究支援センターに移動した。
- 平成27年12月 認定再生医療等委員会が厚生労働省より認可を受けた。

2. 当センターの各機能

(1) 臨床研究の教育

臨床試験セミナーを中心に、研究者等に対し、臨床研究の科学性および倫理性に関する教育研修を以下のとおり実施した。

開催日	タイトル	講師	参加者
平成27年4月23日	臨床研究の進め方	景山 茂	105名
平成27年4月27日	臨床研究データの信頼性を確保するためには (モニタリングに関する教育研修)	鈴木 徳昭	61名
平成27年5月25日	臨床研究の信頼性とICH-GCP (モニタリングに関する教育研修)	鈴木 徳昭	116名
平成27年7月9日	利益相反・臨床研究支援センターの紹介	景山 茂	66名
平成27年10月26日	優越性試験と非劣性試験	西川 正子	60名
平成27年11月9日	GRADEsystemでわが国の診療ガイドラインの質を上げる	南郷 栄秀	25名
平成27年11月16日	同等性試験における統計学的事項	西川 正子 大西 明弘	29名
平成28年1月6日	IRBの成り立ちから見る臨床試験の光と影	黒川 達夫	97名

また、「明日から活かせる生物統計学 教育・研修プログラム」の基礎編を7月4日と11日(受講者8名)、応用編を11月21日と28日(受講者5名)に行った。

(2) 臨床研究の相談・支援

臨床研究の相談

平成27年度の臨床研究に関する相談・支援は31課題(看護学修士課程の4課題を含む)であった。

その内訳は以下の通りである。

プロトコール相談	15課題
統計解析相談	10課題
知財の相談	1課題
論文査読対応	3課題
開発戦略相談	2課題

(3) 臨床研究実施支援

治験以外の研究者主導の臨床研究について、当センターを兼務している治験センターのCRCが支援を行っている。

臨床研究のスキルの高い研究者を各教室に養成するために「臨床研究連絡委員」の選出依頼をモニタリングの対象となる研究を行っている教室から逐次開始した。臨床研究連絡委員は、臨床研究を円滑に実施するため、臨床研究を実施する講座と臨床研究支援センターとの間の橋渡しの役を担い、侵襲を伴う介入研究を行う6講座から選出がなされた。また、「明日から活かせる生物統計学 教育・研修プログラム」へ優先案内をすることとした。

(4) モニタリング

平成27年10月から「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、侵襲を伴う介入研究においてモニタリングが義務付けられ、研究責任者がそのモニタリング担当者を指名する。倫理委員会および附属病院で承認された研究のモニタリング担当者に対し、臨床研究支援センター兼務の治験センターCRCが、モニタリング内容や方法についての支援を7課題実施した。また、そのうち1課題の研究について、モニタリングを実施した。

モニタリングに関する教育研修

シミック株式会社のモニタリング専門家による臨床研究信頼性確保のための教育カリキュラム(全4回分①の教育研修:平成27年2月16日、平成27年3月30日、平成27年4月27日、平成27年5月25日)を開催し、DVDに収録した。各附属病院にDVDを貸出し、各附属病院でDVD講習会を開催した。

また、慶應義塾大学病院臨床研究推進センターモニタリング室長の萩村一人先生による臨床研究に係るモニタリングについての理解を深めるための研修会を臨床研究支援センターをはじめとする研究支援者に対して開催した。

平成28年3月14日 テーマ:臨床研究に係るモニタリングについて

(5) 事務局について

倫理委員会事務局

倫理委員会事務局を担当し、倫理委員会(第1、2倫理委員会)の運営とともに、提出された申請全てに対して、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」で必要とされている項目が網羅されているか確認し、不備があるものは申請者に修正を依頼している。

また、当該指針の施行に伴い、倫理審査申請システムをバージョンアップさせ、従来の臨床研究に関する倫理指針の手順書を見直し、以下の手順書を改訂および制定した。

- ・人を対象とする医学系研究に関する標準業務手順書
- ・モニタリングに関する標準業務手順書
- ・重篤な有害事象に関する手順書
- ・人体から取得された試料および資料等の保管に関する手順書
- ・効果安全性評価委員会設置マニュアル

認定再生医療等委員会事務局

再生医療等法に基づく認定再生医療等委員会事務局を設置し、事務局業務を株式会社ジェービーエスに委託した。

また、学内に認定再生医療等委員会設置のためのワーキンググループが設置され、委員の選出の答申および委員会規程・細則・手順書の制定を行い、臨床研究支援センターの事務局はその支援を行った。平成27年12月2日付けで厚生労働省地方厚生局長より以下のとおり認可を受けた。(認定番号NB3150036)

委員会の名称：東京慈恵会医科大学認定再生医療等委員会

認定の区分：第三種再生医療等提供計画のみに係る審査等業務を実施

平成27年度第1回の委員会（構成員12名）が平成28年1月6日に開催され、以下の委員長及び副委員長が選出された。

委員長：大橋十也教授

副委員長：岡野ジエイムス洋尚教授

9. その他

1) 成医会

(1) 第132回成医会総会は、平成27年10月8日(木)、9日(金)の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

常岡 寛 教授(眼科学講座)

「眼内レンズの進化」

桑野 和善 教授(呼吸器内科)

「加齢と呼吸器疾患—細胞老化を中心に—」

② 宿題報告

森田紀代造 教授(心臓外科学講座)

「開心術中外科的虚血再灌流障害の病態解明と

新たな心筋保護戦略の確立」

朝倉 正 准教授(アイソトープ実験研究施設)

「抗がん剤耐性がん細胞に対する耐性克服薬の開発と

ターゲティング療法」

二ノ宮邦稔 准教授(形成外科学講座)

「糖尿病性足病変の診断と治療」

瀧浪 将典 准教授(麻酔科学講座)

「集中治療部独立からの展開とデータベースの軌跡」

③ シンポジウム

「Information and Communication Technology (ICT) を医療で活用する—慈恵発、次世代型医療」

座長 谷口 郁夫(常務理事)

川井 真(循環器内科、医療情報室)

1. 本学の医療におけるICT化の現状

川井 真(循環器内科、医療情報室)

2. 医学における人工知能2045年問題について

中田 典生(放射線医学講座、IT戦略室)

3. 学習するシステムWatsonの最新状況と医療分野での活用事例

元木 剛(日本アイ・ピー・エム株式会社理事)

4. ICTによる慈恵の未来医療予想図

高尾 洋之(先端医療情報技術研究講座)

5. NTTdocomoのICTソリューションで医療分野の発展へ

有田 浩之(株式会社NTTドコモ 法人ビジネス本部 メディカルICT推進室長)

6. 質疑応答と総合討論

④ パネルディスカッション

「都市型地域医療連携の課題と解決策」

座長 落合 和彦(産婦人科学講座、慈恵医師会会長)

常喜 達裕(脳神経外科学講座、患者支援・医療連携センター)

1. 医師会をハブとする都心の地域包括ケア～地域医療構想を絡めて～

橋本 雄幸(一般社団法人港区医師会会長、公益社団法人東京都医師会理事)

2. 産業保健と地域医療資源との連携

土肥誠太郎(三井化学株式会社本社健康管理室長統括産業医)

3. 医療連携における大学医師会の役割

落合 和彦(産婦人科学講座、慈恵医師会会長)

4. 療養環境の最適化をめざして～ケースマネジメントの質向上が鍵を握る～

山岸 清美（附属病院看護部）

5. 都市型地域医療連携を担う看護実践者の育成

北 素子（看護学科）

6. 国家戦略特区における都市型医療連携

常喜 達裕（脳神経外科学講座、患者支援・医療連携センター）

7. 22歳が考える保健医療2035

武者 亮佑、渡辺 翔子、久保 英祐、

高橋潤一郎、細谷 聡史（医学科5年）

8. 討論

- (2) 第1261回成医会例会は、平成28年2月16日（火）に行われ「『病気を診ずして病人を診よ』と『地霊人傑』、高木兼寛先生に学ぶ日本近代」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、中川秀己（成医会運営委員長）が務め、九州民放クラブ／宮崎 会長である倉迫一朝氏が講演し、最後に松藤千弥成医会会長（学長）が総括を行った。
- (3) 第133回成医会総会については、平成28年10月6日（木）、7日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成27年4月9日（木）、平成27年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成27年7月29日（水）～31日（金）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より開始され、今回で41回目となる。
- (3) 平成27年10月3日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議並びに東京慈恵会医科大学同窓会設立90周年記念式典・記念祝賀会が開催された。
- (4) 平成27年10月10日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成27年10月17日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭40年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成27年10月28日（水）、第111回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成27年11月15日（日）、慈恵看護教育130年記念式典・記念講演・記念祝賀会が開催された。
- (8) 平成28年1月30日（土）、小川武希教授、相澤良夫教授、西野博一教授、を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成28年2月8日（月）、感謝状伝達式を行い、献体者遺族に対して文部科学大臣からの感謝状を手渡した。
- (10) 平成28年3月4日（金）、第91回医学科、第21回看護学科卒業式を挙行了した。

3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」
今年度も2回発行し、同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、医療連携病院、教職員などに送付した。
- 1) 平成27年7月に「The JIKEI 25号」を発行した。
「医学科の新カリキュラムは何を目指すのか」をテーマに座談会記事の特集し掲載した。
- 2) 平成28年1月に「The JIKEI 26号」を発行した。
「“安心”と“感謝”を目指すのが慈恵らしい医療連携の姿」をテーマに座談会記事の特集し掲載した。
- (2) 慈恵ニュース
- 1) 平成27年7月に「197号」、平成28年1月に「198号」を発行した。
- 2) 号外として平成27年6月に「春季労使協議会結果」、平成26年7月に「学校法人慈恵大学中期目標・中期計画・平成27年度事業計画」を教職員に配布した。
- (3) 大学ガイドブック

- 平成27年5月に受験生向けの学校案内「大学ガイドブック2016」を発行した。
- (4) 大学入試ポスター
平成27年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科、看護学科別に発行し、高等学校、予備校、同窓会長、支部長、学術連絡委員などに送付した。
- (5) 大学公報
毎月定期的に発行した。
- (6) 大学案内
平成27年5月に大学案内の別冊を発行、6月に大学案内の本冊を発行した。
- (7) 大学ホームページ
- 1) 平成27年4月、附属病院（本院）に英文自動翻訳を導入した。
 - 2) 平成27年5月、附属病院（本院）に脊椎・脊髄センターのページを新設した。
 - 3) 平成27年7月、医学部医学科ホームページをリニューアルした。
 - 4) 平成27年7月、西新橋キャンパス再整備計画のページを新設した。
 - 5) 平成27年7月、医学部看護学科ホームページをリニューアルした。
 - 6) 平成27年8月、先端医療情報技術研究講座及び先端医学推進拠点群の衛生動物学研究センター、疲労医学研究センター、安定同位体応用研究センター、バイオフィルム研究センターのページを新設した。
 - 7) 平成27年9月、附属病院（本院）脳卒中センターのページを新設した。
 - 8) 平成27年12月、附属4病院トップページのデザインを統一した。
 - 9) 平成28年1月、認定再生医療等委員会のページを新設した。
 - 10) 平成28年2月、慈恵看護教育130年式典・記念講演、記念祝賀会報告を掲載した。
大学ホームページへの総訪問者数及び訪問回数は年々増加し、今年度合計閲覧数は1,654万件となった。（対前年比12万件増加）
平成27年度のホームページ新規作成及び更新依頼は約700件であった。関連部署ならびに関連委員会と連携してホームページ掲載内容の充実を図るとともに、常に最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
- (9) イン트라ネット
「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」、「教職員アンケート」、「学内使用の各種書式」等の更新業務を担当した。
新たに、情報共有が必須となる重要項目である「公益通報・研究に関する不正・ハラスメント等相談窓口」、「マイナンバー」、「携帯電話更新」をトップページから閲覧できるよう更新し、利便性の向上と周知徹底を図った。各部署からの情報を掲載し、情報共有の有効な手段として今年度も活用した。
- (10) オールユーザーメール
講演会、研修会等の開催通知のほか、教職員のテレビ、ラジオ、講演会等への出演や新聞、雑誌等への掲載情報を中心に、今年度は686件配信した。

〔付〕 1. 平成27年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果	
I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (1) 教育に関する目標 (医学科・看護学科) ○卒前教育 ①初年次教育を改善する。	・教育内容公開数 H25：1 H26：1 H27：1 H28：1 ・連携大学数 H25：11 H26：14 H27：21 H28：23 ・留学生の受入数 H25：43 H26：44 H27：65 H28：70	(医学科) 1. 6年一貫教育の中での初年次教育の充実を図る。 2. 変化する新入生の学習態度に合わせて指導を強化する。 3. 初年次教育充実のためのFDを開催する。 (看護学科) 1. スタートアップ宿泊研修を有効に活用する。 2. 看護総合演習Ⅰの内容の点検評価を行う。	(医学科) 1. 初年次教育に関するFDを開催し、将来の初年次教育のあり方を検討した。 2. 一部のユニットで再試験をきめ細かく指導する方策を実施した。 (看護学科) スタートアップ宿泊研修を開催し、看護総合演習Ⅰの内容を点検評価した。	
	②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。	・臨床実習週(時間)数 (医学科) H25：60週 H26：62週 H27：75週 H28：75週 (看護学科) H25：1,260時間 H26：1,260時間 H27：1,260時間 H28：1,260時間	(医学科) 1. 外部評価において指摘された部分的適合の項目について改善計画を立てる。 2. カリキュラム委員会を中心に医学科達成指針に沿ったマイルストーンを作成する。	(医学科) 1. 国際認証外部評価にて指摘された5、6年生の診療参加型臨床実習コンピテンシーを作成した。 2. 診療参加型臨床実習のコンピテンシーを基に卒業時OSCEの評価項目を作成した。
	③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切り替える。	(医学科) H25：2,574名 H26：2,400名 H27：2,276名 H28：2,450名 (看護学科) H25：574名 H26：610名 H27：570名 H28：590名 ・医師国家試験合格率 (医学科合計) H25：95.3% H26：97.1% H27：98.2% H28：100% (新卒) H25：97.1% H26：99.0% H27：100% H28：100%	(医学科) 4年生全科臨床実習にてログブックを導入し運用する。 (看護学科) 1. 学生との合同会議、区分会議を実施し評価を行う。 2. 基礎科目と看護専門科目との情報共有、連携を深める。 3. 全学年に導入が完了する平成24年度改正カリキュラムの全体評価を行う。	(医学科) 1. 2年生、3年生にて総合試験のみならず、口頭試験の評価も重視する形式に変更した。 2. 4年生全科臨床実習にてログブックを導入し、到達度を測定しe-ポートフォリオシステムに登録した。 (看護学科) 1. 学生との合同会議、区分会議を実施し評価を行った。 2. 区分会議、新カリキュラムプロジェクト、WGなどにおいて、基礎科目と看護専門科目との情報共有、連携を深め、平成24年度改正カリキュラムの全体評価を行った。 3. 講師会において、新カリキュラムのディプロマポリシーについて説明し、課題解決能力、地域医療連携能力をメインとする知識の展開能力、実践能力をより一層重視した教育を行うことを説明した。非常勤講師からも様々な質問、意見をいただき、ある一定程度の理解を得ることができた。
	④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。	・看護学科志願者数 (看護学科) H25：574名 H26：610名 H27：570名 H28：590名 ・医師国家試験合格率 (医学科合計) H25：95.3% H26：97.1% H27：98.2% H28：100% (新卒) H25：97.1% H26：99.0% H27：100% H28：100%	(医学科) 1. 4年生全科臨床実習にてログブックを導入し運用する。 2. 今年度9月より開始される集合教育では、新たなユニット「症候から病態へ」、「ケースカンファレンス」を開講する。 3. 学生担当教員向けのFDを実施する。また新たに「新入生スタートアップ宿泊研修」をFDとして加える。	(医学科) 1. 4年生全科臨床実習にてログブックを導入した。 2. 集合教育では、新たなユニット「症候から病態へ」、「ケースカンファレンス」を開講した。 3. 学生担当教員向けのFDを実施すると共に、新たに「新入生スタートアップ宿泊研修」をFDとして加え教育機能を充実させた。
	⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。教育内容の公開を促進する。	(新卒) H25：97.1% H26：99.0% H27：100% H28：100%	(医学科) 決定されたフィードバック方法の取り決めに従い、学生へ自己主導型学習システム(SeDLES)を用いて成績フィードバックを実施する。	(医学科) 総合試験管理システムを用いて学生に成績をフィードバックした。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格率 <ul style="list-style-type: none"> H25：100% H26：97.4% H27：100% H28：100% 	(看護学科) e-ポートフォリオシステムがさらに有効に活用されるよう、システムの改良を図る。	(看護学科) e-ポートフォリオを学生が主体的に活用できるよう改良し運用した。
⑦卒前教育における大学間連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師国家試験合格率 <ul style="list-style-type: none"> H25：97.6% H26：100% H27：100% H28：100% 	(医学科) 1. 4大学(東京医科大学、昭和大学、東邦大学、本学)連携事業を継続実施する。 2. 首都大学東京からの履修生受入れを継続実施する。 3. 学生交流のための大学間連携を拡大する。	(医学科) 1. 4大学連携事業、首都大学東京からの履修生受入れを継続的に実施した。 2. 4大学SD研修、教務系職員を対象とした講演会を開催した。
⑧学習記録と連携させた評価システムを構築する。コンピュータ試験を積極的に導入する。		(医学科) 4年生を対象に学内CBT(臨床医学Ⅱ総合試験)を実施する。 (看護学科) 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオでのリフレクションの精度を更に高める。	(医学科) 4年生を対象に学内CBT(臨床医学Ⅱ総合試験)を実施した。 (看護学科) 1. 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験問題作成に学科全体で取り組み、相互評価を行った。 2. e-ポートフォリオでのリフレクションの精度を高めた。
⑨医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の外国留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受け入れる。		(医学科) 1. 英語研究室、国際交流委員会と連携し、卒前英語教育のカリキュラムを見直す。外国人SPを招聘しネイティブOSCEを開催する。 2. 国外の大学と連携・協定を推進する。 (看護学科) 1. 3年後期に開講する国際看護実践の学習内容の充実および海外医療機関・教育機関における看護研修を実施する。 2. 複数地域の看護研修計画を立案する。地域医療の専門家を招聘し講演会を企画する。	(医学科) 1. 国際交流センター運営委員会と連携し、外国人SPを招聘しネイティブOSCEを開催した。 2. 国外の大学と連携・協定を推進し、英国キングスカレッジ交換留学生を平成29年度以降で2名増加とし、スタンフォード大学・ルートヴィヒマクシミリアン大学・リーズ大学・チュラロンコン大学と新たに交換留学制度の協定を締結した。 (看護学科) 1. 3年後期に開講する国際看護実践の学習内容は、研修の訪問先の実情に即した構成となった。 2. 海外医療機関ならびに教育機関における看護研修を企画し、英国キングスカレッジとの交換留学について計画を進めた。 3. イタリアから地域精神医学領域の教授を招聘し、講演会を実施した。
⑩学生の国家試験準備への支援体制を整備する。		(医学科) 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くの学生に利用されるよう継続して周知する。4年生に対してSeDLESを用いた形成評価を導入する。 (看護学科) 1. 学生個々に応じた個人指導、主体的なグループ学習の推奨を継続して行う。 2. 科目横断総合試験を効果的に活用する。	(医学科) 1. 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くの学生に利用されるよう継続して周知し、4年生に対してSeDLESを用いた形成的評価を導入した。 2. 医師国家試験問題を電子化して過去問データベースに登録し、学生の自己学習に活用できるようにした。 (看護学科) 1. 模擬試験結果を基に、学生個々に応じた個人指導、主体的なグループ学習の推奨を継続して行った。 2. 模擬試験が思わしくない学生に、個人面談、指導を繰り返すを行い、全体には主体的なグループ学習を推奨した。 3. 2年生から4年生を対象に科目横断総合試験を実施し、効果的に個別指導に活用した。 4. 科目横断総合試験の過去問をイントラネットに掲載し、主体的学習を促した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
⑪入学試験方法を継続的に改善する。		(医学科) 継続して地域枠入学選抜方法について検討する。 (看護学科) 入試分析会などでの情報収集、学生アンケートによる効果的な入試対策について継続検討を行う。またICT活用について継続して検討する。	(医学科) 地域枠入学試験の入試審査において、人物行動評価表を反映するよう準備した。 (看護学科) 看護系予備校講師による入試分析説明会や在学生との入試に関する座談会の開催、入試広報セミナーへ積極的に参加し、情報収集および分析を行った。
⑫教養教育の高学年への拡充を図る。医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。		(医学科) 医学科達成指針達成のためのマイルストーンを作成するとともに、教養教育の拡充を行う。 (看護学科) 継続的に看護総合演習Ⅳにおいて、医学科との共修による倫理教育を充実させる。	(医学科) 1. 医学科達成指針と照らし合わせ、高学年における教養教育のあり方についてカリキュラム委員会で検討を開始した。 2. 医学科達成指針達成のためのマイルストーンは次年度作成予定である。 (医学科・看護学科) 医学科5年生と看護学科4年生合同で、倫理に関するワークショップを新たに開催した。
⑬選択制カリキュラムの充実を図る。臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を拡げる。		(医学科) 1. 医学科1年生から6年生にコース「医学総論Ⅰ～Ⅵ」、選択ユニット「医学研究Ⅰ～Ⅵ」を開講する。 2. 研究医養成を目的としてMD-PhDコースの卒前教育部分を導入する。 (看護学科) 継続的に選択科目を開講し内容の充実を図る。	(医学科) 医学科1年生から6年生にコース「医学総論Ⅰ～Ⅵ」、選択ユニット「医学研究Ⅰ～Ⅵ」を開講した。 (看護学科) 3年次、4年次に選択科目を開講し、選択の幅・内容の充実を図った。
⑭広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。		(看護学科) 1. 大学ガイド作成、オープンキャンパス、高校での模擬授業、予備校等の大学説明会など、例年通り広報活動を継続する。 2. オープンキャンパスでは、在学生と訪問者が交流できるようなキャンパス案内を検討する。	(看護学科) 1. 大学ガイド、オープンキャンパス、高校での模擬授業、予備校の大学説明会など広報活動を行った結果、今年度の受験倍率は上昇した。 2. オープンキャンパス、ミニオープンキャンパスの参加者は年々増加傾向であった。 3. オープンキャンパス参加者対象の質問紙調査によると、オープンキャンパスの情報源の圧倒的多数がwebサイトであった。しかしながら、新入生対象の聞き取り調査によると、本学のホームページでは学生生活の情報が少なく、画像もなく印象に残らないとの意見が聞かれた。受験生の獲得のためには、ホームページの工夫が課題であることが共通認識できた。
⑮総合診療医育成のため教育体制を構築する。		(医学科) 1. 家庭医療学開発センターと連携し、教育プログラムを開発し実施する。 2. 高齢者医療体験実習を必修科目として実施する。	(医学科) 1. 家庭医療学開発センターと連携し教育プログラムを開発した。 2. 高齢者医療体験実習を3年生の必修科目として今年度より実施した。 3. 文部科学省GP「未来医療研究人材養成拠点形成事業」(総診GP)に応募し採択された。 4. 大学院博士課程の授業科目「社会保健医学」に「地域医療プライマリケア医学」を設置した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
○大学院教育			
①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂プログラム数 H25：2件 H26：10件 H27：2件 H28：2件 ・大学院生数 H25：133名 H26：135名 H27：130名 H28：145名 	(博士課程・修士課程) 4 大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)として昭和大学でがん医療人WSを開催する。 (博士課程) CITI-Japanによるe-ラーニング受講を推進するためオリエンテーション、大学院特別セミナーで周知する。	(博士課程) 1. 4 大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)としてがん医療人WSを継続して開催した。 2. CITI-Japanによるe-ラーニング受講を推進し1名が受講した。 (修士課程) 4 大学院連携事業の継続により、臨床研究についての取組基盤を確立した。
②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 H25：62名 H26：49名 H27：53名 H28：50名 ・学位論文のインパクトファクター 	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4 大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を継続実施する。 2. 萌芽的共同研究推進費を拡充したことを評価できる仕組みを構築する。	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4 大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を実施した。 2. 萌芽的共同研究推進費採択者の平成25年度、平成26年度の外部競争的資金応募状況追跡調査資料を作成し、大学院委員会に提出した。数年分まとめて理事会にも報告予定である。
③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	(平均) H25：3.55 H26：2.73 H27：3.09 H28：4.00	(博士課程) 大学院特別セミナーで寄せられた意見を参考に以下の見直しを実施する。 ・医の倫理の授業曜日の変更 ・アイソトープ(A・B) コマ数の変更	(博士課程) 1. 大学院特別セミナーで寄せられた意見を参考に共通カリキュラムの改善を図った。 2. 医学研究法概論6回が公開講義、医の倫理は7回全て公開講義として実施した。
④社会人入学の推進を図る。		(博士課程) 1. 社会人大学院生向けにインターネット上に大学院生向けのサイトを作成する。インターネット上で提出時に使用する書式をダウンロードできるよう整備する。 2. CITI-Japanによるe-ラーニング受講を推進するためオリエンテーション、大学院特別セミナーで周知する。	(博士課程) 1. イン트라ネットに大学院のホームページを立ち上げたが、インターネット上に大学院生向けサイトを作成するまでには至らなかった。 2. CITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れ、学習環境の改善と受講者増の活動を行い今年度は1名が受講した。
⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。		(修士課程) 大学院生の学会参加、発表を継続して支援する。	(修士課程) 教員、大学院生向けに、看護学科共催FDを開催した。平成25年度、平成27年度には教員も参加可能な特別講義を開催した。初めての試みであるが平成27年度には院生向けに特別講義として教員も参加可能として「看護に活かす心理尺度：その選び方と使い方」を開催した。授業の公開講義として看護部参加で「よりよい看護を継続的に提供するための業務量測定と患者満足度測定・職務満足度測定」をテーマに4回連続講義を行った。
⑥大学院生からの大学院カリキュラム(共通カリキュラム・選択カリキュラム)評価を定期的実施する。		(修士課程) 大学院生とともに授業評価を継続し、大学院委員会にフィードバックする。	(修士課程) 科目終了時に大学院生と教員の話し合いと授業評価を行い、次年度の科目担当教員を変更した。
⑦大学院生の論文作成状況を適切にモニターする。		(博士課程) 年度末に大学院生全員に研究活動状況調査を実施する。	(博士課程) 大学院生全員に研究活動状況調査を継続して実施した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
○卒業教育			
①初期臨床研修プログラム ならびに指導体制の更なる 充実を図り学内外の医 学生に公開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レジデント応募 者数 H25：172名 H26：156名 H27：159名 H28：175名 ・レジデント採用数 H25：153名 H26：143名 H27：143名 H28：150名 	(臨床研修センター) 1. 臨床研修プログラムは研修管 理委員会を通じて適宜見直 し、更なる充実を図る。 2. 今後も指導医講習会を中心に 指導体制の充実を進める。ま た、地域指導医の指導充実を 図る。	(臨床研修センター) 1. 研修管理委員会で附属4病院の研修プログラム、研修状況 などを検討し採用計画、研修内容の充実などを図った。 2. 指導医講習会の認定指導医を養成した。 3. 地域医療研修は、福島県、新潟県、静岡県の協力施設とのセ ミナーにおいて受入体制などの検討、意見交換を行った。
②専門修得コース(レジデ ント)における各科プロ グラムの更なる充実を図 り学内外の研修医等に公 開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・医師臨床研修マッ チングによる定員 充足率 H25：91% H26：91% H27：89% H28：100% 	(臨床研修センター) 1. 専門修得コース(レジデント) プログラムはレジデント委員 会を通じて各科に適宜見直し を依頼し、更なる充実を図る。 プログラムはホームページに 掲載すると共に、冊子として 広く配布する。 2. 屋根瓦教育方式の医師教育プ ログラムと医療安全、感染対 策講習を実施する。	(臨床研修センター) 1. レジデントプログラムはレジデント委員会を通じて見直 し、プログラムをホームページに掲載すると共に、冊子とし て広く配布した。 2. 屋根瓦教育方式の医師教育FDと医療安全、感染対策講習会 を7月、12月に実施した。
③看護における臨床技能を 高めるための研修を実施 する。		(教育センター) 1. スキル向上と生涯教育として 基礎教育、臨床8部署に拡大 する。 2. 看護実践力、看護マネジメン ト力向上のための段階的研修 を3回開催する。	(教育センター) 1. スキル向上と生涯教育として基礎教育を臨床8部署に拡大 した。 2. 看護実践力、看護マネジメント力向上のための段階的研修 として、エデュケーションナース研修、看護監督者研修、看 護管理者研修を継続して開催した。 3. ICLS講習会を継続して実施した。
(2) 教育の実施体制等に關 する目標			
①効果的な教育ができるよ うに、講義室やICT環境 を含む教育設備を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニング実施数 H25：279件 H26：335件 H27：359件 H28：360件 ・シミュレーション 教育施設利用数 H25：659回 H26：637回 H27：917回 H28：920回 	(学事課) 1. 次年度から開始される診療参 加型臨床実習に向けて、各分 院におけるシミュレーション 教育内容を検討し、具体案を 作成する。 2. 高木2号館南講堂にWiFi環 境を整備する。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステムの利用 を卒前、卒後で280回の実施を 支援する。 2. 4病院シミュレーション教育 施設において、700件の利用を 支援する。 3. e-ポートフォリオシステムを 医学科臨床実習において、28 診療科での利用を支援する。	(学事課) 1. 次年度から開始される診療参加型臨床実習に向けて、各病 院におけるシミュレーション教育内容を検討し、具体案を 作成した。 2. 高木2号館南講堂にWiFi環境を整備した。 (教育センター) e-ラーニングシステムを卒前、卒後において増加し、今年 度は359回の利用があった。4病院シミュレーション教育施 設の利用も増加し、今年度は917件となった。医学科4年全 科臨床実習においてe-ポートフォリオシステムの利用を28 診療科で実施し、教育ICT環境を整備した。
②カリキュラムに見合った、 教員の適正配置と教員数 を検討する。		(教員・医師人事室) 関連部署と協力し適切な教員 数を検討する。	(教員・医師人事室) 大学、附属病院の目標に沿って、附属病院医師人事委員 会にて有給教員定数の見直しを行った。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
③教育能力向上のための教育研修を実施する。		<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学教育セミナーを企画し実施する。 2. 臨床実習指導医養成FDを継続実施し、受講者数を300名以上にする。 <p>(看護学科)</p> <p>カリキュラム改善を視野に入れ、看護学科主催FDを2回以上、大学院合同FDを1回開催する。</p> <p>(総務課)</p> <p>生涯教育のための月例セミナーを年8回、夏季セミナーを年1回、継続的に開催する。</p> <p>(教育センター)</p> <p>医学教育セミナーを企画し実施を支援する。</p>	<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学教育セミナーを企画し実施した。 2. 臨床実習指導医養成FDを継続実施し、累計受講者数は300名以上となった。 <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学科FDワークショップを2回(コミュニケーションとディプロマポリシーに基づいたカリキュラムマップ作成)、大学院共催FDを1回(混合研究法)を実施した。 2. 今年度は新カリキュラム作成のための特別講義を開催し、大学院の特別授業(心理尺度の開発)に参加した。 <p>(総務課)</p> <p>生涯学習センター主催の月例セミナーと夏季セミナーを継続して開催した。</p> <p>(教育センター)</p> <p>医学教育セミナーを継続して開催した。</p>
④診療参加型臨床実習の拡充のため、臨床実習指導医のFDを充実させる。		<p>(医学科)</p> <p>分院におけるFD(説明会)を開催する。</p>	<p>(医学科)</p> <p>FD(説明会)を分院ごとに実施した。</p>
⑤教育アドバイザーを導入する。		<p>(教育センター)</p> <p>教育アドバイザーの導入を検討する。</p>	<p>(教育センター)</p> <p>教育アドバイザーとして、教育学専攻の教員候補者は採用に至らなかったが、臨床実習拡充に対応する教員として臨床医1名が教育センターに着任した。</p>
⑥臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。		<p>(医学科・教育センター)</p> <p>臨床実習協力病院向けの説明会を開催する。</p> <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度研修会の内容を発展させ、計画する。 2. 平成27年6月と9月に市民向け公開講座を企画、実施する。講師は看護学科教員とする。 3. 平成28年2月に専門職者向け公開講座を企画する。 <p>(教育センター)</p> <p>クリニカル・クラークシップの到達目標を提示し、臨床実習を行う学外3病院に協力を依頼する。</p>	<p>(医学科・教育センター)</p> <p>臨床実習協力病院向けの説明会を開催した。</p> <p>(看護学科)</p> <p>臨地実習教育連絡会を開催し学外の協力病院からも多数参加して活発な意見交換が行われた。</p> <p>(教育センター)</p> <p>地域医療教育者のための研修・交流会を企画し、平成28年6月に開催する。</p> <p>(学事課・教育センター)</p> <p>クリニカル・クラークシップの到達目標およびFD実施予定について学外協力病院に提示し、臨床実習を行う学外9病院に協力を依頼した。</p>
⑦教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。		<p>(教員・医師人事室)</p> <p>事務部門による業績入力を100%行うとともに教員本人による個別入力を更に促進し、昇格審査に活用する。</p>	<p>(教員・医師人事室)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の昇格審査に活用するために関連部門による業績入力は経年で漏れなく実施できた。 2. 教員による個別入力は、有給教員全員の研究業績登録ができた。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
<p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>①学生支援のための教員組織を再構築する。</p>	<p>・医学教育セミナーの開催数 H25：1回 H26：3回 H27：2回 H28：3回</p>	<p>(医学科) 学生支援のための教員組織について、父兄会開催時に継続して説明する。</p> <p>(看護学科) 学生生活アドバイザー制度の評価を継続し、更に充実を図る。</p>	<p>(医学科) 1. 学生支援のための教員組織について、父兄会開催時に継続して説明した。 2. 学生部長を中心とした学生を支援するネットワークを構築した。</p> <p>(看護学科) 1. 学生委員会の学年担当とアドバイザーとの合同活動、教員間での意見交換を行い、学生支援のための教員組織を再構築した。 2. 学生生活アドバイザー制度に関する評価アンケートを教員・学生対象に実施し、効果的な結果を得た。</p>
<p>②学力および経済的に問題のある学生に対応する体制を改善する。</p>		<p>(医学科) 1. 秋期父兄会時に学年別懇談会を実施し周知する。 2. 全学生に成績のフィードバックを実施する。</p> <p>(看護学科) アドバイザーと学生委員会との連携による支援体制を更に充実させる。</p>	<p>(医学科) 1. 秋期父兄会時に学年別懇談会を実施し、全学生に成績をフィードバックした。 2. 学生部長を中心とした学生支援ネットワークを生かし、問題を抱える学生の早期対応を実施した。</p> <p>(看護学科) 1. アドバイザー制度が有効に機能し、問題を抱える学生を早期に識別することができた。 2. 学生委員会の学年担当と教学委員会が連携し、早期対応できる体制を整え支援を実施した。 3. アドバイザーとしての支援について教員間で意見交換会し、学生支援に活かすことができた。</p>
<p>③奨学金制度を充実させる。</p>		<p>(医学科) 1. 日本学生支援機構の海外短期派遣助成制度を継続して申請するとともに、海外学生の受入れに関する助成制度を申請する。</p>	<p>(医学科) 日本学生支援機構の海外短期派遣助成制度、海外学生の受入れに関する助成制度を活用し奨学金制度を充実させた。</p>
<p>④精神的支援を必要とする学生のための支援システムを構築する。</p>		<p>(医学科) 情報共有の観点から、学生相談室と学生部長との連携について検討する。</p> <p>(看護学科) 学生相談室の周知策および学生が更に利用しやすい相談体制構築のための検討を行う。</p>	<p>(医学科) 1. 情報共有の観点から、学生相談室と学生部長との連携について検討した。 2. 学生相談室と精神神経科との情報共有を継続した。</p> <p>(看護学科) 1. 学生相談室をオリエンテーションガイドブックに掲載するとともに、年度初めに臨床心理士による相談室の紹介を行い、学生に周知し相談体制を整えた。 2. アドバイザーとの面談時、必要学生に相談室の存在を再度周知した。 3. 学生委員会と臨床心理士による情報交換を行い、学生のプライバシーを尊重した学生支援を行った。</p>
<p>⑤メンタルヘルスの教育を拡充する。</p>		<p>(医学科) 学生のメンタルヘルスに関する教職員向けの研修会実施方法について精神神経科、学生相談室、学生部長、学事課で検討する。</p> <p>(看護学科) 教職員向けのメンタルヘルスについての研修会を継続して企画する。</p>	<p>(医学科) 1. 学生のメンタルヘルスに関する教職員向けの研修会について精神神経科、学生相談室、学生部長、学事課で検討した。 2. 精神神経科の協力により、春期父兄会総会時にメンタルヘルスについて講演した。</p> <p>(看護学科) 1. 看護学科教員に向けて大学生のメンタルヘルスに関する研修会を1回実施した。また、学生委員会のメンバー1名が大学生のメンタルヘルスに関する外部研修に参加し、委員会メンバーで共有した。 2. メンタルヘルスに対する支援を含め、アドバイザーとしての支援方法を教員間で意見交換した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果
(4) 看護専門学校に関する目標			
①看護実践を重視した看護教育を行う。	・看護師国家試験合格率 (新橋校) H25: 100% H26: 99.0% H27: 99.0% (既卒1名含) H28: 100%	(看護専門学校) 1. 卒業時看護実践能力の調査を実施し、指導方法に反映する。 2. 自己点検自己評価は3校共通フォーマットを用いて推進する。	(看護専門学校) 1. 卒業時看護実践能力調査を実施し、指導方法を検討した。 2. 厚生労働省が提示する技術到達基準が現状に即しているか各校で検討を開始した。 3. 3校共通フォーマットによる自己点検評価を検討した。
②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	H25: 100% H26: 100% H27: 100% H28: 100% (第三校)	(看護専門学校) 多様な臨地実習場所を確保し、臨地実習環境を整備する。	(看護専門学校) 1. 3校とも附属4病院を活用して臨地実習を実施した。 2. 在宅看護を学ぶための新たな臨地実習施設を確保した。 3. 地域包括支援関連実習開始に向け調整を行った。
③学生生活支援を積極的に行う。	H25: 96.3% (既卒1名含) H26: 100% (既卒3名含) H27: 100% H28: 100% (柏校)	(看護専門学校) 1. 国家試験、就職100%を支援する。 2. 学生確保のため、多様な学生に対応した修学資金のあり方を検討する。 3. 休学者、単位未履修者数を減少させる。	(看護専門学校) 1. 国家試験合格、就職100%が達成できるよう支援を行った。 2. 修学資金に困難を生じている学生支援として奨学金の支給条件を検討した。 3. 単位未履修を防ぐため個人別の学習支援を実施した。
④学生確保のために積極的な広報活動を行う。	H25: 98.7% H26: 99.6% H27: 99.6% H28: 100% (3校平均)	(看護専門学校) 1. オープンキャンパス、ホームページの内容充実、定期更新を行う。 2. 高校訪問を推進し連携を強化する。	(看護専門学校) 1. オープンキャンパス、見学会を実施した。 2. ホームページは定期的に更新し内容を充実させた。オープンキャンパス参加者は増加したものの志願者は減少した。 3. 連携強化のため訪問先の高校数を増加させた。
⑤看護教員の確保に努める。	・附属病院への就職者率 (新橋校) H25: 97.8% H26: 92.0% H27: 99.0% H28: 90%以上 (第三校) H25: 90.9% H26: 91.3% H27: 92.9% H28: 90%以上 (柏校) H25: 84.0% H26: 87.0% H27: 92.3% H28: 90%以上 (3校平均) H25: 91.5% H26: 90.1% H27: 94.7% H28: 90%以上	(看護専門学校) 1. 各校で教員を募集し養成する。 2. 学内より看護教員養成講習会へ定期的に派遣する。	(看護専門学校) 1. 本院看護部、柏病院看護部より東京都看護教員養成研修に2名、国内留学として派遣した。 2. 各校で看護部と協力して教員候補者となる看護師の発掘に努めた結果、次年度第三校、新橋校から1名ずつ教員養成研修に派遣予定である。次年度第三病院、本院、葛飾医療センターから1名ずつ教員養成研修に派遣予定である。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標 ①研究業績を把握し評価する。	・ 文部科学省科学研究費補助金 採択件数 H25：146件 H26：151件 H27：160件 H28：155件 ・ 論文発表数 H25：1,291稿 H26：1,233稿 H27：1,380稿	(博士課程) 年度末に大学院生全員に研究活動状況調査を実施する。	(博士課程) 研究業績を把握し評価するために、大学院生全員を対象とした研究活動状況調査を実施した。
②教員の職位に応じた論文発表数の基準を設定し、評価する。		(看護学科) 第三病院、第三看護専門学校との共同研究を充実させるため、研究発表会を計画する。	(看護学科) 第三病院、第三看護専門学校との共同研究を12グループが実施し、基礎セミナーを継続して開催した。
③国際誌への投稿を推進し、支援する。論文執筆のためのFDを継続して行う。		(教員・医師人事室) 臨床教授など新たな職名の新設も含めて学長諮問会議にて継続検討する。	(教員・医師人事室) 教員の採用および昇格時には単著、共著論文執筆数(英文、和文)、FDの参加有無など、研究・教育業績を学長諮問会議にて確認し教授会議で審議した。
④Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の改善・充実を図る。成医会の改善・充実を図る。		(学術情報センター) 1. 医学論文書きかた講習会(大学院共通カリキュラム)を4回以上継続して開催する。 2. 論文執筆時に必要となるデータベース、文献管理システムの利用説明会を開催する。 3. 論文執筆およびプレゼンテーション資料作成を支援する。	(学術情報センター) 1. 医学論文書きかた講習会を年4回、継続して開催した。 2. 論文執筆の際に必要なデータベース、文献管理システムの利用法の講習会を継続して開催した。 3. 論文執筆に必要な画像データの加工、カラープリントのサービスを実施した。 4. 「データベース講習会(データベース・文献管理システムの利用説明会)」を実施した。
⑤若手研究者による競争的研究資金の獲得を支援する。		(学術情報センター) 1. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の合同編集委員会を年4回以上継続して開催し、両誌の改善、充実に向け検討する。 2. 両誌の内容をインターネットで参照できるよう、掲載記事を本学の機関リポジトリに登録する。 3. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌への投稿を広報する。	(学術情報センター) 1. Jikeikai Medical Journalと東京慈恵会医科大学雑誌の2誌の合同編集委員会を開催した。 2. Jikeikai Medical Journalを学内各講座、研究施設に配賦し、投稿を呼びかけると共に、原稿執筆の依頼を進めた。 3. 学術リポジトリに掲載論文、記事を登録した。学術リポジトリには平成27年度は以下247件の論文、記事を追加し、閲覧465,846件、ダウンロード524,633件の利用があった。 ・ 東京慈恵会医科大学雑誌 130巻2号～130巻5号 計4号 90件 ・ Jikeikai Medical Journal 62巻1号～62巻2号 計2号 9件 ・ 教育・研究年報 2013 74件 ・ Research Activities 2013 74件
	(総務課) 成医会幹事・運営委員会にて、参加者が興味をもつ講演テーマの検討を継続して行う。	(総務課) 成医会幹事・運営委員会にて講演テーマについてアンケートを実施し、その結果を基に委員会にてテーマを選定した。	
		(研究支援課) 科研費申請のための書き方講習会、日本学術振興会特別研究員応募申請のための講習会(学事課)、英文論文の書き方講習会(学術情報センター)を開催し、文部科学省科学研究費補助金等への若手応募者数は改善した。	

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 ①研究と研究費の執行が適正に行われる体制を構築する。 ②臨床研究支援体制を構築する。研究機器の運用効率を高める。 ③薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室は臨床試験支援センターと連携し、臨床研究を推進する。 ④先端研究を推進する体制を作る。学内共同研究を推進し、支援する。 ⑤トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。 ⑥寄付講座を振興する。	・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25：1件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 ・寄付講座設置数 H25：2講座 H26：2講座 H27：2講座 H28：2講座	(研究支援課) 研究倫理推進センターおよび研究適正化特別委員会を新たに設置し適正な研究活動の推進・支援を強化する。	(研究支援課) 1. 大学のガバナンス体制強化のため、研究倫理推進センターを設置した。 2. 副学長(研究倫理担当)を新たに選出し、研究倫理推進センター長(統括責任者)として委嘱した。 3. コンプライアンス推進責任者、コンプライアンス推進員を定め、不正防止対策として研究倫理教育を開催して、受講者に理解度テストを行い教育効果を高めた。
		(研究支援課) 研究者行動規範を策定する。	(研究支援課) 研究者行動規範を制定し、研究費使用ガイドならびに本学ホームページに掲載し周知した。
		1. 臨床研究支援センターの機能(臨床研究教育、計画書の作成支援、統計解析支援、研究実施支援、モニタリング)を充実させ体制を強化する。 2. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に新規研究プロジェクトを申請し、臨床研究を推進する。	(研究支援課) 臨床研究支援センターを4月に設立し、Site Management Organization (SMO) による業務支援、更に7月に統計解析の専門家を招聘し臨床研究の支援体制を強化した。
			(研究支援課) 1. 臨床研究支援センターを新設し、Site Management Organization (SMO) による業務支援、専門家による統計解析などを行い臨床研究の支援体制を強化した。 2. 総合医科学研究センターの研究機器の共同利用、臨床研究を支援する体制に向けセンター組織改編、規程の改訂を行った。 3. 私立大学戦略的研究基盤形成事業の研究費により「ビタミンDならびに痛みに関する臨床研究」を実施した。 4. 総合医科学研究センター創立20周年記念シンポジウムを開催し研究成果の発表を行い、各講座との共同研究を推進した。 5. 文部科学省に採択された「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に基づき、本学の臨床研究を推進する研究基盤の形成に向けた研究が実施された。
		1. 先端研究を推進するための学内共同研究を支援する。 2. ホームページを通じ研究の情報を発信すると同時にシンポジウムなどを行い拠点センターにおける研究を推進する。	(研究支援課) 1. 学内共同研究の支援体制の強化を目的に臨床医学講座、基礎医学講座、総合医科学研究センターの研究者が共同で検索する東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費や特に優れた研究を重点的に支援した。 2. 科研費、基盤研究、科研費新学術領域計画研究、AMED研究費等の大型の外部競争的研究資金の獲得につなげることを目的に東京慈恵会医科大学戦略的重点配分研究費を創設し研究を実施した。 3. ホームページを通じ研究の情報を発信すると共に、総合医科学研究センター創立20周年記念シンポジウムシンポジウムを開催した。
		1. 大型プロジェクト対策委員会などを通して学内で複数のトランスレーショナル研究を推進する。 2. 萌芽的共同研究推進費を充実させ研究推進体制を振興する。	(研究支援課) 1. 基礎研究より得られたシーズを臨床応用につなげる「トランスレーショナルリサーチ」で、複数の早期探索的臨床研究を実施した。 2. 平成25年度に萌芽的共同研究推進費を新設し研究実施体制を充実させた。
	(大学事務部) 寄付講座設置に関する規約を整備する。 (研究支援課) 1. 寄付講座設置につながるような魅力ある学内研究を推進する。 2. 寄付講座の維持、研究を推進する。	(大学事務部・研究支援課) アレルギー学研究講座、慢性腎臓病病態治療学講座、先進内視鏡治療研究講座、先端医療情報技術研究講座の4講座を設置し運営した。 (大学事務部) 寄付講座に関する規約の整備は行わなかった。	

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ①自己点検・評価を推進し外部評価を行い、組織を再構築する。	・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25：0回 H26：1回 H27：1回 H28：1回	(研究支援課) 総合医科学研究センターが効果的に機能するよう組織の維持・管理を運営会議にて集中的に行う。	(研究支援課) 1. 「総合医科学研究センターあり方検討委員会」の答申に基づき、総合医科学研究センターの組織を再構築し規程を改訂した。 2. 研究部門と研究支援部門が分離し、研究支援部門での補助金を活用した円滑な組織運営体制を整備した。
②学内共同研究を企画・推進する。	・学内共同研究数 H25：35件 H26：42件 H27：35件 H28：40件	(研究支援課) 総合医科学研究センターを中心とした共同研究を推進する。	(研究支援課) 1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究費をもとに、学内講座などと共同で、ビタミンDに関する多くの臨床研究を実施した。 2. 神経科学研究部にて痛みに関する学内共同研究を推進した。
③各部署の特色ある研究を推進し、研究成果を積極的に開示する。		(研究支援課) 定期的に研究成果の発表を行い、各講座との共同研究を推進する。	(研究支援課) 1. 各講座間の共同研究の推進を目的に、研究成果発表会を継続して開催した。 2. 総合医科学研究センター設立20年記念シンポジウムを開催した。
(4) その他 ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	・公開講座開催数 (一般市民および地域医療者を対象) H25：37回 H26：36回 H27：32回 H28：32回	(教育センター) 4機関で30回の公開講座を開催する。	(教育センター) 今年度は4機関で公開講座を継続し、32回開催した。
3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。 ①特定機能病院としての機能を充実させる。	・先進医療承認件数 H25：7件 H26：6件 H27：8件 H28：8件 ・紹介率 H25：46.8% H26：67.5% H27：71.9% H28：70.0%以上 ・逆紹介率 H25：30.5% H26：52.5% H27：52.7% H28：50.0%以上	(管理課) 1. 特定機能病院としての機能を更に充実させるため、各診療科へ病院としての支援策強化や実施申請方法の簡素化に向けた検討を行う。 2. 厚生労働省ホームページなどを随時チェックし、最新情報を入手する。	(管理課) 1. 特定機能病院としての機能充実のため、高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に取組んだ。 2. 改定された特定機能病院の要件を満たした。 3. 厚生労働省の特定機能病院集中立入や関東信越厚生局の特定機能病院に対する立入検査を受け、指摘事項の改善に取り組んだ。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC病院1群としての各機能評価の充実 ・効率性指数 H25:0.00565 H26:0.00857 H27:0.00970 ・複雑性指数 H25:0.00000 H26:0.00000 H27:0.00010 H28:複雑性指数を「0.00010」より上げる ・カバー率指数 H25:0.00476 H26:0.00932 H27:0.00968 ・救急医療指数 H25:0.00226 H26:0.00464 H27:0.00473 ・地域医療指数 H25:0.00189 H26:0.00459 H27:0.00504 	(管理課) 1. 3,300件がん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 2. より質の高い患者相談に応じる。 3. 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケア体制を拡充する。 4. 緩和ケアチームの増員および緩和ケア外来の診療日増加を目指す。 5. がん診療連携パスの運用件数は80件を目標とし、更なる運用拡大を目指す。 6. 国立がんセンターとの交流により、「地域がん診療連携拠点病院」の機能向上を図る。 7. 緩和ケアチームを2チーム編成し、がん患者の疼痛緩和などの需要に対応する。 8. キャンサーボードの定例会議開催による腫瘍センター機能の更なる充実を目指す。	(管理課) 1. 院内がん登録件数目標値、3,300件を達成した。 2. 部位別の院内がん登録集計結果の公表やがん症例の冊子の発刊など、がん関連情報を学内外に発信した。 3. がん相談支援センターを中心として、「がん患者・家族の語りの会」を継続して複数回開催し、腫瘍センターサロン内の環境を整備した。 4. 緩和ケア診療部の新設、緩和ケアチーム会議の再開、緩和ケア研修会など緩和ケア体制を拡充した。 5. 複数の緩和ケアチームを中心に、より一層良質な緩和ケア診療を行った。 6. がん診療連携パスの運用件数は経年で増加した。 7. 国立がん研究センターとの連携を強化し、「地域がん診療連携拠点病院」の機能向上を図った。 8. キャンサーボードリーダー会議を通じて、腫瘍センターの機能充実を図った。 9. 外来化学療法室を8床増床し、療養環境を向上させた。
③人材育成 (スキルアップ) を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC地域医療指数・体制評価指数 H25:9.1P H26:9.6P H27:9.6P H28:10.0P 	(臨床研修センター) 1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討への出席を推進する。 2. 鏡視下手術トレーニングコースの運用を委員会を通じて継続する。	(臨床研修センター) 1. CPC、医療安全カンファレンスを継続して開催した。臨床研修修了要件でもあるため、研修医の受講状況は3年間良好である。 2. 附属4病棟の鏡視下手術トレーニングコースを継続して開催した。 3. 医療安全管理部と共同でレジデント1年目を主対象とした「医療安全・感染対策及び屋根瓦方式教育スキルアップのためのレジデントFD」を開催した。
④院内研修制度の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・5大がん+前立腺がんのパス運用数 H25:51件 H26:87件 H27:57件 H28:80件 	(教員・医師人事室) 医師採用時のオリエンテーションを医療安全推進室と共に実施し、受講率を100%とする。	(教員・医師人事室) 1. 初期研修医・レジデント採用時のオリエンテーションにて、医療安全推進室、感染対策室の協力を得て医療安全に関する研修を実施した。 2. 受講率は初期研修医は100%、レジデントは出向者など特別な理由を除く受講率は100%であった。
⑤専門職の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座数 H25:3回 H26:3回 H27:2回 H28:2回 ・研修医のCPC出席率 H25:95.8% H26:97.9% H27:97.5% H28:100% 	(看護部) 1. 前年度の教育課程修了者9名全員が認定資格を取得する。 2. 次年度の資格取得を目指し4名の看護師を4分野(摂食嚥下障害看護、緩和ケア、脳卒中リハビリテーション看護、救急看護)の教育課程へ進学させる。	(看護部) 1. 今年度、9名が認定看護師資格を取得し、専門看護師も2分野(小児看護・がん看護)において資格を取得した。 2. 今年度、4分野4名が教育課程へ進学した。 3. 平成25年度から平成27年度で認定看護師は9分野14名から16分野29名に増えた。専門看護師は、5分野8名から5分野7名と減少した。
⑥チーム医療の強化・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新規認定看護師資格取得者数 H25:0名 H26:5名 H27:9名 H28:4名 	(病院事務部) 1. Team STEPPSを管理者以外の教職員に再度浸透させ、医療安全および感染対策を強化する。 2. 特定機能病院としての機能を強化するために、紹介率、逆紹介率、DPC機能評価係数の向上を図る。 3. クリニカルインディケーターをホームページに掲載する。	(病院事務部) 1. 各年度複数回実施し、未実施の教職員の出席を募り成果をあげた。 2. 紹介率、逆紹介率共に上昇し50%を上回った。また、DPC病院1群としての各機能評価係数の充実を図った。 3. 2014年版の病院年報中に①全身麻酔件数②先進医療実施件数③認定看護領域別人数④院内がん登録の登録項目数⑤年間新入院がん患者数の5つの新指標を掲載した。平成28年9月15日までにクリニカルインディケーターをホームページに掲載できるよう準備を進めた。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
⑦救命救急体制の強化を図る。		(業務課) 1. 近隣救急隊と連携を密にとり、重症症例の救急搬送受入れ体制の周知を図るなど、時間外選定療養費制度導入の顕著な効果を引き出す。 2. 断らない救急体制の構築を図る。	(業務課) 1. 救急部委員会において、救急搬送断り件数を調査し、断り理由を委員会で報告、改善方法を検討するなど応需率引き上げに取り組んだ。 2. 救急患者責任医師の権限強化、救急入院患者の運用フロー見直しを行い体制強化を図った。
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	・先進医療新規認定数 H25: 0件 ※H25の申請件数は2件 H26: 1件 H27: 2件 H28: 2件	(管理課) 1. 診療科からの要望に対応できるよう常に最新の情報を収集する。 2. 医療の質・技術向上に取り組む、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。	(管理課) 1. 厚生労働省の最新情報を把握し、個別の医療技術ごとに先進医療の申請に向けた対応を行った。 2. 今年度、新たに2つの医療技術を申請し承認された。うち1件は厚生労働省からの要請による当院で初の新規先進医療技術の承認である。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。 ①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	・院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 1,423 ・院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 80件	(医療安全管理部・感染対策室) 1. ハイリスク合同カンファレンスの活性化と円滑な運用を図る。 2. Team STEPPSを主体とした医療安全文化の醸成を図る。	(医療安全管理部・感染対策室) 1. ハイリスク合同カンファレンスは、現場の要望に応じ継続して開催した。複数の診療科や多職種を交えてのカンファレンスは、チームを意識し、より安全で質の高い医療を目指す活動として定着している。 2. 「管理者のための医療安全・感染対策研修会」を実施し、対象者を各病院院長、医療安全関係者に拡大するなど計画的に実施した。 3. 各部署にTeamSTEPPS推進メンバーを配置し、部署ごとの目標を設定して取り組んだ。医療安全推進週間では、附属4病院合同シンポジウムにおいて、各病院のTeamSTEPPSの取り組みを発表し、当院におけるチーム医療の推進に貢献した。 4. 病棟ICTを立ち上げ、現場と感染対策室が協働して感染対策の推進に取り組んだ。 5. 病棟ICT活動を通し、多職種で感染対策に取り組む組織風土の醸成につなげた。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果
<p>(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。</p> <p>①インフォームド・コンセントを徹底する。</p>	<p>・苦情・クレーム件数 (管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 250件 (看護部) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 110件以下</p> <p>・説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 5件</p>	<p>(病院事務部) クレーム対応やご意見箱への投書内容から抽出したインフォームド・コンセント関連項目を該当部署へフィードバックし、患者、家族の満足度向上を図る。</p> <p>(業務課) 正しいインフォームド・コンセントを徹底するために、改善指導や関連委員会などで警鐘事例報告を行う。</p> <p>(患者相談室) 患者、家族からのインフォームド・コンセントに関する相談時は、説明を補完し、各科との連携を密に取り患者の理解を深める。</p> <p>(看護部) 可能な限りインフォームド・コンセントに同席し患者、家族の意思決定支援を行う。</p>	<p>(病院事務部) 患者からのクレームやご意見を「患者サポート打ち合わせ」で事例分析した結果を、該当部署にフィードバックした。</p> <p>(業務課) 1. 患者の合意に基づくインフォームド・コンセントの体制を整備した。 2. ご意見箱を増設し、より多くの意見を収集する体制に改めた。 3. 病院機能評価受審を機に説明と同意書の内容整備を重点的に行った。</p> <p>(患者相談室) 患者からの相談、クレームを担当し、対応事例の傾向分析を行った。医師の説明の不足に関するものについては、状況を検証したうえで、患者の理解を得られるよう各診療科と情報を共有した。</p> <p>(看護部) 「入院診療計画書」、「退院支援計画書」を活用し、インフォームド・コンセント、意思決定支援の指標として評価した。・入院診療計画書提出率目標100%に対して実績99.4%・退院支援計画書1週間以内の着手率目標70%に対して実績62.2%</p>
<p>②教職員マナーの向上を図る。</p>		<p>教職員マナー月間(春・秋)を設け、服装・接遇の向上を図る。</p>	<p>(病院事務部) マナー月間を新設し、マナーに関わる研修会や院内ラウンドなどを計画的に行い、教職員のマナー向上を図った。</p> <p>(看護部) 1. 院長の「Etiquette-Based Medicine (EBM) 実践」をもとに、特に医師のマナー向上を目指し「患者サービス向上WG」を新設し、マナー強化月間の実施やマナーモデルの選出、マナー委員とマナーモデルを対象とした研修などマナー向上の取り組み強化した。 2. 「身だしなみポスター」による、医師のマナー向上に向けた取り組みを推進した。 3. マナーに関する苦情・クレーム投書件数を新たに集計した結果、年度末にかけて減少傾向であった。投書総数の104件のうち医師36件、看護師23件、事務員19件、他26件である。</p>
<p>(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。</p> <p>①患者支援・医療連携センターの機能を十分に発揮する。</p>	<p>・紹介率(保険法) H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 71.9% H28: 70%以上</p> <p>・逆紹介率 H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 52.7% H28: 50%以上</p>	<p>(患者支援・医療連携センター) 1. 患者を断らない病院を目指す。また紹介元へ必ず返書する。 2. web予約の導入と運用の拡大を図り、初診患者の収患率を高め、紹介率を向上させる。 3. 病院検索システムの導入と同窓開業医マップを更新する。 4. 新規紹介患者増加を推進する。 5. 病診連携、病病連携を推進しPFMの活性化を図る。</p>	<p>(患者支援・医療連携センター) 1. 紹介率70%以上かつ逆紹介率50%を維持した。 2. 同窓開業医マップ更新を図り今まで以上に利便性を向上させた。 3. 逆紹介先医療機関の選定に役立つ病院検索システムを構築させた。 4. 外来予約枠を拡大させ、web予約システムの運用を開始した。 5. FAX・web予約ともに新規紹介患者数が増加した。 6. 「働く人の健康支援研究会」を事務局として開催し、産業医との医療連携を拡充した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(6) 臨床研究を促進する。 ①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。		(治験センター) 1. 臨床研究支援センターと連携し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針および運用ガイドランスなどに対応し、研究の実施を支援する。 2. 臨床研究を適正に実施するための実施手順およびデータの信頼性確保に対する支援体制を構築する。 3. 臨床試験や治験に係る病院および大学の各部門と連携し、臨床研究の実施体制を強化する。	(治験センター) 1. 臨床研究支援センターに治験事務局を移転し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に沿った研究支援ができる体制の強化を進めた。 2. 臨床研究の適正実施およびデータの信頼性確保のためのモニタリングについて、計画書の雛形作成や手順の作成などの支援体制を整えた。 3. 臨床研究および治験に係わる学内・院内の各部門と連携し、倫理委員会のサポートやモニタリングなどへCRCの業務を拡大した。 4. 研究者への支援および倫理指針教育を開始した。
(7)効率的医療を推進する。 ①効率的な診療体制の構築を図る。	・中央棟手術室利用率 (日勤帯) H25：70% H26：70% H27：71% H28：70%	(病院事務部) SCU (ストロークケアユニット) を稼働し、年間増収予算を達成する。	(病院事務部) 1. 中央棟手術室の利用率は横ばい、外来棟手術室の利用率は増加した。 2. web予約の導入、外来予約枠の拡大を図った。 3. SCUの稼働は届出の関係で予定より1ヶ月遅延したため、予算達成率は91%に留まった。
②手術室の安全で効率的な運用を図る。	・外来棟手術室利用率 H25：42% H26：37% H27：37% H28：40%	(管理課) 【運用面】 1. 手術件数減少の要因にならないよう、適切な運用を引き続き心がける。 2. SCUの設置に伴い、緊急手術の受け入れ態勢を充実する。 3. 外来棟手術室の内視鏡部利用により、50%の利用率を目指す。 【安全対策】 1. 術野感染 (SSI) の発生数を減少させる。 2. 再手術例の検討をより充実する。 3. 外来棟手術室での内視鏡部利用に伴い、介助も含めてリスク管理を向上させる。 【管理面】 1. 医療材料管理システムの導入により、効率的運用ができるようにする。 2. 収益を意識した手術データ管理と情報の共有を図る。 3. 新外来棟建築後の運用を踏まえた管理体制を構築する。	(管理課) 【運用面】 1. 手術件数は減少傾向だが、手術枠縮切日時の運用変更や外来棟手術室の有効活用 (内視鏡部利用、侵襲性の高い処置・検査の施行) を実施した。 2. SCUの設置に伴い、緊急手術の受け入れ態勢を構築した。 3. 外来棟手術室の利用率は37%である。 【安全対策】 1. 術野感染 (SSI) の発生数は横ばいである。 2. 再手術WGにて再手術例を検討した。 3. 外来棟手術室での内視鏡部利用に伴い、看護師の技術面を向上させた。 【管理面】 1. 医療機器認証システムを今年度には一部導入した。 2. 毎月の手術部ミーティングでHOGYメディカル、慈恵実業と連携を図り、収益を意識した手術データ管理と情報の共有を図った。 3. 新外来棟建築後の運用を踏まえた管理体制を構築中である。
③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。		(業務課) 1. 救急部来院者データベースシステムの導入効果を最大限に引き出し、救急搬送患者の受入れ強化を図る。 2. 断らない救急受入れ体制を構築する。	(業務課) 救急患者責任医師の権限強化を含めた救急入院患者の運用フロー見直し、芝消防署訪問による救急搬送依頼などにより、救急患者の更なる受入体制を整備した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果
<p>(8) ICTを充実し、有効活用する。</p> <p>①電子カルテを導入する。</p>		<p>(システム課)</p> <p>本院の電子カルテシステム稼働に向けて、導入した病院の稼働状況、懸案事項を関連委員会にて検討を開始する。</p>	<p>(システム課)</p> <p>1. 晴海トリトンクリニックにて電子カルテシステムの稼働を開始した。</p> <p>2. 本院電子カルテシステムのベンダ選定に向けた要件定義書の作成を開始した。</p>
<p>(9) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。</p> <p>①月次医療収支額を把握し活用する。</p>	<p>・特殊材料費・消耗品費 経費率</p> <p>・特殊材料費</p> <p>H25：9.17%</p> <p>H26：9.40%</p> <p>H27：9.46%</p> <p>H28：9.40%</p> <p>・消耗品費</p> <p>H25：4.74%</p> <p>H26：4.91%</p> <p>H27：5.05%</p> <p>H28：5.00%</p> <p>・原価率</p> <p>H25：92.9%</p> <p>H26：95.3%</p> <p>H27：確定後設定</p> <p>H28：確定後設定</p> <p>・後発医薬品の数量シェア</p> <p>H25：24.5%</p> <p>H26：41.3%</p> <p>H27：76.3%</p> <p>H28：80.0%</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>医療収入の改善策を計画・実行し、医療収支予算を達成させるため、各診療部との面談を実施する。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>本院病院経営検討会および保険診療適正化WG（仮称）を中心に医療収支の改善や保険診療の適正化について取組む。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>ジェネリック導入推進、医療材料の低減、委託費の適正化を図り、医療利益予算を達成する。</p> <p>(企画部)</p> <p>1. DPC様式1およびDファイルによるベンチマークを継続し、経営上有益なデータを分析・報告し、経営改善に活用する。</p> <p>2. 病院機能分化に伴う特定機能病院の要件に関わる分析・情報提供を行う。</p> <p>3. 診療部長面談などにて迅速な情報提供を行い、経営改善に活用する。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>今年度、院長・診療部長面談を実施し、下半期の増患対策・増収対策を確認し確実な実行を依頼した。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>病院運営検討会において医療収支状況の情報共有を行い、改善に取り組んだ。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>毎月作成している医療収支報告書を検証、対予算差異分析を行い、医療経費率のチェック、請求漏れや余剰在庫などを把握し適正化につなげた。</p> <p>(企画部)</p> <p>1. 経営上有益なデータを分析・報告し、経営改善に活用することを目的にベンチマークを継続した。</p> <p>2. DPC様式1およびDファイル、特定機能病院、がん診療連携拠点病院など医療の質に係わる指標を新たにベンチマークした。</p> <p>3. データの有効活用を図るため、交換指標の定義統一や報告書様式を変更した。</p> <p>4. 病院の収支改善、診療報酬関連、建築計画などの課題に関連したデータの収集・報告を迅速に行った。</p> <p>5. 大学間のデータ収集、管理、報告業務を継続した。</p>
<p>②他大学とのDPCデータのベンチマークを実施し、活用する。</p>			

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
③医療材料のSPD業務の再編の評価を行う。		<p>(病院事務部・施設課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用度業務委託に関する評価と将来計画を策定する。 2. 医療材料に対するベンチマークを実施する。 3. 購入単価チェック体制を見直す。(購入単価決定までの決裁権限、承認基準等について再考する。) <p>(病院事務部)</p> <p>医療安全面に配慮しながら、後発薬品への切替えを進める。厚生労働省の掲げる後発薬品数量シェア60%を早期に達成する。</p> <p>(企画部)</p> <p>コストマネジメント・プロジェクトを中心に、内部環境の把握、大型診療機器管理システムの構築、医療材料・物流管理システムの効率的運用、各診療科(教職員)へのコスト意識の周知を図る。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>機能評価係数の対象期間平成25年10月から平成26年9月の後発薬品数量シェアは29.6%、平成26年10月から平成27年3月は50.7%、平成26年10月から平成27年9月は58.3%であったが、平成27年10月以降も増加傾向である。平成28年1月にも後発医薬品切替を行い更なる増加となった。</p> <p>(施設課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コストマネジメント・プロジェクトが発足し、循環器領域や整形外科の特殊材料費の経費削減活動に着手したが、価格の妥結には至らなかった。 2. ベンチマークシステム導入に向けた検討を開始した。 3. 4病院共同購入を継続し、消耗品の経費削減を推進した。 <p>(企画部)</p> <p>コストマネジメント・プロジェクトを発足し、医療材料・物流管理システムの効率的運用、改善方法を検討したが、実施までは至っていない。</p>
<p>(10) 情報公開の条件を整備する。</p> <p>①診療情報を評価するシステムを構築する。</p>	<p>・情報公開項目数 (手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件</p>	<p>(管理課)</p> <p>7大学ベンチマーク会議などにおける情報交換を継続する。</p>	<p>(管理課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 7大学ベンチマーク会議などにおける情報交換を継続した。 2. 2014年版の病院年報に①全身麻酔件数②先進医療実施件数③認定看護領域別人数④院内がん登録の登録項目数⑤年間新入院がん患者数の5つの新指標を掲載した。
<p>(11) 晴海トリートメントクリニックの現状評価と将来構想</p> <p>①晴海トリートメントクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。</p>		<p>(晴海トリートメントクリニック)</p> <p>マスタープランの策定において、今後の晴海トリートメントクリニックのあり方、将来構想を検討する。</p>	<p>(晴海トリートメントクリニック)</p> <p>晴海トリートメントクリニックの将来構想について検討したが、具体的な計画の策定には至らなかった。</p>
②医療機器の計画的な更新を図る。			<p>(晴海トリートメントクリニック)</p> <p>晴海トリートメントクリニックの将来構想が策定されないため、高額機器などの更新計画は未定である。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果
(12) 総合健診・予防医学センターの充実			
①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・がん早期発見率 (平成24年度実績ベース) <ul style="list-style-type: none"> H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% H28: 0.1% 	(総合健診・予防医学センター) 1. ドック受診後の結果説明から医療機関受診までの連携を図り紹介状の回答率を10%アップする。 2. 機能評価受審後指摘事項を改善し、健診の向上に努める。 3. がん登録を確立する。	(総合健診・予防医学センター) 紹介状、検査依頼票、胸部・腹部CT画像のオーダーリングシステムを導入し、病院との連携を図った。
②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドローム該当者率 (平成24年度実績ベース) <ul style="list-style-type: none"> H25: 14% H26: 7% H27: 5% H28: 6% 	—	(総合健診・予防医学センター) 保健師による特定保健指導および生活指導の徹底を図った。
③女性検診の充実化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・女性検診での早期異常状態発見率 (平成24年度実績ベース) <ul style="list-style-type: none"> H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.0% H28: 3.0% 	(総合健診・予防医学センター) 4. 女性検診(経膈超音波)の検診数を増やし早期発見に努める。	(総合健診・予防医学センター) 経膈超音波を希望する健診者が増加し、女性疾患の早期発見につながった。
●葛飾医療センターに関する目標			
(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。			
①病院機能評価を受審し認定病院となる。		(葛飾医療センター) 病院としてのプロジェクト立ち上げ時期を明確化し、受審までのスケジュールを策定する。	(葛飾医療センター) 1. 病院機能評価受審時期とスケジュールを明確化した。 2. 準備WGを発足し、検討を開始した。 3. 病院機能評価受審準備委員会を立ち上げた。
(2) 健全財政を維持する。			
①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。		(葛飾医療センター) DPC分析とクリニカルパスの拡充、推進を図る。	(葛飾医療センター) 1. 医療の質を担保しつつクリニカルパスを計画的に拡大する取り組みを推進した。 2. 入院症例の多い疾患および放射線治療開始に伴う新規クリニカルパスの作成を検討した。
②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。		(葛飾医療センター) 1. 医療収入と医療材料費の相関チェックを行う。 2. 人件費と委託費の相関チェックを行う。	(葛飾医療センター) 1. 予算執行額一覧、予算執行収支バランス表に基づき、医療収入と医療経費の相関チェックを継続しコスト管理を徹底した。 2. 委託費と人件費の相関チェックをもとに委託費の抑制を図った。
③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。		(葛飾医療センター) DWHによるデータを活用し、収益性・機能性分析などの実践から管理会計を強化する。	(葛飾医療センター) データの抽出を行い患者数および増収項目などの経営指標のモニタリングを行い、管理会計に基づいた対策を講じた。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(3) オープン・システムを拡大する。	①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。	(葛飾医療センター) 1. 登録医を拡大する。 2. 南葛飾ネットワーク(NKネット)および地域行政との連携強化を図る。	(葛飾医療センター) 1. 登録医の拡大を推進した結果、今年度は28施設、30名を追加登録した。 2. NKネットを利用した病病連携を行い、円滑な転院調整を図った。
	②教育研修制度を整備する。	(葛飾医療センター) 訪問看護ステーションの支援を継続し、看護師復職支援事業の再開を検討する。	(葛飾医療センター) 1. 地域からの要望が高い訪問看護ステーションへの支援として「ICTを活用した訪問看護ステーション情報集約・発信モデル事業」への登録を行い、訪問看護ステーションからの相談や同行訪問に応じる体制を整えた。 2. 訪問看護同行(ストーマケア)、訪問看護体験実習、地域との合同事例検討会を継続して開催した。 3. スキルアップ研修など地域からの研修参加を受入れた。 4. 訪問看護ステーションからの研修を受入れた。
	③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	(葛飾医療センター) 公開セミナーを充実する。	(葛飾医療センター) 公開セミナーを継続して開催し、地域の健康管理・健康増進に貢献した。
(4) 診療重点機能を強化する。	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	(葛飾医療センター) 1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入れ体制を強化する。 2. 救急車応需率および救急患者数を増加させる。 3. 総合内科体制を再構築する。	(葛飾医療センター) 1. PCUと専門外来の連携強化として、緊急コンサルテーション枠を全科に設定する検証を行った。 2. 救急受入れ体制の強化として134医療機関を対象に連携登録医専用緊急ホットラインを開設した。 3. 今年度の救急搬送件数は3,737件(対前年度比-34件)であった。救急ホットライン応需率は54.9%である。 4. 総合内科体制は、内科救急あり方検討会にて検討している。
	②手術室を効率的に運用する。	(葛飾医療センター) 手術室の稼働率および手術患者数を増加させる。	(葛飾医療センター) 1. 手術部の効率化推進と稼働率向上を図るため、手術枠、予約締切日の見直し、インターバルの短縮を検討した。 2. 今年度の手術件数は4,450件で稼働日1日あたり18.4件と対前年度比-0.2件の減少であった。手術室稼働率は57.5%で対前年度比3.0%向上した。
	③集中治療室(ICU・CCU)を効率的に運用する。	(葛飾医療センター) 麻酔部人員の充足と集中治療室病床を効率的に稼働する。	(葛飾医療センター) 1. 麻酔部人員は、レジデントを含め一定程度充足した。 2. 今年度の集中治療室稼働率は44.6%で対前年度比2.3%増加した。 3. 麻酔管理部門システムPIMSを利用し、医療上の質と安全性を担保した。 4. 麻酔部と集中治療部門が連携し、患者状態の把握と医療の質・安全性向上につなげた。
	④当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	(葛飾医療センター) 1. 次年度は10床拡張するが、初年度は5床増(計25床)の運用で10,900件を目標とする。 2. 血液透析室の増床および透析患者を増加させる。	(葛飾医療センター) 1. 血液透析ベッドを5床増床し運用した。 2. 透析件数は経年で増加し目標件数を上回った。 3. 今年度は1ベッドあたり1.54回転であった。
	⑤がん治療を重点化する。	(葛飾医療センター) 1. 東京都がん診療連携協力病院(大腸がん)事業を推進する。 2. がん治療の再稼働を開始する。	(葛飾医療センター) 1. 東京都がん診療連携協力病院事業のがん登録と国立がん研究センターへのデータ提供を継続し、院内緩和ケアカンファレンスや院内がんカウンセリングの運用を進めた。 2. がん放射線治療を再開した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(5) 大規模災害に備える。 ①BCP(事業継続計画)を策定する。		(葛飾医療センター) BCPの実効性の検証を継続する。	(葛飾医療センター) BCP(事業継続計画)の見直しを図り改定した。
②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。		(葛飾医療センター) DMAT隊員の増員を再検討する。	(葛飾医療センター) 業務調整員の対象者を選出し構成員としたが、増員申請に必要な講習会への参加枠が東京都より提示されていないため、受講でき次第増員する。
(6) 第二期建築計画を実現する。 ①部門毎に活動性を検証し基本計画を立案する。		(葛飾医療センター) 別館増築工事を6月に竣工させる。	(葛飾医療センター) 別館増築工事が当初の計画通りに進捗し竣工した。
●第三病院に関する目標 (1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。		(第三病院) 内科の救急体制を整備する。	(第三病院) 1. 病床運用の効率化や医師・看護師との連携を図り、救急搬送患者の円滑な受入れを継続して実施した。 2. 救急隊からのホットライン(外線直通回線)を救急室からの操作で内科i-Phoneへつなげるようシステム変更を実施し、待ち時間の短縮を図った。
①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。	・救急搬送数 H25: 383件 H26: 332件 H27: 272件 H28: 300件	(第三病院) 手術室の稼働率とインターバルを検証し効率化を図る。	(第三病院) 1. 各診療科の手術稼働率を分析し、平成27年6月に手術枠の見直しおよび自由枠運用を開始した結果、目標の6,000件を達成し、6,121件であった。 2. 術間インターバル削減について分析、検討を重ねた結果、正確な手術予定時間申し込みの徹底と手術後の患者のリカバリーの専任看護師を配置し、改善に努めた。 3. 電子カルテ導入に伴い、手術・中材委員会を中心に調査、検討し手術枠の柔軟な運用を図った。
②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	・手術件数(年) H25: 5,757件 H26: 5,654件 H27: 6,121件 H28: 6,000件 ・病床稼働率(一般) H25: 84.0% H26: 83.6% H27: 83.8% H28: 84.0%	(第三病院) 入院経路を精査し新入院患者を増やす。	(第三病院) 地域医療構想策定を踏まえ病床機能の再編を検討した。
③病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	・紹介率 H25: 38.2% H26: 53.9% H27: 56.7% H28: 60.0%	(第三病院) 医療連携システムを導入し紹介元医療機関との連携を強化する。	(第三病院) 1. 紹介・逆紹介WGを設置し紹介患者数の増加に向け検討を行い、各科カンファレンスの開催、訪問活動、医療連携フォーラムの開催、患者毎のかかりつけ医の登録などの施策を実行した。 2. 医療連携システムの導入によりweb予約を開始した。 3. 在宅医療推進のため、在宅医療支援診療所、訪問看護ステーション、行政との勉強会やカンファレンスを実施し連携を強化した。
④医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。	・逆紹介率 H25: 18.6% H26: 32.0% H27: 37.4% H28: 40.0%		
(2) 新病院建築に向け病院機能と財政基盤を確立する。 ①収支を改善し、新病院建築前まで単独での投資資金を確保する。		—	—
②中期的な大型投資計画、資金計画を策定し、経営課題を分析改善する仕組みを作る。		—	—

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。		(第三病院) 1. 16棟の建築物を撤去する。 2. 新病院の基本構想に向けマーケティング調査を実施する。	(第三病院) 1. 新医局棟が竣工した。 2. 既存不適格建物の撤去が完了した。 3. 第三病院リニューアルTF準備会で新病院に係わる検討を開始した。
			(第三病院) 1. 緊急医療救護所設置訓練に薬剤師会からスタッフを参加させ、今後の連携強化につなげた。 2. 災害拠点病院の機能を果たすよう、自治体、医師会などの関係機関との役割を協議し、災害協定の実効性の強化を推進した。
(4) 特色ある医療を強化する。	・精神神経科入院患者数（1日平均） H25：10名 H26：10名 H27：10名 ・外来患者満足度「次回も当院をご利用いただけますか」 H25：91% H26：92% H27：99% H28：90% ・入院患者満足度「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25：84% H26：98% H27：98% H28：90%	(第三病院) 森田療法の情報発信を継続する。 (第三病院) 1. 外構整備に合わせて駐輪場整備工事を実施する。 2. 第2期サイン計画および病棟整備工事を継続し、老朽化した個室の整備などを実施する。	(第三病院) 診療案内、市民向け公開講座、学会など院内外で森田療法に係わる情報提供を行った。 (第三病院) 1. 駐輪場整備工事をを行い、患者用と教職員用にスペースを区分することができたため、混雑がほぼ解消された。 2. 患者サービスの向上を目的に院内サインの見直し、トイレなどのアメニティの改善を図った。 3. 「患者さん、ご家族、ご面会の皆様からの声」で寄せられる投書に対して、患者満足度の向上を主眼とした患者対応を再整備した。 4. 電子カルテの導入により、外来待ち時間が大幅に短縮された。
①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。 ②患者満足度の高い病院への改善を図る。			(5) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。
①電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	(第三病院) 1. 電子カルテシステムを稼働し、病院情報システムのフル電子化を果たした。 2. 地域連携システム「HumanBridge」が稼働し、web予約を開始した。		
(6) 大規模災害に備える。		(第三病院) 1. 災害時の連絡体制、物資の供給取引状況を検証する。 2. 災害時を想定した各部署の優先業務の整理を実施する。	(第三病院) 1. 災害用備品の点検と補充を継続し、大規模災害に備えた。 2. 災害時の各部署における初動対応を中心に防災訓練を実施し、災害対策本部設置などの優先業務に係わる現行のBCPの課題を抽出した。
			(第三病院) 継続して行政などによる訓練に協力する。 (第三病院) 1. DMATの技能の維持向上に向け、大規模地震時医療活動訓練、DMAT関東ブロック訓練に参加した。 2. DMATの第2チーム編成に向けた取り組みを継続した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成 25 年度～平成 27 年度 実施結果
<p>(7) 人材確保・育成・活用の推進を図る。</p> <p>①職員の人材育成制度を強化する。</p>		<p>(第三病院)</p> <p>1. 労働生産性向上につながる学内研修会開催の企画や、学外研修会への参加を実施する。</p> <p>2. 患者サービスの向上につながるため多角的検証と情報収集により研修会を実施する。より専門性の高い外部機関、講師を活用する。</p>	<p>(第三病院)</p> <p>1. 外部研修、セミナーへの参加、医療セミナー、接遇研修、患者サービス講演会の開催、チーム医療の推進活動を主体的に行い、人材育成を図った。</p> <p>2. 患者サービスWGを中心にあいさつ奨励のキャンペーンを実施し、教職員の連帯を強化した。</p>
<p>●柏病院に関する目標</p> <p>(1) 医療の標準化・効率化を推進する。</p> <p>①医療の標準化、効率化により、医療の質の向上と安全を確保する。</p>	<p>・DPC効率性指数 H25：0.00577 H26：0.00739 H27：0.00739</p> <p>・レジメン登録件数 H25：430件 H26：470件 H27：501件 H28：500件</p> <p>・手術件数 H25：7,839件 H26：7,628件 H27：7,673件 H28：7,700件</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 薬剤投与関連の問題点の抽出、検討をもとに改善する。</p> <p>2. コミュニケーションエラー対策を強化する。</p> <p>3. 安全な薬剤投与に向けたシステムを再構築する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 電子カルテシステムによるレジメンオーダーを完全実施し、薬剤部による抗がん剤調製の一元化を図った。</p> <p>2. 安全な薬剤投与に向けて、処方箋様式、与薬指示票(看護控)の帳票改訂を行った。</p> <p>3. 外来・PFMと薬剤部との連携強化を図り、医師の診察前に薬剤師が周術期中止薬のスクリーニングを行う運用に改定した。</p>
<p>②手術室の安全性の向上と効率化を図る。</p>	<p>・クリニカルパスの導入件数 H25：5,354件 H26：5,103件 H27：4,535件 H28：5,000件</p> <p>・緩和ケアチーム年間介入数 H25：95件 H26：116件 H27：139件 H28：140件</p>	<p>(柏病院)</p> <p>電子カルテの問題点、課題を克服し、安定稼働させる。</p> <p>(柏病院)</p> <p>1 C手術室の更なる拡充により、継続的に外来手術件数の増加を図る。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 病院情報システム(電子カルテシステム)導入を計画的に進め、稼働を開始した。</p> <p>2. 病院情報システムの問題点や改善要望は、「システム連絡票」を活用し意見をまとめた。</p> <p>3. 電子カルテWGで運用上の諸問題について解決策を検討し、HIS委員会へ改善提案を行った。</p> <p>(柏病院)</p> <p>1. 手術枠を見直し、術間インターバルの縮減対策および局所麻酔手術は1C手術室を使用するなどの改善策を推進し、効果的な手術室運用を推進した。</p> <p>2. 硝子体注射の実施を手術室から外来ブースへ移行し、全身麻酔の手術枠を確保した。</p> <p>3. 1C手術室を改修し、「外来手術センター」に変更、運用手順・内規を整備すると共に3階中央手術室の稼働率向上に向けた取り組みを進めた。</p> <p>4. オープン枠であった木曜日手術枠を外科が使用することとし運用を開始した。</p>
<p>③医療材料を中心としたSPD方式の手術キット、DRGセットを評価し、効率化と医療経費の削減を図る。</p>	<p>・院内褥瘡発生率 H25：1.11% H26：0.80% H27：0.75% H28：0.70%</p> <p>・NST介入件数 H25：443件 H26：443件 H27：444件 H28：450件</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 手術キットの材料、DRG内容の使用量の精査、随時見直しを行う。</p> <p>2. 医材物流WGを活用し共同購入を推進する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 附属4病院物流WGでの検討に基づき定数配置の見直しを行い経費節減につなげた。</p> <p>2. DRGセットの集約および手術キットを見直した。</p> <p>3. 4機関でのスケールメリットを生かし価格交渉、9項目の医療材料切替を実施し、価格を抑えた。</p> <p>4. 定期的な棚卸と定数見直しを行い、不動産の削減などにつなげた。</p> <p>5. 共同購入の提案品全てを切替え、経費を削減した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
④DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。		(柏病院) 電子カルテに既存クリニカルパスオーダを登録し、紙媒体のクリニカルパスや新規クリニカルパスの審議、承認、登録を行う。	(柏病院) 1. 診療科別診断群分類のコストと疾病原価の分析を行い、診療部長と面談にてクリニカルパスの見直しおよび入院日数の短縮などの協力要請を行った。 2. 後発医薬品への切替えや術前ERAS食(Enhanced recovery after surgery)導入に伴うクリニカルパス変更を行うと共に、月毎にバリエーション件数を集計し、適正なクリニカルパスの運用に努めた。 3. 電子カルテの導入に伴い、クリニカルパスの新規登録申請方法の運用を定め周知した。あわせて、紙から電子カルテへの移行を推進した。
⑤患者のためのチーム医療を推進する。		(柏病院) 1. 緩和ケアチーム 早期からのがん患者支援体制の充実を図る。 2. 栄養サポートチーム (NST) ・NSTの介入および算定数増を図る。 ・NST勉強会の更なる充実を図る。 ・電子カルテ導入後のNSTカルテ運用を検証する。 3. 褥瘡対策チーム 褥瘡ケアを更に充実させ、急性期患者の褥瘡予防、回復促進、重症化予防に努める。	(柏病院) 1. 緩和ケアチームメンバーの専門性を活かした活動のもと新規依頼件数が増加し、他職種と協働し全人的な苦痛緩和を実現した。研修会などを通じ専門知識と技術向上を図った。 2. 栄養サポートチーム(NST)NSTカンファレンスや回診、勉強会の充実を図り、算定件数が増加した。 3. 感染対策委員会抗菌薬ラウンド、血液培養陽性患者に対するラウンドを強化した結果、カルバペネム系抗菌薬に対する抗菌薬使用密度(AUD)はまだ高い傾向ではあるが減少した。他職種と連携したセミナーの実施と定期的にICTニュースを発行した。 4. 褥瘡対策手委員会褥瘡のリスクファクターおよび患者状態を各専門職の視点から多面的に評価し、患者個々の特性に応じた効果的な対策、治療を実践した。急性期患者の褥瘡の予防、回復促進、重症化予防に努めた。院内褥瘡発生率を0にするために、褥瘡回診、カンファレンスを栄養部、リハビリ科を中心に取り組み、褥瘡計画書の計画立案を推進した。
(2) 地域中核病院として十分に機能する。 ①病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。	・診療部BSC作成数 H25：20部門 H26：22部門 H27：22部門 ・市民公開講座開催件数 H25：2回 H26：3回 H27：3回 H28：3回 ・救急搬送数 H25：3,034件 H26：4,246件 H27：4,587件 H28：4,600件 ・救急患者数 H25：7,112名 H26：7,537名 H27：7,919名 ・平均在院日数 H25：12.6日 H26：14.2日 H27：14.8日	(柏病院) BSC(バランスト・スコアカード)をブラッシュアップする。 (柏病院) 病院および地域がん診療連携拠点病院が主催する「市民公開講座」を地域住民や行政への啓発として更に充実させ、平均参加者を150名とする。 (柏病院) 1. 積極的に救急患者を受入れる。 2. 救急隊との連携を強化する。 3. 救命救急センターの円滑な運営のための全診療部による救急部のバックアップ体制を強化する。	(柏病院) 1. 各部署のBSC作成を推進した。 2. 今年度柏病院BSCのヨコの因果関係(アクションプラン、アクションプラン詳細、指標の因果関係のつながりなど検証を行った。 3. 中期計画、事業計画などを推進するために、BSCを用いた戦略的な目標管理を病院全体で行いBSCの精度を高めた。 (柏病院) 1. 病院主催の市民公開講座を開催した。 ・「見逃してはいけない認知症のサイン」70名参加 ・「誰でも知ってる皮膚疾患」18名参加 2. 地域がん診療連携拠点病院主催の市民公開講座を開催した。 ・「がんと食事・お口のケアについて」165名参加 ・「がん診療における漢方と緩和ケアについて」136名参加 ・「キズがきれいでも痛くない手術」134名参加 ・「胃がんは怖くない、早期発見と根治を目指して」126名参加 ・「膵臓がんのお話」181名参加 ・「人には聞けない泌尿器のはなし」250名参加 (柏病院) 1. 救急部と全診療科の連携を強化し、救急患者を積極的に受入れた結果、救急患者数、救急搬送数共に増加した。 2. 病院の基本方針、「原則として救急受入れ要請を断らない」ことを徹底し、救急患者受入れ要請を断った場合の理由書提出を義務化した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
②周産期センター化を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1日平均外来患者数 H25: 1,551名 H26: 1,477名 H27: 1,543名 	(柏病院) 3年から5年先の周産期センター化に向けた検討継続する。	(柏病院) 1. 4B病棟(産婦人科病棟)の改修工事が竣工し、平成26年12月20日より運用を開始した。 2. 周産期センター化に向けWGを設置し具体的な検討を進めている。
③患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・1日平均入院患者数 H25: 541名 H26: 543名 H27: 562名 ・先進医療の承認および実施件数 H25: 3件24症例、新規承認0件 H26: 2件10症例、新規承認1件 H27: 2件5症例、新規承認0件 H28: 3件10症例、新規承認1件 ・紹介率 H25: 55.0% H26: 63.4% H27: 68.5% H28: 70.0% ・逆紹介率 H25: 36.7% H26: 46.9% H27: 43.0% H28: 50.0% ・地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価) H25: 7名 H26: 2名 H27: 19名 	(柏病院) 1. PFM機能強化による病床の効率的運用を推進する。(平均在院日数の短縮) 2. 増床後の病床配分を見直す。(地域医療体制動向への対応、看護効率に配慮した病棟ユニット構成、病棟単位での医療機能要件の維持、共用床への転換による効率的な病床運用)	(柏病院) 1. 入院から退院支援を継続的に行うことで病床の効率的な運用に努めた。 2. 全予定入院患者に対して入院前看護面談を実施した。 3. 後方連携では、メディカルソーシャルワーカー(MSW)、退院調整看護師の介入による受入医療機関との連携強化により、入院患者(30日以上)の転院などを推進した。 4. 病床利用率の向上を目的に全科共有床に転換したが、利便性低下が見られたため共有床の各科再配分を行った結果病床利用率が向上した。
④東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・逆紹介率 H25: 36.7% H26: 46.9% H27: 43.0% H28: 50.0% ・地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価) H25: 7名 H26: 2名 H27: 19名 	(柏病院) 1. C棟1階手術室の改修を検討する。 2. 先進医療の申請を年間1件以上を目指す。 3. 特徴的な医療を推進する。	(柏病院) 1. 柏病院整備工事を進め病院機能を拡充した。診療機能拡充と37床増床を目的に新外来棟、D棟が竣工した。4B病棟(産婦人科病棟)改修工事が完了し、届出病床数が664床となった。外来患者の混雑緩和と災害対策に配慮したエントランス拡張工事が完了した。患者向けのアメニティとプライバシー環境を再整備した。4A病棟(旧産婦人科病棟)の改修工事が完了し一般病棟として運用した。外来手術センターの運用を開始した。 2. 先進医療は新規承認1件、実施件数は3件10症例を目指したが、新規申請はなし、実施件数は2件5症例に留まった。 3. 乳癌に対する凍結療法を自由診療として許可した。
⑤連携病院を拡充し、地域連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価) H25: 7名 H26: 2名 H27: 19名 	(柏病院) 1. 前方連携を拡大する。(紹介元の拡大、紹介患者増加) 2. 後方連携医療機関の開拓と関係強化を図る。 3. 在宅医療の推進および地域訪問看護ステーションとの連携強化を図る。	(柏病院) 1. 連携登録医制度を改定し、新規登録施設が増加した。 2. 救急患者の後方連携病院や患者数の変動が多い連携登録医療機関などを訪問し、病院間連携を強化した。 3. 東葛北部医療圏の訪問診療医・訪問看護ステーションスタッフとの地域医療連携懇談会を開催し、連携強化を図った。 4. MSW、退院調整看護師の介入による長期入院患者のスムーズな転院や、広報誌を通じた連携病院紹介、当院主催の医療連携フォーラムの開催を継続的に実施し、前後方連携に努めた。 5. FAX予約件数が増加した。 6. web予約システムを新たに導入した。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
<p>(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。</p> <p>①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。</p>	<p>・外来がん患者延数(年) H25：75,000名 H26：74,368名 H27：72,047名 H28：75,000名</p> <p>・入院がん患者延数(年) H25：3,286名 H26：3,611名 H27：3,524名 H28：3,800名</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 「がん登録見つけ出しシステム」を活用し、作業効率化と更なる精度向上を行い質の高い院内がん登録を実施する。</p> <p>2. 5年生存率を臓器別に示したグラフを活用することで診療内容の充実化を図る。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 地域がん診療連携拠点病院の指定更新を申請し、認可を受けた。</p> <p>2. 「がん登録見つけ出しシステム」を活用したがん登録を推進し、登録件数が増加すると共に作業の効率化が図られ、質の高いがん登録が行われた。</p> <p>3. 登録した院内がんデータをグラフ化して活用し、がん診療の充実化を図った。</p> <p>4. 市民公開講座、がん講演会を主催し地域のがん診療に貢献した。</p>
<p>②化学療法および緩和ケアの提供体制の充実を図る。</p>	<p>・地域がん登録件数 H25：1,582名 H26：1,755名 H27：2,002名 H28：2,010名</p> <p>・がん治療連携計画策定料算定患者数(がん地域連携) H25：7名 H26：12名 H27：7名 H28：15名</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 生物学的製剤等の対象患者を拡大し、提供体制を充実する。</p> <p>2. 緩和ケア地域連携バス体制の充実と拡大を図る。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 外来化学療法室の効率運用のと稼働向上を目的に、情報収集やアンケートを実施した。</p> <p>2. 外来化学療法室改修工事により9ベッド増加し、患者数が増加した。あわせて、生物学的製剤対象患者も順調に増加した。</p> <p>3. 緩和ケア新規介入件数は年々向上し、医師、看護師の負担軽減と患者満足度向上につながった。</p> <p>4. 緩和ケア地域連携バス体制の構築に取り組んだが、使用するバス(千葉県版)の改善が必要となり、開始できなかった。</p>
<p>③各医療機関からの紹介患者の受入れを行う。また、地域連携バスを活用し、病病連携・病診連携を推進する。</p>	<p>・外来化学療法室延患者数(月) H25：409名 H26：455名 H27：482名 H28：485名</p> <p>・緩和ケアチーム年間介入数 H25：95件 H26：116件 H27：139件 H28：140件</p> <p>・地域連携バス数 H25：5 H26：8 H27：7 H28：9</p> <p>・バス使用件数 H25：14件 H26：31件 H27：62件 H28：70件</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 地域連携バスの医療機関を拡大する。</p> <p>2. 連携バスの件数を増加する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>がん連携バス対象の患者を適宜抽出し症例の把握とバス活用促進を図った。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
<p>(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。</p> <p>①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる。</p>	<p>・3次救急搬送件数 H25:755件 H26:881件 H27:823件 H28:900件</p> <p>・救命救急入院料の算定件数 H25:1,594件 H26:1,273件 H27:1,383件 H28:1,452件</p> <p>・救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ) H25:1,514名 H26:1,907名 H27:2,413名 H28:2,500名</p>	<p>1. ER体制を充実する。</p> <p>2. 重篤患者の受入れ体制を強化する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 救急部と全診療科の救急連携を強化し、積極的に患者を受入れた。2次救急搬送件数は堅調に増加したが、3次救急搬送件数は年度ごとで上下した。</p> <p>2. 1C手術室の利用拡大推進、午前午後手術枠の撤廃、麻酔科周術期外来の開始、手術申し込み期限の前倒しによる計画的な手術室運用を図った。</p>
<p>②救命救急センターの円滑な運営のための全診療科のバックアップ体制を構築する。</p>		<p>(柏病院)</p> <p>1. 救急受入れの円滑な運用体制を強化する。</p> <p>2. ICU、CCUの効率的な運用体制を充実する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 緊急帝王切開時のバックアップとしてカイザーコールの運用を開始した。</p> <p>2. CCUホットラインの急患要請は直接受入れる運用を開始した。</p> <p>3. 1,2次救急における医師指定のない救急要請は、トリアージナースの判断により受入れるものとした。</p> <p>4. ICUとCCUで一方が満床でも、相互に患者を受入れる効率的な病床運用に変更し、救急患者が増加した。</p>
<p>③手術室を効率的に運用し、救急患者の受入れを強化する。</p>		<p>(柏病院)</p> <p>手術室の効率運用の推進を行う。(1C手術室の拡充と3階手術室の有効活用)</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 硝子体注射の実施を手術室から外来ブースへ移行した。</p> <p>2. 1C手術室の改修工事完了に伴い、3階中央手術室の手術枠の有効活用を図った結果、緊急手術件数と救急患者双方が増加した。</p>
<p>④医学生、臨床研修医、看護系学生および救急救命士等に対する救急医療の臨床教育を行う。</p>		<p>(柏病院)</p> <p>1. 医学生、研修医を対象にICLSコースを開催する。</p> <p>2. ACLS、BLSコースを開催する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. ICLSコースをはじめとする各救急救命講習を継いで開催した。</p> <p>2. 柏病院CPR教育WGが発足し、全職種を対象とした「慈恵柏BLSコース」を計画的に開催した。</p> <p>3. 研修医に対するACLS講習を実施した。</p> <p>4. 救急救命士に対する気管挿管実習、再教育実習、就業前病院実習を行った。</p>
<p>(5) 収益の向上を図る。</p> <p>収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。</p> <p>・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減</p> <p>・原価率</p> <p>・診療単価と手術単価</p>		<p>(柏病院)</p> <p>医療材料費および後発医薬品採用推進などによる医療経費の抑制によりコスト管理を強化する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 毎月の病院運営会議および院長連絡会議に患者数、初診患者数、紹介率、新患者数、急患数、救急搬送数、医療収入状況などを報告した。また、診療部会議に病院全体と当該料の患者数および医療収入状況などの詳細データを配布し、病院全体で情報共有すると共に、各診療部に対して医療経費の抑制やマイナス指標の協力要請を行った。</p> <p>2. 救急受入れ要請を断らないという病院の基本方針を再確認し、改めて診療部へ周知した。また、救急要請断りの実態把握を目的として、理由書の提出制度を導入した。</p> <p>3. 後発医薬品への切替えを39品目実施し、経費低減を図った。</p> <p>4. 医材・物流WGにて4機関でのスケールメリットを生かし、共同購入品を選定し9項目の医療材料を切替えた。</p>
<p>(6) ICT推進による医療の効率化・共有化を推進する。</p> <p>①平成26年度中に電子カルテを導入する。</p>		<p>(柏病院)</p> <p>電子カルテの問題点、課題を克服し、安定稼働を行う。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>新病院情報システム(電子カルテシステム)が稼働した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果	
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。 ①自己完結型のDMAT (災害派遣医療チーム) を創設する。		(柏病院) DMAT研修に参加し、要員を増員する。	(柏病院) 1. DMATの機能向上を目的に訓練や講習会に継続して参加し、実践的な機動力の養成、災害発生時や日本DMATの後方支援の対応能力向上に取り組んだ。 2. 日本DMAT隊員として、看護師1名を増員した。 3. 千葉限定DMAT隊員は平成28年1月に6名(医師1名、看護師3名、業務調整員2名)増員した。	
		(柏病院) 1. 定期的に備蓄量を管理する。 2. 継続して保管倉庫の設置を検討する。 3. 災害訓練を年1回実施する。	(柏病院) 1. 災害対策訓練の結果をもとに、DMAT受入体制について検討した。 2. 柏市、柏市医師会との共催によるトリアージを含めた災害訓練を実施した。 3. 患者向けの備蓄管理を継続した。 4. 備蓄倉庫の設置場所が特定されず、継続検討事項となった。 5. エマルゴ病院コースを実施したが、トリアージ訓練は開催できなかった。 6. 傷病者を受入れるためのソファベッドを設置した。	
		(柏病院) BCPを策定し、災害拠点病院としての体制を整備する。	(柏病院) 医療機関における災害リスクマネジメントセミナーに参加し、BCP作成に着手したが策定に至っていない。	
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・申請過誤件数 H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 0件 ・科学研究費の適正使用 (不適切使用なし) H25: 5件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 0件 	①内部監査の充実を図る。	(理事会) 改正された学校教育法に則り大学を運営する。	(理事会) 1. 学校教育法改正に伴い、学内関連規程を改定し文部科学省に提出した。 2. 学長を最終決定者とした大学運営を行った。
②理事会機能を検証する。理事の担当役割を明確にする。		(監査室) 1. 公的研究費に関する新ガイドラインに沿った監査を実施する。 2. 研究適正化特別委員会を支援し、活動を軌道にのせる。	(監査室) 1. 内部統制の向上を図るため、補助金監査項目の見直しを行い、公的研究費に関する新ガイドラインに対応した監査を実施した。 2. 内部統制強化の一環として、事務部門の標準業務作業手順書の点検および各種規定の整備状況と改定の要否を確認した。 3. ネットワーク監査体制の強化を図るため、監事および外部監査人との情報共有、連携を強化した。	
③慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。		(理事会) 1. 法人事務局の機能強化を図る。 2. 次年度の大学基準協会の「認証評価」受審に向けて法人全体機能の検証準備を行う。	(理事会) 大学自己点検・評価委員会にて、大学基準協会の「認証評価」受審に向けて法人全体の機能の検証を行った。	
		(人事課) 各部署で行動憲章・行動規範の内容を行動レベルに落とし込み、各部署の業務目標として掲出するよう働きかける。 (教員・医師人事室) 教員・医師ハンドブックを新規採用医師および多くの教員、医師に配布し、周知徹底する。	(人事課) 各階層別研修会を通じて行動憲章、行動規範を周知した。 (教員・医師人事室) 1. 新規採用教員および各医局に、「教員・医師ハンドブック」を配布し周知を図った。 2. 公益通報制度に関する案内を追加した。	

中期計画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
④法令遵守の徹底を図る。		<p>(総務課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内の規程表記を統一するため、継続して点検および提言する。 2. 人事課と協力し、法令遵守精神を涵養する方策を検討し実行する。 <p>(人事課)</p> <p>総務課と協力し、法令遵守精神を涵養する方策を検討し実行する。</p>	<p>(総務課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 規程表記を統一するため、「諸規程の制定・改定および廃止手続き要領」に沿って点検および提言を行った。 2. 人事課と共同し、マイナンバー制度に関する規程を制定した。 3. 職員所属長会議において、コンプライアンスに関する提言を行った。 <p>(人事課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学ホームページの「コンプライアンスの取組」欄の再整備を行い、公益通報制度や監査室の活用を促進した。 2. イン트라ネットのトップページに「公益通報・研究に関する不正・ハラスメント等相談窓口について」に関するページを新設するなど、法令違反に関する情報公開を推進し、法令遵守の意識を涵養した。
⑤補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）に係る管理体制を充実する。		<p>(経理課)</p> <p>経常費補助金一般補助の充足条件の検証を継続して行う。特に交付額に影響する項目の分析を行う。</p> <p>(研究支援課)</p> <p>経常費補助金の管理体制の強化を推進する。前年度に改訂された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」および「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応する体制を整備して推進する。</p>	<p>(経理課)</p> <p>経常費補助金（一般補助）の充足条件の点検は、今年度より研究支援課で行った。</p> <p>(研究支援課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」および「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応する体制を整備し、関係部署と連携し経常費補助金の点検を行うなど管理体制強化を推進した。 2. 私学事業団の現地調査終了後に、補助金に関わる教職員を対象に、適正な補助金管理に関する勉強会を開催し、管理体制を強化した。
⑥個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。		<p>(総務課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回注意喚起する。 <p>(本院)</p> <p>個人情報保護法を遵守する取り決めや注意点を研修会で周知徹底する。</p> <p>(葛飾医療センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールにて注意喚起メールを年2回配信する。 3. 院内独自の研修会を開催する。 <p>(第三病院)</p> <p>個人情報の持ち出し禁止、業務外の個人情報の閲覧禁止を徹底するため自院の講習会を開催する。</p> <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修会を開催する。 2. 個人情報セルフチェックシート（自己診断内容）の見直しを図り、全教職員を対象に年1回実施する。 	<p>(総務課)</p> <p>4病院合同の講演会を継続して行い、マイナンバー制度について外部講師による講演会を実施した。また、オールユーザーメールにて注意喚起を行った。</p> <p>(本院)</p> <p>医療安全研修会に個人情報保護研修会を組み入れ、出席者数の増加につなげた。</p> <p>(葛飾医療センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4病院合同の講演会を継続して開催した。 2. オールユーザーメールにて適正な個人情報管理について注意喚起した。 3. 独自の研修会を計画し開催した。 <p>(第三病院)</p> <p>研修医を対象に個人情報の持ち出し禁止、業務外の個人情報の閲覧禁止を徹底するための研修会を開催した。</p> <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4病院合同の個人情報保護セミナーを開催した。 2. セルフチェックシート設問の見直しを進めたが、実施には至らなかった。

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
⑦本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。		<p>(広報課)</p> <p>主要メディア掲載数の「教育・研究」カテゴリの掲載件数を60件程度となるよう情報の掘り起こしを行う。</p> <p>(学術情報センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各教員の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)のデータ入力促進を図るために、教員評価システムの使用法の説明会を開催する。 2. 情報公開のため教育評価システムの今後のあり方について案をまとめる。 	<p>(広報課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要メディア掲載数は年々増加し、平成27年度末には過去最多の864件となった。そのうち「教育・研究」のカテゴリは154件となり、事業計画の数値目標を大きく上回ることができた。 2. The JIKEI、慈恵ニュースを継続して発刊した。 3. 東京慈恵会医科大学(医学科・看護学科)のホームページを更新し、附属4病院のトップページ統一に向けた検討を進めた。 <p>(学術情報センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「教員評価システム業績データ登録説明会」を継続して開催した。 2. 教員による業績データ入力は、教育・研究年報への掲載が必須な情報のみの入力に留まったが、大学基準協会の評価に向けて入力が促進された。 3. 教員評価システムからresearchmapへのデータ移行機能の必要性を教員評価システム管理委員に報告した。
⑧事業計画の実施状況を確認する。		<p>(企画部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新たなスケジュール管理に基づく目標設定、評価、検証、早期PDCAの実践 2. 中期計画・中期目標の中間評価(前期3年間)の実施 	<p>(企画部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年度当初に目標を公表し、部門BSCと個人の業務目標と連動した目標管理のPDCAを職員全部署で実践できた。 2. 前期3年間の中期計画の中間評価を実施し、後期3年間の中期計画を再設定した。 3. 担当理事と共に中期計画や事業計画重点施策を評価し、戦略的計画として再設定した。
⑨事業計画を実施するためにBSCを活用し、継続的に評価する。		<p>(企画部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の事業計画と病院BSC、部門BSCを連動し、目標管理を行う。 2. 職員全部署にてBSCを策定し、事業計画の推進を図る。 	<p>(企画部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の事業計画と病院BSC、部門BSCを連動し、目標管理を行った。 2. 職員全部署にて策定したBSCを活用し、中期目標から個人の業務目標までカスケードができる仕組みを整えた。
2. 人材確保・育成・活用に関する目標			
①職員の人材育成制度を強化する。	<p>・教職員アンケートにおける満足度</p> <p>H25: 53.9%</p> <p>H26: 51.3%</p> <p>H27: 54.6%</p> <p>H28: 60.0%</p> <p>・教員・医師の退職率(平成24年度実績ベース)</p> <p>H25: ± 0% (115名)</p> <p>H26: 3% (119名)</p> <p>H27: +28% (147名)</p> <p>H28: + 5% (120名)</p>	<p>(人事課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目指すべき人材育成像を確立し、継続して現行研修を評価する。 2. 中堅監督職クラスの研修対象者および内容を見直し、フィッシュボーンからロジックツリーに至る一連の問題解決手法を学ぶ内容に拡大する。 3. 中堅管理職層を対象としたアセスメントと育成研修を実施する。 	<p>(人事課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 若手職員の育成は、2年目研修内容を見直し、マナー、コミュニケーションに加え、先輩としての立場で後輩との関わり方を学ぶ機会を設けた。 2. リーダー研修は、問題解決手法に特化した内容を見直し、問題をロジカルに解決する手法として、フィッシュボーンからロジックツリーの作成までを習得する仕組みを整えた。 3. 新任管理職育成プログラムを見直したが、成果発表の検討や管理職5年目クラスを対象としたアセスメントと育成研修の実施には至らなかった。
②人材の有効活用のための評価方法を検証する。	<p>・看護要員確保率</p> <p>H25: 100%</p> <p>H26: 100%</p> <p>H27: 100%</p> <p>H28: 100%</p> <p>・看護師退職率</p> <p>H25: 12.2%</p> <p>H26: 11.8%</p> <p>H27: 10.8%</p> <p>H28: 11.0%以下</p>	<p>(人事課)</p> <p>データベースに収録した情報のフィードバック項目を拡大し、所属長が部下を育成するための情報提供を行う。</p>	<p>(人事課)</p> <p>本学における人事考課の傾向を分析したが、各考課者に情報提供するまでには至らなかった。</p>

中期計画	指標(平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。		<p>(人事課・給与厚生課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員アンケートを実施し、職場環境の改善を図る。 2. 就業規則関連規程を適宜改定する。 <p>(教員・医師人事室)</p> <p>教員・医師の自己都合による退職者を前年実績以下にする。</p>	<p>(人事課)</p> <p>教職員アンケートにおいて満足度が低い「精神の安定」については教職員支援プログラム(外部EAP)の委託会社を変更して制度の充実を図り、「適正な評価」については考課者訓練の実施を検討した。</p> <p>(給与厚生課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就業規則、手当規程、互助会会則などの関連規則の改定を実施した。 2. 看護師ユニホームを変更した。 3. 給与・互助会制度を適宜改定した。 <p>(教員・医師人事室)</p> <p>今年度の退職者は147名(対前年度比+28名)であった。退職者増加の主な要因は、大学に籍があるものの勤務実態の無い医師(教員)を洗い出し整理したことによる一時的なものである。しかし、それを考慮しても自己都合による退職数の減少には至らなかった。</p>
④看護師の雇用安定化を図る。		<p>(人事課・ナース就職支援室)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度採用目標人員数を確保するとともに、良質な人材確保に努める。特に柏病院の要員維持および第三病院の要員確保を最重要事項とする。 2. 人事課、看護部、その他関連部署と連携強化し採用試験応募者増を図る。 3. 採用環境や競合する他大学の求人情報を把握し、求人活動に反映する。7:1看護の要件見直しによる影響、倫理憲章の影響を考慮し柔軟に対応する。 4. 求人広報として大学ホームページの看護職員採用ページの充実を図る。 <p>(看護部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要数に満たない第三病院へ他3病院からトレーディング・ブレイスで人員調整を図る。 2. 増加する育児休業者、育児のための短時間勤務者、深夜業務免除者への対応、診療報酬上の算定要件を満たすために人事課と協力し適正人員配置を推進する。 	<p>(人事課)</p> <p>ナース就職支援室を中心に看護師採用活動を行った結果、安定的に看護師を配置することができた。</p> <p>(人事課・ナース就職支援室)</p> <p>次年度当初の目標人員は確保したが、退職予定者の大幅減、内定辞退者減により年度当初人員は目標数に対し大幅増となった。</p> <p>(ナース就職支援室)</p> <p>看護要員確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学科生、慈恵看護専門学校生(卒業年次)を対象に葛飾、第三、柏病院を実際に見学する取り組みを行った結果、就職辞退率が低下した。 2. 学外生に向けて、学校訪問、合同就職説明会、病院見学、インターンシップなどにより、本学への志望動機を高める活動を継続した。特にインターンシップは平成24年度と比較して3倍となり、就職辞退率が低下した。 3. 看護師採用専用サイトを立ち上げ、附属4病院の情報をリアルタイムに発信し応募者増につなげた。 4. 応募者の少ない第三病院への対応として、より効果的に学生にPRできるようパンフレットを作成し配付した。 <p>(看護部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トレーディング・ブレイスシステムを活用し、主任・スタッフナースの異動などを行い病院間で相互に人員調整を図った。 2. 育児休業者、育児のための短時間勤務者、深夜業務免除者は年々増加し、通常勤務者の業務負担増になっているが、部署間の応援などで対応した。 3. 看護師の退職率は減少傾向にあり、特に柏病院の退職率が著しく減少し、定着化が進んだ。 4. 国内留学制度の人数枠を広げる措置により、3年間で附属4病院合計45名(認定看護師33名、助産師7名、看護教員5名)の看護師が国内留学しモチベーション向上につながった。
⑤労働生産性を向上させる。		<p>(人事課)</p> <p>労働生産性向上WG活動は継続実施する。対象部署の拡大を図り、本活動が継続するための仕組み作りを行う。</p> <p>(教員・医師人事室)</p> <p>医療従事者勤務適正化委員会を通じて医師の業務軽減策を新たに実施し、医師の配置を効率化する。</p>	<p>(人事課)</p> <p>労働生産性向上WG成果報告会など、労働生産性向上の文化醸成に向けた取り組みを継続して実施した。</p> <p>(教員・医師人事室)</p> <p>医師の業務軽減を目的に事務員による文書代行入力などを推進し、医師の労働生産性向上に向けた取り組みを継続した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ①適正なICTグランドデザインを構築し、ICT戦略を策定する。		(システム課) 電子カルテを始め各システムで収集された情報の2次活用方法を確立し、診療や研究支援、また経営指標作成の一助とする。	(システム課) 1. 第三病院において、データウェアハウス(DWH)システムで収集したデータをもとに作成した各種統計は、成医会や診療部長会議などの資料として活用された。 2. 「私立医科大学情報処理研究会」および「千葉県地域医療情報交換会」などで他院の導入事例を確認し、本学導入時の参考とした。
②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。		(企画部) 1. 月別原価計算の実施による迅速な報告と経営改善の提案 2. 新コックピットの活用状況の検証	(企画部) 1. 新原価計算システムが稼働したが、毎月の報告には至っていない。 2. 新コックピットについては継続検討した。新たに大学経営や運営の関連情報を集約し提供するために、企画部のホームページを新設した。
③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。		(人事課) 所属長の標準作業手順書作成を推進する。 (企画部) 病院BSC、部門BSCの策定と実施は、部署間連携を重視し、相互補完体制を構築する。	(人事課) 各部署にて標準作業手順書を作成し必要に応じて改定しているが、大きな効率化、合理化には至っていない。 (企画部) 本院BSCの立案支援および部門BSCの策定と運用は、部署間連携を重視し、主管課と相互補完を行うことができた。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。	・ 経常費補助金の獲得額 H25: 35.3億円 H26: 33.0億円 H27: 33.5億円 H28: 33.3億円	(経理課) 予算申請の適正化を継続して推進する。支出について月次での予算執行把握の精度を高める。	(経理課) 今年度は特に高額な予算をもつ2部署について、勘定科目の考え方の確認を行い、次年度の予算申請に反映させた。また、月次での予算執行把握の精度を高めるため、別途発生日を管理し、月次の発生額が把握できるようになった。
②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。	・ 収支差額予算達成率 H25: 148.6% H26: 98.1% H27: 114.8% H28: 100%以上 ・ 経常費補助交付額(医学部)私立医科大学での順位 H25: 5位 H26: 4位 H27: 4位 ・ 大型プロジェクト研究事案件数 H25: 5 H26: 5 H27: 4 H28: 3	(企画部) 西新橋キャンパス再整備計画と並行して、建築計画とは別にマスタープランとして検討を要する教育機能、研究機能、診療機能、法人本部・関連会社機能、土地活用、財務・資産運用、4病院機能分化などについて討議する。	(企画部) 西新橋キャンパスの再整備計画を中心に検討を重ねたため、教育機能、研究機能、診療機能および4病院機能分化、法人・財務機能などについての具体的な討議はできなかったが、中期計画および単年度事業計画の重点施策の評価と再立案を行った。なお、理事長主催の「マスタープラン懇談会」を発足し、まずは「次世代医療」について新外来棟(仮称)での実施を検討した。今後、将来構想において様々な内容の検討を行う予定である。コストマネージメント・プロジェクトにおいては、経費抑制対策を検討した。

中期計画	指標(平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度実施結果
<p>③ 本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。</p>		<p>(研究支援課) 政府各省庁・民間財団などが公募する大型プロジェクト研究事業に大学として積極的に応募する。</p>	<p>(研究支援課) 1. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請した研究プロジェクトは、平成25年度は採用されたが、以後の2年度は不採択となった。 2. 今年度末における文部科学省科学研究費助成事業(科研費)の件数および総額は、合計160件、総額307,305千円(前年度比9件増・4%減、間接経費含む)、厚生労働省科学研究費補助金および日本医療研究開発機構研究課題は、合計54件、総額にして228,441千円(前年度比2件増・2.9%減、間接経費含む)であり、全体としては微増(前年度比+11件、+18,049千円)となった。過去3年間の獲得件数は、文部科学省科学研究費助成事業(科研費)で146件→151件→160件、厚生労働省科学研究費補助金および日本医療研究開発機構研究課題で46件→52件→54件と共に伸び、順調に研究費が獲得できた。 3. 経常費補助金に関しては、安定して獲得できた。そのうち、「私立大学等改革総合支援事業」については、タイプ1(建学の精神を生かした大学教育の質向上)は3年間選定され、タイプ2(特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり)については平成25年度、平成27年度に選定された。</p>
<p>2. 経費の抑制に関する目標</p> <p>① 物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p>	<p>・医療経費率 H25: 34.7% H26: 35.2% H27: 36.0% H28(予算): 35.5%</p> <p>・東京都温室効果ガス排出総量削減率(東京都削減目標) 2013～2014年度 平均8%削減 2015～2019年度 平均13%削減</p> <p>(本院) H25: 9.3%削減 H26: 9.5%削減 H27: 10.7%削減 H28: 13.0%削減</p> <p>(葛飾医療センター) H25: 21.7%削減 H26: 25.5%削減 H27: 23.9%削減 H28: 13.0%削減</p> <p>(第三病院) H25: 22.0%削減 H26: 20.0%削減 H27: 23.6%削減 H28: 13.0%削減</p> <p>(柏病院) H25: 8.9%削減 H26: 2.1%増加 H27: 1.0%削減 H28: 0.5%削減</p>	<p>(施設課) 4病院共同購入品目を更に拡大し、推進する。</p>	<p>(施設課) 手術部の術式別の医療材料を含めた経費、収支については把握できている。科別、術式別の収支は関連委員会などで報告、診療科にフィードバックしコスト意識の啓発に努めた。医療材料委員会での新規医療材料の採用審議において採用による収支の変化などの参考資料作成や安価な材料への切替えなどに利用している。 物流の見直しについて、用度業務を委託している(株)慈恵実業の業務効率化を目的として医療材料のSPD業務委託業者を4機関で統一するか次年度コストマネジメント・プロジェクトで検討する。</p>

中期計画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
②医療経費の抑制を図る。		<p>(病院事務部) 医療経費率を37.2%以下に留める。</p> <p>(葛飾医療センター) 1. DRGセットを含めた手術キットの適正化を図る。また、医療消耗品の安価な同等品への切替えを検討する。 2. 医療材料検討委員会を中心に使用材料の適正化、効率的な運用(選定、購入、管理)を行い経費抑制を図る。</p> <p>(第三病院) 1. 医療消耗品が医療収入の4.5%以内を維持する。 2. 手術原価の正確な把握と4病院比較を実施し手術の標準化、効率化を図る。</p> <p>(柏病院) 医療安全面に考慮しながら、後発医薬品数量シェア(月平均)70%を目標に後発医薬品への切替えを進める。</p> <p>(企画部) コストマネージメント・プロジェクトを中心に、内部環境の把握、大型診療機器管理システムの構築、医療材料・物流管理システムの効率的運用、各診療科(教職員)へのコスト意識の周知を図る。</p> <p>(薬剤部) 医療安全面に考慮しながら後発薬品への切替えを進める。厚生労働省の掲げる後発薬品数量シェア60%を早期に達成する。</p>	<p>(病院事務部) 1. コストマネージメント・プロジェクトが発足し、循環器領域や整形外科の特殊材料費の経費削減活動に着手したが、価格の妥結には至らなかった。 2. ベンチマークシステム導入に向けた検討も開始した。 (葛飾医療センター) 1. 手術キットの使用状況調査を実施し、キット内容を分析した。 2. 4病院医材・物流WGでの提案品目を採用し、より安価な同等品に切替えた。 3. 医療材料委員会を中心に使用材料の適正化、不動産在庫の削減を図り経費抑制を推進した。 (第三病院) 1. 今年度の医療収入対医療用器具消耗品費率は、5.0%で目標の4.5%を超過した。 2. 4病院医材・物流WGにより、4病院原価比較分析システムを構築した。 (柏病院) 1. 手術キットを見直し、経費削減につなげた。 2. 医療材料の配置定数の見直しや不動産在庫の削減を行い、経費を削減した。 3. 後発医薬品への切替えを39品目実施し経費削減を図った。 4. 放射線機器などの保守清掃費について、価格交渉を開始した。 (企画部) コストマネージメント・プロジェクトを発足し、内部環境の把握、大型診療機器管理方法、医療材料・物流管理システムの効率的運用を検討したが、目に見える効果、実績までは至っていない。なお、教職員へのコスト意識の醸成を図るために、各診療科医局会にて説明を行った。 (薬剤部) 機能評価係数の対象期間平成26年10月から平成27年9月の後発薬品数量シェアは58.3%であったが、平成27年10月は71.5%、11月は74.4%と順調に増加している。平成28年1月にも後発医薬品切替えを実施し、平成28年3月現在76.3%となった。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。		<p>(施設課)</p> <p>東京都温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度における第二計画期間(2015年度～2019年度)の削減義務率13%の達成計画を西新橋再整備計画と整合させ立案する。</p> <p>(葛飾医療センター)</p> <p>別館竣工によるエネルギー使用量の増加を見込み、東京都温室効果ガス排出総量削減目標の14%以下を達成する。</p> <p>(第三病院)</p> <p>新医局棟竣工によりエネルギー使用量の増加を見込みCO₂削減率10%を達成する。</p> <p>(柏病院)</p> <p>温室効果ガス排出量の1%削減とエネルギー管理指定工場としての改善目標を達成するため、積極的な省エネ機器の導入と設備の整備を推進する。</p>	<p>(施設課)</p> <p>平成25年度、平成26年度は東京都温室効果ガス排出総量削減率の目標を上回ったが、平成27年度は下回った。</p> <p>(葛飾医療センター)</p> <p>省エネ委員会、ESCOの活動により東京都温室効果ガス排出量削減率は各年度とも目標削減率を達成することができた。</p> <p>(第三病院)</p> <p>東京都温室効果ガス排出量削減率は各年度とも目標削減率を達成することができた。</p> <p>(柏病院)</p> <p>建物の新築および増築により温室効果ガス排出量が増加したが、今年度は省エネ機器の冷温水発生機と空調設備更新を行い、温室効果ガス排出量改善目標の1%削減を達成した。</p>
④ICTの適正導入と評価を行う。		<p>(システム課)</p> <p>1. 仮想化対応の現状、および将来構想を検討する。また、導入済の3附属病院との整合性、親和性を考慮して附属病院導入計画を進める。</p> <p>2. 本学のPHS更新に伴い、スマートフォンへの切替えを検討し、i-strokeの拡充や電子カルテでの利用可否を検討する。</p>	<p>(システム課)</p> <p>1. 仮想化(クラウド)は、本院導入時にシステムを統合する可能性があるため見送ることとした。</p> <p>2. 院内PHSの更新に伴い、病院情報システムとの連動も視野に入れてi-Phoneを導入した。</p> <p>3. 本院ではナースコールシステムとの連動を図り、業務省力化にも寄与した。</p>
<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <p>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。</p>		<p>(施設課)</p> <p>1. 西新橋再整備計画と平行し、最新の平面図を維持する。</p> <p>2. 著しく増減が発生した場合のコストについて現場への是正提案を進める。</p> <p>3. 老朽化した設備の更新に必要なエレクトロニック・オーダーリング・システム(EOS)情報を収集する。</p>	<p>(施設課)</p> <p>1. 西新橋キャンパス再整備計画に伴い、F棟設備図面(電気・空調・給排水)および外来棟設備図を新たに作成し、西新橋キャンパス再整備ローリング計画ならびにF棟耐震計画の基礎資料とした。</p> <p>2. 計画的な修繕を推進するために、新外来棟完成後までの学内未修繕部分と将来の修繕計画を勘案した資料を作成し、計画的な修繕工事を計画実行した。</p>
②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。		<p>(施設課)</p> <p>一般撮影装置、X線TV装置を追加した一覧表を用いて本院、第三病院、柏病院の機器更新を実施する。</p>	<p>(施設課)</p> <p>高額放射線機器(MRI、CT、ガンマカメラ、MIR、一般撮影装置、X線TV装置、マンモグラフィ)の計画的な機器更新計画を進めた。</p>
<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</p> <p>①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p> <p>②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。</p>		<p>(総務課・大学事務部)</p> <p>1. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。</p> <p>2. 次年度の大学基準協会の「認証評価」受審に向けて準備を進める。</p>	<p>(総務課)</p> <p>1. 次年度の大学基準協会の「認証評価」受審に向けて、関連部署の協力を得て「点検評価報告書」および根拠資料を提出した。</p> <p>2. ホームページの「情報公開」の内容を充実した。</p> <p>(大学事務部)</p> <p>大学基準協会の認証評価受審のための「大学自己点検・評価報告書」を作成し、資料も含め3月下旬に大学基準協会に提出した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。		(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館の実施設計を完了させ、年度内に着工する。 2. 新病院の実施設計を完了させる。 3. 新外来棟の基本設計を完了させる。 4. 図書館機能の移転計画を策定する。	(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館、新病院の実施設計が終了し、平成28年2月より着工した。 2. 新外来棟の基本設計が終了し、平成28年4月の受注ゼネコン各社への現場説明に向けた取り組みを進めた。 3. 西新橋キャンパス内の建替計画に伴うフェーズごとの改修・移転・ローリング計画を策定した。
	②本院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	(西新橋再整備準備室) 外来棟建築に向け、附属4病院の機能分化の方向性を検討し、本院の役割について骨子をまとめ、新外来棟の基本計画、基本設計に反映させる。	(西新橋再整備準備室) 運用基本計画書を作成し、新外来棟の基本設計に反映した。
	③本院の再整備計画の達成	(病院事務部) 新外来棟建築に伴う基本計画、基本設計（ゾーニング）を完成させる。	(病院事務部) 病院幹部検討会において取りまとめた基本構想に基づき、各WGで基本設計策定に向けた検討を推進した。
2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。		(企画部) 1. 西新橋キャンパス再整備計画と並行して、建築計画とは別にマスタープランとして検討を要する教育機能、研究機能、診療機能、法人本部・関連会社機能、土地活用、財務・資産運用、4病院機能分化などについて討議する。 2. 外部委員の参加を図るなどマスタープラン検討委員会の改善を図る。	(企画部) 1. 教育機能、研究機能、診療機能および附属4病院の機能分化、法人・財務機能に係わる中期計画および単年度事業計画の重点施策の評価と再立案を行った。 2. マスタープラン懇談会において次世代医療の推進などを検討した。 3. 慈恵大学100年記念事業委員会答申の検証結果が提出された。
3. 創立130年記念事業に関する目標 ①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	・記念事業募金額 H25：11,0億円 H26：12,4億円 H27：13,8億円 H28：15,0億円	(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館の実施設計を完了させ、年度内に着工する。 2. 新病院の実施設計を完了させる。 3. 新外来棟の基本設計を完了させる。 4. 図書館機能の移転計画を策定する。	(西新橋再整備準備室) 1. 平成27年9月より旧都立港工業高校跡地の基礎部分解体工事などの準備工事を進め、平成28年2月より新築工事が着工した。 2. 新外来棟の基本設計(案)および改修・移転・ローリング計画を策定した。
		(財務部(募金事務局)) 平成27年9月の寄付金募集期限延長を検討する。	(財務部(募金事務局)) 1. 平成27年9月までの寄付金募集期限を平成30年9月までに延長した。 2. 同窓を含めた関係者に声掛けし、13,8億円に達した。

中期計画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
<p>4. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <p>①大規模災害時の体制を強化する。</p>	<p>・本学全建物の耐震基準充足率 H25：85% H26：95% H27：95% H28：95%</p>	<p>(総務課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属病院および大学のBCPの精度を高め、大規模災害発生時の適切な行動、事業運営に備える。 2. 災害用備蓄品について、継続的な拡充を進めるとともに、保管場所を確保し効率的な搬入出方法を検討する。 3. 地域と協力して災害対策訓練を実施し、院内のマニュアルを改定する。 <p>(病院事務部)</p> <p>既存部門BCPのブラッシュアップと新規部門の作成を継続する。</p> <p>(大学事務部)</p> <p>西新橋再整備計画を視野に入れて、大規模災害発生時の適切な行動、事業運営ができるよう、マニュアルの整備を作成する。</p>	<p>(総務課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BCPについては、第1版の策定が病院・大学ともに終了した。 2. 備蓄品の拡充を継続的に行った。倉庫については西新橋再整備準備室と連携し、必要な災害用備蓄品および資器材を収納できるよう設計に盛り込むこととした。 3. 地域大規模災害対策訓練を芝消防署、みなと保健所、東京都水道局、近隣町内会などと協力し継続して実施した。 <p>(病院事務部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内全域の耐震固定を完了した。 2. 災害対策SWGにて災害時対応に必要な施設規模および内容案を策定した。 3. 備蓄倉庫のスペースを確保し、備蓄充足に努めた。 4. BCPのブラッシュアップ、新規部門の作成を検討したが今年度は実施には至らなかった。 <p>(大学事務部)</p> <p>マニュアルの整備には至らなかった。</p>
<p>②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。</p>		<p>(施設課)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西新橋キャンパス内のすべての建物の安全性、病院機能の保持、災害拠点機能を保持できるよう西新橋再整備計画と平行し立案する。 2. 新病院と新大学2号館機能での災害対応機能を整備する。 	<p>(施設課)</p> <p>建物の耐震性、非常電源設備の確保、給水設備の地震対策など大規模災害に対応する整備工事を実施した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成28年度は目標値)	平成27年度事業計画	平成25年度～平成27年度 実施結果
<p>③被災地への支援体制を構築する。</p>		<p>(本院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 新規隊員養成研修の受講および既隊員の技能維持研修の受講。チームとして合同訓練への参加。衛生用品やウェア関連の整備を継続する。 被災地への医療支援派遣要請時には当該科の状況を確認して人材を派遣する。 <p>(葛飾医療センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> DMATの技能維持研修への参加準備およびDMAT隊員の増員を検討する。 被災地への支援体制について中長期的視野で検討する。 <p>(第三病院)</p> <p>行政などによるDMAT訓練を継続する。</p> <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 技能維持研修への参加および隊員の増員を進める。 訓練に参加する。 	<p>(本院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本DMATの指定を受け、大規模地震時医療活動訓練にDMAT隊が参加した。 甲状腺検査施行などによる被災地(福島)支援も継続実施した。 <p>(葛飾医療センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本DMATの指定を受けた。 第1回関東ブロック災害派遣医療チーム技能維持研修に参加した。 新規隊員の増員は、業務調整員の対象者を選出し構成員としたが、増員申請に必要な講習会への参加枠が東京都より提示されていないため、受講でき次第増員する。 東京都が被災した場合の派遣体制検証および強化のために、東京都多摩地域医療活動訓練へ参加した。 <p>(第三病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 大規模地震時医療活動訓練にDMAT隊員が継続して参加した。 内閣府主催の広域医療搬送実働訓練、東京都福祉保健局関東ブロック訓練にチームを派遣した。 狛江市、調布市と「災害時における緊急医療救護所に関する協定」を締結した。 <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> 千葉限定CLDMAT講習会に参加し、県内における災害発生時および日本DMAT後方支援への対応能力が充実した。 政府主催の広域医療搬送訓練、DMAT関東ブロック訓練、柏市消防局多数傷病者救助訓練にDMATが参加した。 柏市消防局による多傷病者事故救急救助訓練、広域医療搬送実機訓練に参加し、実践的かつ機動性のスキルアップを図った。 現在在籍している全隊員が、技能維持研修を1回以上受講した。 今年度、政府防災訓練に参加した。千葉県が被災地想定であったこともあり、訓練企画から加わった。 茨城県常総市で鬼怒川の堤防決壊による水害のため、厚生労働省および千葉県からDMAT派遣要請があり、初めて1隊(医師2名、看護師2名、業務調整員1名)を派遣した。
<p>5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標</p> <p>新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。</p>		<p>(葛飾医療センター)</p> <p>今年度の中期計画完了後に総合的な評価を行う。</p>	<p>(葛飾医療センター)</p> <p>今年度は未実施</p>

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成28年度事業計画

中期目標・中期計画・平成28年度事業計画 目次

目標関連マップ	131
本学の理念・目的・使命	132
本学が目指す将来像（ビジョン）	132
平成28年度 重点施策	133
I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標	140
1. 教育に関する目標	140
(1) 教育に関する目標（医学科・看護学科）	140
(2) 教育の実施体制等に関する目標	143
(3) 看護専門学校に関する目標	143
2. 研究に関する目標	144
(1) 研究水準および研究成果に関する目標	144
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	145
(3) 総合医科学研究センターに関する目標	146
(4) その他	146
3. 診療に関する目標	146
●本院に関する目標	146
●葛飾医療センターに関する目標	151
●第三病院に関する目標	152
●柏病院に関する目標	154
II 法人運営の改善および効率化に関する目標	156
1. 運営体制の改善に関する目標	156
2. 人材確保・育成・活用に関する目標	157
3. 事務の効率化・合理化に関する目標	158
III 財務の改善に関する目標	158
1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標	158
2. 経費の抑制に関する目標	159
3. 資産の運用管理の改善に関する目標	159
IV 自己点検・評価の充実に関する目標	159
V その他事業運営に関する重要目標	160
1. 本院新外来棟建築に関する目標	160
2. 大学マスタープランの策定に関する目標	160
3. 創立130年記念事業に関する目標	160
4. 大規模災害時の対応に関する目標	161
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標	161

建学の精神 病気を診ずして病人を診よ

本学の

理念

医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。

目的

“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。

使命

社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

詳細は132ページ

本学が目指す将来像

建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。



平成25年～30年度 中期目標・中期計画

教育

質の高い医学・看護学教育

研究

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

診療

質の高い医療の提供

法人運営

教育・研究・診療活動を支える安定した財政基盤の構築

大学の地域社会への貢献

創立130年記念事業

平成28年度 事業計画

「教育」
重点施策
133ページ

「研究」
重点施策
133ページ

「医療」
重点施策
133～135ページ

「法人」
重点施策
135ページ

「教育」は、
140～143ページへ



「研究」は、
144～146ページへ



「診療」
本院は146～151ページ
葛飾は151～152ページ
第三は152～153ページ
柏は154～156ページ



「法人運営」は、
156～161ページへ



各病院・各部門 B S C

個人の目標管理・成果評価シート

[本学の理念・目的・使命]

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

[本学が目指す将来像（ビジョン）]

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するため、卒前・卒後の連携を視野に入れた特色ある教育システムを構築する。
- (2) 附属4病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院（博士課程と修士課程）教育の充実と改善を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 疾病の予防・健康の増進を視野に入れた取り組みを推進する。
- (5) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (6) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

大学の地域社会への貢献

創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

■教育に関する重点施策

- 1) 卒前・卒後教育の中で、医療人・研究者としての高い倫理観を涵養する。
- 2) 医学科達成指針とカリキュラムおよび評価法の整合を図る。
- 3) 新専門医制度に対応する専門研修プログラムを整備する。
- 4) 海外研修、外国留学生との交流等、国際交流活動を推進して国際的に活躍できる人材を育成する。
- 5) 看護学科の課題解決能力・地域医療連携能力強化型新カリキュラムを準備する。
- 6) 卒業時看護技術到達基準を検討する。
- 7) 看護教員と臨地実習指導者の定期的な事例検討を行う。
- 8) 看護学の大学院教育の充実に向けた体制整備を行う。

■研究に関する重点施策

- 1) 研究ブランディング事業の採択に向けて本学の特色ある研究領域を探索する。
- 2) 学内共同研究および学外機関との協力・連携を推進し、研究の活性化に努める。
- 3) 附属4病院の研究機能を促進するために、疾患レジストリを構築する。
- 4) 各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
- 5) 学内研究費を活用し競争的資金を獲得する。
- 6) 大学が行う公開講座をホームページで発信する。
- 7) 研究成果の社会還元を努めアウトリーチ活動を行う。
- 8) 平成29年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。
- 9) 学長直下の研究マネジメント部門を構築し、研究支援の強化を図る。

■医療に関する重点施策 本院

- 1) 救急体制の充実
 - ・ストローク、心血管系の救急患者を積極的に受入れる。
- 2) がん診療の推進
 - ・本院のがん診療体制を再構築する。
 - ・国立がん研究センターとの包括連携を強化し、医療・教育・研究活動の充実と質向上を図る。
- 3) ゆるやかなセンター化構想の推進
 - ・消化器センターの具現化を目指す。
- 4) 大型連休における診療体制の拡充
- 5) 患者サービスの推進
 - ・EBM (Etiquette-Based Medicine) を実践する。
- 6) 医療連携の推進
 - ・紹介医、産業医との連携を強化する。
 - ・循環型医療を推進する。
- 7) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援
- 8) 効率的な医療の推進
 - ・ICT技術を活用し、医療の効率化とモバイル環境の整備を推進する。
- 9) 職種間の協力体制の強化・推進
 - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
- 10) 予防医学の推進
 - ・疾病の予防と健康増進に関する新たな診療体制を検討する。
- 11) 適正な保険診療の推進
 - ・「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。
- 12) 経営の質の改善
 - ・各診療部の数値目標を設定し達成する。
 - ・なお、各科の損益分岐点を示し進捗状況を管理する。
 - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の数量シェア目標を達成する。
 - ・コストマネジメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院医材・物流の効率的運用を強化する。

■医療に関する重点施策 葛飾医療センター

- 1) 総合内科体制の再構築
- 2) 救急体制の充実
 - ・断らない救急受入れ体制を構築する。
- 3) がん医療の推進
 - ・がん診療に関する専門職者の育成に努め「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。
 - ・放射線治療を推進し、手術・化学療法を組み合わせたがんの集学的治療体制の拡充を図る。
- 4) 病院機能評価の受審・認定
- 5) 患者サービスの推進
 - ・患者のニーズに適応したサービスを提供する。
 - ・病院のコンセプトを全教職員に周知徹底する。
- 6) 地域貢献（医療連携の推進）
 - ・地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図り地域医療に貢献する。
- 7) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援
- 8) 職種間の協力体制の構築
 - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
- 9) 適正な保険診療の推進
 - ・診療報酬改定の内容を詳細に分析し、DPC算定を含めた適正な保険診療の推進について教育・研修により周知徹底する。
- 10) 適正な収支構造の確立
 - ・每期設定される医業利益目標を達成する。
 - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。

■医療に関する重点施策 第三病院

- 1) 救急医療体制の充実
 - ・救急隊との連携を密に、断らない救急応需の体制を整備する。
- 2) がん診療の推進
 - ・がん診療センターの整備、がんの集学的治療の実践を通して「東京都がん診療連携拠点病院」の指定を目指す。
- 3) 認知症疾患医療センターの取り組み
 - ・東京都地域連携型認知症医療センターとして、他の医療機関と連携し医療相談、鑑別診断、身体合併症を伴う認知症の治療に取り組む。
- 4) 地域医療連携の推進
 - ・地域包括ケアシステム構築に向けて、機能の異なる他の医療機関、診療所（在宅療養支援診療所含む）、病院や行政とのアライアンスを構築する。
 - ・web予約システムの運用を拡大し病診連携を強化する。
- 5) 新しい専門医制度に対応した総合診療研修センターの整備
 - ・新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療」の基幹病院として、平成29年4月の専門研修プログラム実施に向け連携施設との調整や専攻医の公募・試験・採用を実施する。
- 6) 共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）の実践
 - ・各部署が患者のニーズに沿った改善案を策定・実施し、満足度の高い医療サービスを実現する。
- 7) 適正な収支構造の確立
 - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。
- 8) 病院リニューアルに向けた地固め
 - ・新病院の基本計画・基本構想を策定する。
 - ・診療部門のセンター化を見据え病床再編を実施する。

■医療に関する重点施策 柏病院

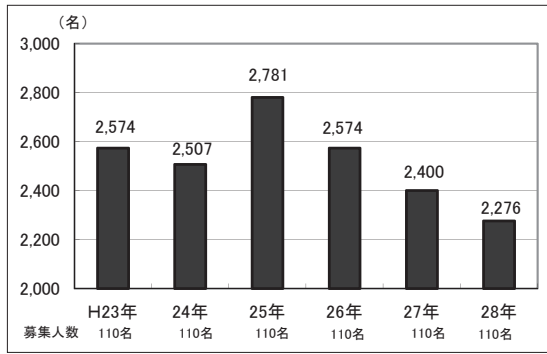
- 1) 救急体制の充実
 - ・積極的な救急患者の受入れ可能なER診療体制を充実する。
 - ・救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。
- 2) がん医療の推進
 - ・国立がん研究センター東病院との連携を強化し、がん診療、研究、人材育成の充実化を図る。
- 3) 周産期医療の整備と推進
 - ・地域から求められている妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な「周産期医療」が提供できる診療体制を検討する。
- 4) 患者サービスの推進
 - ・患者のニーズに適応した医療を推進する。
- 5) 地域貢献（医療連携の推進）
 - ・前方および後方連携を強化する。
 - ・地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。
 - ・地域包括医療を推進する。
- 6) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援
- 7) 職種間の協力体制の構築
 - ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。
- 8) 適正な保険医療の推進
 - ・特に適正な保険診療推進のため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。
- 9) 経営の質の改善
 - ・每期設定される医業利益目標を達成する。
 - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。
 - ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院医材・物流の効率的運用を強化する。

■法人運営に関する重点施策

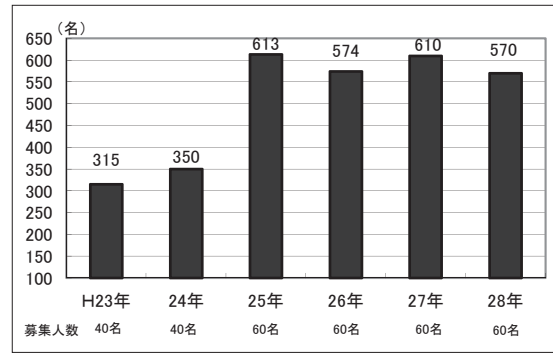
- 1) 内部統制の強化
 - ・研究倫理教育の充実と情報セキュリティの強化を継続的に進める。
 - ・寄附行為の検証を行う。
- 2) 安定した財政基盤の構築
 - ・法人における収支構造の点検を行う。
 - ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
 - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
 - ・ICT関連経費の適正化を図る。
- 3) 大学基準協会による認証評価の「適合」を取得
- 4) 西新橋キャンパス再整備計画の策定と実行
 - ・新大学2号館（仮称）、新病院（小児・周産期センター）（仮称）の施工を遅滞なく進める。
 - ・新外来棟および既存棟改修の施工会社を決定し、実施設計・施工計画を策定する。
- 5) 大学マスタープランの策定
 - ・新外来棟における次世代医療の具現化に向けて検討する。
- 6) 教職員の満足度向上
- 7) 人材育成制度の強化
- 8) 業務改善および部署間の有機的連携
 - ・労働生産性向上に向けた取り組みを推進する。
 - ・事務組織の改編を行う。
- 9) 戦略的広報の推進
 - ・「医療連携」、患者向けの「診療実績」、受験生向けの「学部案内、受験情報」の情報発信を推進する。
- 10) 大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）の保守・点検

■ 教育に関する重点施策：参考指標

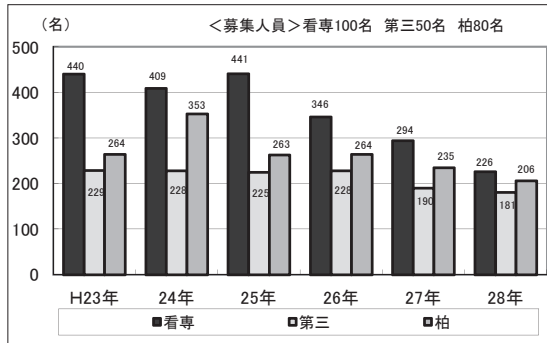
医学科志願者数



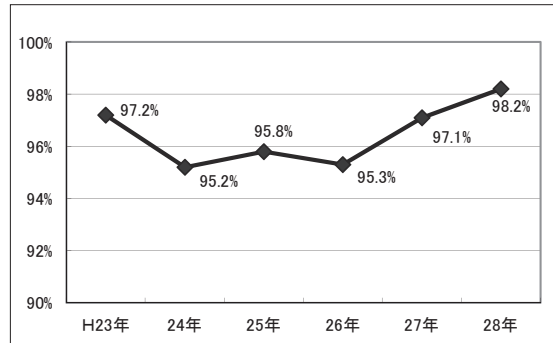
看護学科志願者数



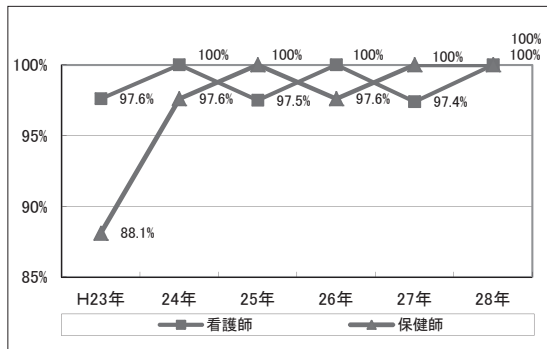
看護専門学校 志願者数



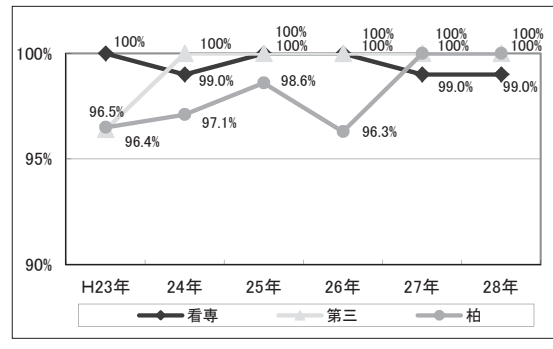
医師国家試験 合格率 (医学科)



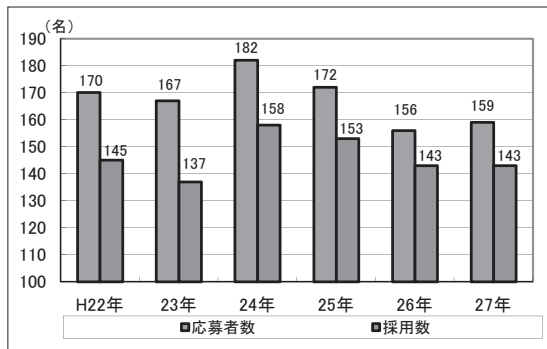
看護師・保健師国家試験 合格率 (看護学科)



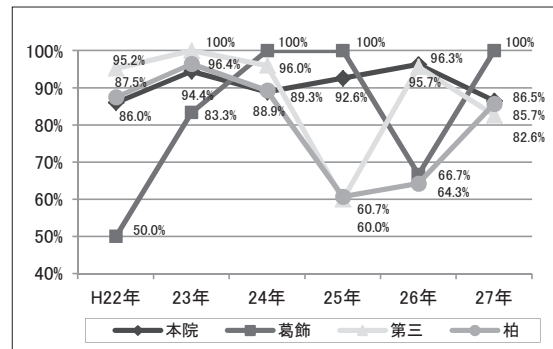
看護師国家試験 合格率 (看護専門学校)



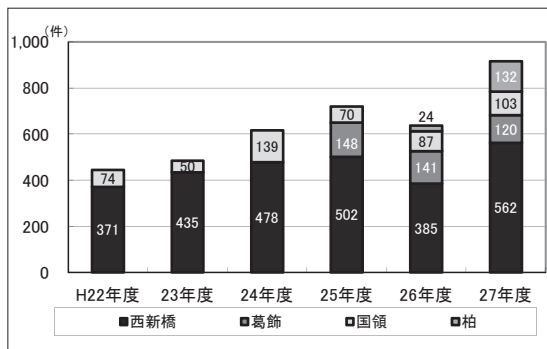
レジデント応募者数、採用数



医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数



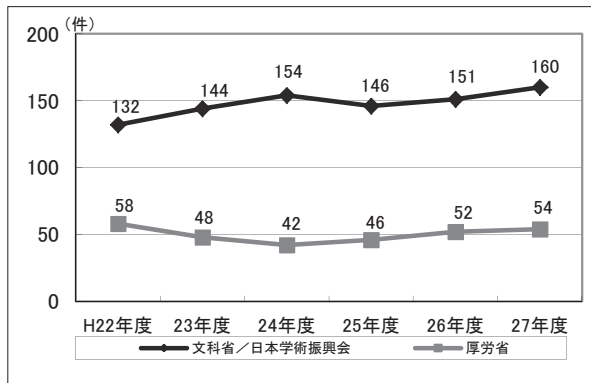
定員	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
本院	50	54	54	54	54	52
葛飾	8	6	6	6	6	6
第三	21	25	25	25	23	23
柏	24	28	28	28	28	28

※各機関の年度の定員数を表示

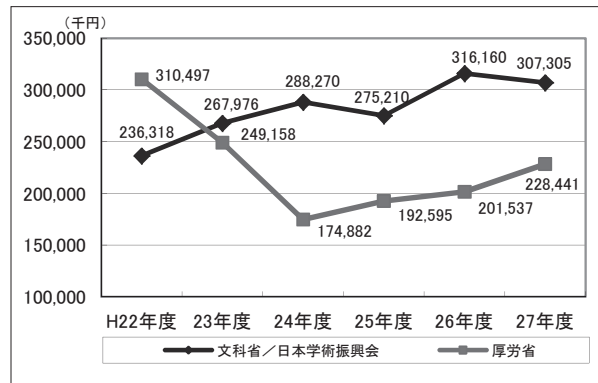
※葛飾医療センターはH25年度、柏キャンパスはH26年10月より稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

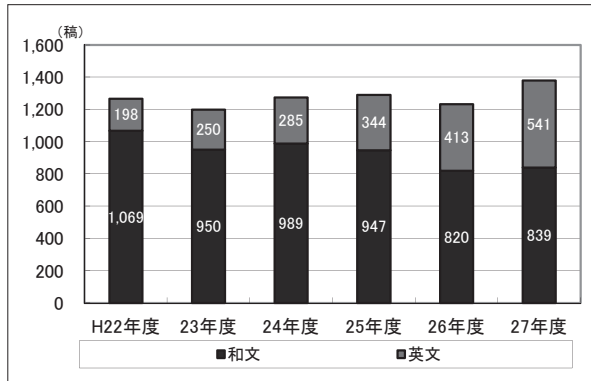
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

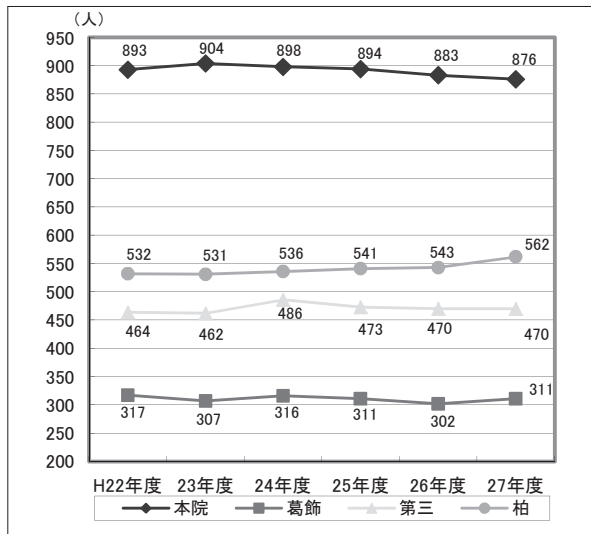


論文発表数

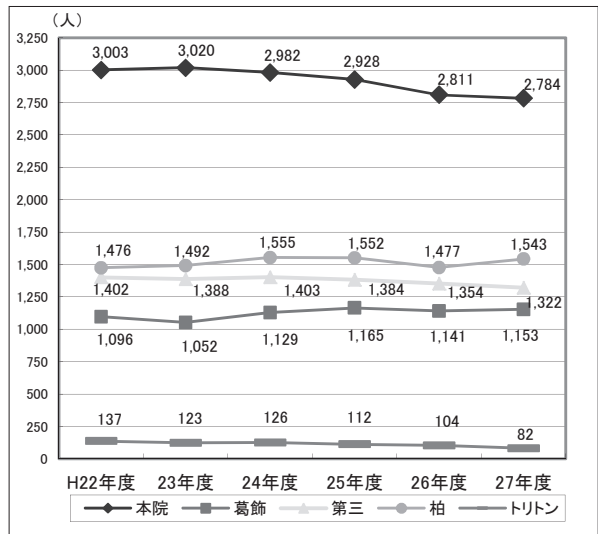


■医療に関する重点施策：参考指標

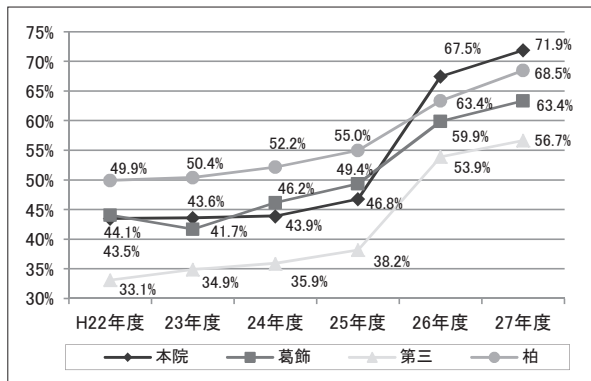
【入院】 1日平均患者数



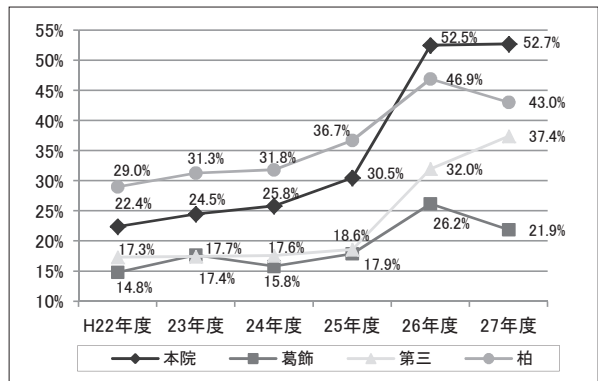
【外来】 1日平均患者数



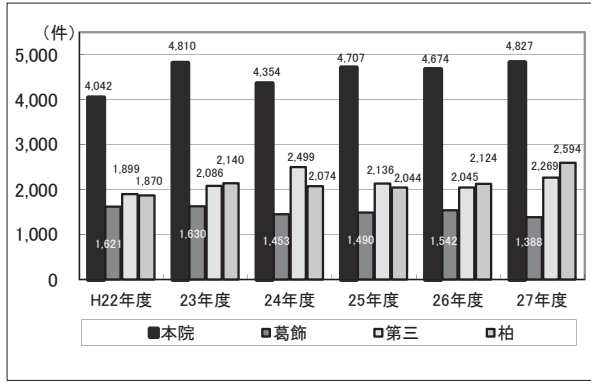
紹介率



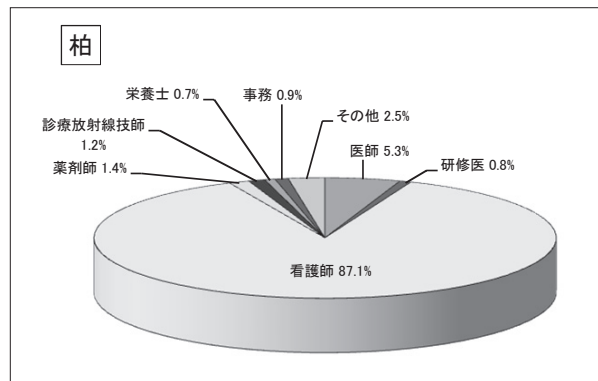
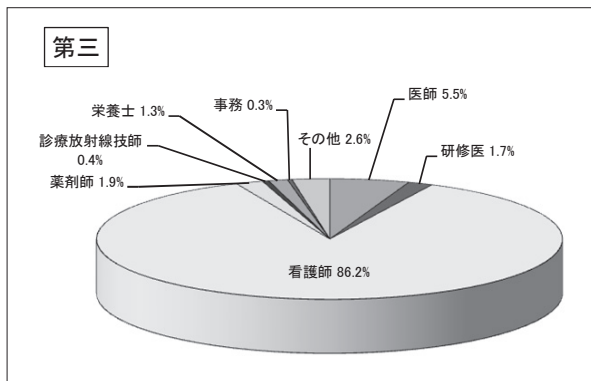
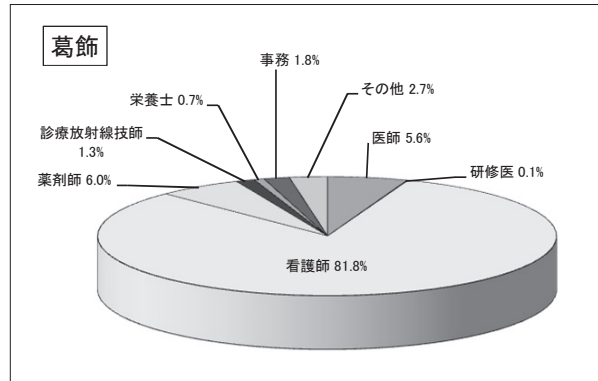
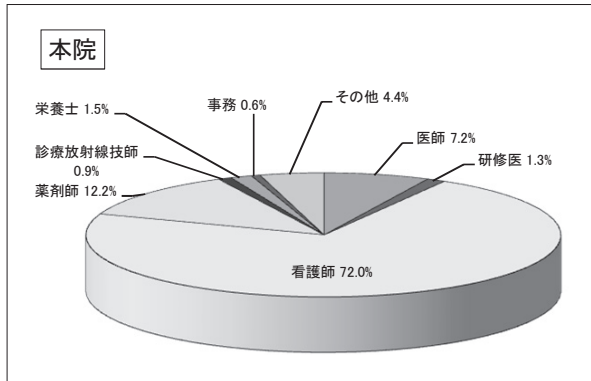
逆紹介率



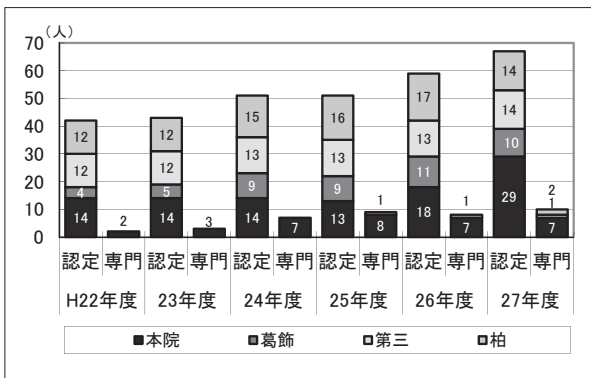
インシデント・アクシデント報告件数



インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数

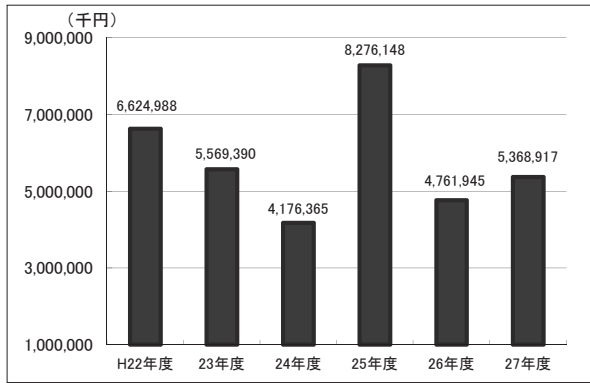


認定看護師数、専門看護師数

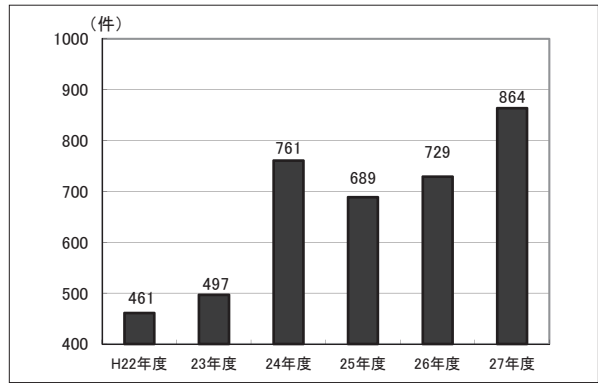


■法人運営に関する重点施策：参考指標

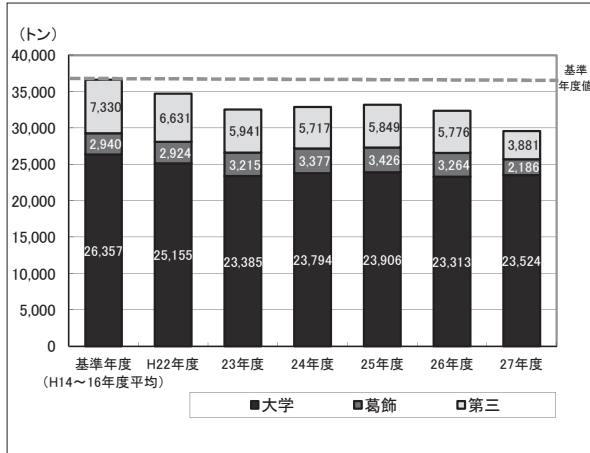
基本金組入前当年度収支差額



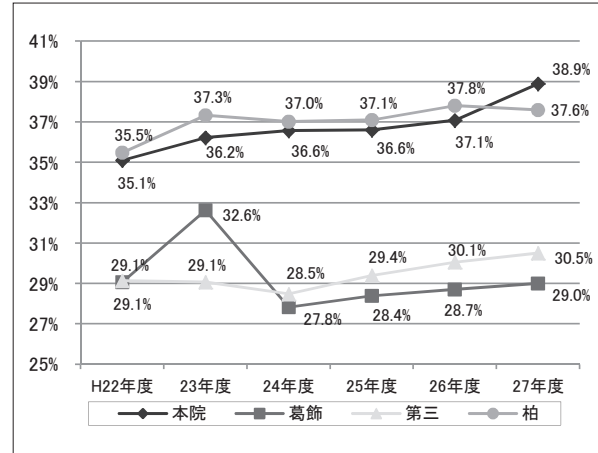
メディア掲出件数



CO₂排出量 (東京都環境確保条例対応)



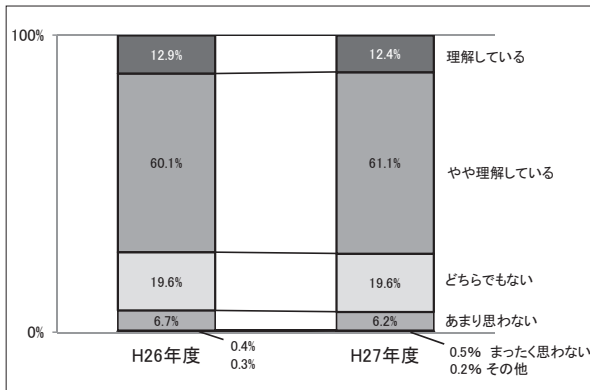
医療経費率



教職員アンケート結果

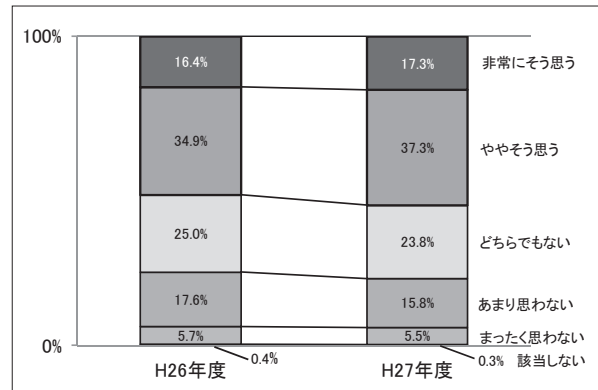
※回答率 H26年度 66.8% H27年度 71.8%

あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？

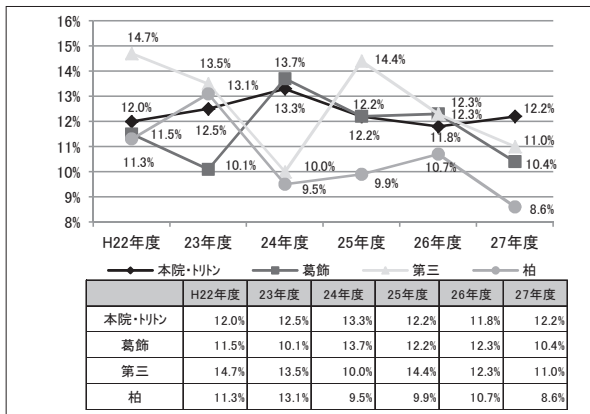


※文部科学省への届出決算書より算出
※衛生管理収入を含む

あなたは、今の部署でこれからも働きたいと思いませんか？



看護師離職率



中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中 期 目 標	指 標 (平成28年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (1) 教育に関する目標(医学科・看護学科) ○卒業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容公開数 H25: 1 H26: 1 H27: 1 H28: 1 ・連携大学数 H25: 11 H26: 14 H27: 21 H28: 23 ・留学生の受入数 H25: 43 H26: 44 H27: 65 H28: 70 ・臨床実習週(時間)数(医学科) H25: 60週 H26: 62週 H27: 75週 H28: 75週 (看護学科) H25: 1,260時間 H26: 1,260時間 H27: 1,260時間 H28: 1,260時間 ・医学科志願者数(医学科) H25: 2,574名 H26: 2,400名 H27: 2,276名 H28: 2,450名 ・看護学科志願者数(看護学科) H25: 574名 H26: 610名 H27: 570名 H28: 590名 ・医師国家試験合格率(医学科合計) H25: 95.3% H26: 97.1% H27: 98.2% H28: 100% (新卒) H25: 97.1% H26: 99.0% H27: 100% H28: 100% ・看護師国家試験合格率 H25: 100% H26: 97.4% H27: 100% H28: 100% ・保健師国家試験合格率 H25: 97.6% H26: 100% H27: 100% H28: 100% 	対策(アクションプラン)			
		①初年次教育を改善する。	学事課	教学委員会	(医学科) 1. スタートアップ宿泊研修について評価と実施形態を検討する。 2. 初年次教育に関するFDを開催する。(看護学科) 1. 効果的なスタートアップ研修のあり方を検討、実施する。 2. 看護総合演習I～IVの内容、つながりの点検評価を行う。
		②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 外部評価において指摘された部分的適合の項目の改善に向けてWGを組織し取り組み、マイルストーンを作成する。
		③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切替える。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. ログブックを改善する。 2. e-ポートフォリオシステムを分析、活用する。(看護学科) 1. 学生との合同会議、区分会議を実施し評価を行う。 2. 基礎科目と看護専門科目との情報共有、連携を深める。 3. 新カリキュラムプロジェクトで提案されたDPを基に科目の全体評価を行い、新カリキュラムにつなげる。
		④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 診療参加型臨床実習のコンピテンシー並びに卒業時OSCEの評価項目を踏まえた診療参加型臨床実習のFDを実施する。
		⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。	学事課	教育センター 教学委員会	(医学科) ログブックを活用した予習・復習を促進する。
		⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	学事課	教育センター 教学委員会	(看護学科) 新しいDP、各科目の到達度とe-ポートフォリオシステムを連動させ、学生が主体的に活用できるよう改良する。
		⑦学習記録と連携させた評価システムを構築する。	学事課	教育センター 教学委員会 科目横断評価プロジェクト	(医学科) WEBEXAMシステムとEXAMBASEシステムを円滑に導入する。(看護学科) 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオシステムでのリフレクションの精度を更に高める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署 関連部署・委員会等		
		⑧医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受入れる。	学事課	教学委員会 国際交流センター 運営委員会	(医学科) 1. 国際交流センター運営委員会と連携し、外国人SPを招聘したネイティブOSCEの開催回数を増やす。 2. 学生の留学を支援する。 (看護学科) 英国キングスカレッジから1名、本学から1名の交換留学を実施する。
		⑨学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	教育センター 教学委員会 学生委員会	(医学科) 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くの学生に利用されるようさらに継続して周知を図り、3年生以下に対してもSeDLESを用いた形成評価を導入する。 (看護学科) 1. 学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験、補講を実施する。 2. 模擬試験が思わしくない学生に、個人面談、指導を繰り返し実施する。 3. 科目横断総合試験を効果的に活用する。
		⑩入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	入試検討委員会	(医学科) 改革総合支援事業の高大連携につながる入学時の課題の導入を検討する。 (看護学科) 入試分析会などでの情報収集、学生アンケートによる効果的な入試対策とICT活用を継続検討する。
		⑪医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 医学科達成指針達成のためのマイルストーンを作成すると共に、教養教育の拡充を行う。 (看護学科) 医学科のカリキュラム進度に合わせて、4年次前期に実施する。
		⑫臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	カリキュラム委員会	(医学科) 研究医養成コースの卒前教育部分を評価し拡充を検討する。 (看護学科) 継続的に選択科目を開講し選択の幅、内容の充実を図る。
		⑬広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	広報課 広報委員会	(看護学科) 1. 大学ガイド作成、オープンキャンパス、高校での模擬授業、予備校の大学説明会などの広報活動を継続する。 2. オープンキャンパスにおける、より効果的な大学のPR方法を検討し実行する。
		⑭国際基準に基づく医学教育のIR活動を充実させる。	教育センター		医学教育分野別外部評価の改善のためのIR作業を進めてデータ分析し、その結果を教学委員会に1回報告する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中 期 目 標	指 標 (平成28年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
○大学院教育 ・臨床を支える研究を推進する。 ・高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 ・研究者育成のための実効ある方策を立てる。 ・社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 ・大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 ・看護実践を支える看護研究を推進する。 ・大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。	・改訂プログラム数 H25: 2件 H26: 10件 H27: 2件 H28: 2件 ・大学院生数 H25: 133名 H26: 135名 H27: 130名 H28: 145名 ・学位授与数 H25: 62名 H26: 49名 H27: 53名 H28: 50名 ・学位論文のインパクトファクター(平均) H25: 3.55 H26: 2.73 H27: 3.09 H28: 4.00	①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	学事課	大学院委員会	(博士課程・修士課程) 4大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)として継続してがん医療人WSを開催する。 (博士課程) 1. Team STEPPSの授業を廃止して、CITI-Japanによるe-ラーニング授業を導入する。 (修士課程) 1. 研究倫理特論の講義を設ける。 2. 研究倫理特論にCITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れる。
		②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を継続実施する。 2. 萌芽的共同研究推進費採択者の外部競争的資金応募状況追跡調査資料を継続して作成する。
		③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 医学教育学の修士との共修授業を行う。
		④社会人入学の推進を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. インターネット上に社会人大学院生向けのサイトを新たに作成する。 2. 国立がん研究センターとの連携大学院協定に向けた準備を行う。
		⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。	学事課	大学院委員会	(修士課程) 1. 院生の学会参加の支援を行う。 2. 看護学科共催の看護研究と教育FDに院生の参加を図る。 3. 特別講義、公開講義を実施する。
○卒業教育 ・卒業教育機関としての質の向上を目指す。 ・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 ・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。	・レジデント応募者数 H25: 172名 H26: 156名 H27: 159名 H28: 175名 ・レジデント採用数 H25: 153名 H26: 143名 H27: 143名 H28: 150名 ・医師臨床研修マッチングによる定員充足率 H25: 91% H26: 91% H27: 89% H28: 100%	①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。	臨床研修センター	教育センター	1. 研修管理委員会による附属4病院の研修プログラムの充実と、研修医マッチングの充足を図るため委員会を開催する。 2. 指導医講習会を開催し、附属4病院より臨床研修指導教員を合計40名の受講を目指す。 3. 地域医療研修の協力施設の拡充を図る。 4. 採用時OSCE、集合シミュレーション教育、医療安全e-ラーニングを各1回実施する。
		②専門修得コース(レジデント)における各プログラムプログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。	臨床研修センター	教育センター	1. 新専門医制度に対応する19領域の診療科別専門研修プログラムを整理する。 2. 専攻医募集のホームページや冊子における19領域の掲載内容を刷新する。 3. レジデント1年目を対象に医療安全・屋根瓦教育FDを実施する。
		③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。	教育センター	慈恵看護教育あり方会議	1. e-ラーニングを活用し、継続的なスキル向上教育を8部署に行う。 2. 指導者養成および看護マネジメント力向上のため、段階的研修を行う。 3. 外部医療機関からの研修生受入れの検討を実施する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) 教育の実施体制等に関する目標 ・教育環境を整備する。 ・教育力の向上に努める。 ・教員評価を推進する。 ・教育評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニング実施数 H25: 279件 H26: 335件 H27: 359件 H28: 360件 ・シミュレーション教育施設利用数 H25: 659回 H26: 637回 H27: 917回 H28: 920回 ・医学教育セミナーの開催数 H25: 1回 H26: 3回 H27: 2回 H28: 3回 	①臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。	学事課 教育センター	教学委員会 臨地実習委員会 公開講座委員会	(看護学科) 1. 臨地実習教育連絡会を開催する。 2. 学外の協力病院からも多数参加できるよう開催日時を調整し、実習指導教育に関連する講演会も開催し、活発な意見交換ができる会を企画運営する。 (学事課・教育センター) 臨地実習協力病院に診療参加型臨床実習の説明会を1回実施する。 (教育センター) 1. 学外協力病院の4施設との臨床実習に関する協定書の締結を行う。 2. クリニカル・クラークシップを支援する12診療科のICT環境を整備する。
		②教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。	教員・医師人事室		研究業績を把握しリアルタイムの評価ができるよう教員評価システムを改修する。
(3) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格率(新橋校) H25: 100% H26: 99.0% H27: 99.0% (既卒1名含) H28: 100% (第三校) H25: 100% H26: 100% H27: 100% H28: 100% (柏校) H25: 96.3% (既卒1名含) H26: 100% (既卒3名含) H27: 100% H28: 100% (3校平均) H25: 98.7% H26: 99.6% H27: 99.6% H28: 100% ・附属病院への就職者率(新橋校) H25: 97.8% H26: 92.0% H27: 99.0% H28: 90%以上 (第三校) H25: 90.9% H26: 91.3% H27: 92.9% H28: 90%以上 (柏校) H25: 84.0% H26: 87.0% H27: 92.3% H28: 90%以上 (3校平均) H25: 91.5% H26: 90.1% H27: 94.7% H28: 90%以上 	①看護実践を重視した看護教育を行う。	看護専門学校		1. 看護実践能力向上に向けた技術習得に当たり、慈恵における技術到達基準を3校で検討する。 2. 自己点検評価の3校共通フォーマットを継続検討する。
		②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校		附属4病院をフルに活用しつつ、在宅看護に関する学びが可能となる実習場所を開拓し、実習環境の整備に努める。
		③学生生活を支援する。	看護専門学校		1. 国家試験合格、就職100%を堅持する。 2. 修学資金の受給対象、支給額などの条件緩和に向けて検討を継続する。 3. 休学者、退学者数、未履修者数を減少させる。
		④学生確保のための活動を行う。	看護専門学校	広報課	1. ホームページの利便性を向上し、学校の広報活動が効果的に行われるようにする。 2. 指定校訪問先の精選を行い、連携先を拡大する。
		⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校		慈恵4機関看護部内から教員養成受講者を推薦、派遣できるようにする。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中 期 目 標	指 標 (平成28年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省科学研究費補助金 採択件数 H25:146件 H26:151件 H27:160件 H28:155件 ・ 論文発表数 H25:1,291稿 H26:1,233稿 H27:1,380稿 	対策(アクションプラン) ① 本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していく。	学事課 研究支援課	大学院委員会 大型プロジェクト対策委員会	(学事課) 1. 特色ある研究として、再生医学、ICT、神経科学、国際感染症領域を推進する。 2. ゲノム医療、先制医療、がん研究の推進に注力する。 3. 学長ヒアリングを実施し、新たに特色ある研究領域を探索する。 (研究支援課) 本学の歩みと今後の社会動向を踏まえ、研究ブランディング事業推進を通じて、最重要となる研究領域を模索する。
		② 本学の強みを活かし、研究領域の社会還元を実践する。	学事課 教育センター 臨床検査 医学講座	学長諮問会議 総合診療内科	(学事課) 「慈恵らしい研究」、すなわち研究を通じた患者貢献・社会貢献の価値観の共有を推進する。 (教育センター) 次年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。 (臨床検査医学講座) 研究ハブ機能の重点化を検査領域から開始する。
		③ 学内研究費を活用し、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を支援する。	学事課 研究支援課	学長諮問会議 研究奨励費委員会 大学院委員会	(学事課・研究支援課) 1. 学長主導により特色ある研究課題を戦略的・重点的に推進するために、戦略的重点配分研究費に基づく支援を行う。 2. 大学院での研究を活性化させ外部資金の獲得を促進するため、医学研究科研究推進費に基づく支援を行う。 3. 臨床講座に対し科研費採択を促進するため、基礎講座との連携を図り、萌芽的共同研究推進費に基づく支援を行う。 4. 研究奨励費、医学研究科研究推進費および萌芽的共同研究推進費に係わる効果を点検・評価し、本システムの改善および当該教員の指導、アドバイスをを行う。 (研究支援課) 科研費採択を促進するために、研究奨励費に基づく支援を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・透明性・公正性・中立性の高い研究を推進する。 ・研究環境を整備する。 ・先進的研究実施体制を構築する。 ・寄付講座制度を活用する。 ・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。 ・効率的に人員を配置する。 ・学内横断的研究プロジェクトを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25: 1件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 0件 ・寄付講座設置数 H25: 2講座 H26: 2講座 H27: 2講座 H28: 2講座 	①研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と本体制による対策の実施、状況のモニタリングを行う。	研究支援課 監査室	研究倫理推進センター 研究適正化特別委員会	(研究支援課) 研究倫理推進センターが主体となり、研究費を適正かつ公正に管理・運用するための啓発活動を実施する。 (監査室) 研究適正化特別委員会が主体となり、監査室と連携しながら研究費管理・運用の実態を把握し、適宜課題を指摘する。
		②学長直下の研究マネジメント部門を構築し、研究支援の強化を図る。	研究支援課		(研究支援課) 1. 研究IR機能を構築し、研究業績を分析した上で研究戦略を立案する。 2. 研究費マッチングや産学連携マッチングなどを通じて、外部の大型研究費獲得支援を開始する。 3. 知的財産を管理し、研究成果の社会への還元を開始する。 4. 個々の研究者が求める研究支援を吸い上げる機会を設ける。
		③国際競争力のある研究を奨励、支援する。	学術情報センター		論文執筆のためのFDを実施し、よりレベルの高い国際誌への投稿を推進する。
		④学内学外の研究連携を促進する。	学事課 研究支援課 看護学科 看護専門学校 看護部 看護学専攻 修士課程	大学院委員会	(学事課・研究支援課) 1. 萌芽的奨励研究費の支援、大学院における基礎講座への再派遣制度、先端医学推進拠点群の実質化を通じて、学内共同研究の推進を行う。 2. 国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。 (看護学科・看護専門学校・看護部・看護学専攻修士課程) 連携して看護学研究を実施する。
		⑤臨床研究支援体制を強化し、臨床研究の活性化を支援する。	臨床研究支援センター 薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学各研究部および講座		(臨床研究支援センター) 1. 附属4病院の研究機能を促進するために、疾患レジストリを構築する。 2. 臨床研究支援センターは学内各部門の臨床研究支援を行う。 (薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学各研究部および講座) 薬物治療学、臨床疫学、分子疫学および環境保健医学が有機的に結びつきながら臨床研究を支援する。
		⑥寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。	学事課 研究支援課		(学事課・研究支援課) 寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画	
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等		
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25: 0回 H26: 1回 H27: 1回 H28: 1回 学内共同研究数 H25: 35件 H26: 42件 H27: 35件 H28: 40件 	①各部署(研究所・研究部)の活動を点検・評価し、必要に応じて組織の再編を検討していく。	総合医科学研究センター 研究支援課		(総合医科学研究センター・研究支援課)各部署で設定した目標に基づき、自己点検評価報告書(含む平成28年度までの3年間の実績報告)を取りまとめる。	
		②総合医科学研究センター研究部門が主導し、学内の各講座と連携しながら特徴ある研究を推進する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(研究部門)		(総合医科学研究センター・研究支援課) 1. 各講座を支援し、共同研究を企画推進する。 2. 各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
		③総合医科学研究センター研究支援部門として、大学が戦略的に推進していく研究領域の支援を強化する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(支援部門)		(総合医科学研究センター・研究支援課)がん、再生医学研究を支援するためのGMP対応施設およびゲノミクスに関連した解析の支援と環境の充実を図る。
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座開催数(一般市民および地域医療者を対象) H25: 37回 H26: 36回 H27: 32回 H28: 32回 	①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	公開講座推進委員会	4機関で公開講座を30回開催する。	
3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 先進医療承認件数 H25: 7件 H26: 6件 H27: 8件 H28: 8件 紹介率 H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 71.9% H28: 70.0%以上 逆紹介率 H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 52.7% H28: 50.0%以上 	対策(アクションプラン) ①特定機能病院としての機能を充実させる。	管理課		1. 集中立入検査後の厚生労働省タスクフォース検討結果による「監査委員会の設置」や「特定機能病院間の相互チェック」の体制を構築する。 2. 各診療科への支援策強化や実施申請方法の簡素化を検討する。	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標(平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC病院1群としての各機能評価の充実 ・効率性指数 H25:0.00565 H26:0.00857 H27:0.00970 ・複雑性指数 H25:0.00000 H26:0.00000 H27:0.00010 H28:複雑性指数を「0.00010」より上げる ・カバー率指数 H25:0.00476 H26:0.00932 H27:0.00968 ・救急医療指数 H25:0.00226 H26:0.00464 H27:0.00473 ・地域医療指数 H25:0.00189 H26:0.00459 H27:0.00504 	②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	管理課		<ol style="list-style-type: none"> 1. 3,300件以上のがん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 2. がん相談および腫瘍センターサロンを患者に更に周知し、より質の高い患者相談に応じる。 3. 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケアチーム会議を定期開催し、緩和ケア体制を拡充、充実する。 4. がん診療連携バスの運用件数の増加と運用拡大を目指す。 5. 国立がん研究センターと連携を推進し、「地域がん診療連携拠点病院」の機能向上を図る。 6. キャンサーボードを定例開催し、腫瘍センター機能の更なる向上を目指す。
		③人材育成(スキルアップ)を行う。	臨床研修センター		<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討を推進する。 2. 鏡視下手術トレーニングコースによる評価を実施する。
		④看護専門職を充実させる。	看護部	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認定看護師を増加させる。 2. 院内認定制度を導入する。
		⑤チーム医療を強化・推進する。	病院事務部	病院運営会議	TeamSTEPPS研修会を継続開催し、新採用者をはじめとする未受講者への研修を実施する。
		⑥救命救急体制の強化を図る。	業務課	救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急部責任医師の権限により原則として全診療科の救急車を積極的に受入れるために「救急患者受入判断基準」を見直し救急搬送件数を増加させる。 2. 急性大動脈スーパーネットワークに参画し特定機能病院の機能強化を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・5大がん+前立腺がんのバス運用数 H25:51件 H26:87件 H27:57件 H28:80件 ・公開講座数 H25:3回 H26:3回 H27:2回 H28:2回 ・研修医のCPC出席率 H25:95.8% H26:97.9% H27:97.5% H28:100% ・新規認定看護師資格取得者数 H25:0名 H26:5名 H27:9名 H28:4名 			

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成28年度事業計画
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進医療新規認定数 H25: 0件 ※H25の申請件数は2件 H26: 1件 H27: 2件 H28: 2件 	①特定機能病院の要件を満たす。	管理課	各診療科 先進医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療科からの相談に対応できるよう常に最新の情報を収集し、申請支援を行う。 2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 3. 他施設共同試験への参画に対する事務的支援を行う。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 1,423 ・院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 80件 	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部 医療安全推進室 感染対策室		<p>(医療安全管理部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「管理者のための医療安全・感染対策研修会」を継続開催し各病院へ拡大する。 2. 医療安全・感染対策に関する教職員のレベルアップを図る。 <p>(医療安全推進室)</p> <p>ハイリスク症例カンファレンスの更なる活用を浸透させる。</p> <p>(感染対策室)</p> <p>病棟ICT活動の推進により、アウトブレイクレベル3事例の減少を目指す。</p>
(4) 適正な保険診療の徹底		①「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。	病院事務部		<p>保険診療適正化委員会において適正な保険診療の推進に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険診療講習会にポイント制(20p/1回)を導入し、年2回の受講(40p取得)を義務付ける。 2. 診療医長、診療副部長、診療部長昇格時の条件としてアドバンスコースの受講を必須条件とする。 3. 適正保険診療推進週間を12月の第三週に計画し、保険診療に係わる全教職員に「適正な保険請求」を周知徹底する。
(5) 患者・家族の満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情・クレーム件数 (管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 250件 (看護部) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 110件以下 ・説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 5件 	①インフォームド・コンセントを徹底する。	病院事務部 業務課 看護部 患者相談室	病院運営会議	<p>(病院事務部)</p> <p>現場から収集した事例を該当部署へフィードバックし、改善策の検討と再発防止を図り、患者、家族の満足度向上につなげる。</p> <p>(病院事務部・業務課)</p> <p>「特定機能病院の承認要件等の見直し」に則したインフォームド・コンセントに係わる体制並びに規程を整備する。</p> <p>(看護部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院計画書提出率100%を維持する。 2. 退院支援計画書1週間以内の着手率70%を目指す。 <p>(患者相談室)</p> <p>説明に関する苦情、クレームを当該部署にフィードバックし共に改善策を講じる。</p>
		②教職員マナーの向上を図る。	看護部 病院事務部	病院運営会議 患者サービス向上ワーキンググループ 患者相談室	<p>(看護部・病院事務部)</p> <p>患者サービス向上WGの活動を推進しマナー向上に取り組む。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(6) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 71.9% H28: 70%以上 ・逆紹介率 H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 52.7% H28: 50%以上 	①紹介・受診しやすい外来システム改善と広域医療連携を構築する。	患者支援・医療連携センター		<ol style="list-style-type: none"> 1. 予約システムのデジタル化を推進し、同窓医、産業医、大病院を中心とした広域連携を構築する。 2. 各科のローカルルールを撤廃し、スムーズな外来予約システムを確立する。 3. 紹介率・逆紹介率共に50%以上を維持できるように循環型医療連携の推進、web予約の拡大を図る。
(7) 臨床研究を促進する。		①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	治験センター	臨床研究支援センター 薬物・医療機器治験審査委員会 第1・第2倫理審査委員会 治験管理委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究支援センターと連携し、新たな倫理指針に則った倫理審査委員会事務局の機能を強化する。 2. 臨床研究の適正な実施とデータの信頼性確保に向けて、効果的なモニタリングへの支援体制を整える。 3. 臨床試験・治験に係わる病院および大学の各部門と連携し、試験の審査申請からCRCによる実施サポートなど臨床研究の実施体制を強化する。
(8) 効率的医療を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中央棟手術室利用率(日勤帯) H25: 70% H26: 70% H27: 71% H28: 70% ・外来棟手術室利用率 H25: 42% H26: 37% H27: 37% H28: 40% 	<ol style="list-style-type: none"> ①効率的な診療体制の構築を図る。 ②手術室の安全で効率的な運用を図る。 ③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。 	病院事務部 管理課	手術・中材・ICU運営委員会 救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来ポリペクトミーの導入、EMR/ESD症例の増加などにより外来棟手術室利用件数を増やす。 2. 長期連休(ゴールデンウィーク、年末年始休日)時の低侵襲定時手術の実施体制を整備する。 3. ゆるやかなセンター化構想を推進し消化器センターの具現化を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性大動脈スーパーネットワークなどの血管治療系の緊急手術の受入体制を充実する。 2. 医療機器認証システムの導入により、複雑な手術症例に対して安全で効率的な運用を確立する。 3. 現在までの手術データ像から将来の手術室のあり方を構築する。 <p>救急患者責任医師の権限強化により救急搬送受入れを推進する。</p>
(9) 適正な収支構造の確立		①每期設定される医業利益目標を達成する。	病院事務部		<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月の各科の損益分岐点を示し進捗状況を管理する。 2. DPC機能評価係数の向上に取り組む。 3. 診療報酬改定内容に基づき、厚生労働省の示す病院実績報告「病院指標の作成と公表」を上半期中に公表することを目指し、DPC評価係数を獲得する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(10) ICTを充実し、有効活用する。		①ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. 本院電子カルテ導入に向けたシステムベンダを選定する。 2. 附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。
(11) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊材料費・消耗品費経費率 ・特殊材料費 H25: 9.17% H26: 9.40% H27: 9.46% H28: 9.40% ・消耗品費 H25: 4.74% H26: 4.91% H27: 5.05% H28: 5.00% ・原価率 H25: 92.9% H26: 95.3% H27: 確定後設定 H28: 確定後設定 ・後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 41.3% H27: 76.3% H28: 80.0% 	①月次医療収支額を把握し活用する。	病院事務部		各診療部長の患者数、手術件数などの目標値および増収項目を設定し、診療科積み上げ式の予算編成を行う。
		②大学間ベンチマークを実施し、経営改善に活用する。	病院事務部	経営企画部	各診療部の患者数などの目標値を予算に反映し、各診療部QI(クオリティインディケータ)を公表し経営意識を醸成させる。
		③新外来棟建築計画も含めて、医療材料のSPD業務の再編を行う。	病院事務部 施設課 経営企画部	コストマネージメント・プロジェクト	(病院事務部) 医療安全に配慮しつつ後発医薬品への切替えを進め、早期に数量シェア80%を達成する。 (施設課) 1. 医材・物流WGによる附属4病院共同購入の推進と病院効果額を検証する。 2. コストマネージメント・プロジェクトを中心とした経費削減活動を実践する。 (経営企画部) 附属4病院のSPD統一化に向けて、現状分析と検討を行う。本院においては、新外来棟建築計画と調整し、SPD業務の再編を行う。
			経営企画部		1. 経営上有益なデータを提供し、経営改善や医療の質の向上に貢献するためのベンチマークを継続する。 2. 診療報酬改定による影響分析および改善策を提案する。 3. 時事問題に関連した調査、報告を実践する。
(12) 情報公開の条件を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件 	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課	経営企画部	1. 7大学ベンチマーク会議などにおける情報交換を継続する。 2. 診療報酬改定に則した臨床指標および本学独自の指標の実績を公表する。
(13) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想		①晴海トリトンクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	晴海トリトンクリニック	教員・医師人事室 人事課	マスタープランの策定において、今後の晴海トリトンクリニックのあり方、将来構想を検討する。
		②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリトンクリニック	施設課 外来委員会	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標(平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(14) 総合健診・予防医学センターの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・がん早期発見率(平成24年度実績ベース) H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% H28: 0.1% ・メタボリックシンドローム該当者率(平成24年度実績ベース) H25: 14% H26: 7% H27: 5% H28: 6% ・女性検診での早期異常状態発見率(平成24年度実績ベース) H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.0% H28: 3.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。 	総合健診・予防医学センター		<ul style="list-style-type: none"> 1. 新病院に向けて消化器内視鏡検査の充実を図るため検査人数の増加、がん早期発見に努める。 2. 消化管内視鏡および大腸内視鏡のオーダーリングシステムを導入し病院との連携を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> ②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。 	総合健診・予防医学センター		<ul style="list-style-type: none"> 予防医学を推進するために保健師による健康指導を行い企業健診枠を拡大させる。
		<ul style="list-style-type: none"> ③女性検診の充実化を図る。 	総合健診・予防医学センター		<ul style="list-style-type: none"> 新病院に向けてニーズの高い女性検診の乳腺超音波検査の導入を検討する。
(15) 予防医学の推進		<ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に関する新たな診療体制を検討する。 	病院事務部		<ul style="list-style-type: none"> 検討推進会議において基本構想を策定する。
●葛飾医療センターに関する目標		対策(アクションプラン)			
(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。		<ul style="list-style-type: none"> ①病院機能評価を受審し認定病院となる。 	葛飾医療センター	病院運営会議	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームを中心に準備を進め、病院機能評価を受審し、認定を受ける。
(2) 健全財政を維持する。		<ul style="list-style-type: none"> ①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。 	葛飾医療センター	業務課	<ul style="list-style-type: none"> DPC分析とクリニカルパスの拡充を図り、医療の効率化、透明化、標準化を推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> ②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。 	葛飾医療センター	管理課	<ul style="list-style-type: none"> 医療収入と医療材料費の相関チェックを行いコスト管理を徹底する。
		<ul style="list-style-type: none"> ③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。 	葛飾医療センター	業務課	<ul style="list-style-type: none"> 1. 収益性・機能性分析を行い管理会計を強化する。 2. 患者圏の地域分析などのマーケティングに着手する。
(3) オープン・システムを拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25: 49.4% H26: 59.9% H27: 63.4% H28: 65.0% ・逆紹介率 H25: 17.9% H26: 26.2% H27: 21.9% H28: 30.0% ・公開講座平均参加者数 H25: 112名 H26: 97名 H27: 156名 H28: 160名 	<ul style="list-style-type: none"> ①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。 ②地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図る ③地域の健康管理・健康増進に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 葛飾医療センター 葛飾医療センター 葛飾医療センター 	<ul style="list-style-type: none"> 入退院医療連携センター 看護部 医療連携メディカルカンファレンス委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 登録医の拡大を図り「顔の見える」医療連携を推進する。 1. 訪問看護ステーションとの相互研修と地域との合同勉強会を開催する。 2. 地域に向けたスキルアップ研修(オープン講座)を開催する。 3. 認定看護師による在宅同行訪問、電話相談を実施する。 地域の患者ニーズを反映させて、公開セミナーの充実を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成28年度事業計画			
(4) 診療重点機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送数(年) H25:3,532件 H26:3,771件 H27:3,737件 H28:3,800件 手術件数(年) H25:4,494件 H26:4,519件 H27:4,450件 H28:4,600件 血液透析件数 (1ベッドあたり) H25:1.38回転 H26:1.60回転 H27:1.54回転 H28:1.50回転 	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	葛飾医療センター	救急部 総合内科 小児科	<ol style="list-style-type: none"> PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入体制を強化する。 救急車応需率および救急患者数を増加させる。 総合内科体制を再構築する。 			
		②当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 血液透析室の増床および透析患者を増加させる。 計30床の運用により13,000件の透析を行う。 			
		③がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 東京都がん診療連携協力病院(大腸がん)事業を推進する。 放射線治療の稼働を推進する。 がん診療連携拠点病院に向けた検討を行う。 			
(5) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	葛飾医療センター	管理課	BCPの実効性の検証を継続する。			
		②被災地支援体制を構築する。	葛飾医療センター	管理課	<ol style="list-style-type: none"> DMAT隊員の増員を検討する。 被災地への支援体制について中長期的視野で検討する。 			
●第三病院に関する目標								
(1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送数 H25:383件 H26:332件 H27:272件 H28:300件 手術件数(年) H25:5,757件 H26:5,654件 H27:6,121件 H28:6,000件 病床稼働率(一般) H25:84.0% H26:83.6% H27:83.8% H28:84.0% 紹介率 H25:38.2% H26:53.9% H27:56.7% H28:60.0% 逆紹介率 H25:18.6% H26:32.0% H27:37.4% H28:40.0% 	対策(アクションプラン)		第三病院	救急医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> 救急隊の環境整備の一環として救急隊待機所を設置する。 救急応需率80%を維持しつつ年間3,600件(月300件)の救急車を受入れる。 		
		①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。	第三病院				手術中材委員会	<ol style="list-style-type: none"> オペラマスター分析にて手術枠の見直しによる稼働率の改善と効率的かつ安全な手術室運用を実施する。 手術申込時の実績差異およびインターバルの改善と緊急手術の受入体制を確立する。 更なるSSI改善に向け、閉創セット採用範囲の拡大と安全な手術を実施する。
		②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	第三病院				がん診療センター	がん診療専門職者を育成するとともに、がん診療センターの機能を拡充し、東京都がん診療連携拠点病院の指定を受ける。
		③東京都がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんの集学的治療を充実させる。	第三病院				認知症疾患医療センター	認知症の医療相談、鑑別診断、身体合併症と行動・心理症状への対応、地域連携の推進などを実施する。
		④東京都地域連携型認知症疾患医療センターの機能を拡充する。	第三病院				外来病棟委員会 PFMタスク・フォース	病床配分の見直しや個室料金などのあり方を検討する。
		⑤病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	第三病院					

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	・外来患者満足度 「次回も当院をご利用いただけますか」 H25：91% H26：92% H27：99% H28：90% ・入院患者満足度 「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25：84% H26：98% H27：98% H28：90%	⑥医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。 ⑦患者満足度の高い病院への改善を図る。	第三病院	総合医療支援センター運営委員会	1. 医療連携システムweb予約の活用により増患を図る。 2. 従来の近隣クリニックだけでなく健診センターなどにも積極的にアプローチし増患を図る。 1. 整備未実施の病棟の補修工事を行う。 2. ホスピタリティー向上にむけ、患者サービスWGを活用する。 3. 患者満足度調査の充実を図り、さらなる患者サービスの向上を目指す。
(2) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。		①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。 ②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	第三病院	防火防災委員会	リニューアルタスクフォースでの新病院に向けた基本構想、基本計画を策定する。 薬剤師会、災害薬事コーディネータとの協力体制を調布市、狛江市と協議して決定する。
(3) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。		①電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	第三病院	システム課 第三病院HIS委員会	1. DWH（データウェアハウス）を活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。 2. 新たに画像取込システム・患者呼出システムを導入し、更なる医療の効率化・情報化を進める。
(4) 大規模災害に備える。		①BCP（事業継続計画）を策定する。 ②DMAT（災害派遣医療チーム）の機能維持に努める。	第三病院	防火防災委員会	災害対策本部の業務をより詳細に規定し、人員の参集、物資の供給に係わる仕組みを立案する。 1. 訓練に参加し、隊員の技能維持に努める。 2. 第2チーム募集状況を確認し、欠員が生じた際の対応について検討を進める。
(5) 教育・研修の推進		①新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療専門医」の基幹病院として、総合診療研修センターを運営する。	第三病院	総合診療研修センター 臨床研修センター	1. 新専門研修プログラムの「総合診療科」領域に基幹病院として申請する。 2. 総合診療専攻医の公募および採用試験を実施する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成28年度事業計画
●柏病院に関する目標 (1) 医療の標準化・効率化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> レジメン登録件数 H25: 430件 H26: 470件 H27: 501件 H28: 500件 	①医療の質の向上と安全を確保する。	柏病院	薬剤検討ワーキング・グループ	安全な薬剤投与に向けたシステムを構築する。
	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数 H25: 7,839件 H26: 7,628件 H27: 7,673件 H28: 7,700件 	②手術室の安全性の向上と効率化を図る。	柏病院	手術室・中材運営委員会	手術棟の更なる有効活用を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパスの導入件数 H25: 5,354件 H26: 5,103件 H27: 4,535件 H28: 5,000件 	③DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。	柏病院	クリニカルパス委員会	DPCに対応したクリニカルパスの見直しおよび新規クリニカルパスの登録を拡充する。
	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチーム年間介入数 H25: 95件 H26: 116件 H27: 139件 H28: 140件 	④患者のためのチーム医療を推進する。	柏病院	緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会	各医療チームの充実を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> 院内褥瘡発生率 H25: 1.11% H26: 0.80% H27: 0.75% H28: 0.70% 	⑤患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。	柏病院	患者支援・医療連携センター PFMワーキング・グループ	1. PFM機能強化による病床の効率的運用を推進する。 2. 平均在院日数を14日台とする。
	<ul style="list-style-type: none"> NST介入件数 H25: 443件 H26: 443件 H27: 444件 H28: 450件 				
(2) 地域中核病院として十分に機能する。	<ul style="list-style-type: none"> 市民公開講座開催件数 H25: 2回 H26: 3回 H27: 3回 H28: 3回 	①周産期センター化を検討する。	柏病院	病院運営会議	周産期センター化に向けたNICU、GCUの設置について検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 先進医療の承認および実施件数 H25: 3件24症例、新規承認0件 H26: 2件10症例、新規承認1件 H27: 2件5症例、新規承認0件 H28: 3件10症例、新規承認1件 	②東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	柏病院	病院運営会議 建築委員会	1. 千葉県保健医療計画の見直しによる地域医療構想に応じた体制整備を行う。 2. 先進医療を推進する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率 H25: 55.0% H26: 63.4% H27: 68.5% H28: 70.0% ・逆紹介率 H25: 36.7% H26: 46.9% H27: 43.0% H28: 50.0% 	③地域包括医療を推進する。	柏病院	医療連携委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連携医療機関を拡充する。 2. 前後方連携医療機関の開拓と推進を図る。 3. 逆紹介率を向上させる。 4. web予約システムの機能拡大とシステム向上を図る。
(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外来がん患者延数(年) H25: 75,000名 H26: 74,368名 H27: 72,047名 H28: 75,000名 ・入院がん患者延数(年) H25: 3,286名 H26: 3,611名 H27: 3,524名 H28: 3,800名 ・地域がん登録件数 H25: 1,582名 H26: 1,755名 H27: 2,002名 H28: 2,010名 ・がん治療連携計画策定料算定患者数(がん地域連携) H25: 7名 H26: 12名 H27: 7名 H28: 15名 ・外来化学療法室延患者数(月) H25: 409名 H26: 455名 H27: 482名 H28: 485名 ・緩和ケアチーム年間介入数 H25: 95件 H26: 116件 H27: 139件 H28: 140件 ・地域連携パス数 H25: 5 H26: 8 H27: 7 H28: 9 ・バス使用件数 H25: 14件 H26: 31件 H27: 62件 H28: 70件 	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。	柏病院	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国立がん研究センター東病院との協力体制により登録精度の向上を図る。 2. 緩和ケア新規介入件数の向上を図る。 3. がん地域連携パスの拡充と医療機関を拡大する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成28年度事業計画

中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成28年度事業計画
(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・救命搬送数 H25: 3,034件 H26: 4,246件 H27: 4,587件 H28: 4,600件 ・3次救急搬送件数 H25: 755件 H26: 881件 H27: 823件 H28: 900件 ・救命救急入院料の算定件数 H25: 1,594件 H26: 1,273件 H27: 1,383件 H28: 1,452件 ・救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,907名 H27: 2,413名 H28: 2,500名 	①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受入れる。	柏病院	救命救急センター運営委員会	重症患者を救急部で受入れ、各科との連携を強化する。
		②救急医療の臨床教育を充実させる。	柏病院	救急委員会	慈恵柏BLSコース、慈恵ICLSコースの他、救命救急センター主催の勉強会を定期的に開催する。
(5) 収益の向上を図る。		①収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価	柏病院	病院運営会議	1. 共同購入を推進する。 2. 配置在庫の適正化および不動産在庫を削減する。 3. 後発医薬品の数量シェア80%を達成する。
(6) 災害拠点病院としての体制を整備する。		①DMAT(災害派遣医療チーム)の体制を強化する。	柏病院	DMAT創設ワーキング・グループ	1. 日本DMATの業務調整員(ロジ)を増員する。 2. インストラクター資格取得支援を行い体制強化を図る。
		②災害拠点病院としてBCP(事業継続計画)を策定する。	柏病院	防火災害対策委員会 病院運営会議	BCPを策定し、災害拠点病院としての体制を整備する。
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標		対策(アクションプラン)			
1. 運営体制の改善に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。 	①法令遵守と内部統制を強化するため、内部監査の充実を図る。 ②法令遵守の徹底を図る。	監査室		1. 組織の運営状況の点検、フォローアップ監査の導入などの改善行動を促進する。 2. 研究適正化特別委員会の事務局として、研究活動の適正化および研究費使用適正化に取り組む。
			総務課 人事課	監査室	(総務課) 1. 規程表記の統一に向け、点検および提言を継続する。 2. 文書管理方法について検討する。 (人事課) 教授会、所属長会議で周知する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標(平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		③個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	総務課		1. 附属4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回注意喚起する。
		④本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。	広報課 学術情報センター	広報課/大学 広報委員会 広報課/大学 ホームページ 委員会	(広報課) 主要メディア掲載数を750件を目標とし、学外広報をより強化する。 (学術情報センター) 1. 各教員の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)のデータ入力促進を図るために、教員評価システムの使用法の説明会を開催する。 2. 情報公開のため教育評価システムの今後のあり方について案をまとめる。
2. 人材確保・育成・活用に関する目標					
<ul style="list-style-type: none"> 人材育成のための教育制度を構築する。 職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 業務の効率化を図り人件費を最適化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートにおける満足度 H25: 53.9% H26: 51.3% H27: 54.6% H28: 60.0% 教員・医師の退職率(平成24年度実績ベース) H25: ±0% (115名) H26: 3% (119名) H27: +28% (147名) H28: +5% (120名) 看護要員確保率 H25: 100% H26: 100% H27: 100% H28: 100% 看護師退職率 H25: 12.2% H26: 11.8% H27: 10.8% H28: 11.0%以下 	①職員の人材育成制度を強化する。	人事課	院内教育・図書委員会	内定者の入職前および新人研修を強化する。
		②人材の有効活用のための評価方法を検証する。	人事課		人事考課者訓練および人事考課のスキルアップを図る。
		③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課 給与厚生課 教員・医師人事室	経営企画部	(人事課) 人事考課における「適正な評価」を実践する。 (給与厚生課) 教職員の精神的不安を把握するためにストレスチェックを実践する。 (教員・医師人事室) 育児による離職数を削減するため医師の短時間勤務規程を改定する。
		④看護師の安定確保を図る。	人事課 ナース就職支援室 看護部		(人事課・ナース就職支援室) 1. 良質な人材を確保するために看護学科の就職率向上と採用基準の見直しを図る。 2. 適正な看護師数を確保する。 3. 西新橋再整備計画を想定した看護要員確保を推進する。 (看護部) 1. 外来・病棟の効果的人員配置システムを確立する。 2. 病棟と外来の人事交流、部署間の協力支援体制を強化する。 3. 附属4病院間のトレーディング・プレイスを推進する。
		⑤労働生産性を向上させる。	人事課 教員・医師人事室		(人事課) 労働生産性の事務局の体制強化を推進する。 (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて、医師の業務軽減策を新たに実施し医師の配置を効率化する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・ICT導入による効率化を実現する。 ・各部門間が有機的に連携する。		①適正なICTの活用により事務の効率化を図る。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. DWH(データウェアハウス)導入病院間のベンチマークを行う。 2. 研究・経営支援に必要な指標を整理する。
		②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。	経営企画部		1. 月別および診療科別原価計算の迅速な報告と経営改善の提案を行う。 2. 新コックピットの活用状況の検証と掲載内容の充実を図る。
		③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	人事課 経営企画部		(人事課) 各部門間の連携構築のため事務組織改編を検討する。 (経営企画部) 各病院と共に経営収支分析を実施する。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ・安定した経営基盤を確立する。 ・経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	・ 経常費補助金の獲得額 H25: 35.3億円 H26: 33.0億円 H27: 33.5億円 H28: 33.3億円 ・ 収支差額予算達成率 H25: 148.6% H26: 98.1% H27: 114.8% H28: 100%以上 ・ 大型プロジェクト研究事業件数 H25: 5 H26: 5 H27: 4 H28: 3	対策(アクションプラン) ①効率的かつ適切な予算管理の仕組みを策定し、予算実績管理体制を強化する。 ②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。 ③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。 ④補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	経理課 経営企画部 研究支援課 経理課 研究支援課	理事会 財務部 大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会 教育研究助成委員会	予算申請の適正化を推進する。 1. 経費削減対策を実践する。 2. 収入増に向けた横断的組織を設置する。 1. 大型研究事業に応募する。 2. 経常費補助金根拠資料の充実を図る。 3. 総合改革支援事業を継続して選定する。 (経理課) 大学収入と支出の適切な管理を推進する。 (研究支援課) 1. チェックリストによる経常費補助金の管理体制を強化し補助金の獲得を図る。 2. 私学事業団に適宜相談し申請項目の根拠資料を充実させる。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標(平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
2. 経費の抑制に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 ・物流の効率化、一括購入等を推進する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・ICT関連経費の適正化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療経費率 H25: 34.7% H26: 35.2% H27: 36.0% H28(予算): 35.5% ・東京都温室効果ガス排出総量削減率(東京都削減目標) 2013～2014年度 平均8%削減 2015～2019年度 平均13%削減 <p>(本院)</p> <ul style="list-style-type: none"> H25: 9.3%削減 H26: 9.5%削減 H27: 10.7%削減 H28: 13.0%削減 <p>(葛飾医療センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> H25: 21.7%削減 H26: 25.5%削減 H27: 23.9%削減 H28: 13.0%削減 <p>(第三病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> H25: 22.0%削減 H26: 20.0%削減 H27: 23.6%削減 H28: 13.0%削減 <p>(柏病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> H25: 8.9%削減 H26: 2.1%増加 H27: 1.0%削減 H28: 0.5%削減 	①医療経費の抑制を図る。	施設課 経営企画部 薬剤部	コストマネジメント・プロジェクト	(施設課・経営企画部・薬剤部) コストマネジメント・プロジェクトを中心に経費の抑制に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・物流・購入組織の見直し ・共同購入 ・ベンチマークシステムの導入 ・医療器械保守料金の抑制 ・大型診療機器管理方法の効率的運用 ・光熱水費の削減 ・各診療科医局会での説明 ・後発医薬品の数量シェア80%
		②ICTの適正導入と評価を行う。	システム課	情報システム 統括委員会 情報システム 運営会議	1. 葛飾医療センターの病院情報システム更新に向け経費の適正化を図る。 2. 本院の電子カルテシステム導入に伴い、9月末までにシステムベンダを選定する。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。 		①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。	施設課	1. 西新橋キャンパス再整備計画に伴う既存建物のローリング計画を推進する。 2. 維持補修などに係わる経費の将来計画を策定する。	
		②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課	1. 高額放射線機器の更新計画を策定する。 2. 中央管理機器の更新計画を検討する。	
IV. 自己点検・評価の充実に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。 		対策(アクションプラン) ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。	総務課 大学事務部	大学自己点検・評価委員会	(総務課・大学事務部) 1. 大学基準協会の「認証評価」受審にて、「適合」の評価を受ける。 2. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ・本院新外来棟の建築		対策(アクションプラン) ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	1. 新大学2号館、新病院の施工を遅滞なく進める。 2. 新外来棟の基本設計発注、既存棟の改修工事発注を行い、実施設計を進める。 3. 学術情報センター(図書館含む)の移転計画を策定する。
		②西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟を含むハード計画を実現する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	1. 西新橋キャンパスの全体的な運用計画を検討し、新外来棟実施設計に反映する。 2. 改修・移転・ローリング計画を検証し推進する。
		③本院の再整備計画を策定する。	病院事務部	新外来棟基本計画に関する病院幹部検討会	基本設計に基づき、医療機器の選定、開院時の業務フローの確定、各部門の必要人員を試算する。
2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。		①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	経営企画部	マスタープラン検討委員会	1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申に基づく検証を推進する。 2. 次期中期目標・中期計画を見据えた、教育機能、研究機能、診療機能および附属4病院機能分化、法人・財務機能に係わるマスタープランを検討する。 3. 次世代医療を中心とした診療機能マスタープランを検討する。
3. 創立130年記念事業に関する目標 ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	・記念事業募金額 H25:11.0億円 H26:12.4億円 H27:13.8億円 H28:15.0億円	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	西新橋再整備準備室		1. 新大学2号館、新病院の施工を遅滞なく進める。 2. 新外来棟の基本設計発注、既存棟の改修工事発注を行い、実施設計を進める。 3. 学術情報センター(図書館含む)の移転計画を策定する。
		②記念事業に必要な寄付金を募集する。	財務部(募金事務局)		記念事業募金目標は累計16億円(80%)とする。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成28年度事業計画
中期目標	指標 (平成28年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
4. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。	・本学全建物の耐震基準充足率 H25: 85% H26: 95% H27: 95% H28: 95%	①大規模災害時の体制を強化する。	総務課 管理課 大学事務部 施設課	総務課 人事課 システム課 施設課 管理課 他	(総務課・大学事務部・管理課) 附属病院および大学のBCPを改定する。 (総務課) 地域と協力して災害対策訓練を実施する。 (施設課) 大規模災害に対応する学内計画を立案する。
		②被災地への支援体制を構築する。	管理課	防火防災対策委員会	(管理課) DMAT隊員の育成と支援を行う。
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標		①新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。	葛飾医療センター	経営企画部	今期中に総合的な評価を行う。